

防災総合センター年報

第 5 号

Annual Report of
Center for Integrated Research and Education of
Natural Hazards, Shizuoka University

No.5, July 2018

2018 年 7 月

静岡大学防災総合センター

目 次

1 センターの概要	1
1.1 設立趣旨と沿革	1
1.2 組織及びメンバー	2
2 研究成果	5
2.1 個人研究成果	5
2.2 研究業績リスト	54
2.2.1 著書	54
2.2.2 学術論文	56
2.2.3 学会口頭発表	72
2.2.4 その他の著作物	105
2.2.5 受賞	112
2.2.6 特許等	113
3 学内教育活動	114
3.1 新入生セミナー	114
3.2 全学教育科目「地震防災」	115
3.3 全学教育科目「地域社会と災害」	116
3.4 全学教育科目「地球科学」	117
3.5 全学教育科目「社会資本マネジメント論」	118
3.6 全学教育科目「公共施設デザイン論」	119
3.7 全学教育科目「リスクコミュニケーション」	120
3.8 大学院総合科学技術研究科共通科目「津波工学特論」	121
3.9 大学院総合科学技術研究科共通科目「災害情報学特論」	122
3.10 静岡大学防災マイスター称号制度(静岡地区)	123
3.11 静岡大学防災マイスター称号制度(浜松地区)	125
3.12 防災マイスター制度の展開	127
4 プロジェクト・関連行事	128
4.1 「ふじのくに防災フェロー養成事業」	128
4.1.1 事業の概要	128
4.1.2 受講生の活動成果	133
(1)研究業績	145

(2)社会的活動	147
4.1.3 シンポジウム	152
4.2 自然災害科学中部地区研究集会	153
4.3 しずおか防災コンソーシアム・ふじのくに防災学講座	154
4.4 東海圏減災研究コンソーシアム	156
4.5 減災地域共同モデルの社会実装と検証 (SIP)	157
4.6 しずおか防災コンソーシアム勉強会	158
4.7 防災総合センター主催シンポジウム	159
4.7.1 地震津波シンポジウム 東海・南海巨大地震を考える in SHIMIZU	159
4.7.2 平成 29 年 7 月九州北部豪雨による災害・現地調査速報会	160
5 社会的活動	161
5.1 外部・公開講演会等	161
5.2 マスメディア・新聞等への掲載	199
5.3 公的な委員会等	235
5.4 学会活動	243

1 センターの概要

1.1 設立趣旨と沿革

静岡大学防災総合センターは、全学組織のひとつとして2008年7月に設置され、学内共同教育研究施設のひとつとして位置づけられている。防災総合センター設置の目的は、静岡大学における防災教育及び防災科学研究を総合的に展開するとともに、地域と連携して地域の防災体制の向上に資することである。

東海地震の発生可能性が指摘されて以来、静岡大学は防災体制構築への先進的な取り組みを続けてきた。1980年代に大学内の建物の耐震診断をおこなって耐震工事を実施するとともに、全学防災対策委員会の下に地震対策検討部会を設置し、地震発生時の詳細な対応策を決定した。

さらに、防災教育の充実を目指して、2004年度から学外講師も含めた十数名の教員が担当する講義「地震防災」を開講するとともに、1年生全員の必修科目である「新入生セミナー」の中で防災の基礎知識と心得に関する講演を行うようになった。この背景には、静岡大学内の各部局に防災と密接に関係する研究テーマをもつ教員が徐々に増えてきたことがある。もともと地震防災は理学だけにとどまらず、工学、情報科学、人文・社会科学、医学などの幅広い分野にわたる総合科学の側面をもっていたからである。こうした教員たちは、各自の分野における防災研究・教育を推進するだけでなく、防災施策の検討を目的とした国や自治体の委員を委嘱されることによって、防災行政にも深く関わるようになった。また、地域社会からの講師派遣要請にも、個別的にはあるが積極的に貢献してきた。

このような防災研究・教育・地域連携の活動実績を背景として、静岡大学は、静岡県防災局（現・静岡県危機管理部）との協力の下に、文部科学省の特別教育研究経費（初年度は特殊要因経費）に「防災教育の地域連携を通じた多面的展開と拡充」を申請した結果、2008年度から4年間にわたる交付が認められることになった。そして、この経費を最大限活用しつつ、これまで各学部・各教員が個別におこなってきた防災研究・教育・地域連携活動を有機的・組織的に結びつけ、より高次かつ困難な地域防災課題の解決に取り組むために設立されたのが、静岡大学防災総合センターである。

本センターでは、2008年11月に1名、2009年に1名の計2名の専任教員を迎えるとともに、学内併任教員、学外客員教員を拡充し、防災研究・教育・地域連携に取り組んでいる。2010年には文部科学省の科学技術振興調整費による地域再生人材創出拠点の形成事業「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」に採択され、静岡県と協働し「ふじのくに防災フェロー養成講座」を開講した。2011年4月には大学会館内に研究室、事務室、セミナー室を集約し活動拠点も整備された。2015年4月からは、浜松地区における防災教育の拡充および東海圏国立大学の防災関係センター等の連携強化を目的として、総合科学技術研究科工学専攻が主担当の特任教員1名を採用した。また同月からは地域創造学環を主担当で当センターの専任となる教員1名を採用している。

1.2 組織及びメンバー

2018年4月現在の当センターメンバーは下記の通りである。

センター長

岩田孝仁 (融合・グローバル領域地域創造学環教授、地方行政学(防災))

副センター長

村越 真 (教育部門長：教育学領域教授、統計法、リスク認知、防災教育)

牛山素行 (専任教員、研究部門長：融合・グローバル領域防災総合センター教授、自然災害科学、災害情報学、豪雨災害)

小山真人 (地域連携部門長：教育学領域地域創造学環教授、火山学、地質学、地震・火山防災他)

前田恭伸 (工学領域教授、リスクアナリシス)

専任教員

原田賢治 (専任教員、融合・グローバル領域防災総合センター准教授、津波工学、津波防災、海岸工学、水工学)

副担当教員 (静岡大学内他組織所属で当センターに協力している教員)

川瀬憲子 (人文社会科学領域教授、地域研究)

寺村 泰 (人文社会科学領域教授、経済政策)

水谷洋一 (人文社会科学領域教授、財政・公共政策)

池田恵子 (教育学領域教授、社会地理学)

小林朋子 (教育学領域教授、学校心理学、被災者の心のケア)

岩崎一孝 (情報学領域教授、気候学、自然地理学、地理情報システム)

佐治 斉 (情報学領域教授、画像処理、交通情報解析)

木村浩之 (理学領域教授、地球微生物学、分散型インフラ生産システム開発)

北村晃寿 (理学領域教授、津波堆積学、古地震の研究)

森下祐一 (理学領域教授、岩石・鉱物・鉱床学)

古橋裕子 (融合・グローバル領域保健センター教授、精神科医)

山本裕之 (融合・グローバル領域保健センター教授、代謝学、内分泌学、公衆衛生学、健康科学)

藤井基貴 (教育学領域准教授、教育哲学、道德教育)

橋本 岳 (工学領域准教授、画像計測工学、災害予兆検知)

二川雅登 (工学領域准教授、電子デバイス・電子機器)

今泉文寿 (農学領域准教授、砂防工学)

小林研治 (農学領域准教授、木質科学、建築構造・材料)
石川宏之 (融合・グローバル領域地域創造学環准教授、都市計画・建築計画)
生田領野 (理学領域准教授、測地学、地震学)
石橋秀巳 (理学領域准教授、火山岩石学、実験マグマ学)
三井雄太 (理学領域講師、地震学、測地学)
池田昌之 (理学領域助教、層序学、堆積学)

特任教員

増田俊明 (防災総合センター特任教授、構造岩石学、地球進化学)
小杉素子 (総合科学技術研究科工学専攻特任准教授、社会心理学)

客員教員 (他大学等所属で当センターに協力いただいている教員)

安藤雅孝 (客員教授、地震学、固体地球物理学)
石井輝秋 (客員教授、海洋底地質、火山学)
石田瑞穂 (客員教授、地震学)
石川有三 (客員教授、固体地球内部物理学、地震学)
伊藤 潔 (客員教授、地震学、固体地球物理学)
伊藤谷生 (客員教授、構造地質学、変動地形学、地震探査学)
岩松 暉 (客員教授、応用地質学、自然災害科学、情報地質学)
鵜川元雄 (客員教授、火山学、地球物理学、地震学)
大谷栄治 (客員教授、高圧地球科学、鉱物物理学)
笠原順三 (客員教授、地震学、地震探査、地球物理学、物理探査学他)
風間 聡 (客員教授、水文学、河川工学、水資源学)
片田敏孝 (客員教授、災害社会工学)
狩野謙一 (客員教授、地質学、地質図学、地質調査法)
柄谷友香 (客員教授、都市防災計画)
唐戸俊一郎 (客員教授、地球科学、地球内部構造)
吉川肇子 (客員教授、組織心理学、社会心理学)
木村圭司 (客員教授、気候学、地理学)
近藤昭彦 (客員教授、地理学、水文学、環境学)
佐藤 健 (客員教授、建築構造工学、地震工学、自然災害科学、安全教育学)
鈴木清史 (客員教授、文化人類学)
武村雅之 (客員教授、地震学)
土屋 智 (客員教授、土砂移動学、森林水文学)
千木良雅弘 (客員教授、地すべり)
中川和之 (客員教授、災害報道、市民防災、災害救援)

野津憲治 (客員教授、地震化学、火山化学、地球化学)
林 拙郎 (客員教授、土砂災害、発生予測、豪雨災害、自然災害)
林 能成 (客員教授、地震学、地震防災)
藤井直之 (客員教授、固体地球惑星物理学、火山物理学)
増澤武弘 (客員教授、植物生態学、植生学、環境科学)
安田 清 (客員教授、整形外科、災害医療)
山岡泰治 (客員教授、地域医療、放射線管理)
山崎 登 (客員教授、災害情報)
山田和芳 (客員教授、湖沼堆積学)
矢守克也 (客員教授、防災心理学、社会心理学、災害社会学、防災教育学)
吉田明夫 (客員教授、地震学)
吉野篤人 (客員教授、救急医学、災害医療)
渡辺俊樹 (客員教授、構造地質学、変動地形学、地震探査)
井ノ口宗成 (客員准教授、社会・安全システム科学)
菅原大助 (客員准教授、地質学、堆積学)
関谷直也 (客員准教授、社会心理学)
秦 康範 (客員准教授、災害軽減工学)
廣井 悠 (客員准教授、都市防災、都市工学)
紅谷昇平 (客員准教授、自治体・企業の危機管理)
本間基寛 (客員准教授、災害情報学)
楠城一嘉 (客員准教授、地球科学、地震学、リスク共生学)

学術研究員

大森康智

事務職員

五条寿久

パート事務職員

池ヶ谷英代

三浦千恵子

宮城島小百合

2 研究成果

2.1 個人研究成果

防災総合センターには 2018 年 4 月時点で 2 名の専任教員が所属しているが、広範な課題に対応する防災の分野を 2 名でカバーすることは極めて困難である。このため当センターでは、多数の学内外研究者を特任教員、兼務教員（現・副担当）、客員教員というメンバーとして迎え入れ、研究・教育活動のいっそうの充実を図っている。2018 年 4 月現在で、副担当教員、客員教員の総数は 75 名を数え、学内の全領域に少なくとも 1 名の副担当教員が所在するほか、東北地方～九州地方に渡る全国の大学・研究機関から客員教員として当センターの活動に加わっていただいている。

本節では、これら当センター関係教員による最近の研究活動のトピックスを紹介する。いずれも日本の防災関係研究分野の第一人者であり、さまざまなユニークな取り組みが行われているところである。なお、論文等の研究業績は、2.2 節を参照されたい。



写真 防災総合センター関係者
(平成 29 年度防災総合センター研究会, 2017 年 9 月 25 日)

教員名：岩田孝仁

所 属：防災総合センター長・学術院融合グローバル領域地域創造学環教授

2017年度からセンター長を一応務めることになりました。隔年発行のセンター年報ということで、前任の増田センター長に倣い、この2年間の動きをまず報告します。

増田俊明前センター長は2016年度末をもって定年退官しましたが、引き続きセンターの特任教授として活動中です。パートナーとして当センターに関わる研究者も増え、2018年度当初現在、センター長・副センター長や専任・特任教員8名、学内の兼務教員22名。学外の客員教員45名となりました。

2016年度は、学内からは社会安全システム科学が専門の井ノ口宗成准教授を迎え、学外からは都市防災分野の廣井悠客員准教授、地球科学分野では大谷栄治客員教授、地質学を専門とする菅原大助客員准教授を迎えました。

2017年度は、災害情報が専門で元NHK解説委員の山崎登客員教授、社会心理学や災害情報学が専門の関谷直也客員准教授、地震学分野では楠城一嘉客員准教授、石田瑞穂客員教授を迎えることができました。

2018年度は、学内から地滑りセンサーの応用にもつながる電子デバイスが専門の工学部の二川雅登准教授、都市計画・建築計画が専門の石川宏之准教授、木質科学・建築構造が専門の農学部の小林研治准教授、学外からは自治体・企業の危機管理が専門の紅谷昇平客員准教授、気候学が専門の木村圭司客員教授を迎えることができました。このように理学・工学から社会学の分野まで、防災に直接・間接に関わる可能性を秘めた幅広い分野の研究者に新たに関係を持っていただくようになりました。

個人的な研究分野では、これまで深くかかわってきた防災行政や地域防災に関して、聞こえの良い減災に甘えてしまう世の中の風潮を少し改め、災害犠牲者をゼロにすることを目標に「減災から防災社会の構築」をテーマに研究や教育・啓発を続けているところです。災害に備えるため一人一人の想像力をいかに引き上げることができるか、さらに関係する組織としての想像力をいかに高めることができるかが大きな課題と考えています。

教員名：村越 真

所 属：副センター長・副担当・学術院教育学領域教授

認知心理学を基礎としてリスクマネジメントと安全教育の研究をしています。ハードな防災では限界があることが、東日本以来指摘されています。学校教育の中でも臨機応変に行動でき、安全文化の構築に寄与できる次世代の育成が期待されていますが、自ら考え、判断する力を養う防災教育の展開はこれからです。こうした力の育成は、「主体的で対話的な深い学び」を目指す現在の学習指導要領の方向性とも合致しています。防災教育を付加的な教育内容とみなすのではなく、主体的で（自らの命に関わる）、対話的な（リスクに対する異なる考え方があり得る）場面を通しての深い学び（本質的な理解に基づく実践場面に応用が利く）が可能な領域例として積極的に活用する姿勢が必要だと考えられます。

専門である認知心理学的な視点も踏まえて、科学的な根拠を持った実践に活用できる「主体的で対話的な深い学び」を可能にする安全教育やリスクマネジメントの教材開発を行っています。

もう一つのテーマとして、自然体験活動や登山の中での危険およびそこでのリスクマネジメントがあります。リスク社会と言われながら、こうした個人的事象に対するリスクマネジメントの方法は十分に確立されているとは言えません。自然体験におけるリスクマネジメント方略の確立は、日常生活においても人々が安全に生活することに資すると考えています。平成 29 年度には、究極のアウトドアとも言える南極観測隊におけるリスクマネジメントの実践知の把握のため、第 59 次南極観測隊に同行しました。

教員名：牛山素行

所 属：副センター長・専任教授

自然災害科学および災害情報学を専門としています。豪雨・津波を中心に各地の災害時の現地調査に取り組み、災害情報の伝達や避難行動などの調査研究を行っています。

●風水害・津波災害による人的被害の研究

風水害などによる犠牲者が、どのような状況で亡くなられたのかを分類する研究を進めています。一般的なイメージと実態が異なっていることを明らかにしつつあります。

【主な成果】

牛山素行・横幕早季・杉村晃一:平成 28 年熊本地震による人的被害の特徴, 自然災害科学, Vol.35, No.3, pp.203-215, 2016.

牛山素行:日本の風水害人的被害の経年変化に関する基礎的研究,土木学会論文集 B1(水工学),Vol.73,No.4,pp.I_1369-I_1374,2017.

牛山素行・関谷直也:2016 年台風 10 号災害による人的被害の特徴, 自然災害科学, Vol.36, No.4, pp.429-446, 2018.

●災害情報の利活用に関する基礎的調査

災害情報と実際の被害の関係、災害情報の防災面への活用手法、災害と報道に関する基礎的調査などを進めています。

【主な成果】

塩崎竜哉・牛山素行:豪雨時における災害危険度の高まりを推定するための電話通報数の活用について,災害情報,,No.14, pp.164-173,2016.

西文俊・牛山素行: 県域民放テレビ局による避難勧告等の伝達実態, 日本災害情報学会第 18 回研究発表大会予稿集,pp.130-131,2016 年 10 月 23 日.

杉村晃一・牛山素行: 大雨に関する災害危険度認知と避難行動意向～避難情報の対象者絞り込みは住民に伝わるのか, 日本災害情報学会第 19 回研究発表大会予稿集,pp.154-155,2017 年 10 月 21 日.

増田謙・牛山素行: ローカル放送局の防災番組におけるタイトルの傾向に関する調査, 平成 29 年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集,pp.12-13,2018 年 3 月 3 日.

●防災実務者の人材育成への取り組み

ふじのくに防災フェロー養成講座運営主幹として、同講座の運営に当たっているほか、内閣府防災研修コーディネーターとして同府による「防災スペシャリスト養成研修」の推進、気象庁「気象防災専門家育成」カリキュラム構築、気象庁「地方公共団体防災担当職員向け気象防災ワークショッププログラム開発」などの人材育成に取り組んでいます。

教員名：小山真人

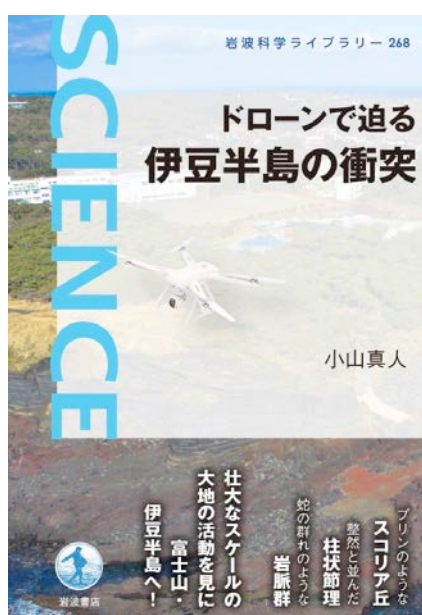
所 属：副センター長・副担当・学術院教育学領域地域創造学環教授

静岡県周辺ならびに他地域の火山噴火史、地震活動史、地震火山防災、リスク情報の伝達・教育普及、ジオパークによる地域社会の活性化と防災基盤強化などに関する研究を進めています。とくに最近では富士山、伊豆東部火山群、箱根火山、伊豆大島火山の噴火史・噴火メカニズム・ハザードマップ・防災対応などの見直し、富士山の噴火時避難ルートマップの作成と効果検証、UAV（無人航空機）を用いた火山地形・噴火史研究なども進めています。

こうした研究活動の一方で、火山噴火予知連絡会伊豆部会委員、静岡県防災・原子力学術会議 地震・火山対策分科会委員、富士山火山防災対策協議会委員、伊豆東部火山群防災協議会委員などを努め、地域の火山防災体制確立のための助言活動に精力的に取り組んでいます。また、静岡県と伊豆半島7市8町が進める伊豆半島ジオパークの顧問・学術部会長をつとめ、伊豆半島ジオパーク推進協議会の設立（2011年）、国内ジオパーク認定（2012年9月）、ユネスコ世界ジオパーク認定（2018年4月）に貢献しています。

以上の作業と並行して、研究成果を一般市民にわかりやすい形で伝える書籍・資料を多数執筆するとともに、多数の講演会・公開講座の講師をつとめています。詳しい教育・研究・地域貢献活動の全貌については、研究室のWebサイト（以下、あるいは「小山研究室」で検索）をご覧ください。

http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/koyama/public_html/



UAV（無人航空機）写真とその地学的解説をまとめた書籍（2017年12月刊行）

教員名：前田恭伸

所 属：副センター長・副担当・学術院工学領域教授

主にリスクアナリシス、特にリスク対応への ICT の活用について研究を進めています。最近の成果としては、主に以下の3つがあります。

一つ目は、若者世代の福島事故の後の原子力へのリスク認知についての調査です。2013年から2014年にかけて東京、静岡、大阪の3つの大学で学生を対象に今後のわが国のエネルギー政策についてアンケート調査をしました。その結果として、4分の3の回答が将来のエネルギー政策として脱原発よりも原発共存がより現実的であると答えました。また原発共存と答えた者と脱原発と答えた者とは、代替エネルギーの可能性、途上国での原子力開発の安全性の影響、原発近隣住民の理解について反応が分かれ、それが意見の相違につながったものと推測されました。

二つ目は、東日本大震災の復興についてのシミュレーションです。岩手、宮城、福島の三県について、2000年から2039年までの地域経済のシステムダイナミクスモデルを作成し、震災と復興のシミュレーションを行いました。その結果、震災後復興の継続する2020年ごろまでは経済は維持ないし向上しますが、復興事業が終了したとたん、下降をたどってしまうこと、下降を抑える鍵は人口、特に労働力人口であるという結果が得られました。

三つ目は、リスク評価関数についての研究です。多くのリスクが同時に存在するとき、どのリスクから対策していくのかを決定するためには、優先順位を明らかにするリスク評価関数が必要です。これまで等リスク原則、等限界リスク削減費用原則、リスク便益原則などの考え方に基づく評価関数が提案されてきましたが、政治哲学の視点から、ロールジャン、リバタリアン、コミュニタリアンの評価関数を提示し、それらを従来型の関数と比較しました。その結果、関数により優先順位は大きく異なること、それゆえ実際のリスクマネジメントでは意思決定者の価値観が大きな意味を持つことが示唆されました。

学外の活動としては、一般社団法人日本リスク研究学会の会長として、2018年3月13日・14日に、国際会議 Society for Risk Analysis, Asia Conference 2018 を関西大学社会安全学部にて開催しました。19カ国から150名を超える参加者の迎え、様々なリスクについて2日間活発な議論が交わされました。

<http://www.sra-japan.jp/SRAAsia2018/>

教員名：原田賢治

所 属：防災総合センター・専任准教授

津波の災害現象や防災対策についての研究を行っています。津波数値シミュレーションや現地調査、実験等により災害現象の理解と対策効果の評価検討について研究を進めています。現在、津波堆積物の形成過程を明らかにするために、実験水路を用いた津波堆積物の形成過程の再現実験の検討を進めています。加えて、沿岸自治体と協力して津波防災対策を地域で進めて行くための計画作りに関する検討も行っています。

教員名：池田恵子

所 属：副担当・学術院教育学領域教授

1) ジェンダー・多様性に配慮した地域防災体制

地域防災の体制に女性や多様な立場の人々の視点と参画が必要であるという考えは、防災基本計画や地域防災計画にも反映され、徐々に浸透していますが、具体的な施策と地域の自主防災活動における実践はまだこれからという段階です。とりわけ、女性の参画は、災害時避難行動要支援者、避難生活要配慮者の支援と強く関係しています。

自主防災活動、防災訓練や防災知識の普及、避難所運営などの実践に、男女共同参画・多様性配慮の視点が組み込まれるよう、調査や研修を行ってきました。自主防災組織など地域で防災活動にかかわる人々、災害支援にかかわる自治体職員や民間支援団体の皆さんとともに、防災・被災者支援・復興などの活動がジェンダー・多様性の視点を持って行われるために研修カリキュラムや教材の開発に携わってきました。

2) バングラデシュの地域開発への災害リスク削減の主流化

バングラデシュでは、仙台防災枠組が目指す通り、あらゆる政策領域に災害リスク削減を主流化する方針が導入されています。地方自治の各レベルにおいて、住民参加型の手法で、地域の災害リスクを特定し、災害リスクの削減を意識した地域開発を計画する手法の実態について、現地調査を行いました。

教員名：岩崎一孝

所 属：副担当・学術院情報学領域教授

地理情報システムを援用した防災研究を進めています。特にこの 2 年間は、卒業研究指導を通じて、防災研究を進めています。指導した卒業研究名を示します。

2016 年度静岡大学情報学部卒業論文

鈴木亜紀実：「アクセシビリティに基づく保育所新設の提案 - 浜松市を例として -」, 2017 年 3 月.

服田帆乃香：「新東名高速道路(豊田東～浜松いなさ)の導入効果の可視化」, 2017 年 3 月.

泉 友太：「地名を利用した自然災害リスク分析」, 2017 年 3 月.

矢神 優：「地理情報システムにおける空間データとしてのオープンデータ活用の提案 - 浜松市を例として -」, 2017 年 3 月.



この中では、地名研究が静岡新聞に評価され、2017 年 5 月 17 日の夕刊で、内容が紹介されました。

2017 年度静岡大学情報学部卒業論文

岡田実樹：「防災拠点としての道の駅 - 静岡県を例として -」, 2018 年 3 月.

西浦直子：「日本における豪雨発生頻度の長期変化と地域差」, 2018 年 3 月.

小野英樹：「校歌から考える、地域と自然環境との関係性」, 2018 年 3 月.

荒関翔太：「地域拠点としての駅を考える」, 2018 年 3 月.

平田真司：「GIS を援用した浜松市における犯罪分析」, 2018 年 3 月.

この中では、日本における豪雨発生頻度の長期変化と地域差の表現方法として、GIS の 3 次元地図作成機能を用いた 3D 地図が有効であることがわかり、論文化する予定でいます。

教員名：木村浩之

所 属：副担当・学術院理学領域教授

西南日本の太平洋側の地域に広く分布する付加体の深部帯水層でのメタン生成メカニズムを解明する目的で、静岡県中西部、宮崎県、沖縄本島の温泉用掘削井を調査し、地下温水および付随ガスを採取しました。現場にて、地下温水の環境データを測定するとともに、地下温水および付随ガスの化学分析、各種安定同位体比を測定しました。さらに、地下温水に含まれる微生物群集を対象とした蛍光顕微鏡観察、遺伝子解析、嫌気培養を試みしました。その結果、温泉付随ガスには 85%以上の高い割合でメタンが含まれていることを明らかにしました。また、水素ガスと二酸化炭素を生成する水素発生型発酵細菌と水素ガスと二酸化炭素からメタンを生成する水素資化性メタン生成菌が共生することによって、今現在も付加体の深部帯水層にてメタンが生成されていることを示しました。

一方、付加体の深部帯水層に蓄えられているメタンを有効利用した“分散型エネルギー生産システム”の創成を進めています。さらに、付加体の深部帯水層に由来する地下温水と微生物群集を利用したメタン・水素ガス生成リアクターを開発しています。具体的には、静岡県島田市の川根温泉にて、島田市および企業と連携して“温泉メタンガス発電施設”を構築しました。現在、25 kW のガスエンジン発電機を 4 基設置し、合計 100 kW の発電と熱生産を行っています。川根温泉にメタンガス発電施設は停電時にも発電可能な設計にしており、災害時に水・ガス・電気・熱を自家供給することが期待されています。これら一連の基礎研究と技術開発が高く評価され、2018 年 2 月に一般財団法人コージェネレーション・エネルギー高度利用センター（通称財団名：コージェネ財団）によるコージェネ大賞 2017 優秀賞（民生用部門）を受賞しました。



写真：川根温泉の掘削井（左）、地下温水（温泉）と付随ガス（中央）、温泉メタンガス発電施設（右）

教員名：北村晃寿

所 属：副担当・学術院理学領域教授

東北地方太平洋沖地震と巨大津波による激甚災害を教訓に、国は駿河・南海トラフの巨大地震の想定の方針を「想定外のない想定」に変更し、従来の防災対象の「東海地震、東南海地震、南海地震とそれらが連動する M8 程度の地震・津波」を「レベル 1 地震・津波」とし、「あらゆる可能性を考慮した最大クラスの巨大地震 (M9)・津波」を新たに「レベル 2 地震・津波」として、想定を公表した。この想定による津波高は、従来よりも 2 倍以上高いものなので、地域社会に深刻な影響を与えている。そこで、私は、静岡県中東部の沿岸低地で津波堆積物の調査を行ったが、過去 4000 年間にレベル 2 津波(詳しく言うと、11 ケースのシナリオのうち、静岡県で最大被害の出るケース 1 のシナリオ)の地質学的記録は検出できなかった(Kitamura, 2016)。ケース 1 は、首都圏でも最大被害の出るシナリオなので、Kitamura(2016)の知見は首都圏の防災に関しても重要である(北村, 2016)。

この結果を補強するため、津波堆積物の調査が行われていない静岡県河津町において 2 地点でボーリング掘削を行い、津波堆積物の有無を調査した。その結果、レベル 2 の津波の発生を示す地質学的証拠は検出されなかった。

また、私は、明応 8 月 25 日(1498 年 9 月 20 日)に発生した明応地震の震源域に関する議論、すなわち「南海トラフの破壊とする意見」と「南海トラフ東部から新島・式根島付近までの領域とする意見」を評価するため、後者の根拠とされている東京都式根島の隆起貝層の年代測定を行った。その結果、4 回の隆起イベントが識別され、そのうちのイベント 2 は西暦 786-1891 年に起きたと推定された。隆起イベントの主因は火山活動や中規模地震と考えられるが、イベント 2 の存在で隆起貝層が明応地震の証拠である可能性が残された(Kitamura et al., 2017)。

石垣島の津波堆積物については、安藤雅孝客員教授と共同研究し、過去 2 千年間に約 600 年間隔で、1771 年八重山津波とほぼ同規模の津波が 4 回起きていたことを明らかにし、国際誌に公表した(Ando et al., 2018)。さらに、石垣島の津波堆積物に含まれる二枚貝の貝殻から津波の発生季節を特定した。具体的には、(1)二枚の殻が閉じておりかつ殻の内側が空、(2)年代が一致する二枚貝を津波で生きたまま運搬されたとみなし、それらの貝殻の酸素同位体比を測定し、貝殻成長末端(貝殻の死亡時)の水温変化を復元し、津波の発生季節を推定するのである(下図)。この方法は世界初で、日本や世界各国の地震・津波の対策に不可欠な「津波堆積物の研究」に新たな研究アプローチをもたらす(Kitamura et al., 2018)。



教員名：森下祐一

所 属：副担当・学術院理学領域教授

私は主担当で金属鉱物資源の成因解明研究を行っていますが、鉱床が生成するマグマ-熱水系では岩石や流体における元素の移動や同位体比の変化などの現象が見られます。マグマ-熱水系で生成した鉱脈型鉱床は熱水から断層中へ鉱物が沈殿したものであるため、それら過去の現象を解析した知見が現在の地質、特に防災に適用できる可能性があります。

1 ヒ素を含む黄鉄鉱中の見えない金：黄鉄鉱中の金／ヒ素比の変動と分布

浅熱水性鉱床である鹿児島県菱刈鉱床鉱脈中の熱水性黄鉄鉱中の金とヒ素の微小領域（3ミクロン）分析を、SIMS を用いて行いました。金濃度は 0.1-2,800 ppm、ヒ素濃度は 0-7wt% であり、両者は正の相関をしています。この金／ヒ素比は大きく見ると基盤が四万十累層群であるところと安山岩である所で異なり、また、鉱脈や深度に応じて変化することが明らかになりました。Morishita, Y., Shimada, N, and Shimada, K. (2018)

2 カルデラ火山の地球化学的岩石学的特徴：東北日本に新たに生じた肘折火山

将来の火山災害を起こしうるカルデラ火山のマグマ溜まりの地球物理的な評価を行うにはマグマ深度やその物理性質を評価する事が重要です。噴火前のカルデラ火山の状態を理解する為、これまで火山の無かった所に 12,000 年前に出現した東北日本の肘折火山を研究対象としました。岩石学的解析や SIMS 分析などにより、メルト包有物の含水量などが得られ、マグマ溜まりで斑晶が生じた深さは 2-13km と垂直方向に伸びたものであることが分かりました。この頂部はほぼ固結していますが、深部からのデイサイト質マグマの注入により再活動し得ると考えられます。Miyagi, I., Kita, N., Morishita, Y. (2017)

3 断層の鉱物学

断層内の断層岩に着目し、断層で生じた鉱物のうち炭酸塩鉱物の炭素・酸素同位体比測定を行い、その同位体値などに基づいて断層岩の生成環境について考察する目的で研究を行っています。研究試料は中央構造線の安康露頭から採取された岩石試料です。

XRD 分析により 3 種類の炭酸塩鉱物の存在が確認されましたが、方解石について行った予察的な炭素・酸素同位体比測定では、方解石の低温での生成を示唆しています。今後は方解石以外の炭酸塩鉱物の炭素・酸素同位体比測定と鉱物の産状観察を行い、浅熱水性鉱床の低温側でのアナログとして、断層の中に炭酸塩鉱物を生成した熱水の起源と進化を調べる予定です。

教員名：藤井基貴

所 属：副担当・学術院教育学領域准教授

東日本大震災以降、教育学部の学生たちを中心に防災教育の教材および授業開発を進めています。2011年度より、小・中学校の道徳の授業向けの防災教材の開発及び実践・普及を図り、全国70校以上の小・中学校で活用いただきました。2013年より特別支援学校、保育園・幼稚園、日本語学校とも連携して「災害時要援護者」を対象とした教材・授業づくりにも取り組んでおり、「防災紙芝居」、「防災体操」、「防災ゲーム」などのプログラムを開発・提案し、学校祭や地域イベント等に出展しています。2016年度及び2017年度は学校、教育委員会、地域の防災センター、日本赤十字社といった教育研究機関との連携を深めて教材や実践の開発・普及を進めるとともに、新たに風水害を扱った防災紙芝居「ぐるぐる雲がくるぞ」を名古屋市港防災センターと共同制作しました。これらの成果に対して、兵庫県等主催「1.17 防災未来賞(ぼうさい甲子園)」において三年連続「ぼうさい大賞」を受賞し、静岡大学からは学長賞表彰をいただきました。これまでの取組は教員を目指す学生たちの粘り強い探究心と精力的な活動、そして静岡大学防災総合センターを始めとする研究ネットワークに大きく支えられています。今後も学生たちとともに防災・減災のネットワークづくりに貢献していきたいと思っております。



静岡県地震防災センターでの防災講座
2017年8月6日



日本赤十字社との連携事業
2017年9月29日

教員名：橋本 岳

所 属：副担当・学術院工学領域准教授

私は画像計測の防災への応用という工学的アプローチに関する研究を行っています。これまでに「屋外遠距離において高精度な計測が可能」というユニークな計測技術を開発しており、具体的には計測距離約 100m にて誤差 10mm 以下という計測を実現しました。この高精度という特長を生かして様々な実用的な研究を進めていきます。研究の一例として、土砂災害の予兆検知を目的とした切土法面の微小動きの計測に取り組んでいます（下図）。



教員名：二川雅登

所 属：副担当・学術院工学領域准教授

私は、半導体集積回路技術を活用した小型土中水分量センサを研究しており、降雨による土砂災害を事前に予知できるシステムの開発を目指しています。

世界各地で発生している豪雨などによる土砂崩れ（斜面崩壊）は、家屋だけでなく人の命も危険にさらし大きな被害をもたらします。一般的に崩壊が予想される危険斜面へは変位センサや転倒センサなどが使われており、崩壊直前の避難に役立っています。しかし、崩壊の兆しが見える前に現在の危険度を知ることができれば、道路の封鎖や余裕を持った避難が可能となります。そのため、斜面崩壊の予知ができる技術の確立が強く望まれています。雨などにより土に含まれる水分量が増加し、土の摩擦力が低下するとともに水を含む土の重量が増加することにより、斜面崩壊が発生します。そのため、土中の水分量を直接計測し斜面崩壊の予知につなげていく研究を行っています。

静岡県浜松市や長野県塩尻市の山の斜面にセンサを設置し、降水量に対する土中水分量の変化を観測することに成功しており、現在も継続して計測をしているところです。

本センサは、防災・減災のためのツールとしてだけでなく、農業培地の高度制御化や水質管理など様々な分野で利用可能であり、更なる高精度化と安定した長期計測の実現を目指して研究をすすめていく予定です。



教員名：今泉文寿

所 属：副担当・学術院農学領域准教授

土砂災害の軽減に向け、山岳地で発生する土砂移動現象の現地調査を行っています。現地調査の結果、これまで未解明であった土石流の発生機構に関する多くの知見を得ることができました。さらに、森林の管理が土砂移動現象へ及ぼす影響の解明に向けた研究活動も行っています。



写真 静岡市大谷崩における土石流の発生域での地形計測

教員名：石川宏之

所 属：副担当・学術院融合グローバル領域地域創造学環准教授

1. 研究テーマと概要

(1) 減災教育や観光振興に災害遺構を活かすためのジオパーク活動

東日本大震災のような巨大災害で疲弊した地域社会を再生するには、内発的な経済復興と併せて人的復興が必要である。復興まちづくりで減災教育や観光振興に災害遺構を活かすために地域住民が災害遺構の価値を見出すプロセスと産学官民の連携体制のあり方について研究しています。



震災遺構たろう観光ホテル（岩手県宮古市）

(2) 地方都市中心市街を活性化するためのエリアマネジメント

人口減少時代の市街地形成の概念としてコンパクトシティへの転換が求められている。中心市街地における低未利用地の再編、マネジメント手法、都市機能を誘導する地区のあり方、地域遺産を活用した都市再生手法について研究しています。



第65回清水七夕まつり（静岡市清水区）

2. アピールポイント

- (1) 巨大災害で疲弊した地域において、地元住民が主体となった内発的なジオパーク推進協議会と地域内外の大学が社会関係資本を築ければ、復興が効率・効果的に進められ、いち早く地域社会を再建することができること。
- (2) 特定の地域において、街づくりから地域管理まで一貫して行う官民連携のエリアマネジメント組織と大学が社会関係資本を築ければ、地元住民が地域遺産の学術・教育的価値を発見でき、住民が地域に誇りを持つようになり、街づくりに地域遺産を活かすことで中心市街地を活性化することができること。

3. 関連書籍など

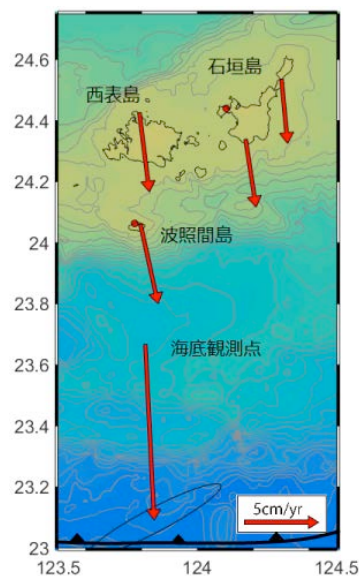
- (1) 石川宏之「復興まちづくりに火山災害遺構を活かすためのジオパークの経緯と大学の連携体制のあり方に関する研究－島原半島ジオパーク推進連絡協議会と洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会を事例として－」『都市計画論文集』No50-1, 日本都市計画学会, pp. 101-106, 2015
- (2) 小林重敬・内海麻利・村木美貴・石川宏之・李三洙『エリアマネジメント 地区組織による計画と管理運営』, 学芸出版社, 2005, (担当部分：第4章 晴海地区、東五反田地区)

教員名：生田領野

所 属：副担当・学術院理学領域准教授

<南西諸島における陸上・海底地殻変動の観測研究>

琉球海溝の南端部、先島諸島の波照間島の南沖で、毎年 1 回、海底の地殻変動を計測しています。1771 年に先島諸島の石垣・宮古島などを襲った明和の大津波の津波の波源が、プレート境界である琉球海溝にある可能性が示唆されており (Nakamura, 2009)、さらに石垣島での調査からは、同規模の津波が 2,000 年で 4 回、石垣島の東海岸を襲っていることがわかっています (Ando et al., 2018)。2014 年から始まったこの調査は今年で丸 3 年、4 回の観測を経て、プレート境界の上盤側の地殻が、南から沈み込むプレートに北に押し込まれるのではなく、逆に南にせり出している様子が見えてきました。この 3 年間の地殻変動がこの場所の永続的な地殻変動を表しているかどうかによって複数の解釈ができ、明和の大津波の波源域について決定的な証拠とはなっていません。しかしプレート境界の浅部が比較的高速度で海溝に向かって伸びているというのは、地震学的にこれまで観察されていない非常に面白い現象です。



<人工震源装置を用いた断層・地表・地殻内部構造のモニタリング>

静岡県森町に設置されている精密制御定常信号システム (=ACROSS) と呼ばれる人工震源装置を用いて、2007 年から長期にわたり、この周囲 50km 程度の範囲で地殻内部を伝わる地震の波の速度をモニタリングしています。2011 年の東北地方太平洋沖に際しては周囲の地震観測点へ到達する地震波の速度が遅くなるという現象が見られました。またその他の時期では、多くの観測点で速度が徐々に速まっていく様子が捉えられています。

また 2017 年から、同じ震源装置を用いて、表層の土壌の降雨や気温変化、地滑りなどに対する応答を調べる研究を始めています。地下の貯水量に応じて、地中を伝わる地震波形が変化する様子が捉えられており、更にこの変化の様子が、ごく近い観測点同士でも地盤の違いによって全く異なる興味深い結果が得られています。

<巨大地震の発生条件の調査研究>

巨大な海溝型 (プレート境界型) 地震は、プレートが沈みこんでいる「沈み込み帯」で生じますが、どこでも同じように発生するわけではないと考えられています。例えば日本周辺では、若いフィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に沈み込む南海トラフでは将来巨大地震が心配される一方で、古い太平洋プレートがフィリピン海プレートの下

に沈み込む伊豆小笠原海溝では、巨大な地震が起きる可能性はあまり検討されて来ていません。本当に巨大な地震は起きないのか、起きないとすれば何が決定的に異なるのか、世界中のプレート境界地震の発生場を比べ、地形、地殻変動、重力などから複合的に手がかりを探る研究をしています。

教員名：石橋秀巳

所 属：副担当・学術院理学領域准教授

私は主に、天然の火山噴出物の組織観察・化学分析に基づき、マグマの形成・噴火プロセスについて研究しています。2016-2017年では、富士山・伊豆大島などの苦鉄質マグマを噴出する火山について、その噴火準備および噴火プロセスに関する研究を行いました。具体的には、富士山宝永噴火の玄武岩質マグマの噴火メカニズムに関する研究（天野 2017 修論）、富士山 S18 サブプリニー式噴火のプレ噴火過程とそのタイムスケールの研究（菅野 2018 修論）、富士山のマグマ供給システムの異方性に関する研究（井上 2018 修論）、伊豆大島 1986 年噴火の B 火口サブプリニー式噴火のトリガメカニズム（種田 2018 卒論）などです。また、マグマの熱力学相平衡シミュレーションによって、苦鉄質マグマの噴火様式における減圧結晶作用の影響に関する研究も行いました（石橋・天野，2017）。一方で、珪長質マグマの噴火準備過程に関する研究を、伊豆カワゴ平火山（諏訪 2017 卒論）、箱根火山（辻原 2017 卒論）、雲仙平成新山（岩橋 2018 卒論）について行いました。更に、斑晶鉱物中の元素拡散モデリングによるマグマの噴火準備タイムスケールに関するレビュー（菅野・石橋，2017）、北海道白滝の流紋岩質溶岩の高温変形実験（石橋・佐野，2016）などの研究結果も公表しました。2018 年以降は主に富士山・伊豆東部火山群・箱根火山・伊豆大島火山などを対象とし、①苦鉄質マグマの火道上昇中の状態・物性変化およびその噴火プロセスへの影響に関する研究、②火道浅部におけるマグマの結晶化が噴火に及ぼす影響の研究、③マグマだまり中のクリスタルマッシュに注目した噴火準備過程に関する研究を進めていきたいと考えています。

教員名：三井雄太

所 属：副担当・学術院理学領域講師

断層力学の物理モデルと、実際の地殻変動・重力データの統計的解析に基づいて、地震発生過程を研究している。物理モデルから帰納的に予測されることと、実データに対してなされる「解釈」との間にある、大きな谷間を埋めることを目標とする。

教員名：池田昌之

所 属：副担当・学術院理学領域助教

私は、主に野外での地質調査と採集試料の化学分析、得られたデータの数値解析や物質循環モデルとの比較によって、堆積物・地層に記録された過去の環境変化、その原因となる火山活動や地殻変動といった地球内の要因や、太陽活動や地球軌道要素変化に伴う日射変化など地球外的要因、及びそれらの結果としての生態系の変遷やそれらの相互作用について研究しております。中生代の大量絶滅事変のような地球史スケールの大規模災害における気候変化、物質循環について、陸域の降水量変化が砂漠化や地下水量変化、海水準変化、大陸風化速度変化、大気 CO₂ 濃度変化、気温-海水温変化、海洋溶存酸素濃度変化、陸域-海洋の生物群集変化や生物分布変化を引き起こしたことを日本や欧米、中国の地質調査結果に基づいて明らかにしつつあります。時間スケールは数万年から数億年の地質学的時間スケールが主な対象ですが、生態系の応答や気候状態の遷移は数年オーダーの身近な時間スケールで進行すると考えられるため、このような短期的な環境変化についても研究を進めたいと思っております。

教員名：増田俊明

所 属：防災総合センター・特任教授

(1) 地下深部での岩石の破断面が改変されずに残されている可能性がある変形変成岩中のマイクロブーディン構造の分離面の観察を、レーザー顕微鏡を用いて行った。試料はギリシャの Syros 島で採取した大理石中に含まれているグロコフェン (glaucophane) である。大理石の大部分を構成している方解石は、草津の万代鉱 (源泉) により溶解できることが分かったので、万代鉱を利用して方解石中のグロコフェンを取り出して観察する、という方法を思い付いた。通常は方解石の溶解には塩酸が利用されるが、塩酸には、厳格な管理や不当廃棄禁止、ドラフトの使用義務などの煩雑な枠組みが存在しており、煩わしい。一方万代鉱は、草津では源泉掛け流し方式でホテル等の源泉として普通に入浴に利用されており、もちろん素手で触っても差し支えない液体 (!) である。ただし、万代鉱は pH=1 であり、目に入ると痛みを感じるほどのものであるが、いわゆる薬品ではないので、煩わしい利用制限がなく溶解作業が容易に行える。これが最大の利点である。

(2) 地熱発電所の地下深部で起こる可能性のある岩石変形における脆性-塑性遷移について、特に花崗岩を中心に文献調査等を行った。また、超臨界水と岩石の相互作用に関しての文献も検討した。2018年2月に Stanford 大学で行われた地熱関連ワークショップに参加し、情報を収集した。地熱発電所直下で注水により人工的に起こる地震の研究は、岩石の破壊物性の応用分野であるという認識とともに、広い意味では防災関連研究の範疇に入ると考えている。今後もこの検討を継続する予定である。

教員名：小杉素子

所 属：副担当・総合科学技術研究科 特任准教授

人々の生活の中の様々なリスクについて、社会心理学的な視点から研究をしています。特に、リスク問題について異なる利害や認知を持つ人々が、そのリスクの影響や被害の程度や範囲をどのように考え、社会全体やコミュニティとしてどのように管理することが望ましいと考えるのかについて、意見を交換したり意思決定を行うプロセスに着目しています。

2016～2017年度は、気候変動や地球温暖化のリスクについて、一般市民を対象としたインターネット調査やオンラインコミュニティによる熟議実験（オンライン熟議）を行い、リスク認知やリスク管理に関する考え方について調べました。

オンライン熟議では、農業分野における気候変動影響のリスクと適応策に焦点を当て、専門家からの情報の提供とそれを踏まえた熟議への参加により、参加した一般市民のリスク理解度が向上することや、異なる意見を聞くことで熟考が促進されることを明らかにしました。一方で、オンラインの熟議の短所として、双方向の意見交換や議論の深まりが起こりにくいことも示されました。

インターネット調査からは、クラスター分析により気候変動や地球温暖化問題の捉え方で回答者を次の5タイプに分けられることが示されました。警戒派：気候変動のリスクを最も高く評価し、気候変動は主に人間の活動により引き起こされたと考えている人々、懸念派：警戒派と似ているが、影響の実感が薄い人々、逃避派：気候変動のリスク認知が高いが同時に同時に気候変動が疑わしいと思う程度も高い人々、無関心派：気候変動に対して関心が低く知識も少なく、明確な態度を持たない人々、懐疑派：気候変動に対して疑いが強く、科学者の間での意見の不一致があると考えている人々。これらの5タイプの人々は、関心や知識のレベルの大きく異なるため、それぞれの態度や価値観に応じた情報提供や対話活動を内容を考える必要性が示唆されました。

教員名：石井輝秋

所 属：客員教授

主として研究航海に参加し、現場での海底地質調査・研究を行っている。

有人潜水艇「しんかい 6500」(=6K)の支援母船「よこすか」YK16-01 研究航海は 2016 年 4 月 08 日(金)東京晴海出港-4 月 26 日(火)東京晴海入港の 19 日間で行われた。乗船研究者は首席研究者 JAMSTEC 研究員町田嗣樹博士以下計 15 名、航海の研究課題名は「海洋資源の成因に関する科学的研究」によるマンガンノジュール広域調査であった。「しんかい 6500」での 8 回の潜航調査(6KDive 1459-1466)が行われた。YK10-05 航海、6KDive 1207(乗船者：石井)の仮称石井フィールドでの潜航をきっかけに南鳥島の排他的経済水域(EEZ)内に広大なマンガンノジュールフィールドの存在が明らかになり、今回はこの海域の地質調査を主眼として行われた。その後の研究から、マンガンノジュール、マンガンクラストとレアアース泥の三者は、互いに深い成因関係があるという、深海酸化物質資源三位一体作業仮説を提案するに至った(町田他 2016)。尚、航海の概要は下記の論文にまとめられている。記：「よこすか」「しんかい 6500」YK16-01 研究航海の概要—南鳥島海域 EEZ 内マンガンノジュール広域調査の潜航研究速報—：石井輝秋、町田嗣樹、飯島耕一、他 13 名、深田地質研究所年報、1-28、2016。

更に、「かいいい」YK16-14 研究航海は 2016 年 10 月 26 日(水)サイパン出港-11 月 3 日(木)那覇入港の 9 日間で行われた。乗船研究者は首席研究者海上保安庁海洋情報部小原泰彦博士以下計 18 名、航海の研究課題名は「超精密海底地形図にもとづく南部マリアナ前弧しんかいシープの包括的理解」であった。「かいこう Mk-IV」での 4 回の調査(KaikoDive 707-710)が地形調査を主に、南部マリアナ海溝陸側斜面水深約 5500 mのしんかいシープ域で行われた。

有人潜水艇「しんかい 6500」(=6K)の支援母船「よこすか」YK17-11 研究航海は 2017 年 5 月 29 日(月)サイパン出港-6 月 14 日(水)横須賀追浜入港の 17 日間で行われた。乗船研究者は首席研究者 JAMSTEC 研究員町田嗣樹博士以下計 13 名、航海の研究課題名は「海洋資源の成因に関する科学的研究」によるマンガンノジュール広域調査であった。「しんかい 6500」での 8 回の潜航調査(6KDive 1497-1504)が行われた。今回はこの海域の地質調査、試料採取を主眼として行われた。調査で採取された海底試料を、EPMA 等による非破壊的分析により成因の議論を深めたい。

尚、海底試料採取の基本であるドレッジに関する下記の論文を公表した。記：ドレッジシステムのローテクからハイテクへの変革---海底物質科学研究の飛躍を目指して---：石井輝秋、深田地質研究所年報、18、29-48、2017。

教員名：石田瑞穂

所 属：客員教授・産業技術総合研究所客員研究員

「海洋プレートの沈み込みに伴う巨大地震の発生に関する先行研究の課題と問題点について」と題して、2017年9月から調査を開始した。主な共同研究者は静岡大1名、産総研2名、防災科研2名、JAMSTEC1名である。

調査の目的は、首都圏で危惧されている大地震の発生様式は海洋プレートの沈み込みに大きく影響されると考えられるので、現在提唱されている主な海洋プレートの構造について、その詳細を整理し問題点を明らかにすることにある。

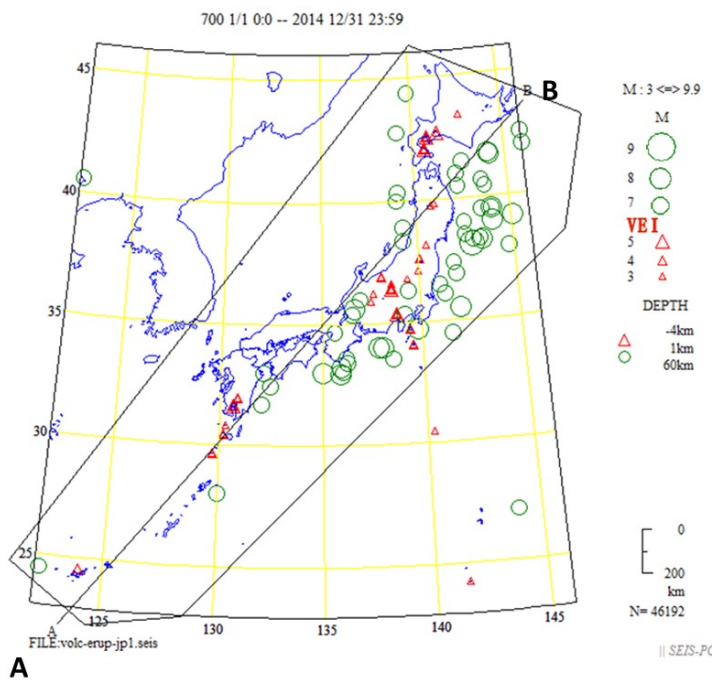
首都圏およびその周辺地域では、過去、マグニチュード (M) 7や8クラスの地震が発生していることが知られている。その主な要因は、首都圏を乗せた陸域プレートの下方に南東から北西方向にフィリピン海プレート (PHS プレート) が沈み込んでいることに因るが、伊豆半島の東側では相模トラフから伊豆半島の西側では駿河トラフから沈み込み、伊豆半島そのものは衝突した状態にある。この様に、PHS プレートの沈み込みの様相は複雑であるため、首都圏での地震活動も極めて複雑な様相を呈する。現在、首都圏で仮定されている主な PHS プレートモデルとしては、研究者が主に用いている弘瀬等 (Hirose et al., 2008), 地震調査推進本部 (推本) による首都圏の地震動予測に用いられているモデル (2014) 及び推本モデルの基礎となった首都直下地震防災・減災プロジェクト (2013) の成果として提唱されているモデル (2013) などがあげられる。ここでの調査ではこれらのプレートモデルが現在の震源分布や速度構造分布等を十分反映したモデルであるかどうか、何が問題点として残されているか等を検討した (2018年3月6日第一回研究委員会)。

相模トラフから沈み込むプレートに関しては、震源分布とプレートの形状について 4-50 km以浅では、いずれのモデルでも大きな差はないと言えるが、それ以深では各モデルの形状において大きな差がみられる。また、速度構造については、求められた 3次元構造の表示方法などにより震源分布や検討対象のプレートの形状との解釈に影響を与えるのではないと思われる。今後、さらに詳細な検討を進めていく予定である。

教員名：石川有三

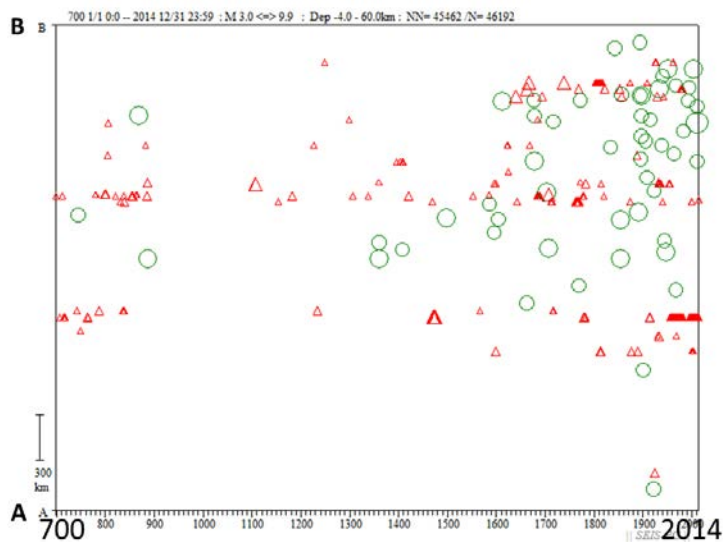
所 属：客員教授・国立研究開発法人 産業技術総合研究所

これまでは、専門家以外でも利用できる地震活動解析ソフト（Seis-PC <http://www.ab.cyberhome.ne.jp/~catfish/SEIS-PC/index.html>）を用いた地震活動の解析を主に行ってきたが、最近では火山噴火活動との関連性を調べるため、米国スミソニアン研究所の火山噴火データベースを活用し日本付近の火山噴火と地震発生との地図表示と時系列解析を行えるようにした。上図に紀元 700 年以降に発生した M7.5 以上の浅い震源と火山噴火の噴火指数 3 以上の噴火を示している。下図にはその時系列を示した。これらを見ると巨大地震が火山噴火を活発化させた事例は少ないように思える。



大地震が火山噴火を活発化させた事例は少ないように思える。

緑丸が M7.5 以上の地震の震央で、赤色△が噴火した火山の位置。



縦軸は上図の直線 AB に対応。上側が北東側で北海道。横軸は年代で左端が紀元 700 年で右端が 2014 年。

教員名：伊藤 潔

所 属：客員教授・(株) 阪神コンサルタンツ

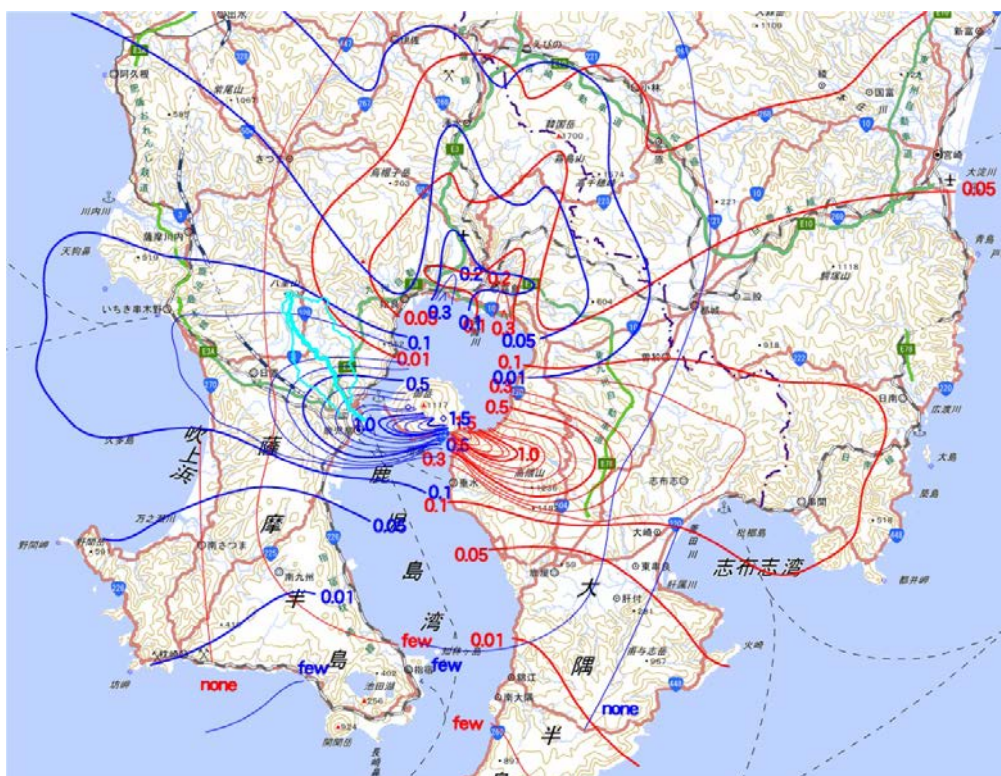
地震活動は原子力発電の際の基本的な情報として重要である。日本国内の原子力発電所は設置時から種々の調査がなされ、特に直下の活断層については、強震動による被害以外に変位による被害の想定のために、詳細な調査と議論がなされている。しかし、原子力発電所は韓国にも20基以上が設置稼働しており、距離的にも対馬などから九州、中国地方にかけて近い位置に存在している。折しも2016年9月には韓半島南東部の慶州市の近くでM5.8および5.2の地震が発生した。この規模の地震によっては日本では考えられない被害が生じ、韓国でも問題になってきた。これらの地震は韓半島南東部の長大な断層、梁山断層で発生したとされ、韓国では活断層の調査もなされている。この地震群に対しては余震観測なども実施され、詳細な地震分布も得られている。M6以下の地震で地表地震断層が発現するのは稀であり、活断層との関連ははっきりしない。梁山断層は斜交する蔚山断層と共に韓国の最も大きな活断層とされているが、歴史地震との関連は良く分からない。さらに、この断層の近傍に韓国の原子力発電所が多数設置されている。幸いこの地震での被害はなかったが、韓国でも問題視され、調査が開始されているようである。韓国では原発設置時の耐震基準は0.2Gと日本の基準に比べると非常に低い。最近これを強化する議論が行われているという。韓国の地震活動、活断層と原子力発電所の設置基準等について調べている。

以前からの引き続きで、人工的な誘発地震について米国等の報告を元に調べている。シェールオイル採集のフラッキングによる報告が多いが、地熱発電、CCS（炭酸ガスの地下貯留）についての報告も少しずつ増加している。社会的、事業的に基本的な興味は貯留など投入流体と発生する最大地震の大きさである。しかし、誘発地震は浅く、地震発生域の間隙水圧のデータなどもある場合があり、地震発生の原因の究明にも役に立つので、その面からの研究も興味深い。日本でもCCSが実証段階に入っているが、誘発地震対策は十分になされるべきである。

教員名：岩松 暉

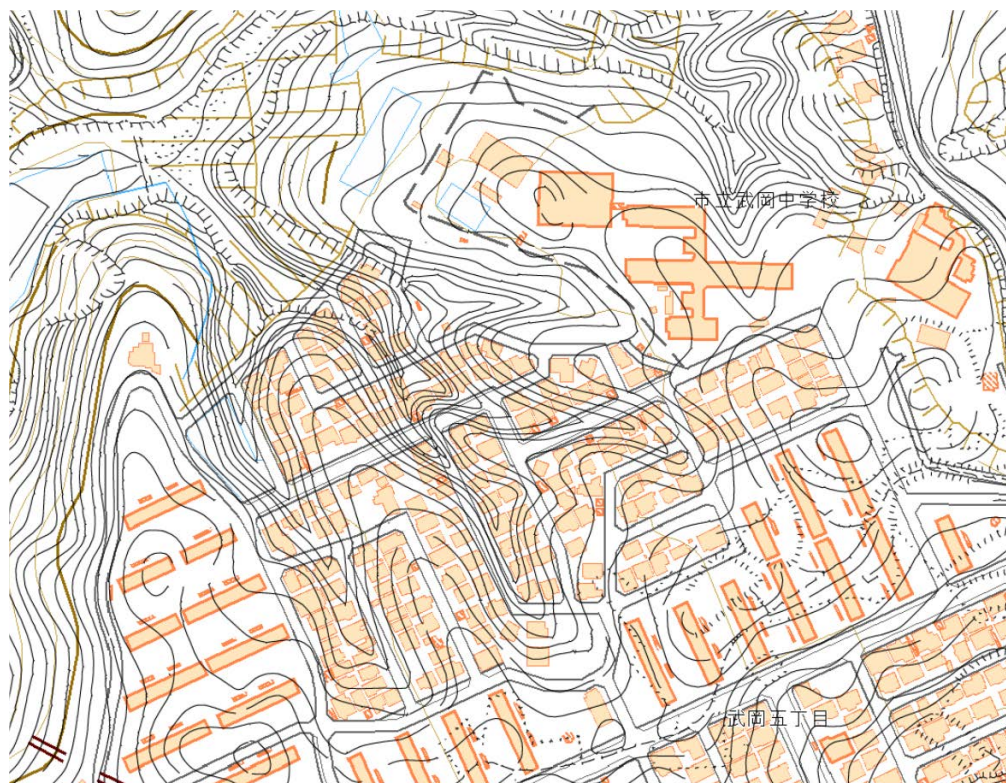
所 属：客員教授・鹿児島大学名誉教授

1. わが国の火山噴火で 20 世紀最大の噴火だった桜島大正噴火から 100 年以上経過、マグマ量は当時の水準に回復し、いつ噴火が起きてもおかしくないと言われています。これを意識して、鹿児島大学地域防災教育研究センター（現地震火山地域防災センター）では、「大規模火山噴火にレジリエントな地域社会の実現に向けた取り組み」と題する研究プロジェクトを開始しました。私もワーキンググループのメンバーになっています。



上図の赤線は、当時の鹿児島高等農林学校金井眞澄助教授の描いた「大正三年度桜島火山降灰礫分布圖」をメートル法にリライトしたものです。大規模噴火といっても、現在経験している降灰のひどいもの程度と一般には考えられていますので、認識を改めていただくために、この図を鹿児島市街地中心部に最大層厚部がくるように反転したものが青線です。鹿児島市の水瓶である甲突川水系(水色)も全域が厚さ 10cm 以上の軽石に覆われます。当然、断水になるでしょう。シラス台地に位置する住宅団地への取付道路は急坂ですから、車も登れず物流が途絶えて食糧難になるものと思われます。しかし、百聞は一見にしかず、実際の走行実験をしてスリップして登れない映像を流すのが一番効果的だと思い、この図を持って国交省や市役所危機管理課に働きかけました。当初、1971 年川崎ローム斜面崩壊実験事故などが念頭にあってかなり渋っていましたが、このほど市が予算化、国交省から試験場と軽石を提供していただき、2018 年夏に実施することになりました。

2. 草の根防災活動としては、団地に住む高齢者を対象に、市危機管理課から、備蓄食糧の期限切れ間近なものを提供していただき、非常食試食会を実施しています。その際、市危機管理課の出前トークと私の講演を行いました。「脅す防災」はあまり好きではありませんが、ここは谷埋め造成地であって必ずしも安全なところではない、と伝えました。下図は新旧地形図の重ね合わせですが、市営住宅と中学校校舎は尾根筋の切土で、中学校校庭と民有地は谷埋め造成地です。

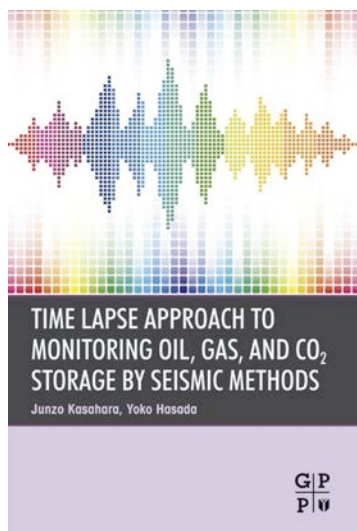


3. 下記ウェブサイトを日々更新し続けており、その中には自然災害も含まれています。
「かだいおうち Advanced Course」 <http://eniac.sci.kagoshima-u.ac.jp/~oyo/advanced/>

教員名：笠原順三

所 属：客員教授・東京大学名誉教授

地下構造の時間変動を ACROSS を震源として地震波を使ったモニタリングする技術開発を行ってきた。この技術は、石油・ガス貯留層、シェールガス開発、CO₂ 地中貯留に応用できるだけでなく地すべりのモニタリング、落盤、地震発生域の状態監視の応用可能である。この技術開発のため 1995 年阪神淡路大地震の発生域、栃木県宇都宮の大谷石採石場の陥没監視、サウジアラビア AlWasse 域での地下水モニタリングの時間変化観測を実施した。



2016 年 10 月 Elsevier Pub. から Time Lapse の本を出版した。

自然地震活動・火山活動については地震活動、火山活動に注意している。2016 年 4 月 14 日、16 日の熊本地震発生に際し現地を視察し今回の地震の特徴を理解した。その結果この地震が南北張力下の横ずれ断層、正断層群からなる断層帯で発生したこと、地下水との深い関連が示唆された。その結果、単純な前震、本震、余震で予測が不可能であることが言える。また中央構造線・赤石烈線・糸魚川静岡構造線・駿河トラフ・南海トラフとの深い関係が想定される。

平成 29 年度は分布型地震センサー (DAS: Distributed Acoustic Sensor) の評価を行った。シュルンベルジェ社の hDVS は歪速度を計測することができ、地震計並みの感度があることがわかった。線形土木構造への応用、堤防道路などのインフラの管理を行うことができる。線形土木構造が豪雨、地震などにより破損などした場合、リアルタイムで警報を出すシステムを構築できる。

NEDO 超臨界地熱開発について貯留層の存在の可否、超臨界地熱の熱効率、開発方法、モニタリング方法について調査した。また地下イメージングの波形インバージョンソフトも開発した。

教員名：風間 聡

所 属：客員教授・東北大学 大学院工学研究科土木工学専攻

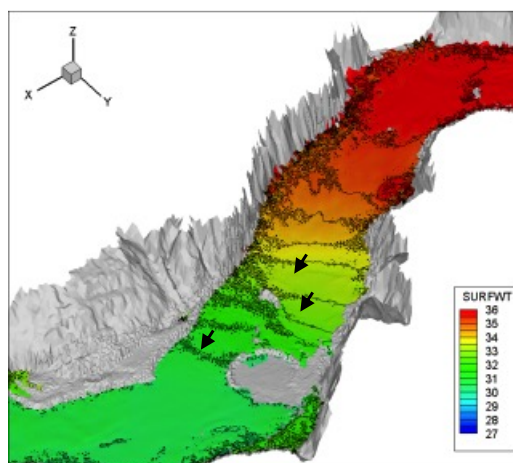
防災に関して下のような内容の研究を行っています。主に川に関するものです。

1. 気候変動に伴う水災害リスクの推定

文科省気候変動適応技術社会実装プログラム（SI-CAT）の活動で気候変動による日本の水災害被害額を推定しています。複数の気候モデル（GCM）から得られた気象データを、洪水氾濫、高潮、土砂災害、海岸侵食モデルに入力して、再現確率に応じた各被害額を治水経済マニュアル（案）に従って計算します。

2. H28年の岩手小本川洪水の災害調査

豪雨災害の調査を実施し、その報告をまとめました。H28の岩手県豪雨では、岩泉町乙茂地区において山岳河川氾濫域まで洪水流が達し、多くの人が犠牲になった事象を数値計算で解析しました。地方の河川には治水水準が十分でないうえに、整備も思うように進まない現状があります。観測機器の更新も進んでおらず、リスクは年々高まっています。



数値計算による水位（m）

左岸側が居住地

3. 海外の水災害研究

ジャカルタの洪水解析を気候変動、都市化の影響を見るとともに、建物緑化による気候緩和と洪水適応の効果を数値モデルによって評価しています。タイにおける斜面災害のリアルタイム評価や被害額推定、将来評価など、国内で培った技術移転を進めています。また、ラオスの洪水濁水ならびにバングラディッシュの地下水資源変化の推定も行っています。異なる条件下の災害を知ることから、設計に反映されていない被害を把握することができます。

4. 秋田県米代川流域の洪水予測精度の向上

高精度な分布型物理流出モデルを開発しています。特に融雪出水の研究を進めています。森吉山において積雪観測を実施し、山岳域の積雪分布の推定精度の向上に努めています。また、多くの融雪出水モデルはピーク流量の推定に問題があります。降雨パターンの解析やモデルの性質などをモデル定数に反映させることを目指しています。

教員名：狩野謙一

所 属：客員教授・静岡大学名誉教授

○ 富士川河口断層帯の地下構造探査

富士川河口断層帯の地下構造解明のために、2012、2014年に反射法地震探査を中心とした地下構造探査を行った。この間に平行して、富士・富士宮市にまたがる星山丘陵周辺の地質・地形調査を行ってきた。その結果、富士川河口断層帯は低角度の逆断層群から構成され、星山丘陵は逆断層にはさまれて隆起したポップアップ構造を形成していることが明らかになった。この結果は、今後の同断層帯の活動性やリスク評価に大きな影響を与える。これらの成果については、順次、学会に報告してきたが、本年度から来年度にかけて、学術論文として公表する予定である。

○ 伊豆半島世界ジオパーク関係

伊豆半島南部の新第三系白浜層群に見られる海底火山活動の研究を1980年代におこなったが、その再検討を数年前から開始し、2016年7月に「伊豆半島南部のジオガイドー地層から読み解く海底火山活動」を刊行した。この刊行とほぼ同時に、伊豆半島の世界ジオパーク登録を目指した伊豆半島ジオパーク推進協議会・学術部会が発足し、委員として加わった。ここでは、主として浅海底の火山活動の理解について、2017年夏期のUNESCO審査に対応した。伊豆半島南部は世界的に見て、海底火山活動の記録が良好に保存されている場所であると認識しており、今後とも、このジオパーク運動に協力していきたい。

○ 糸魚川-静岡構造線活断層系と北部フォッサマグナ南部地域の第四紀テクトニクス

数年前から、北部フォッサマグナ南部の中央隆起帯および小諸帯の第四紀テクトニクスについて、検討を続けている。本地域は、糸静線活断層系の中では最も活動度の高い牛伏寺断層の南東方に位置し、諏訪盆地周辺には活断層群が分布しており、地震リスク評価を解明しておく必要がある。これまでの地表地質調査と先行研究をまとめると、この地域周辺での火山活動・地殻変動は130万年前と80万年前頃に転換期があり、諏訪盆地の陥没は80万年前以降に活発になったことが明らかになった。この間で諏訪盆地の形成に係わる糸静線断層群の活動開始時期は、従来考えられていたよりも数10万年若くなり、最近数10万年間の活動度は日本最大クラスとなる。ところが、近年(最近100年程度)のこの地域の地震活動・地殻変動は活発とは言えない。この結果は、活断層の評価は最近数百～数万年間ばかりではなく、100万年前以上の時間幅で、活動履歴を把握しておく必要があることを示唆している。この研究については、既に2編の論文を公表し、さらに一編を近日中に公表予定である。

教員名：木村圭司

所 属：客員教授・奈良大学文学部地理学科 教授

地理学・気候学を基本とし、地理情報システム（GIS）やリモートセンシング、シミュレーションなどの手法を使って防災の研究もしています。

2018年度から静岡大学防災総合センターの客員の末席に加えていただき、4月に担当講義を行いました。受講生の皆さんの熱意を強く感じることができました。

これまで、シベリア（ロシア）、アラスカ（アメリカ合衆国）、カリマンタン（ボルネオ）島（インドネシア）と、海外の森林火災、原野火災についての研究を国際共同研究で進めてきました。現地調査には何度も行っており、北方林の森林火災では地形と風の影響が大きいとわかっています。また、インドネシアの泥炭地における森林火災・原野火災は、大量の二酸化炭素を放出するだけでなく、煙が住民の健康被害を引き起こし、また、近隣諸国に流れた煙が空港の運航障害を引き起こすなど、国際的な問題にもなっています。インドネシアの森林火災・原野火災の危険度予測ができるよう、日本のJICA（国際協力事業団）や現地の国立研究機関（インドネシア技術評価応用庁：BPPT）と協力して研究を進めています。

また、防災に関連したこととしては、高等学校の教科書「新詳 地理 B」「高校生の地理 A」（ともに帝国書院）で、気候と気候災害についても執筆しています。高校で防災を学ぶきっかけになればうれしいと思っています。

さて、私が所属している奈良大学の地理学科は、西日本唯一の地理学科です。自然地理学を専攻する教員が複数いるため、「環境と防災」というコースがあります（平成31年度以降は「地域環境・防災コース」に名称変更）。京都大学をはじめとする西日本では、「地理学」を専攻できる学科・コース等は文学部に属することが多いのですが、一方で、文理融合の複合科目のため、自然的な基礎知識や統計も理解する必要があります。なお、静岡県は防災意識が高いためか、奈良大学地理学科には静岡県出身の学生が多数います。

教員名：佐藤 健

所 属：客員教授・東北大学災害科学国際研究所教授

アーカイブ（歴史資料・デジタル）を活用した復興教育／防災教育モデルの普及と高度化を、石巻市内の重点型実践校を中心に展開した。教育モデルの普及に伴い、石巻市教育委員会主催「復興・防災マップコンクール」の創設につながり、研究成果は日本安全教育学会を中心に発信した。2017年11月に開催された世界防災フォーラムでは、「持続可能な防災まちづくりと防災人材育成」と題するテクニカルセッションを企画し、外国人30名を含む140名の来場者のもと、学校防災と地域防災の連携のロールモデルを国内外に発信することができた。

また、防災人材育成の活動としては、被災自治体職員や企業の防災担当者向け研修「3.11からの学び塾」や、宮城県内の防災主任等を中心とした学校防災を推進する学校教員向けフォーラム「防災教育を中心とした学校安全フォーラム」、日本安全教育学会研究集会石巻ミーティング2017「東日本大震災からの復興とこれからの学校安全」の企画・運営を行った。

教員名：千木良雅弘

所 属：客員教授・京都大学防災研究所

最近の研究活動：

2015年に発生したネパールゴルカ地震による斜面崩壊を調査し、それに基づいてネパールの地震による斜面災害ハザードマップ作製方法について提案した（J-RAPIDプロジェクト）。2016年に発生した熊本地震によって発生した阿蘇カルデラ内の斜面崩壊を調査し、それらが降下火砕物の崩壊性地すべりであったこと、それらのすべり面が層準的に特定できることを明らかにした。2017年九州北部豪雨災害によって発生した斜面崩壊を調査し、それらの実態を明らかにした。

定常的な研究として、隆起と河川侵食による斜面の不安定化機構の研究を、日本、チベット東縁山地、台湾、ネパールヒマラヤで継続した。また、火成岩類に特徴的な球状風化メカニズムについて研究し、それらが岩石の生成時に起因することを明らかにした。

教員名：野津憲治

所 属：客員教授・東京大学名誉教授

1. 伊豆東部火山群の火山ガス拡散放出研究

表記研究は、基盤研究(C)「単成火山のマグマ上昇はマグマ起源揮発性物質の拡散放出から捉えられるか」(2011-2013年)や、静岡大学防災総合センターの経費で2011年から実施してきた。その結果、単成火山からなる伊豆東部火山群直下のマグマ活動の現在の状況を把握することができたので、まとめの報告を2016年4月にオーストリアのウィーンで開催された EGU (European Geosciences Union) General Assembly 2016 の “Volcanic gas emission” セッションで発表した (Notsu, K., Perez, N. M., Fujii, N., Hernandez, P. A., Mori, T., Padron, E., and Melian, G., Diffuse degassing survey at the Higashi Izu monogenetic volcanic field, Japan)。

2. 伊豆大島火山のマグマ揮発性物質放出研究

伊豆大島火山では、本報告者が東大在職の頃から山頂カルデラ内の蒸気井から放出する蒸気中の $^3\text{He}/^4\text{He}$ を測定しており、1986年の噴火に関連した変化を捉え (Sano et al, 1995)、その後もマグマ活動が低調になる様子を観測した (Shimoike and Notsu, 2000)。伊豆大島三原山のこれまでの噴火間隔からすると、1986年の次の噴火の準備時期にさしかかっており、同一観測点での $^3\text{He}/^4\text{He}$ の測定は現在も継続して実施している。2016-2017年の $^3\text{He}/^4\text{He}$ は、 $1.5R_A$ ($1R_A$ は大気中の $^3\text{He}/^4\text{He}$ で 1.4×10^{-6}) と1986年の噴火前の値より少し低く (川名ら、2017)、マグマ上昇の気配はない。

伊豆大島火山では、火山ガス拡散放出調査研究を2007年以降毎年夏季にスペインの研究者と共同で実施している。これまでの観測結果から、土壌 CO_2 拡散放出量は火山内での地震活動と相関することが分かり、EGU General Assembly (2016)や AGU Fall Meeting (2016)で発表した。土壌 CO_2 拡散放出量の観測は次の噴火に備えるためにも重要で、今後も継続して測定することが望まれる。

3. その他

本報告者は地球科学の歴史に興味を持ち、特定のテーマを設定し、文献調査をもとに報告している。2016-2017年の報告対象期間では、以下の2つのテーマの報告を行った。

(1) 火山ガスの化学分析を世界や日本で誰がいつ頃始めたか。

火山 61, 253-258 (2016) に掲載。

(2) 小川正孝が1908年にトリアナイト中に発見した新元素「ニッポニウム」の顛末。

化学 72 (No.5), 12-18 (2017) に掲載。

教員名：林 拙郎

所 属：客員教授・三重大学名誉教授

豪雨によって発生する土砂災害の発生予測は、実効雨量、土壌雨量指数、連続雨量を用いるなどの方法によって、降雨状況をみながら実用上行われるようになって来た。これらの発生予測は、土砂災害の発生初期の時刻を予測するものであって、最終的な豪雨の量によってどのような土砂災害が発生するのかなど、豪雨の結果としての全体への影響を評価するものではない。これまで豪雨性土砂災害については、1時間雨量から数時間の短時間雨量や、日雨量から3日間雨量までの各総雨量、さらには1週間雨量、2週間雨量まで、調査者によって異なる収集データが報告されていた。これは、日本が多雨地域から少雨地域まで広い範囲にあるのと、土砂災害の発生初期をみるのか、終局期の全体をみるのかによって視点が異なっていたものと考えられる。最終的な豪雨の量によってどのような被害が発生するかは、例えば、崖崩れ件数と雨量（累積雨量や大滝の実効雨量）の関係が知られているところであり、被害を発生させた豪雨の量を定義し、全体像を明らかにしようとする研究は、網干・低引の研究を除くと少ない。

一方、地震関係では、マグニチュードや計測震度などがあり、竜巻ではFスケールがあるのに対して、土砂災害に関係する豪雨の関連では、地域性の影響や原因が複雑ということもあって計測震度に相当するようなスケールは設定されていなかった。現在、日雨量を用いてトリガー雨量の日数と先行雨量の期間を設定し、最終的に豪雨度、豪雨階と被害状況を検討している。これらの豪雨度、豪雨階は、基本的に雨量計毎に求められるので、地震において知られている計測震度に相当する豪雨度を雨量計毎に求めるものである。

豪雨による過去の土砂災害規模と豪雨度・豪雨階との関係の把握法が開発されれば、今後発生する豪雨の評価が可能となり、現地からの被害報告とは別に、被害状況が把握可能となる。これにより被害規模が推定され、被害に対する行政サービスの緊急的・技術的判断が可能となる。

地震の場合、現行の気象庁（計測）震度が発表されると、被害の大きさが推定され、行政サービスに反映される。これと同様なことが豪雨度の把握によって、豪雨発生直後から土砂災害に対する行政の初動調査などの迅速な対応に有効に役立てられるものと考えられる。豪雨度の算定は簡単で、降雨量のデータから豪雨度を算出することが可能である。災害当日と前日の2日間雨量およびその前2週間前までの累積雨量、それに地域雨量（2年に1度の確率雨量）があれば、豪雨終了時には判定可能で、周知も行うことが出来るようになる。これらが周知されると、土砂災害の調査および今後の復旧方針に役立てることが可能となる。

教員名：林 能成

所 属：客員教授・関西大学社会安全学部教授

台湾島は日本を上回る世界有数の地震多発地域である。歴史に残る台湾の被害地震のうち、1906年梅山地震、1935年新竹台中地震、1999年集集地震の3つにおいて1000名を超える死者が記録されている。

1906年梅山地震は1891年濃尾地震の15年後に発生し、1935年新竹台中地震は1923年関東大震災の12年後に発生していることは日本の地震災害史において重要な意味を持つ。濃尾地震と関東大震災は日本の地震防災の仕組み構築の礎となった特別な地震である。一般に震災の教訓を抽出し防災対策の制度として整備するには5～10年程度の準備期間が必要だが、日本本土では震災後10～20年という時期に大きな被害地震が起きておらず、これら台湾の震災が新しい考えにもとづく防災対策が適用された初めての事例と考えられる。そこで大正期以前の日本の震災の教訓が、その直後に発生した台湾の震災対応にいかに対応され、その成果が日本本土のその後の震災対応にどのようにフィードバックされたかを明らかにするための研究をすすめている。

なお、本研究は平成29年度国立歴史民俗博物館総合資料学奨励研究（公募型）「歴史資料と現地観測にもとづく日本統治時代に台湾で発生した地震の地球科学・防災科学的特徴の解明」の援助を受けた。

教員名：山崎 登

所 属：客員教授・国士舘大学 防災・救急救助総合研究所 教授

▲南海トラフで2017年11月から新たに発表されるようになった、巨大地震発生の可能性を評価する情報をどう防災に生かすかは最近の防災対策の大きなテーマです。

これは政府の検討会が東海地震について、社会や経済の活動を大幅に規制する「警戒宣言」を発表できるような「確度の高い地震の予測はできないのが実情だ」「大規模地震対策特別措置法に基づく現行の地震防災応急対策は改める必要がある」とする報告書を2017年9月26日にまとめたことがきっかけです。

これを受けて気象庁は、予知を前提としたこれまでの東海地震の情報の発表を取り止め、南海トラフ全体を対象とした新たな情報を出すことを決めました。この見直しは国の防災対策の大きな転換を意味しています。というのも東海地震は国が唯一予知できる可能性があるとしてきた地震で、40年近くにわたって予知を前提に国の防災対策を積み上げてきたからです。

この新しい情報を防災に生かすために、政府は静岡県などをモデル地域に指定して検討を進めているが、それと同時進行のかたちで考えてみたいと思っています。

▲災害情報を防災に生かすにはどうしたらいいかに大きな関心があります。東日本大震災でハード対策の限界がみえたことから、災害情報を整備して避難に生かしてもらおうという取り組みが、全ての災害の分野で加速していますが、社会はまだ十分に情報をいかしているとはいえない状況です。

たとえば2018年の3月からは、気象庁の緊急地震速報に続報が発表されることになり、これまでよりも広い範囲に警戒が呼びかけられることになりました。一方で、気象庁の最新の調査では、緊急地震速報を知っている人は9割に達していますが、「とるべき行動をあらかじめ決めている」人は2割にとどまっています。

また風水害の被害を減らすために、気象庁が様々な気象情報を発表したり、河川の管理者が河川の水位の情報を出したり、砂防部局が土砂災害の危険情報を次々に発表するようになりましたが、それによって住民の避難率が格段に上がったわけではありません。

災害情報をどう防災に生かしたらいいのかを考えていきたいと思っています。

以上

教員名：矢守克也

所 属：客員教授・京都大学防災研究所教授

2014 年度から本年度（2018 年度）まで、内閣府の「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」の支援を受けて、「津波避難訓練および支援ツールの開発研究」を実施しています。このプロジェクトで開発中の「逃げトレ」（右図）は、数年前まで手がけていた「減災社会プロジェクト」で津波避難訓練の手法として開発した「個別訓練タイムトライアル」を、より簡易にスマートフォンのアプリとして再構築したものです。

研究目的 避難訓練ツール「逃げトレ」の開発

スマートフォンさえもっていれば、「いつでもどこでも、だれでも、だれとでも、すぐに津波避難訓練が可能！最新の津波浸水想定からあなたは逃げ切れるか？

訓練開始前に避難場所（赤丸）や想定浸水域を確認可能＝ハザードマップの機能も充実

使用中のスマホ画面

結果集約画面に避難の成否、所要時間、移動距離など表示

「敵（津波）を知り、己（行動）を知る」：最新の津波想定と自分の避難行動を同時にライブで可視化！目的意識なき訓練からの脱却を

「津波到達まであと5分！」＝カラーで切迫度表示

水平展開！
高知、大阪のテストフィールドから千葉、愛知など各地へ展開

開発：京大・防災研 矢守研究室

■5年次目標
・南海トラフ地震による津波が想定されるエリアすべてで利用可能に
・専用HPですぐに視聴できる「ビデオ利用マニュアル」でだれでも簡単に使用可能に
・道路閉塞等を想定した「アクセシブルモード」も登場

すでに数千人を超えるみなさまにご協力をいただいで実証実験を繰り返し、試作版がNHKスペシャル「巨大災害 MEGA DISASTER II（第2集）大避難～命をつなぐシナリオ～」（2015年9月6日放映）、同「河川津波」（2018年3月4日放映）などで紹介されるなど、幸い大きな注目をいただいています。本年度いよいよ完成予定です。ご期待ください。

また、2015年度からは、高知県黒潮町と私の研究室とで「黒潮町地区防災計画策定のための共同研究」を実施中で（18年度も継続中）、さらに、2016年度からは、JSTとJICAの共同プロジェクトであるSATREPSの枠組で「メキシコ沿岸部の巨大地震・津波災害の軽減に向けた総合的研究」にも研究室として関わることになりました。いずれも、災害リスクコミュニケーション、防災教育、地域防災などを主要テーマとする研究で、研究室を構成する若手の研究員や学生たちが汗を流してくれています。

これらの研究から得られた成果は、下記の近著など多くの書籍を通して詳しく紹介しています。ぜひご覧ください。

（参考図書）

- ・矢守克也 2018 アクションリサーチ・イン・アクション―共同当事者・時間・データ― 新曜社
- ・矢守克也 2016 天地海人―防災・減災えっせい辞典 ナカニシヤ出版
- ・矢守克也・宮本 匠 2016 現場でつくる減災学―共同実践の5つのフロンティア 新曜社

教員名：吉田明夫

所 属：客員教授

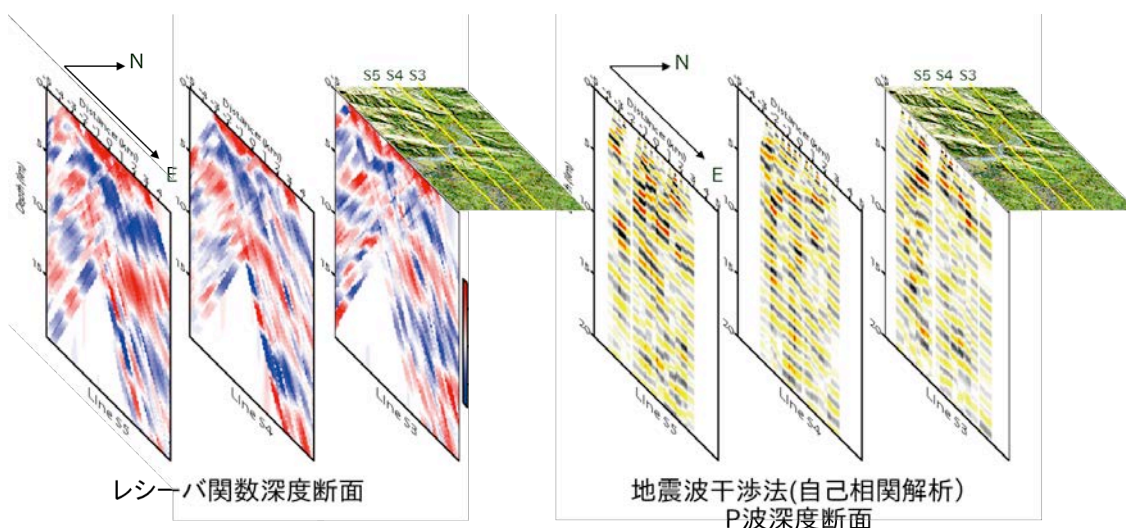
南海トラフ地震の発生の可能性が高まったと評価された時、気象庁より南海トラフ地震に関連する臨時情報が 2017 年 11 月から発表されることとなった。この情報は南海トラフ全域を対象としていることから、情報が出されると、多くの自治体で防災対応がとられるなど、広域に影響が及ぶと考えられる。現時点で臨時情報が出されるのは、南海トラフの片側で M8 クラスの地震が発生した時、想定震源域で M7 の地震が発生した時などとされているが、近年、海域を含めて観測網が充実してきたことから、プレートカップリングの状況がこれまでと違ってきたと推定されるような現象が捕捉される可能性も高まっている。そうした時に、地震発生が実際に切迫しているかどうかの判断をどのように下すか。例えば、海域の地震活動が広い範囲で静穏化した、内陸で地震活動が活発化した、低周波地震が著しく増加している、もしくはぱたりと観測されなくなった、長期的スロースリップの範囲が広がり、継続が長期化している、短期的スロースリップが頻発し始め、これまで観測されなかったところでも生じているなど、様々な気にかかる現象が観測された時に、的確な臨時情報を出すことができるかどうかは、災害予防の上から非常に重要な問題である。現状を鑑みるに、そうした現象が観測された時に、地震発生の切迫性の観点から、それらをどのように評価するかについては、まだまだ、わからないことが多々あると言えよう。そうした問題意識を持って、リアルタイム観測での注目すべき事象の捕捉と、その評価にあたっての基本的な見方について、研究を進めたいと考えている。

教員名：渡辺俊樹

所 属：客員教授・名古屋大学大学院環境学研究科教授

地震波を用いて地球の内部を「見る」研究を行っています。特に、地震が起きる場所がどのようになっている、なぜ地震が起きるのかを理解するために、まず、そこを「見て」構造や状態を明らかにし、さらに、地震が来るまでのプロセスを「監視する」ことを目指して研究をしています。

本センターの狩野謙一客員教授、伊藤谷生客員教授をはじめとする研究グループで、富士川河口断層帯の構造や成因、活動履歴を解明する調査研究を実施しています。その一環として、2013年度には南アルプス南端部において観測点数33点、4ヶ月間の自然地震観測を実施しました。2015年度には富士川河口断層を構成する大宮―入山瀬断層を対象として、星山丘陵を中心に富士市および富士宮市に60点の地震観測点を設置し、2015年12月から翌年4月まで約4ヶ月間の地震観測を実施し、連続地震記録を取得しました。多数の観測点を配置して観測した遠地地震や深発地震の波形情報から、地殻内～プレート境界で反射・変換した波形情報に着目してデータ処理によって抽出し、地下構造を推定する研究に取り組んでいます。



自然地震波形を用いた富士川河口断層帯（星山丘陵）下の地殻構造断面（暫定）

教員名：菅原大助

所 属：客員准教授・ふじのくに地球環境史ミュージアム

地球温暖化や自然災害などの地球環境問題をテーマとする静岡県立博物館「ふじのくに地球環境史ミュージアム」で、主に地震・津波に関する調査研究・教育普及活動を行っている。博物館の通常業務としての資料収集や展示の他、静岡地域の地質・地理の調査を進めるとともに、特に地震・津波をテーマとした普及講演や出前講座を実施している。2017年2月には、人間活動が地球環境を大きく作り変えつつある新たな地質時代「人新世」を主題に、人文・社会科学の研究者と合同で、国内外の各分野の研究者を招いて国際シンポジウムを開催した。

巨大地震に伴う山岳地帯での地滑りは、河川を通じて海岸への土砂供給量を増大させ、海岸地形（砂丘や浜堤列）の形成に影響を与える可能性がある。この仮説（Seismic Driving）について、オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学の James Goff 名誉教授と共同で東北地方を対象に予察的な検討を行い、論文として出版した（2014年及び2016年）。さらに、静岡大学理学部の北村晃寿教授とも協力し、南海トラフの巨大地震の影響を最も強く受けると考えられる静岡県とその周辺地域を対象に、海岸地形発達と巨大地震の履歴との関係を明らかにするため、地下レーダー探査と掘削調査を科学研究費補助金事業（基盤研究（B））により実施中である。

教員名：秦 康範

所 属：客員准教授・山梨大学地域防災・マネジメント研究センター准教授

山梨大学に赴任して10年目となる。週末等を利用して県内各地を見てきたが、洪水や土砂災害の危険のあるところに、公営住宅が立地し、民間の大規模な住宅団地が開発されていることに気がついた。人口減少社会（2008年に人口が継続して減少する人口減少社会に転じた（総務省統計局，2012））において、災害リスクの高い地域が、選択的に開発されているというようなことがあり得るのか。これが私自身の最初の問題意識だった。

まず、山梨県内の県営住宅（93団地，340棟，7670戸）ならびに市町村営住宅（25市町村，285団地，1561棟，9569戸）を地理情報システムに登録し、災害リスク情報（浸水想定区域（国土数値情報），土砂災害警戒区域（国土数値情報），確率論的地震動予測地図（地震調査研究推進本部），東海地震液状化予測マップ（山梨県））と重ね合わせを行った。その結果、洪水リスクのある地域（想定浸水深が0mを超える）に465棟(24%)，土砂災害リスクのある地域（土砂災害警戒区域内）に179棟(9%)が立地していることがわかった。すべての災害リスクを対象とすると，1,783棟(94%)が対象となった。市町村別に見るとより顕著な違いが見られ，洪水リスクの高い地域に甲府市では戸数ベースは公営住宅の73%が，市川三郷町では80%が該当した。一般住宅では甲府市57%，市川三郷町46%であったことから，公営住宅が災害リスクの高い地域に立地していることが明らかとなった。

次に，山梨県と甲府市の浸水想定区域内人口の推移について，平成7年以降を対象に分析を行った。山梨県全体の人口に対する浸水想定区域内人口の割合と，山梨県全体の世帯数に対する浸水想定区域内世帯数の割合は，両者ともに平成7年から平成27年まで一貫して増加（人口の割合は2.5ポイント増加，世帯数の割合は2.1ポイント増加）していることがわかった。甲府市も同様に，両者ともに平成7年から平成27年まで一貫して増加（人口の割合は3.3ポイント増加，世帯数の割合は2.5ポイント増加）していることがわかった。

以上から，災害リスクの高い地域の開発が行われてきたことが示された。では，なぜ災害リスクの高い地域の開発が行われて来たのか。様々な理由が考えられるが，筆者は，土地を持っている地主，開発するディベロッパー，住宅を購入する人，3者それぞれにメリットがあるためだと考えている。地主は宅地や田畑に向いてない利用が難しい土地を売却でき，ディベロッパーは大規模な宅地開発が可能であり，住宅購入者は手頃な値段でマイホームを手に入れることができる。まさに三方両得なのである。しかし，そんなうまい話があるのか。もちろんない。災害リスクの高い地域の開発は，将来に災害で被災するリスクを増やすだけでなく，宅地開発にともなってライフライン（道路，電気，水道，下水道など）や学校等の都市インフラを新たに整備する必要があり，その維持管理コストは行政コストとして将来世代へツケを先送りしているのだ。昨今，土地利用適正化計画の推進が進められているが，緒に就いたばかりである。人口減少社会であることを認識すれば，災害リスク地域の土地利用の制限は不可避であろう。

教員名：廣井 悠

所 属：客員准教授・東京大学

筆者は火災からの避難行動について研究をすすめているが、近年では、これに関連して2016年および2017年に糸魚川市大規模火災における避難行動調査（避難勧告対象地域の住民が対象）を行っている。

紙幅の関係上詳細は省略するが、図1は火災の覚知時間（破線）と避難勧告や避難の呼びかけをはじめて聞いた時間（灰線）、避難の開始時間（黒線）の累積分布を示したものである（ただし無回答は除き、避難の開始時間は避難した人のみを対象）。火災の覚知時間については、出火時刻が午前10:20頃に対し、調査対象者の89.3%が午前10:50までに火災の発生を認識している。これによれば、防災行政無線の個別受信機があったことで、火災情報の伝達は比較的スムーズであったといえよう。一方で、糸魚川市大規模火災では22日の12時22分に本町および大町二丁目を対象として、また16時30分に大町一丁目を対象として避難勧告が出ている。避難勧告や避難の呼びかけをはじめて聞いた時間は図1に示すとおりであるが、「避難勧告や避難の呼びかけを聞いた直後の行動」を示したものを図2に示す（ただし避難勧告や避難に関する情報を聞いた人だけに質問、MA）。これによれば、避難勧告や避難の呼びかけを聞いた直後も「火の様子を見ていた」人が39.7%と高く、「何もしなかった」は5.9%と全体の約半数が避難に関連する行動を行っていない。他方で「避難所・避難場所に行った」は26.5%、「家族や知り合いのところに行こうとした」は8.1%となっており、全体の3割～4割が情報を収集した直後に避難行動を行っているものと推測される。さらに避難時の火災からの距離（見切り距離）を尋ねると、「わからない」という回答を除いて、全体の56.3%が100m未満に火災が迫るまで逃げてない傾向が見られた。これは熊谷ら(1983)による酒田大火時の51.6%とほぼ同程度の数値である。これらの調査をより詳細に分析することで、糸魚川市大規模火災のような強風時大火はもとより、地震火災時の避難行動に関する研究に今後寄与していきたいと考えている。

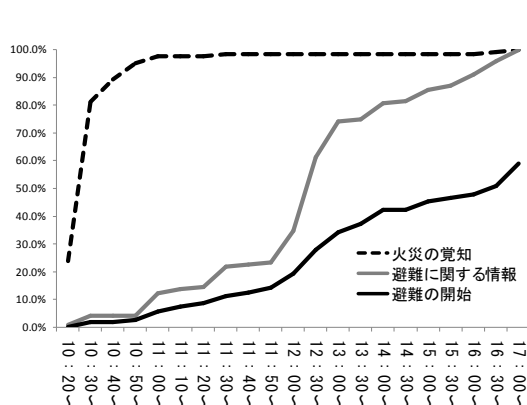


図1 火災を覚知した時間（破線、N=122）とはじめて避難勧告や避難の呼びかけを聞いた時間（灰線、N=124）と避難を始めた時間（実線、N=95）

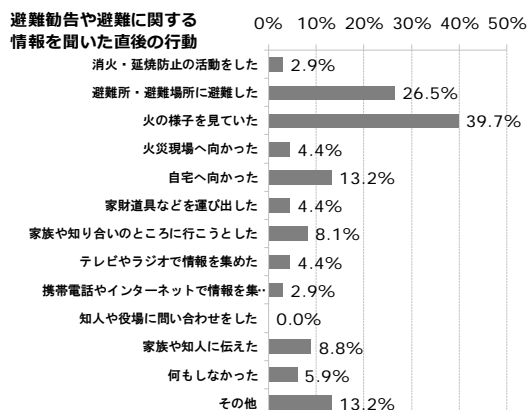


図2 避難勧告や避難の呼びかけを聞いた直後の行動（N=136, MA）

教員名：紅谷昇平

所 属：客員准教授・兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 准教授

これまでの研究分野は、大地震における自治体の災害対応、災害時のリーダーシップ・組織マネジメント、産官民連携による地域防災活動、地域復興における産業・まちづくりの連関性、災害後の避難所運営等です。近年、特に重点を置いてきたのは自治体におけるBCP（業務継続計画）でした。2010年に国の手引が作成され、自治体職員の安全確保や働く環境整備の大切さを訴えていたタイミングで東日本大震災が発生、自治体職員が被災し、劣悪な環境下で業務に取り組まざるを得ない状況に、大変悔しい思いをし、力不足を実感いたしました。その後、内閣府の手引の改訂や国・自治体のBCP研修等に関わり、全国的にも大半の自治体でBCPが策定される状況になりました。しかしながら、計画は策定したものの、肝心の組織マネジメントに反映されていない例も多く、増加する業務量に対して外部応援を確保し、活用する仕組みも不十分です。引き続き、自治体そして企業やNPO等の災害対応システムの合理化、標準化を進め、有効に機能、連携させる方法について調査、研究を進める予定ですので、ご指導、ご支援よろしくお願いたします。

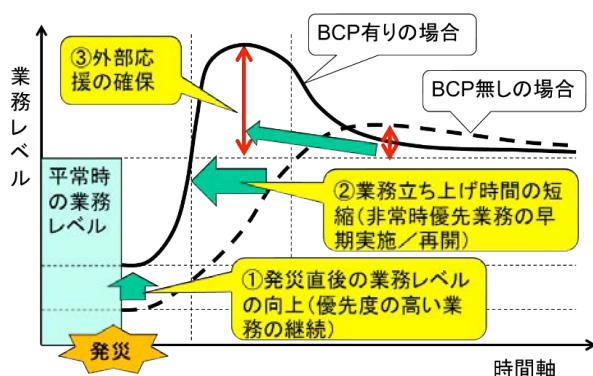


図 自治体 BCP の目標と効果

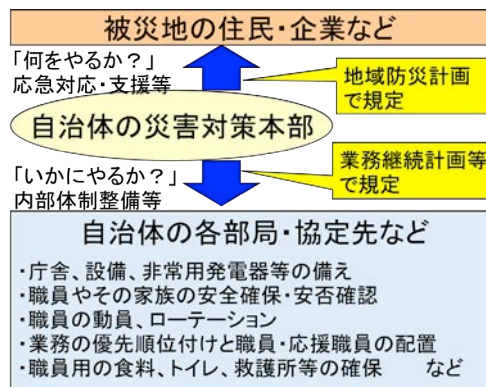


図 災害対策本部の二つの役割

表 災害対策本部運営のチェックポイント

- 特別職、部局長は、被災者優先の視点から課題・対応の全体像を把握している
- 本部会議では、本音で被災地の課題を議論し、全庁的な対応目標・方針を定めている
- 本部会議には、国・県や NPO 等の外部支援組織もオブザーバー参加し、情報や課題を共有している
- 本部会議以外に、必要に応じて捜索救助、避難所、廃棄物等のテーマ別調整会議を開催している
- 災害対応業務が集中する部局には、他部局から職員を柔軟に配置している
- 国・県、他自治体等から十分な人的支援を得て、組織的・効果的に動かしている
- 災害直後を除き、物資整理・配送は民間企業に、避難所運営は地域組織や避難者、応援職員等に任せ、被災自治体職員の多くは本来業務に専念している
- 災害救助法等の制度について、国・県から十分なアドバイスを得ている
- 記者会見、広報紙等を通じて、被災者に的確なメッセージ、情報を伝えている
- 議会に対して一元的な窓口を決め、適宜、災害対応や復興計画等について説明を行っている

教員名：本間基寛

所 属：客員准教授・一般財団法人日本気象協会 専任主任技師

2015年10月から、一般財団法人日本気象協会事業本部防災ソリューション事業部に専任主任技師として勤務する一方、京都大学防災研究所気象・水象災害研究部門気象水文リスク情報(日本気象協会)研究分野の特任助教も兼務しています。

2016～2017年度は、「統計的ダウンスケーリング手法を用いた高解像度アンサンブル雨量予測情報の開発」、「平成27年9月関東・東北豪雨の災害タイムライン統合閲覧システムの開発」、「アンサンブルデータを用いた台風性降雨による洪水リスクシナリオの検討」、「平成28年台風第10号による大雨時の小本川流域におけるレーダ雨量の精度の検証」に取り組みました。また、2016年台風10号(北海道、岩手県)や2017年九州北部豪雨(福岡県)の現地調査を行い、九州北部豪雨については防災総合センター牛山素行教授と日本気象協会との合同で調査速報会を東京都内にて開催(2017年8月24日)しました。

教員名：楠城一嘉

所 属：客員准教授・静岡県立大学グローバル地域センター地震予知部門総括・特任准教授

2017年8月に客員准教授を拝命し、静岡県のリスク軽減のために将来の地殻変動へ見通しをつけるという目的を持って、地震予知を目指す幅広い分野の研究を行っています。併せて、防災施策への提言や防災知識の普及を図る活動を実施しています。

例えば、南海トラフ巨大地震の震源域における力の状態の推定に関して研究を実施し、*Nature Communications* に論文を発表しました¹⁾。これは、次の南海トラフ巨大地震の発生が迫っているかどうかを評価する手法の基礎となる研究であるため、地震防災上、重要です。本研究は、国際的に高く評価され、2018年6月に開催されるアジア・オセアニア地球科学連合の会議にて、招待講演をする予定です。また、メディアを通じた報道もなされ、広く公表しました。

地震防災の啓発を目的とした活動として、防災担当者向けのワークショップの開催や、地域の防災講演会での講演をしています。例えば、ワークショップ「南海トラフ地震の予測に必要な観測・研究は何か」（2017年2月）や、ワークショップ「地震予測の現状と防災情報を生かすには」（2018年2月）を開催しました^{2,3)}。静岡大学をはじめとする、県内外の自治体、企業、大学等研究機関と協力しながら、南海トラフ地震の防災対応について、全国に先駆けた、静岡発の新しい流れを作ることができればと考えています。

参考

¹⁾K. Z. Nanjo and A. Yoshida (2018) A *b* map implying the first eastern rupture of the Nankai Trough earthquakes, *Nature Communications*, 9, 1117.

²⁾http://global-center.jp/holding_guidance/290201/index.html

³⁾http://global-center.jp/holding_guidance/300202/index.html

2.2 研究業績リスト

2.2.1 著書

- 千木良雅弘, 2016. 地質と災害—応用地質の見方考え方—. 近未来社, 名古屋, 232 pp.
- Chigira, M., Kanaori, Y., Wakizaka, Y., Yoshida, H. and Miyata, Y., 2016. Engineering Geology. In: T. Moreno, S. Wallis, T. Kojima and W. Gibbons (Editors), The Geology of Japan. Geological Society, London, pp. 461-487.
- Furuhashi, Yuko:Advances in Psychology Research Alexandra M Columbus 編集 分担執筆 (Chapter 9) 167-178, Nova Science Publishes, New York, 2017.
- Furuhashi, Yuko:Horizons in Neuroscience Research Andes Costa 編集 分担執筆 (Chapter 4) 131-151, Nova Science Publishes, New York, 2017
- Furuhashi, Yuko:Autism Spectrum Disorder: Early Signs, Intervention Options and Family Impact Arlene Valdez 編集分担執筆 (Chapter 5) 103-127, Nova Science Publishes, New York, 2016
- 二川雅登, “IOT ビジネス・機器開発における潜在ニーズと取り組み事例集”, 技術情報協会, 2016年5月31日, (“異種センサを集積化したオンサイトモニタリング用マルチモーダルセンサ開発”, pp. 107-113を担当)
- 原田賢治 (分担執筆), 4.2(2)ハード対策, (3)1)津波避難施設, TSUNAMI-津波から生き延びるために (改訂版), 沿岸技術研究センター「TSUNAMI」改定編集委員会編, 2016年3月.
- 林能成, 『社会安全学入門』(p.64-68, p.71-72, p.136-146「第6章 1, 2-1,2-4,2-5, 第11章」), ミネルヴァ書房, 2018.
- 廣井 悠:知られざる地下街: 歴史・魅力・防災、ちかあるきのススメ, 地下街減災研究会, 河出書房, 2018.03. 【編著】
- Hiroi, Y. :Towards the Implementation of the New Urban Agenda : Bernhard Muller, Hiroyuki Shimizu Editors, Springer , 2017.12. 【共著】
- 廣井 悠:復興デザインスタジオ 災害復興の提案と実践:東京大学復興デザイン研究体(編), 東京大学出版会, 2017.10. 【共著】
- 廣井 悠:災害対応ハンドブック : 室崎益輝・岡田憲夫・中林一樹・野呂雅之・津久井進・山崎栄一編, 法律文化社, 2016.05. 【共著】
- 本間基寛 : 豪雨のメカニズムと水害対策—降水の観測・予測から浸水対策, 自然災害に強いまちづくりまで—, 株式会社エヌ・ティー・エス, 2017年 (第1編第4章).
- 池田恵子 (分担執筆) : 「女性への暴力と闘う人々 開発が女性たちにもたらしたもの」, 大橋正明ほか編 『バングラデシュを知るための 66 章 (第3版)』, 明石書店, 2017, pp. 209-213
- 狩野謙一, 2016: 伊豆半島南部のジオガイド—地層からよみとく海底火山活動. 山と溪谷社,

100p.

狩野謙一・鈴木隆介ほか・編, 2016: 地形の辞典. 朝倉書店, 4項目(ブーダン, 鱗片状劈開, 順序外スラスト, デュープレックス)を分担.

Kasahara, J., and Hasada, Y., -Time lapse approach to monitoring oil, gas, and CO2 storage by seismic methods, 201pp.Elsevier Pub.(2016)

木村浩之・松下 慎: 駿河湾学, 東海大学出版部, 2017, 6章 静岡の地下圏微生物によるメタン生成と新たなエネルギー資源.

木村浩之: 海洋底科学の基礎, 共立出版, 2016, 10.3節微生物研究法.

小杉素子「リスクコミュニケーション(分担執筆:13章)」改訂版静岡県における防災・減災と原子力, 2018 大矢恭久編 静岡学術出版

小山真人(2017)ドローンで迫る伊豆半島の衝突. 岩波書店, 147p

李勇昕・矢守克也: 防災教育之反思—没有標準答案的防災遊戲「十字路口」 災害管理 王价巨(主編), 五南出版, p.77-96(分担執筆), 2017.

村越真・宮内佐季子(2017)山岳読図・ナビゲーション大全 山と溪谷社.

村越真(2018)フィールド研究の紹介1:人は自然の中のリスクをどう認知しているのか? 日本野外教育学会(編)野外教育学研究法. 杏林書院:東京、206-209.

Rudianto, E., Abdul Muhari, Kenji Harada, Hideo Matsutomi, Hendro Yusran Siry, Enggar Sadtopo, Widjo Kongko, Ecosystem-Based Tsunami Disaster Risk Reduction in Indonesian Coastal Areas, Tsunamis and Earthquakes in Coastal Environments, Chapter3, pp.31-46, Coastal Research Library 14, Springer International Publishing, 2016/1.

佐藤健:東北大学教養教育院叢書 大学と教養 2.震災からの問い,東北大学出版会,2018,防災(減災・「正しく怖がる」)～自然に対する「畏敬の念」を学び直す～.

Sawada, K., Fumihito Dasai, Koichi Okumura, Masato Futagawa, Toshiaki Hattori, “Intelligent Nanosystems for Innovations in Energy, the Environment, and Biotechnologies”, Springer, Sep. 26, 2016, (Bio-imaging system with high resolution and sensitivity for biological science and medical application, pp. 27-44,を担当)

武村雅之・蟹江康光他共著, 関東大震災—未公開空撮写真, ジオ神奈川, 2016, 161pp

武村雅之・松岡敬二他共著, 古地図で楽しむ三河, 風媒社, 2016, 153pp

武村雅之・窪田由紀他共著, 災害に備える心理教育, ミネルヴァ書房, 2016, 242pp

武村雅之, 復興百年誌, 鹿島出版会, 2017, 294pp

武村雅之・鈴木康弘他共著, 災害と防災、1地震, 帝国書院, 2017, 63pp

山崎登:地震予知大転換 ～最近の地震災害の現場から～,近代消防社刊,2018年3月13日.

矢守克也:アクションリサーチ・イン・アクション—共同当事者・時間・データ—,新曜社,(単著), 2018.

矢守克也:わかる!取り組む! 災害と防災(1～5巻),帝国書院,各巻「アクティビティ」

欄 (監修) ,2017.

矢守克也：総論：土木計画（学）における心理学的アプローチ 土木学会 土木計画学ハンドブック編集委員会（編）「土木計画学ハンドブック」,コロナ社, p.233-236, (分担執筆), 2017.

矢守克也：天地海人－防災・減災えっせい辞典, ナカニシヤ出版 (単著) , 2016

矢守克也・宮本 匠：現場でつくる減災学－共同実践の5つのフロンティア,新曜社(共編著), 2016.

2.2.2 学術論文

Abe, H., Changyuan Tang, Nozomu Takeuchi, Akihiko Kondoh(2017): Influence of Seasonal Pumping on Groundwater Sources and Flow System, Nagaoka Plain, Japan. Groundwater, DOI:10.1111/gwat.12600.

秋間将宏, 風間聡, 小森大輔, 再現確率にもとづく洪水氾濫・高潮複合災害潜在被害額推定, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.72, No.4, pp.I_1267-I_1272, 2016.3.15.

秋間将宏, 風間聡, 峠嘉哉, 多田毅, 年最小気圧を用いた複合災害潜在被害額の将来推定, 土木学会論文集 B1(水工学), Vol.73, No.4, pp. I_139-I_144, 2017.3.16.

天野文子, 風間聡, メコン河の洪水氾濫規模と農業生産性の関係, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.72, No.4, pp.I_1207-I_1212, 2016.3.15.

Ando, M., A. Kitamura, Y. Tu, Y. Ohashi, T. Imai, M. Nakamura, R. Ikuta, Y. Miyairi, Y. Yokoyama, and M. Shishikura, Source of high tsunamis along the southernmost Ryukyu trench inferred from tsunami stratigraphy, Tectonophysics 722/ 265 -276, 2018

荒関翔太・岩崎一孝：地域拠点としての駅を考える, 情報学ワークショップ 2017 (WiNF2017) 論文集, 4pp, 2017.

有光 剛, 松田 周吾, 村上 嘉謙, 志方 建仁, 川崎 浩司, 三島 豊秋, 清水 涼太郎, 菅原 大助：津波移動床モデルの再現性に及ぼす流砂パラメータの影響. 土木学会論文集 B2 (海岸工学) 73 巻 2 号 p. I_589-I_594, 2017.

Bai, L., Liu, H., Ritsema, J., Mori, J., Zhang, T., Ishikawa, Y., Li, G., 2016. Faulting structure above the Main Himalayan Thrust as shown by relocated aftershocks of the 2015 Mw 7.8 Gorkha, Nepal earthquake, Geophys. Res. Lett., 43, 637-642,doi:10.1002/2015GL066473.

Bhattarai, R., Akihiko Kondoh(2017):Risk Assessment of Land Subsidence in Kathmandu Valley, Nepal,Using Remote Sensing and GIS, Advances in Remote Sensing, 6, 132-146.

Bhattarai, R., Haireti Alifu, Aikebaier Maitiniyazi, Akihiko Kondoh(2017): Detection of Land Subsidence in Kathmandu Valley, Nepal, Using D-InSAR Technique, Land, 6,

- 39, doi:10.3390/land6020039.
- Chagué, C., Daisuke Sugawara, Kazuhisa Goto, James Goff, Walter Dudley, Patricia Gadd: Geological evidence and sediment transport modelling for the 1946 and 1960 tsunamis in Shinmachi, Hilo, Hawaii. *Sedimentary Geology* 364, 319-333. 2017. DOI:10.1016/j.sedgeo.2017.09.010
- Chen, H-Y., R. Ikuta*, C-H. Lin, Y-J. Hsu, T. Kohmi, C-C. Wang, S-B. Yu, Y. Tu, T. Tsujii, M. Ando, Back-Arc Opening in the Western End of the Okinawa Trough Revealed From GNSS/Acoustic Measurements, *Geophysical Research Letters* 45/ DOI: 10.1002/2017GL075724, 2018
- 千木良雅弘・笠間友博・鈴木毅彦・古木宏和, 2017. 1923年関東地震による震生湖地すべりの地質構造とその意義. *京都大学防災研究所年報*, 60B: 417-430.
- de Haas, T., Densmore, A.L., Stoffel, M., Suwa, H., Imaizumi, F., Ballesteros-Cánovas, J.A., Wasklewicz, T. (2018/2) Avulsions and the spatio-temporal evolution of debris-flow fans, *Earth-Science Reviews*, 117, 53-75, <https://doi.org/10.1016/j.earscirev.2017.11.007>
- 江原竜二・河田恵昭・林能成, 上町断層帯地震による地盤変動に伴う東部大阪の氾濫リスクへの影響, *日本地震工学会論文集*, Vol.16, No.10, p.10_51-10_68, 2016.
- Fuchs, P., Yoshihiro Asaoka and So Kazama, Modelling melt, runoff, and mass balance of a tropical glacier in the Bolivian Andes using an enhanced temperature-index model, *Hydrological Research Letters*, 10(2), pp.51-59, 2016.4.3. DOI: 10.3178/hrl.10.51
- 藤井基貴・土屋陽介: 「道徳科における『子どもの哲学』の導入—『哲学対話』授業の基本原則の検討と授業案・カリキュラム・評価の開発」, 『静岡大学教育学部研究報告(教科教育学編)』 No.49, 69-85頁, 2018年3月.
- 藤井基貴・上地香杜・御代田桜子 「教職科目『教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想』における『代表的な教育家』についての計量書誌分析」 『静岡大学教育実践総合センター紀要』 No.27, 10-21頁, 2018年1月.
- 藤井基貴 「青少年支援に関わる人材育成と社会参加の基本理念」 『地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」派遣日本参加者報告書』内閣府, 2017年3月, 149-154頁.
- 藤井基貴 「欧州における『国家研究公正システム』の国際比較—「デンマーク・レポート」(2013)の検討を中心に—」 『静岡大学教育研究』 No.13, 45-52頁, 2017年3月.
- 藤井基貴・寺田佳孝 「コンピテンシー概念に基づくドイツの政治教育」 『静岡大学教育実践総合センター紀要』 No.26, 9-18頁, 2017年3月.
- 藤井基貴・川原崎知洋 「防災教育のための絵本教材の開発」 『静岡大学教育実践総合センター紀要』 No.26, 233-240頁, 2017年3月.

- Furuhashi, Yuko: Group Therapy for Japanese University students with Autism Spectrum Disorder. *Psychology*, 771-780, 2017.
- Furuhashi, Yuko: Group therapy for university students with autism spectrum disorder. *European Psychiatry*, 789- 790, 2016.
- 吉河 秀郎, 後藤 和久, 菅原 大助, 金松 敏也, 阪口 秀: 仙台平野南部沖における津波による沿岸侵食と沖向き土砂移動. *土木学会論文集 B2(海岸工学)* 73 巻 2 号 p. I_823-I_828, 2017.
- Futagawa, M., Ryota Otake, Fumihiko Dasai, Makoto Ishida, and Kazuaki Sawada , “1024 × 1024 Pixel Charge Transfer Type Hydrogen Ion Image Sensor”, *IEEE Sensors Journal*, Vol. 11, issue 16, pp. 4153-4157, 2016
- Futagawa, M., Shin Ogasahara, Tatsumi Ito, Mitsuru Komatsu, Yasushi Fuwa, Harutoyo Hirano, Ippei Akita, Kenichiro Kusano, Minoru Watanabe, “Fabrication of a Low Leakage Current Type Impedance Sensor with Shielding Structures to Detect a Low Water Content of Soil for Slope Failure Prognostics”, *Sensors & Actuators: A. Physical*, Vol. 271, pp. 383-388, 2018
- Goff J., Knight, J., Sugawara, D., Terry, J.P.: Anthropogenic disruption to the seismic driving of beach ridge formation: The Sendai coast, Japan. *Science of the Total Environment* 544, 18-23, 2016.
- 秦康範, 関谷直也, 廣井悠: 2016年熊本地震における市町村を超える避難行動-人口統計データからの考察-, *災害情報*, No.15-2, pp.255-266, 2017.09.
- 濱侃・田中圭・望月篤・新井弘幸・平田俊之・八幡竜也・鶴岡康夫・近藤昭彦(2018): UAV リモートセンシングおよび日射量を用いた水稻の草丈と収量の推定, *水文・水資源学会誌*, 31(2), 68-82.
- 濱侃・田中圭・望月篤・鶴岡康夫・近藤昭彦(2018): UAV リモートセンシングおよび登熟期の気象データに基づく玄米タンパク含有率推定, *日本リモートセンシング学会誌*, 38(1), 35-43.
- 濱岡恭太, 谷端勇紀, 佐藤 健: 宮城県仙台市の町内会住民を対象とした東日本大震災時の避難行動の実態に関する研究, *日本建築学会技術報告*, 22 巻, 51 号, 727-731, 2016
- 原田賢治, 高橋智幸, 野島和也, 津波により陸上斜面上に形成される堆積砂分布に関する水理実験, *土木学会論文集 A1 (構造・地震工学)*, Vol.73, No.4, I_634-I_641, 2017.
- Haraguchi, S., Kimura, J.-I., Senda, R., Fujinaga, K., Nakamura, K., Takaya, Y. & Ishii, T. (2017) :Origin of Felsic Volcanism in the Izu Arc Intra-arc Rift. *Contributions to Mineralogy and Petrology*, 172, DOI:10.1007/s00410-017-1345-1, (21PP), published on 2017/05/24, 2017, 査読有.
- 長谷川 祐治・宮田 秀介・今泉 文寿・中谷 加奈・堤 大三 (2017/1) 流砂の衝突回数を考慮したハイドロフォン データによる解析手法の提案と現地への適用, *土木学会論文集*

B1(水工学),73,4,523-528

林 拙郎・山田 孝：土砂災害を発生させた豪雨のファクターとスケールの設定法，自然災害科学，Vol.36, No.3, 239 -252, 2017.

林能成，熊本地震の前震活動における防災情報提供の課題，社会安全学研究，vol.7 p.69-75, 2017.

平賀優介，風間聡，峠嘉哉，メコン河下流域における洪水氾濫と純一次生産力の関係，土木学会論文集 B1(水工学)，Vol.73, No.4, pp. I_307-I_312, 2017.3.15.

平賀優介，風間聡，峠嘉哉，メコン河氾濫原の干拓が流域環境に及ぼす影響評価，土木学会論文集 B1(水工学)，Vol.73, No.4, pp. I_283-I_288, 2017.3.15.

Takeda, H., Kazuhisa Goto, James Goff, Hideaki Matsumoto, Daisuke Sugawara: Could tsunami risk be under-estimated using core-based reconstructions? Lessons from Ground Penetrating Radar: GPR - a key first step for palaeotsunami research. *Earth Surface Processes and Landforms* 43 (4), 808-816, 2017. DOI:10.1002/esp.4282

Hirata, Y., Chigira, M. and Chen, Y., 2016. Spheroidal weathering of granite porphyry with well-developed columnar joints by oxidation, iron precipitation, and rindlet exfoliation. *Earth Surface Processes and Landforms*: n/a-n/a.

廣井悠，大森高樹，新海仁：大都市避難シミュレーションの構築と混雑危険度の提案，日本地震工学会論文集第16巻第5号，pp.111-126, 2016.04.（審査付）

Hiyagon, H., Sugiura, N., Kita, N.T., Kimura, M., Morishita, Y., Takehana, Y. (2016) Origin of the eclogitic clasts with graphite-bearing and graphite-free lithologies in the Northwest Africa 801 (CR2) chondrite: Possible origin from a Moon-sized planetary body inferred from chemistry, oxygen isotopes and REE abundances, *Geochimica et Cosmochimica Acta*, 186, 32-48, doi: 10.1016/j.gca.2016.04.030.

本間基寛，新井恭子，鈴木靖，木谷和夫，辻本浩史：不確実性を伴う災害情報の表現方法に関する言語学的検討，京都大学防災研究所年報，No. 59B, pp. 388-394, 2016.

Hosono, M., Yuta Mitsui, Hidemi Ishibashi, Jun Kataoka: Elastostatic effects around a magma reservoir and pathway due to historic earthquakes: a case study of Mt. Fuji, Japan, *Prog. Earth Planet. Sci.*, 3(33), doi:10.1186/s40645-016-0110-9, 2016.

池田恵子：「バングラデシュにおける『調停』を用いたジェンダーに基づく暴力（GBV）への介入」，『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会・自然科学篇）』，第67号，pp.1-16, 2017年

池田恵子・浅野幸子：「市区町村における男女共同参画・多様性配慮の視点による防災施策の実践状況：地域コミュニティの防災体制に定着するための課題」，『地域安全学会論文集』，Vol.29, pp.165-174, 2016年

Ikeda, M., Tada, R., Ozaki, K., Astronomical pacing of the global silica cycle recorded in Mesozoic bedded cherts. *Nature Communications*, 10, 15532, 2017.

- Ikeda, M., Baumgartner P, Bole M., Orbital-scale changes in redox condition and biogenic silica/detrital fluxes of the middle Jurassic radiolarite in Tethys (Sogno, Lombardy, N-Italy): Possible link with glaciation? *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*, 440, 725-733, 2016.
- 今泉文寿・堤大三・中谷加奈・権田豊・逢坂興宏・福山泰治郎・宮田秀介・篠原慶規・水野秀明・原田紹臣・水野正樹 (2017/5) 大規模土砂移動に伴う災害の特徴整理と影響範囲の予測および対策に向けた課題, *砂防学会誌*, 70(1), 20-30
- Imaizumi, F., Trappman, D., Matsuoka, N., Tsuchiya, S., Ohsaka, O., Stoffel, M. (2016/11) Biographical sketch of a giant: deciphering recent debris-flow dynamics from Ohya landslide body (Japanese Alps), *Geomorphology*, 272, 102-114, DOI:10.1016/j.geomorph.2015.11.008
- Imaizumi, F., S. Tsuchiya, and O. Ohsaka (2016/8), Behavior of boulders within a debris flow initiation zone, *International Journal of Erosion Control Engineering*, 9, 91-100.
- Imaizumi, F., O. Suzuki, Togari-Ohta, A. (2017/3) Seasonal changes in the sediment flux on steep hillslopes in a humid diurnal frost environment, *Earth Surface Processes and Landforms*, 42, 389-398. DOI: 10.1002/esp.3982
- Inoue, T., Kazuhisa Goto, Yuichi Nishimura, Masashi Watanabe, Yasutaka Iijima, Daisuke Sugawara: Paleo-tsunami history along the northern Japan Trench: evidence from Noda Village, northern Sanriku coast, Japan. *Progress in Earth and Planetary Science*, 4:42, 2017. DOI:10.1186/s40645-017-0158-1
- 犬飼一博, 栗山康弘, 佐藤慎司, 加藤史訓, 水谷法美, 原田賢治, 神保正暢, 岩佐隆広, 福田晃正, 駿河海岸における津波越流に対して粘り強い堤防構造に関する実験的研究, *土木学会論文集 B2 (海岸工学)*, Vol.73, No.2, I_1057-I_1062, 2017.
- 伊勢正・磯野猛・臼田裕一郎・藤原広行・矢守克也: 自治体の多様性を踏まえた災害情報システムのあり方に関する考察, *地域安全学会論文集*, No.30 (電子ジャーナル論文), 2017
- 石橋秀巳, 天野大和 (2017) 玄武岩質マグマの減圧結晶作用と噴火ダイナミクスに及ぼすプレ噴火条件の影響: 富士山 1707 年噴火玄武岩質マグマの例. *静岡大学地球科学研究報告*, 44, 17-29.
- Ishibashi, H., Hiroyuki Kagi, Shoko Odake, Hiroaki Ohfuji, Hiroshi Kitawaki (2016) Relationship between textural and photoluminescence spectral features of natural polycrystalline diamonds, carbonado and implication for its origin. *Geochemistry International*, 54, 882-889.
- 石橋秀巳, 佐野恭平(2016) 高温一軸圧縮実験によるマグマの粘性率測定: 北海道, 白滝の黒曜石溶岩の例. *静岡大学地球科学研究報告*, 43, 21-31.
- 石井輝秋・町田嗣樹・飯島耕一・山本浩文・野崎達生・金子純二・大田隼一郎・藤永公一

- 郎・安川和孝・下村遼・高谷雄太郎・南澤智美・藤島恵介・黒崎智雄・梅原淑行、(2016) : 「よこすか」「しんかい 6500」YK16-01 研究航海の概要—南鳥島海域 EEZ 内マンガノジュール広域調査の潜航研究速報—、深田地質研究所年報、17、1-28、査読無
- 石井輝秋 (2017) : ドレッジシステムのローテクからハイテクへの変革—海底物質科学研究の飛躍を目指して—、深田地質研究所年報、18、29-48、査読無
- 石川宏之 : 観光まちづくりに火山災害遺構を活かすためのジオパーク協議会と大学や博物館との連携体制, 観光地域は都市計画・まちづくりに何を期待するのか?, 2016 年度日本建築学会大会(九州)都市計画部門研究懇談会資料, 29, 日本建築学会都市計画委員会, pp.77-80, 2016
- 石川宏之 : 持続可能な地域の発展に災害遺構を活かすための住民活動の経緯と大学関係者の役割に関する研究—洞爺湖温泉の 560 万人観光地づくりを考えるワークショップを事例として—, 静岡大学, 生涯学習教育研究, 第 19 号, pp.3-14, 2017.8
- Ishizawa, T., Goto, K., Yokoyama, Y., Miyairi, Y., Sawada, C., Nishimura, Y., Sugawara, D.: Sequential radiocarbon measurement of bulk peat for high-precision dating of tsunami deposits. *Quaternary Geochronology*, 2017. DOI:10.1016/j.quageo.2017.05.003
- 板寺一洋・原田昌武・吉田明夫, 2016, 2015 年箱根火山活動における傾斜変動と地震活動の関連性, 温泉地学研究報告, 48, 1-10.
- 岩堀卓弥・矢守克也・城下英行・飯尾能久・米田格 : 防災教育における「伝達型」・「参加型」モデルの関係性—満点計画学習プログラムをめぐって—, 災害情報, 14, 140-153, 2016
- 岩間浩司, 藤原博通, 長崎勝康, 濱田正隆, 風間聡, 小川原湖におけるヤマトシジミの生息範囲評価について, 土木学会論文集 B1(水工学), Vol.73, No.4, pp. I_1129-I_1134, 2017.3.17.
- 泉 友太・岩崎一孝 : 地名を利用した自然災害リスク分析, 情報学ワークショップ 2016 (WiNF2016) 論文集 1-5, 2016.
- Jaffe, B., Goto, K., Sugawara, D., Gelfenbaum, G., La Selle, S.: Uncertainty in Tsunami Sediment Transport Modeling. *Journal of Disaster Research* 11 (4), 647-661, 2016.
- Januriyadi, N., F., Sotephen G. So Kazama, Idham R. Moe, Shuichi Kure, Estimation of spatial flood damage costs in Jakarta, Indonesia, *Proceedings of the 37th IAHR World Congress, Theme 2, 2D*, pp.2343-2349, 2017.8.
- Kagi, H., Dmitry A. Zedgenizov, Hiroaki Ohfuji, Hidemi Ishibashi (2016) Micro- and Nano-inclusions in a Superdeep Diamond from Sao Luiz, Brazil. *Geochemistry International*, 54, 834-838.
- 菅野拓矢, 石橋秀巳 (2017) 斑晶鉱物の元素拡散モデリングに基づく噴火準備タイムスケールの研究の現状. 静岡大学地球科学研究報告, 44, 47-64.

- 狩野謙一・伊藤谷生, 2016: 伊豆半島南部の新第三系白浜層群に見られる浅海底火山活動と堆積・造構過程の相互作用. 地質学雑誌, 122, 413-432.
- Kasai, K., K. Kimura, K. Shiomi, A. Konno, T. Tadono and M. Hori (2017): Analysis of the Strong Local Wind in Northwestern Hokkaido, Japan. 地理学論集, 92-1, 6-18.
- 川守田智, 安西聡, 風間聡, ソーシャルメディアを用いた河川関心度評価, 水文・水資源学会誌, 30 卷, 4 号, pp.209-220, 2017.7.
- 風間聡, 峠嘉哉, 高橋範仁, 平成 28 年台風第 10 号による二級河川小本川での洪水発生状況の考察, 土木学会論文集 B1(水工学), Vol.73, No.4, pp. I_1303-I_1308, 2017.3.17.
- Kazama, S., Kengo Watanabe, Estimation of periphyton dynamics in a temperate catchment using a distributed nutrient-runoff model, Ecological Modelling, 367, pp.1-9, 2018.1. doi.org/10.1016/j.ecolmodel.2017.11.006
- 木村 圭司(2017): WRF を用いた彦根付近の湖陸風の再現実験. 奈良大地理, 23, 41-46.
- Kitamura, A., Y. Ohashi, H. Ishibashi, Y. Miyairi, Y. Yokoyama, R. Ikuta, Y. Ito, M. Ikeda, and T. Shimano, Holocene geohazard events on the southern Izu Peninsula, central Japan. Quaternary International. 397, 541-554, doi:10.1016/j.quaint.2015.04.021, 2016
- Kitamura, A., Imai, T., Mitsui, Y., Ito, M., Miyairi, Y., Yokoyama, Y. Tokuda Y. 2017. Late Holocene uplift of the Izu Islands on the northern Zenisu Ridge off Central Japan. Progress in Earth and Planetary Science. <https://doi.org/10.1186/s40645-017-0146-5>
- Kitamura, A., Mitsui, Y., Kim, H. Y., 2015. Examination of an active submarine fault off the southeast Izu Peninsular, central Japan, using field evidence for co-seismic uplift and a characteristic earthquake model. Earth, Planets and Space. 67:197 DOI 10.1186/s40623-015-0367-z
- Kitamura, A., Imai, T., Miyairi, Y., Yokoyama, Y. and Iryu, Y. 2017. Radiocarbon dating of coastal boulders from Kouzushima and Miyakejima Islands off Tokyo Metropolitan Area, Japan: implications for coastal hazard risk. Quaternary International. 456, 28-38. <http://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S1040618217302331>
- Kitamura, A., 2016. Examination of the largest-possible tsunamis (Level 2 tsunami) generated along the Nankai and Suruga troughs during the past 4000 years based on studies of tsunami deposits from the 2011 Tohoku-oki tsunami. Progress in Earth and Planetary Science. 3:12 DOI: 10.1186/s40645-016-0092-7
- 北村晃寿・三井雄太・石橋秀巳・森 英樹, 印刷中. 伊豆半島南東部静岡県河津町の海岸低地における津波堆積物調査. 静岡大学地球科学研究報告 第 45 号
- 北村晃寿・三井雄太・滝川陽紀, 2016, 静岡県焼津平野の完新統の解析に基づく安政型地震の平均発生間隔の推定. 地質学雑誌, 122, 523-531.

- 北村晃寿, 2016, 津波堆積物からの知見. 特集 防災学術連携体の設立と取組 東京圏の大地震にどう備えるか. 学術の動向 11月号, 日本学術会議.
- Kono, T., Sandhya Mehrotra, Chikako Endo, Natsuko Kizu, Mami Matsuda, Hiroyuki Kimura, Eiichi Mizohata, Tsuyoshi Inoue, Tomohisa Hasunuma, Akiho Yokota, Hiroyoshi Matsumura, Hiroki Ashida: A RuBisCO-mediated carbon metabolic pathway in methanogenic archaea. *Nature Communications* Vol. 8, Article number 14007, 2017.
- Kon, S., Nakamura, N., Nishimura, Y., Goto, K., Sugawara, D.: Inverse magnetic fabric in unconsolidated sandy event deposits in Kiritappu Marsh, Hokkaido, Japan. *Sedimentary Geology* 349, 112-119, 2017.
- 小杉素子・馬場健司・田中充 (2017) 災害に対する地域社会のレジリエンス性評価—質問紙調査データを用いた 8 地域の比較—. *環境科学会誌*, Vol.30(3),1-13.
- 小杉素子・岩見麻子・馬場健司 (2017) 農業分野の気候変動適応策に関するオンライン熟議と態度変化. *環境科学会誌*, Vol.30(6), 373-387.
- 小山真人 (2017) 箱根山の火山防災と 2015 年噴火. *科学*, 87, 24-36.
- 小山真人・鈴木雄介 (2016) 伊豆東部火山群 (東伊豆単成火山地域) の分布・噴火史の再検討. *土と岩*, no.64, 12-23.
- Luong, N. V., Ryutaro Tateishi, Akihiko Kondoh, Ngo Due Anh, Nguyen Thanh Hoan, Luu The Anh(2017): Land cover mapping in Yok Don National Park, Central Highlands of Viet Nam using Landsat 8 OLI images, *Vietnam Journal of Earth Sciences*, 39(4), 393-406, DOI:10.15625/0866-7187/39/4/10773.
- Macabuag, J., Rossetto, T., Ioannou, I., Suppasri, A., Sugawara, D., Adriano, B., Imamura, F., Eames, I., Koshimura, S.: A proposed methodology for deriving tsunami fragility functions for buildings using optimum intensity measures. *Natural Hazards* 84, 1257-1285, 2016.
- Machida, S., Koichiro Fujinaga, Teruaki Ishii, Kentaro Nakamura, Naoto Hirano, Yasuhiro Kato, (2016) : Geology and geochemistry of ferromanganese nodules in the Japanese Exclusive Economic Zone around Minamitorishima Island, *Geochemical Journal*, 50, 539-555、査読有.
- Maimaitiaili, A., Xiaokaiti Aji, Akbar Matniyaz and Akihiko Kondoh(2018): Monitoring and Analysing Land Use/Cover Changes in an Arid Region Based on Multi-Satellite Data: The Kashgar Region, Northwest China. *Land* 2018, 7(1), 6; doi:10.3390/land7010006.
- Matsumura, T., Kuwatani, T., Masuda, T., 2017. The relationship between the proportion of microboudinaged columnar grains and far-field differential stress: A numerical model for analyzing paleodifferential stress. *Journal of Mineralogical and*

- Petrological Sciences, 112, 25-30.
- Matsushita, M., Kenta Magara, Yu Sato, Naoya Shinzato, Hiroyuki Kimura: Geochemical and microbiological evidence for microbial methane production in deep aquifers of the Cretaceous accretionary prism. *Microbes and Environments*, In press, 2018.
- Matsushita, M., Shugo Ishikawa, Kazushige Nagai, Yuichiro Hirata, Kunio Ozawa, Satoshi Mitsunobu, Hiroyuki Kimura: Regional variation of CH₄ and N₂ production processes in the deep aquifers of an accretionary prism. *Microbes and Environments* Vol. 31, No. 3, 329-338, 2016.
- Mitsui, Y., Kyohei Yamada: Possible correlation between annual gravity change and shallow background seismicity rate at subduction zone by surface load, *Earth Planets Space*, 69(166), doi:10.1186/s40623-017-0753-9, 2017.
- 三井 雄太, 中野 隼輔, 森上 峻介: 正則化回帰法 elastic net による地殻変動データ逆解析: 東海スロースリップイベント・2011年東北地方太平洋沖地震の例, 静岡大学地球科学研究報告, 44, 9-15, 2017.
- Miyagi, I., Kita, N., Morishita, Y. (2017) The geochemical and petrological characteristics of prenatal caldera volcano: a case of the newly formed small dacitic caldera, Hijiori, Northeast Japan. *Contributions to Mineralogy and Petrology*, 172, 79, DOI 10.1007/s00410-017-1391-8.
- 宮坂 晃・狩野謙一, 2017: 北部フォッサマグナ中央隆起帯南部の下部更新統塩嶺累層-活発な火山活動と大規模陥没盆地の形成. 静岡大学地球科学研究報告, 44, 65-99.
- 望月 一磨, 三井 雄太, 日置 幸介: GPS による地球自由振動検出の続報: スタッキング法の改善と時間一周波数解析, 測地学会誌, 63(1), 23-31, 2017.
- Mochizuki, M., Yuta Mitsui: Crustal deformation model of the Beppu-Shimabara graben area, central Kyushu, Japan, based on inversion of three-component GNSS data in 2000-2010, *Earth Planets Space*, 68(177), doi:10.1186/s40623-016-0550-x, 2016.
- 望月 一磨, 三井 雄太: 伊豆半島基部における衝突起源の隆起現象を GNSS データを用いて検出する試み, 静岡大学地球科学研究報告, 43, 1-11, 2016.
- Moe, I. R., S. Kure, M. Farid, K. Udo, S. Kazama, S. Koshimura, Evaluation of Flood Inundation in Jakarta Using Flood Inundation Model Calibrated by Radar Rainfall, *Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. B1 (Hydraulic Engineering)*, 72, 4, I_1243-I_1248, 2016.
- Moe, I. R., Shuichi Kure, Nurul Fajar Januriyadi, Mohammad Farid, Keiko Udo, So Kazama, Shunichi Koshimura, Future projection of flood inundation considering land-use changes and land subsidence in Jakarta, Indonesia, *Hydrological Research*

- Letters, Vol.11, No.2, pp.99-105, 2017.4.28. doi.org/10.3178/hrl.11.99
- Morishita, Y., Shimada, N, and Shimada, K. (2018) Invisible gold in arsenian pyrite from the high-grade Hishikari gold deposit, Japan: Significance of variation and distribution of Au/As ratios in pyrite, *Ore Geology Reviews*, 95, 79-93, doi: org/10.1016/j.oregeorev.2018.02.029.
- 村越 真・小山真人・河合美保 (2016) 地震に対する抜き打ち避難訓練は臨機応変な避難行動を促進するか? *安全教育学研究*, 16, 3-13.
- 村越真 (2017) 登山者のリスク特定能力の実態: 登山道を対象とした KYT 図版による検討. *野外教育研究*,21(1),1-15.
- 村越真・菊池雅行(2017)第 58 次南極地域観測隊員の南極のリスクに対する態度、知識、対応スキルの実態、*南極資料*, 61, 81-107.
- 村越真・山本正嘉 (2017) 登山におけるヒヤリハットの特徴と発生要因—高山と低山でのフィールド調査からの検討. *登山医学*,37,121-132.
- 村越真・小西岳勝 (2018) 登山道に対する指導者のリスク特定能力. *教科開発学論集*, 6,163-170.
- Nagasaki, S., Hidemi Ishibashi, Yukiko Suwa, Atsushi Yasuda, Natsumi Hokanishi, Takahiro Ohkura, Keiji Takemura (2017) Magma reservoir conditions beneath Tsurumi volcano, SW Japan: Evidence from amphibole thermobarometry and seismicity. *Lithos*, 278-281, 153-165.
- 中口幸太, 小森大輔, 井上亮, 風間聡, 大阪市における内水氾濫頻発区域の分布とその特性, *水文・水資源学会誌*, 31 巻, 1 号, pp.9-16, 2018.1.
- 中村譲治, 原田賢治, 地域での防災活動を指向する人々に働いている動機づけの検討—平成 25 年度静岡県ふじのくに防災士養成講座の受講動機調査結果より—, *自然災害科学*, vol.35, no.4, pp.243-257, 2017.
- 中村美智太郎・藤井基貴「道德教育における内容項目「自由」「自律」に関する基礎的研究」『静岡大学教育学部研究報告(教科教育学編)』No.48,75-87 頁, 2017 年 3 月.
- Nanjo, K. and A. Yoshida, 2017, Anomalous decrease of $M \geq 3$ shocks and increase of the p and b values preceding the April 16, 2016, M7.3 earthquake in Kumamoto, Japan, *Earth, Planets and Space*, 69:13 DOI 10.1186/s40623-017-0598-2.
- Nanjo, K. Z., and A. Yoshida, A b map implying the first eastern rupture of the Nankai Trough earthquakes, *Nature Communications*, 9, 1117, 2018, doi: 10.1038/s411467-018-03514-3.
- 楠城一嘉 (2018) 12-12 b 値に基づく全地球規模の大地震発生予測のモデル, *地震予知連絡会会報*, 第 99 巻, 459-462.
- Nanjo, K. Z., A fiber-bundle model for the continuum deformation of brittle material, *International Journal of Fracture*, 204(2), 225-237, 2017, DOI: 10.1007/s10704-016-

0175-x.

- Nanjo, K. Z., A. Yoshida, Anomalous decrease in relatively large shocks and increase in the p and b values preceding the April 16, 2016, M7.3 earthquake in Kumamoto, Japan, *Earth, Planets, and Space*, 69:13, 2017, DOI: 10.1186/s40623-017-0598-2.
- Nanjo, K. Z., J. Izutsu, Y. Orihara, N. Furuse, S. Togo, H. Nitta, T. Okada, R. Tanaka, M. Kamogawa, T. Nagao, Seismicity prior to the 2016 Kumamoto earthquakes, *Earth, Planets, and Space*, 68, 187, 2016, DOI: 10.1186/s40623-016-0558-2.
- Niroshana, L., Gunawardhana, So Kazama, The potential role of urban green areas for controlling ground surface and subsurface warming, *Urban Water Journal*, Vol.14, Iss.1, pp.34-44, 2017. DOI 10.1080/1573062X.2015.1057177
- Nishiguchi, T., Tsuchiya, S., Imaizumi, F. (2017/8) Detection and accuracy of landslide movement by InSAR analysis using PALSAR-2 data, *Landslides*, 14, 1483–1490. DOI: 10.1007/s10346-017-0821-z
- 西口尚希・今泉文寿・土屋智・逢坂興宏 (2017/3) 干渉 SAR 解析における観測条件と干渉性の関係の検討, *中部森林研究*, 65, 127-130
- 西浦直子・岩崎一孝：日本における豪雨発生頻度の長期変化と地域差, *情報学ワークショップ 2017 (WiNF2017) 論文集*, 3pp, <http://www.cvl.cs.chubu.ac.jp/winf2017/download/winf2017.zip/F1.pdf>, 2017.
- 糠澤桂, 風間聡, 渡辺幸三, 水文モデルと底生動物の生息場モデルを用いた河川健全度パターンの評価, *土木学会論文集 B1(水工学) Vol.72, No.4*, pp. I_433-I_438, 2016.3.15.
- 糠澤桂, 林達也, 風間聡, 高橋真司, 砂防堰堤のスリット化に伴う生息場と底生動物群集の時系列変化, *土木学会論文集 G(環境), Vol.72, No.7*, III_553-III_558, 2016.12.
- Nukazawa, K., So Kazama, Kozo Watanabe, Catchment-Scale Modeling of Riverine Species Diversity Using Hydrological Simulation: Application to Tests of Species-Genetic Diversity Correlation, *Ecohydrology*, Vol.10, Issue.1, 2017.1. doi:10.1002/eco.1778
- 大石裕介・今村文彦・菅原大助・古村孝志：津波解析における信頼性の高い市街地浸水モデルに関するスパコンを用いた検討. *土木学会論文集 B2(海岸工学) 72(2)*, I_409-I_414, 2016.
- 岡田実樹・岩崎一孝：防災拠点としての道の駅ー静岡県を例としてー, *情報学ワークショップ 2017 (WiNF2017) 論文集*, 3pp, <http://www.cvl.cs.chubu.ac.jp/winf2017/download/winf2017.zip/F2.pdf>, 2017.
- Okumura T., Ohara Y., Stern R.J., Yamanaka T., Onishi Y., Watanabe H., Chen C., Bloomer S.H., Pujana I., Sakai S., Ishii T., and Takai K. (2016): Brucite chimney formation and carbonate alteration at the Shinkai Seep Field, a serpentinite-hosted vent system in the southern Mariana forearc, *Geochemistry, Geophysics*,

- Geosystems, 17, doi:10.1002/2016GC006449. 査読有
- Omori, Y., Barresi, A., Kimura, N., Okamoto, A., Masuda, T., 2016. Contrast in stress-strain history during exhumation between high- and ultrahigh-pressure metamorphic units in the Western Alps: microboudinage analysis of piemontite in metacherts. *Journal of Structural Geology*, 89, 168–180.
- 大瀧綾乃・中村美智太郎・藤井基貴「教員の ICT 活用指導力の向上に関する一考察外国語教育における E-ラーニング導入の課題と可能性」『静岡大学教育実践総合センター紀要』No.28,58-67 頁,2018 年 3 月.
- Phrakonkham, S., So Kazama, Daisuke Komori, Assessment of special flood risk using distributed hydrological model in Laos, *Proceedings of the 37th IAHR World Congress, Theme 2, 2A*, pp.1731-1739, 2017.8.
- Rangsiwanichpong, P., So Kazama, Chaiwat Ekkawatpanit, Analyzing the relationship between ocean indices and rainfall in the Chao Phraya River Basin, *International Journal of Climatology*, 37(1), pp.230-238, 2017. DOI: 10.1002/joc.4997
- 齋藤優人, 風間聡, 会田俊介, 室内融雪実験による地温勾配の一次元解析, 土木学会論文集 B1(水工学), Vol.73, No.4, pp. I_25-I_30, 2017.3.15.
- 坂本正夫・長谷川美行・狩野謙一・酒井幸雄, 2018: 赤石構造帯北部に発見した黒瀬川帯の構成要素. *伊那谷自然誌論集*, 19, 1-15.
- Sakurai, A. and Takeshi Sato : Enhancing Community Resilience Through Capacity Development After GEJE : The Case of Sendaishi-chiiki Bousai Leaders (SBLs) in Miyagi Prefecture, *The 2011 Japan Earthquake and Tsunami : Reconstruction and Restoration : Insights and Assessment after 5 Years*, Springer, 113-126, 2017
- 桜井愛子,佐藤 健 : 持続発展可能な地区防災活動の推進に関する考察-仙台市片平地区の事例を踏まえて-, *地区防災計画学会誌*, 第 9 号, 25-26, 2017
- Sakurai, A., Takeshi Sato : Promoting Education for Disaster Resilience and the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction, *Journal of Disaster Research*, Vol.11, No.3, 402-412, 2016
- 桜井愛子,佐藤 健,村山良之,北浦早苗 : 災害体験から学ぶ防災教育-石巻市における『復興・防災マップづくりプログラム』の広域化に向けて, *地域安全学会東日本大震災特別論文集*, No.5, 19-22, 2016
- Salem, G. S. A., So Kazama, Shamsuddin Shahid, Nepal C. Dey, Impact of temperature changes on groundwater levels and irrigation costs in a groundwater-dependent agricultural region in Northwest Bangladesh, *Hydrological Research Letters*, Vol.11, No.1, pp.85-91, 2017.3.25. doi.org/10.3178/hrl.11.85
- Salem, G. S. A., So Kazama, Daisuke Komori, Shamsuddin Shahid, Nepal C. Dey, Optimum abstraction of groundwater for sustaining groundwater level and reducing

- irrigation cost, *Water Resources Management*, 31, pp.1947-1959, 2017.3.24
doi:10.1007/s11269-017-1623-8
- Salem, G. S. A., So Kazama, Shawsuddin Shahid, Estimation of direct and indirect impacts of climate change on groundwater level in a groundwater dependent irrigation region, *Proceedings of the 37th IAHR World Congress, Theme 6, 6A*, pp.4346-4353, 2017.8.
- 佐藤 健、村山良之：釜石市内の保育園の津波に対する防災管理・防災教育と東日本大震災からの教訓, *地域安全学会東日本大震災特別論文集, No.6, 23-26, 2017*
- 佐藤 健,桜井愛子,藤岡達也,小田隆史,村山良之,北浦早苗：地域に根差した防災教育モデルの開発-仙台市長町地域を例に-, *安全教育学研究, 16 卷, 1 号, 23-33, 2016*
- 佐藤 健,桜井愛子,小田隆史,村山良之：コミュニティレベルの防災活動の日米比較-米国緊急事態対応チーム CERT と仙台市地域防災リーダーSBL を事例に-, *地域安全学会論文集, 29 卷, 239-246, 2016*
- 佐藤 健：東日本大震災における「なんでもやります隊」の活動とその意義, *地域安全学会東日本大震災特別論文集, No.5, 105-108, 2016*
- 佐藤達樹・千木良雅弘・松四雄騎, 2017. 2016 年熊本地震により発生した阿蘇カルデラ西部における斜面崩壊の地形・地質的特徴. *京都大学防災研究所年報, 60: 431-452.*
- Sato, Y., Hirano, N., Machida, S., Yamamoto, J., Nakanishi, M., Ishii, T., Taki, A., Yasukawa, K. and Kato, Y. (2017): Direct ascent to the surface of asthenospheric magma in a region of convex lithospheric flexure. *International Geology Review*, <http://dx.doi.org/10.1080/00206814.2017.1379912>, 2017, 査読有 .
- Sato, Y., Taketomo Fujiwara, Hiroyuki Kimura: Expression and function of different guanine-plus-cytosine content 16S rRNA genes in *Haloarcula hispanica* at different temperatures. *Frontiers in Microbiology Vol. 8, Article 482, 2017.*
- 澤田基弘, 廣井悠, 護雅史, 飛田潤：都市再構築における地下街総合評価指標の研究, *地域安全学会論文集, No.29, pp.279-288, 2016.11, (審査付)*
- Schorlemmer, D., Naoshi Hirata, Yuzo Ishigaki, Kazuyoshi Z. Nanjo, Hiroshi Tsuruoka, Thomas Beutin, and Fabian Euchner, Earthquake detection probabilities in Japan, *Bulletin of the Seismological Society of America*, 108 (2), 702- 717, 2018, doi: 10.1785/0120170110.
- Seo, K., Tadahiro Motoyoshi, Yasunobu Maeda: Risk perceptions of resuming nuclear power plant operations after Fukushima: a student survey, *Journal of Disaster Research*, 11, sp, 789-797, 2016.
- 瀬尾直樹, 原田賢治, 金原剛, 盛土式津波避難施設「命山」の設計手法の提案-袋井市中新田地区における設計過程の検討-, *土木学会論文集 B2(海岸工学), Vol.72, No.1, pp.42-50, 2016.*

- 塩崎竜哉・牛山素行:豪雨時における災害危険度の高まりを推定するための電話通報数の活用について,災害情報,,No.14, pp.164-173,2016.
- Sofue, Y., Buho Hoshino, Yuta Demura, Kenji Kai, Kenji Baba, Eunice Nduati, Akihiko Kondoh, Try Sternberg(2018): Satellite Monitoring of Vegetation Response to Precipitation and Dust Storm Outbreaks in Gobi Desert Regions. *Land*, 2018, 7, 19; doi:10.3390/land7010019.
- Sueoka, S. Ikeda, Y., Kano, K., Tsutsumi, H., Tagami T., Kohn, B.P., Hasebe, N., Tamura, A., Arai, S. & Shibata, K., 2017: Uplift and denudation history of the Akaishi Range, a thrust block formed by arc-arc collision in central Japan: Insights from low- temperature thermochronometry and thermo- kinematic modeling. *Journal of Geophysical Research*, 122, 6787-6810. doi: 10.1002/2017JB014320
- 菅原 大助 : 2011 年東北地方太平洋沖地震による津波の堆積作用と堆積物. *地質学雑誌* 123 卷 10 号 p. 781-804, 2017.
- 菅原雄太, 風間聡, 峠嘉哉, レーダー・アメダス解析雨量を用いた豪雨の空間分布特性の分析, *土木学会論文集 B1(水工学)*, Vol.74, No.4, pp. I_343-I_348, 2018.3.7.
- 杉山高志・李勇昕・孫英英・矢守克也・鈴木進吾・西野隆博・ト部兼慎: 避難訓練支援アプリ「逃げトレ」の開発と評価: 大阪府堺市の津波避難訓練を事例として,電子情報通信学会技術研究報告 = IEICE technical report: 信学技報, 116(185), 115-120, 2016
- 孫 英英・矢守克也・鈴木進吾・李フシン・杉山高志・千々和詩織・西野隆博・ト部兼慎: スマホ・アプリで津波避難の促進対策を考える:「逃げトレ」の開発と実装の試み,情報処理, 58(1), 1-10, 2017
- 孫英英・杉山高志・李勇昕・矢守克也・鈴木進吾・西野隆博・ト部兼慎: 避難訓練支援アプリ「逃げトレ」の開発: スマートフォンで高齢者向け防災教育の新しい形,電子情報通信学会技術研究報告 = IEICE technical report: 信学技報,116(185), 109-114,2016
- Sun, Y., Nakai, F., Yamori, K., and Hatayama, M. : Tsunami evacuation behavior of coastal residents in Kochi Prefecture during the 2014 Iyonada Earthquake. *Natural Hazards*. (Online), doi:10.1007/s11069-016-2562-z ,2016.
- 孫 英英・矢守克也・谷澤亮也: 防災・減災活動における当事者の主体性の回復をめざしたアクションリサーチ, *実験社会心理学研究*, 55, 75-87, 2016
- Takahashi, S., Masato Futagawa, Makoto Ishida, Kazuaki Sawada, “Amplified Redox Sensor for Highly Sensitive Chemical Analysis”, *The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers*, Vol. E99-C, No. 1, pp. 95-99, 2016
- 高清水 康博, 後藤 和久, 菅原 大助, 藤原 治, 川上 源太郎: 日本各地の多様な津波堆積物. *地質学雑誌* 123 卷 10 号 p. III-IV, 2017.
- 高柳 翔平, 松原 真治, 山本 茂広, 橋本 岳: 防災応用を目的とした切土法面の三次元画像計測の実験的研究, *電気学会論文誌 C*, Vol. 137, No. 3, pp. 467-473, 2017.

- 竹之内健介・矢守克也・河田慈人：生活防災タイムラインを通じた時系列の災害対応に対する住民意識，災害情報，16(1)，73-84，2018
- 竹之内健介・中北英一・矢守克也・田中耕司・養老伸介：河川・気象情報の住民による主体的な利用を目指した地域情報としての活用手法の提案，河川技術論文集，22，351-356，2016
- 竹之内健介・矢守克也・河田慈人：防災気象情報のレベル化とセルフウェザーゲームの開発，災害情報，14，186-198，2016
- 舘下 雄輝，沢田 健，安藤 卓人，池田 昌之，堆積岩中のカロタンおよびその派生物のGC/MS 解析. Res. Org. Geochem. 32, 55 - 66, 2016.
- Togashi, S., Kita N.T., Tomiya A., Morishita, Y. (2017) Magmatic evolution of lunar highland rocks estimated from trace elements in plagioclase: A new bulk silicate Moon model with sub-chondritic Ti/Ba, Sr/Ba, and Sr/Al ratios. *Geochimica et Cosmochimica Acta*, 210, 152-183, doi: 10.1016/j.gca.2017.04.031.
- 峠嘉哉，Grace Puyang Emang，風間聡，高橋幸男，佐々木健介，2017年東北山林火災における岩手県釜石市・宮城県栗原市の被害概要，自然災害科学，39(4)，pp.361-370，2018.
- Tsou, C.Y., Chigira, M., Higaki, D., Sato, G., Yagi, H., sato, H.P., Wakai, A., Dangol, V., Amatya, S.C. and Yatagai, A., 2017. Topographic and geologic controls on landslides induced by the 2015 Gorkha earthquake and its aftershocks: an example from the Trishuli Valley, central Nepal. *Landslides*.
- Tsou, C.Y., Chigira, M., Matsushi, Y., Hiraishi, N. and Arai, N., 2017. Coupling fluvial processes and landslide distribution toward geomorphological hazard assessment: a case study in a transient landscape in Japan. *Landslides*, 14(6): 1901-1914.
- 辻本浩史，本間基寛，増田有俊，吉開朋弘，井上実：アンサンブル予報を用いた台風性降雨シナリオに関する検討，京都大学防災研究所年報，Vol.59(B)，pp.367-375，2016.
- 辻本浩史，増田有俊，本間基寛，吉開朋弘，真中朋久：アンサンブルデータを用いた台風性降雨による洪水リスクシナリオ，土木学会論文集 B1 (水工学)，Vol.73, No.4, pp. I_1267-1272, 2017.
- 牛山素行:発生場所から見た平成 27 年 9 月関東・東北豪雨災害による犠牲者の特徴,河川技術論文集,Vol.22,,pp.309-314,2016.
- 牛山素行・横幕早季・大森康智・増田俊明:実務者を対象とした人材育成講座の構築 —「ふじのくに防災フェロー養成講座」の実践—,災害情報,,No.14, pp.216-222,2016.
- 牛山素行・横幕早季・杉村晃一:平成 28 年熊本地震による人的被害の特徴，自然災害科学，Vol.35, No.3, pp.203-215, 2016.
- 牛山素行:日本の風水害人的被害の経年変化に関する基礎的研究,土木学会論文集 B1(水工学),Vol.73,No.4,pp.I_1369-I_1374,2017.
- 牛山素行・関谷直也:2016 年台風 10 号災害による人的被害の特徴，自然災害科学，Vol.36,

- No.4, pp.429-446, 2018.
- 服田帆乃香・岩崎一孝：新高速道路（豊田東～浜松いなさ）導入効果の可視化，情報学ワークショップ 2016（WiNF2016）論文集 6-9, 2016.
- 渡邊健吾，風間聡，分布型栄養塩流出モデルを用いた名取川流域の付着藻類量推定，土木学会論文集 B1(水工学), Vol.73, No.4, pp. I_1153-I_1158, 2017.3.17.
- 矢神 優・岩崎一孝：地理情報システムにおける空間データとしてのオープン活用提案，情報学ワークショップ 2016（WiNF2016）論文集 10-16, 2016.
- Takarada, S., Ishikawa, Y., Maruyama, T., Yoshimi, T., Matsumoto, D., Furukawa, R., Teraoka, Y., Bandibas, J.C., Kuwahara, Y., Azuma, T., Takarada, A., Okumura, K., Koizumi, N., Tukuda, E., Solidum, R.U., Daag, A.S., Cahulogan, M., Hidayati, S., Andreastuti, S., Supartoyo, Li X., Nguyen, P.H., and Lin, C-H. (2016) Eastern Asia Earthquake and Volcanic Hazards Information Map. Geological Survey of Japan, AIST.
- 山本阿子，高橋智幸，原田賢治，櫻庭雅明，野島和也，津波堆積物形成における粒径と外力の影響に関する水理実験，土木学会論文集 B2(海岸工学), Vol.73, No.2, I_367-I_372, 2017.
- Yamamoto, J., Hidemi Ishibashi, Koshi Nishimura (2017) Cooling rate responsiveness of pyroxene geothermometer. *Geochemical Journal*, 51, 457-467.
- 山村紀香・林能成，稍深発地震のためのオンサイト地震警報基準の検討，社会安全学研究, vol.8, p.71-80, 2018.
- Yamasaki, S., Chigira, M. and Petley, D.N., 2016. The role of graphite layers in gravitational deformation of pelitic schist. *Engineering Geology*, 208: 29-38.
- Yamashita, K., Sugawara, D., Takahashi, T., Imamura, F., Saito, Y., Imato, Y., Kai, T., Uehara, H., Kato, T., Nakata, K., Saka, R., Nishikawa, A.: Numerical Simulations Of Large-scale Sediment Transport Caused By The 2011 Tohoku Earthquake Tsunami In Hirota Bay, Southern Sanriku Coast. *Coastal Engineering Journal* 58 (4), 1640015, 2016.
- 山下 啓，嶋原 良典，菅原 大助，有川 太郎，高橋 智幸，今村 文彦：土砂移動が及ぼす津波ハザード及び建物被害への影響－東日本大震災の宮城県気仙沼市における津波氾濫・土砂移動・船舶漂流の統合計算－. 土木学会論文集 B2（海岸工学）73 巻 2 号 p. I_355-I_360, 2017.
- 山下 啓，今村 文彦，岩間 俊二，菅原 大助，高橋 智幸：引き波増大に及ぼす津波土砂移動及び沖合津波波形の影響評価. 土木学会論文集 B2(海岸工学) 73 巻 2 号 p. I_361-I_366, 2017.
- 矢守克也・竹之内健介：マイスイッチ・地域スイッチー平成 29 年九州北部豪雨災害を踏まえて一，地区防災計画学会誌, 11, 21-24, 2018

- 矢守克也：地震リスクのインフォメーションとコミュニケーション，地震学会モノグラフ（地震発生予測と大震法および地震防災研究），5, 24-28, 2017
- 矢守克也：災害と共生－人間・自然・社会－, 災害と共生, 1, 15-20, 2017
- 矢守克也・李勇昕：「Xがない、YがXです」－疎外論から見た地域活性化戦略－, 実験社会心理学研究, 57, 107-117, 2017
- 矢守克也：黒潮町における地区防災計画づくり, C+BOUSAI (地区防災計画学会誌), 10, 3-8, 2017
- 矢守克也：言語行為論から見た災害情報－記述文・遂行文・宣言文－, 災害情報, 14, 1-10, 2016
- 矢守克也：河田恵昭教授の災害リスク・コミュニケーション－人間化された自然・現在化された想定・極限化された数値－, 社会安全学研究, 6, 39-49, 2016
- 矢守克也：アクションリサーチの〈時間〉, 実験社会心理学研究, 56, 1, 48-59, 2016
- Yang, W., Hideki Kobayashi, Xuehong Chen, Kenlo Nishida Nasahara, Rikie Suzuki, Akihiko Kondoh(2017): Modeling three-dimensional forest structures to drive canopy radiative transfer simulations of bidirectional reflectance factor. *International Journal of Digital Earth*, DOI:10.1080/17538947.2017.1353146.
- 横尾泰輔・矢守克也：東日本大震災の初動報道に関する当事者分析：キャスター自身による分析・調査と実践的考察, 災害情報, 15, 149-159, 2017
- 吉澤一樹, 風間聡, 朝岡良浩, 地形情報を用いたボリビア・アンデス山脈における氷河後退の統計解析, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.72, No.4, pp. I_469-I_474, 2016.3.15.

2.2.3 学会口頭発表

- 足立勝美・柵山徹也・石井輝秋（2018）：Differentiation and generation processes of alkaline basalts from Seifu Seamount in the Japan Sea. 日本地球惑星科学連合 2018 年大会（幕張メッセ）[SMP36-P01]、2018/5/21（火）、（ポスター発表）。
- 天野大和, 石橋秀巳, 外西奈津美, 安田敦（2016）富士火山宝永噴火の玄武岩質マグマの上昇過程：斜長石マイクロライトからの制約. 日本火山学会 2016 年秋季大会.
- 青山純也, 廣井悠, 護雅史：複合災害を考慮した名古屋駅周辺の地下街避難行動シミュレーション, 日本建築学会・大会学術講演梗概集, 2016.08.
- Arai, N. and Chigira, M., 2016. Gravitational Slope Deformation in the Hiyoso District in the Central Kii Mountains Japan Geosciences Union Meeting 2016, Makuhari.
- 荒井紀之・千木良雅弘, 2017. 四万十付加体からなる山地斜面で発生する深層崩壊の地形・地質構造条件について, 京都大学防災研究所研究発表講演会, 宇治.
- 芦沼完太, 松下 慎, 佐藤 悠, 木村浩之. 付加体の深部帯水層中における N2 生成メカニズムの解明. 第 19 回静岡ライフサイエンスシンポジウム、静岡、2018 年 3 月.
- アイフマル ハリブ、郭 榮珠、近藤昭彦(2017.5.22): 複数衛星の時系列観測データによる

バングラデシュの長期間海岸線変化検出、JpGU-AGU Joint Meeting 2017(幕張メッセ国際会議場)

Barry, I., Yasunobu Maeda: Study of Kaizen and Application of safety Management of Mining Companies In Guinea, Society for Risk Analysis Asia Conference 2018, 2018年3月.

Chigira, M. and Suzuki, T., 2016. Hazard mapping of earthquake-induced landslides of pyroclastic fall deposits Japan Geosciences Union Meeting 2016, Makuhari.

Chigira, M. and Suzuki, T., 2016. Prediction of earthquake-induced landslides of pyroclastic fall deposits. In: S. Aversa, L. Cascini, L. Picarelli and C. Scavia (Editors), Landslides and Engineered Slopes. Experience, Theory and Practice. Associazione Geotecnica Italiana, Rome, pp. 93-100.

千木良雅弘, 2017. 南海トラフおよび相模トラフの大地震による深層崩壊 JpGU-AGU Joint Meeting 2017, 幕張, pp. HDS17-05.

千木良雅弘・古木宏和・笠間友博・鈴木毅彦, 2016. 震生湖をつくった地すべりは神奈川県から東京に広く分布する東京軽石層内にすべり面をもっていた 日本地球惑星科学連合大会 2016, 幕張.

千木良雅弘・古木宏和・笠間友博・鈴木毅彦, 2016. 震生湖をつくった地すべりは神奈川県から東京に広く分布する東京軽石層内にすべり面をもっていた 日本地球惑星科学連合大会 2016, 幕張.

千木良雅弘・鄒青穎, 2016. 台湾中央山脈のスレート地帯の重力斜面変形と斜面崩壊, 京都大学防災研究所平成 27 年度研究発表会, 宇治, pp. 1-2.

de Haas, T., Alex Densmore, Markus Stoffel, Juan Ballesteros-Cánovas, Hiroshi Suwa, Fumitoshi Imaizumi, and Thad Wasklewicz (2017/4) Unravelling the evolution and avulsion mechanisms of debris-flow fans, EGU General Assembly 2017, EGU2017-741, 2017 Vienna

Edo, K., Yu Hiroi and Hiroharu Ochiyama, 'Determining the Issues of Picture Mining as a Marketing Research: A Study on Statistical Data Sampling and Objective analysis', 27th-28 Nov 2016, Malaysia.

Ekataksin, S., Yasunobu Maeda: Business continuity and organization culture: Analysis of long-lived companies in Thailand and Japan, Society for Risk Analysis Asia Conference 2018, 2018年3月.

Ekataksin, S., Yasunobu Maeda, Ayako Morishita: Organizational Culture of Long-lived Companies in Japan and Thailand: Dimension of Organizational Leadership and Employee Management, 2017 7th International Conference on Economics, Trade and Development (ICETD 2017), 2017年3月.

古橋裕子、その他「UPI でみた新入生と4年生、大学院生の比較」第55回全国大学保健管

- 理研究集会（沖縄）2017
- Furuhashi, Y., :Group training program for university students with autism spectrum disorder. 17th World Congress of Psychiatry (Berlin, Germany) 2017
- 古橋裕子、その他「大学入学後に顕在化した発達障害圏学生の学業転帰」第54回全国大学保健管理研究集会（大阪）2016
- Furuhashi, Y. et. al : Group training program for university students with autism spectrum disorder. 2ed International Conference on Mental Health and Human resilience (Cologne, Germany), 2016
- Furuhashi, Y., : Group therapy for university students with Autism spectrum disorder. International Congress of Clinical and Health Psychology on Children and Adolescents (Barcelona, Spain). 2016
- Futagawa, M., Takaya Ozawa, Harutoyo Hirano, Tiejun Zhao, Akimasa Nakano, Kazuaki Sawada, “Development of a Pulse Input Type Potassium Sensor for Monitoring Nutrient Concentration in Agriculture”, Asia-Pacific Conference of Transducers and Micro-Nano Technology 2016 (APCOT2016), Kanazawa Bunka Hall, Kanazawa, Japan, June 26-29, 2016.
- Futagawa, M., Shin Ogasahara, Tatsumi Ito, Mitsuru Komatsu, Yasushi Fuwa, Harutoyo Hirano, Ippei Akita, Kenichiro Kusano, and Minoru Watanabe, “Fabrication of a Low Leakage Current Type Impedance Sensor to Monitor Soil Water Content for Slope Failure Prognostics”, The 19th International Conference on Solid-State Sensors, Actuators and Microsystems (Transducers 2017), Kaohsiung Exhibition Center, Qianzhen District Kaohsiung, Taiwan, June 18-22, 2017,
- 二川 雅登・許山 久美子・平野 陽豊・渡辺 実・小松 満, “ISFET 型 pH センサを用いた低水分量土壌での pH 計測に関する研究”, 平成 29 年電気学会 E 部門総合研究会, pp. 9-12, イーグレひめじ, 兵庫県姫路市, 2017 年 6 月 29 日-30 日
- 秦康範, 中村彩香 : 大規模観光イベントにおけるゲリラ豪雨時の避難シミュレーション, 地域安全学会梗概集, No.40, pp.175-176, 2017.6
- 荻祐太郎、石川修伍、松下 慎、木村浩之. 川根温泉の地下帯水層におけるメタン生成プロセスと分散型エネルギー生産システム. 第 18 回静岡ライフサイエンスシンポジウム、静岡、2017 年 3 月.
- 荻 祐太郎、松下 慎、木村 浩之. 付加体の温泉付随ガスと地下圏微生物を対象とした基盤研究による川根温泉メタンガス発電システムの創成. 環境微生物系学会合同大会 2017、仙台、2017 年 8 月.
- 荻祐太郎、松下 慎、木村浩之. 深部帯水層の地下圏微生物を対象とした基盤研究と温泉メタンガス発電事業の推進. 第 19 回静岡ライフサイエンスシンポジウム、静岡、2018 年 3 月.

- 濱 侃・田中 圭・望月 篤・鶴岡康夫・近藤昭彦(2017.11.9) : UAV リモートセンシングと気象データの統合に基づく水稻の収量およびタンパク含有量の推定、日本写真測量学会平成 29 年度秋季学術講演会 (宇部市文化会館)
- 濱 侃・田中圭・望月 篤・鶴岡康夫・近藤昭彦(2017.9.29) : UAV リモートセンシングによる水稻の生育の品種特性モニタリング、日本地理学会秋季大会 (三重大学)
- Hama, A., Kei Tanaka, Atsushi Mochizuki, Hiroyuki Arai, Toshiyuki Hirata, Ryuya Yawata, Eunice Nduati, Yasuo Tsuruoka, Akihiko Kondoh(2017.5.22): Estimation of Rice Yield Based on the Integration of UAV Remote Sensing and Solar Radiation Data, JpGU-AGU Joint Meeting 2017(幕張メッセ国際会議場)
- 原田博子, 前田恭伸 : 大規模災害時のための乳幼児用防災パックの開発, 2016 年度日本リスク研究学会年次大会, 2016 年 11 月.
- 原田賢治, 嶋原良典, 石野好彦, 瀬尾直樹, 小西康彦, 長谷川浩市, 小黑明, 鈴木一仁, 下水道施設における地震・津波対策の合理的な対策の基礎検討, 土木学会第 37 回地震工学研究発表会講演論文集, D24-1235, 12p, 2017.10.22.
- 原田賢治, 峯田純平, 瀬尾直樹, 金原剛, 海岸樹木の津波に対する耐力限界に関する実物試験, 土木学会第 37 回地震工学研究発表会講演論文集, D24-1249, 6p, 2017.10.22.
- 原田賢治, 瀬尾直樹, 金原剛, 津波に対する海岸樹木の耐力限界の現地試験, 第 36 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.175-176, 2017.9.28.
- 原田賢治, 高橋智幸, 山本阿子, 櫻庭雅明, 野島和也, 津波堆積物形成における遡上流動特性の影響に関する基礎検討, 第 36 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.171-172, 2017.9.28.
- 原田賢治, 高橋智幸, 野島和也, 津波により陸上斜面に形成される堆積砂分布に関する水理実験, 土木学会第 36 回地震工学研究発表会講演論文集, D21-985, 7p, 2016.10.18.
- 原田賢治, 津波に対する海岸樹木の耐力限界モデルの基礎検討, 第 35 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.99-100, 2016.9.21.
- Harada, K., Tomoyuki Takahashi, Ako Yamamoto, Masaaki Sakuraba, Kazuya Nojima, Hydraulic experimental investigation on spatial distribution and formation process of tsunami deposit on a slope, 2017 AGU Fall Meeting, NH23A-0226, New Orleans, 12 Dec. 2017.
- Harada, K., Study on field experiment and modeling of coastal tree damages by tsunami, International Tsunami Symposium, Bali-Indonesia, 2017.
- 原口悟・藤永公一郎・中村謙太郎・山口飛鳥・石井輝秋 (2018) DSDP Leg58 Site442~444, ODP Leg131 Site808 から掘削された四国海盆基盤岩の再分析と、分析値の特徴. 日本地球惑星科学連合 2018 年大会 (幕張メッセ)「SCG61-P03」2018/5/23 (水)、(ポスター発表) .
- 羽佐田葉子・笠原順三:Simulation of time-lapse imaging for small oil/gas reservoirs at

- shallow and deep depths using a few ACROSS seismic sources and sparse receivers, 物理探査学会発表, 2016年5月.
- 長谷川大真, 渡辺俊樹, 伊藤谷生, 狩野謙一, 阿部進, 藤原明, 河内善徳, 南アルプス南端部地域における地下構造の地震波干渉法イメージング, 日本地球惑星科学連合 2017年大会, 2017年5月.
- 長谷川祐治, 宮田秀介, 今泉文寿, 権田豊, 山野井一輝, 中谷加奈, 堤大三 (2017/5/24) ハイドロフォンを用いた流砂量計測と現地への適用, 732-733
- 橋本 岳, 高柳翔平, 松原真治, 土屋智, 竹林洋一: 防災応用を目的とした切土法面の三次元計測の紹介, 日本リモートセンシング学会第60回学術講演会, A07, 2016/5/13.
- 橋本 岳, 小野友輔: 簡便なステレオカメラシステムを用いた文化財の寸法測定に関する実験的研究, 日本リモートセンシング学会第60回学術講演会, B21, 2016/5/13.
- 林 拙郎・山田 孝: 広島土砂災害の豪雨および土層特性—豪雨災害論へのアプローチ—, 平成28年度砂防学会研究発表会, 2016年5月.
- 林 拙郎・山田 孝: 広島他の顕著な土砂災害発生への豪雨災害論からのアプローチ, 第35回自然災害学会学術講演会, 2016年9月.
- 林 拙郎・山田 孝: 豪雨および地震性崩壊の統合解析—単純なメカニズムからの基本解析—, 平成29年度砂防学会研究発表会, 2017年5月.
- 林 拙郎・山田 孝: 顕著な土砂災害に対する豪雨のファクターとスケールの提案, 第36回自然災害学会学術講演会, 2017年9月.
- 林能成・山田俊弘・栗田敬・野内玲, 地球科学における学際的分野への参入過程 ~革新的研究者のオーラルヒストリーから~, 平成27年度京都大学防災研究所研究発表講演会, 宇治おうばくプラザ, 2016年2月24日.
- 林能成・山田俊弘・栗田敬・野内玲・山中佳子・秦康範, 先駆的研究者のオーラルヒストリーから探る地震・火山分野の人材育成モデル, 「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」平成27年度成果報告シンポジウム, 東京大学 武田先端知ビル, 2016年3月15日.
- 林能成, 「縫い目のない地球科学」としての市民研究, 日本地球惑星科学連合大会, 2016年5月22日.
- 林能成, 簡易地震計ネットワークの展開と活用についての一考察 ~台湾と日本の比較から~, 第25回IT強震計研究会, 東京大学地震研究所, 2016年6月10日.
- 林能成, 地球物理学者による社会貢献の一形態~国土科学と住み込み研究~, 日本地震学会講演予稿集, S18-P02, 2016年10月7日.
- 林能成, 日本統治時代に台湾で発生した地震の被害および対応の特徴, 歴史地震研究会つくば大会, つくばイノベーションプラザ, 2017年9月15日.
- 林能成, 地球科学者の社会的課題への向き合い方~島津康男博士の足取りから考える~, 第68回地学史研究会, 早稲田奉仕園スコットホール, 2017年10月7日.

- 林能成, 日本統治時代に台湾で発生した震災の再調査とその防災上の意義, 日本地震学会
秋季大会, かがしま県民交流センター, 2017年10月27日.
- 林能成, 常時微動計測から見た2種類のため池埋立地地盤の特徴, 地震時複合災害のメカ
ニズム解明に向けた技術開発に関する研究集会, 高知大学理工学部, 2018年2月19日.
- Hernandez,P.A., Mori,T., Notsu,K., Morita,M., Padron,E., Onizawa,S., Melian,G.,
Sumino, H., Asensio-Ramos,M., Nogami,K., Yamane,K., and Perez,N.M., Izu-Oshima
volcano, Japan: ten years of geochemical monitoring by means of CO₂ soil diffuse
degassing. AGU Fall Meeting (V11C-2793), San Francisco (USA). 12 December 2016.
- 日比野愛子・宮本匠・矢守克也・香川秀太・岩崎秀雄・森直久・曾我亨:(ワークショップ)
グループ・ダイナミックスの〈時間〉(その1:広げる)邂逅の時間 日本グループ・ダ
イナミックス学会第63回, 2016/10/9.
- Hirano, H., Ryosuke Katsumata, Masato Futagawa, Toshio Tsuji, Nozomu Oda, Masato
Kajikawa, and Yukihito Higashi, “Development of an Earlobe Crease Identification
System to Support Diagnosis of Arteriosclerosis”, 38th Annual International
Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (IEEE EMBC),
Disney’s Contemporary Resort, Orlando, FL, USA, August 16-20, 2017.
- 平野直人・佐藤勇輝・町田嗣樹・清水健二・森下泰成・山本順司・中西正男・石井輝秋
(2017):各地の深海底で発見されるプチスポット火山. ブルーアース 2017、
JAMSTEC、BE17-08. 2017年3月2日、日本大学理工学部駿河台キャンパス、口頭
発表.
- 平田真司・岩崎一孝:地理情報システムを援用した浜松市の犯罪分析, 情報学ワークショ
ップ2017, 2017年11月26日
- Hirata, Y. and Chigira, M., 2016. 柱状節理に囲まれた花崗斑岩の物性構造 日本地球惑星
科学連合大会 2016, 幕張, pp. S-VC45-6.
- 廣井悠, 松原龍, 有友春樹, 渡辺竜之:糸魚川市大規模火災における避難行動調査, 災害
情報学会第19回学会大会予稿集, pp.76-77, 災害情報学会, 2017.10
- 廣井悠:リアルタイム地震出火予測モデルの検討, 日本オペレーションズ・リサーチ学会
2016年度秋季研究発表会アブストラクト集, pp.278-279, 2016.09.
- 廣井悠:帰宅困難者支援施設運営ゲーム(KUG)の開発, 日本建築学会・大会学術講演梗
概集, 2016.08.
- 比屋根肇, 森下祐一, 斎藤元治 (2016) CO₂ コンドライトに含まれるメタル粒子中の親鉄性
元素分布からみた原始太陽系星雲における親鉄性元素の分別、2016年度 日本地球化学
学会年会、大阪府大阪市立大学杉本キャンパス、2016.9.14
- 比屋根肇, 森下祐一, 斎藤元治 (2016) 原始太陽系星雲における親鉄性元素の分別過程-コ
ンドライト中の金属粒子のSIMS分析、日本惑星科学学会年会 2016年秋季講演会、岡山
県ノートルダム清心女子大学、2016.9.12.

- Hiyagon, H., Morishita, Y. and Saito, G. (2016) An ion microprobe study of siderophile elements in metal grains in the Y81020 (CO 3.05) chondrite, 26th V. M. Goldschmidt Conference, Yokohama, Japan, 2016.6.26.
- 本田彰・牛山素行：静岡県における大雨警報事例の雨量と浸水害に関する調査，平成 28 年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集,pp.6-7,2017 年 3 月 4 日.
- 本田彰・牛山素行：静岡県における大雨警報事例の警報基準超過率・猶予時間及び浸水害発生率に関する調査，日本災害情報学会第 19 回研究発表大会予稿集,pp.158-159,2017 年 10 月 22 日.
- 本間基寛，増田有俊，道広有理：統計的ダウンスケーリング手法を用いた高解像度アンサンブル雨量予測情報の開発，第 35 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集，pp. 45-46，2016 年 9 月.
- 本間基寛，田中茂信，中垣壽，卯塚淳：平成 27 年 9 月関東・東北豪雨の災害タイムライン統合閲覧システムの開発，日本災害情報学会第 18 回研究発表大会予稿集，pp. 2-3，2016 年 10 月.
- 本間基寛，辻本浩史，増田有俊，真中朋久：平成 28 年台風第 10 号による大雨時の小本川流域におけるレーダ雨量の精度，第 36 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集，pp. 47-48，2017 年 9 月.
- 堀江政樹、濱 侃、藤村葉子、近藤昭彦(2017.5.22): 印旛沼流域における窒素負荷量の再検討、JpGU-AGU Joint Meeting 2017(幕張メッセ国際会議場)
- 堀田紀文，後藤優弥、山川陽祐、経隆悠、正岡直也、今泉文寿（2017/5/24）浸透計算と斜面安定解析による伊豆大島における表層崩壊の発生機構の検討，平成 29 年度砂防学会概要集，p. 372-373，奈良市，奈良春日野国際フォーラム
- 堀田紀文，後藤優弥，山川陽祐，経隆悠，正岡直也，今泉文寿（2016/5/19）2013 年台風 26 号による伊豆大島での表層崩壊発生プロセス，平成 28 年度砂防学会研究発表会概要集，B108-109，富山市，富山県民会館
- 井口雄亮，前田恭伸：熊本地震関連新聞記事から見る被災地状況の時系列変化，2016 年度日本リスク研究学会年次大会，2016 年 11 月.
- 池田恵子：「バンングラデシュのコミュニティ防災～その実態、課題と成果に関する予備的考察～」，日本南アジア学会第 30 回全国大会，2017 年 9 月
- 池田恵子：「市区町村における男女共同参画・多様性配慮の視点による防災施策の実践状況：地域コミュニティの防災体制に定着するための課題」，第 39 回地域安全学会研究発表会（秋季），2016 年 11 月
- 池田恵子：「バンングラデシュにおける『調停』を用いたジェンダーに基づく暴力への介入」，日本南アジア学会第 29 回全国大会，2016 年 9 月
- Ikeda, Masayuki, Ryuji Tada, Kazumi Ozaki, Global silica cycle paced by astronomical cycles recorded in the Mesozoic bedded chert: Implications for early Mesozoic

- extinctions, American Geophysical Union Fall Meeting, 2016 年 12 月.
- Ikeda, Masayuki, Maximileum Bole, BAUMGARTNER, Peter, EFFECTS OF VOLCANISM AND ASTRONOMICAL CYCLES ON THE TOARCIC OCEANIC ANOXIC EVENTS (T-OAES; EARLY JURASSIC), Geological Society of America, 2016 年 10 月
- Ikuta, R., Yamaoka, K., Kunitomo, T., Nishigami, K., Watanabe, T.: Long-term monitoring of seismic velocity around a source fault of the 1995 Kobe earthquake, Joint Scientific Assembly of IAG-IASPEI, 2017 年 8 月.
- 生田領野・安藤雅孝・宗林留美・香味建・中村衛・陳宏宇, 1771 年八重山津波“波源域”における海底地殻変動の観測—巨大プレート境界型地震は生じうるか?—, 地球惑星科学連合大会 2016, 2016 年 5 月
- Ikuta, R, Y. Mitsui, Y. Kurokawa, M. Ando, Probability Assessment of Huge Inter-plate Earthquakes in Global Subduction Zones -from the View of Slip Deficit-, Japan-Taiwan International Workshop on Hydrological and Geochemical Research for Earthquake Prediction 2016, 2016 年 9 月
- Ikuta, R., M. Ando, M. Nakamura, R. Sohrin, T. Kohmi, GNSS/Acoustic measurement conducted on “Source region” of the 1771 Yaeyama Tsunami -Is huge inter-plate earthquake being prepared there?-, American Geophysical Union, Fall meeting, 2016 年 12 月
- Ikuta, R, HY. Chen, Ya-Ju Hsu, Takeru Kohmi, Cheng-Horng Lin, Yoko Tu, Chau-Chang Wang, Shui-Bei Yu and Masataka Ando, Deformation of the Ryukyu arc and north-eastern Taiwan Island at the western end of the Okinawa trough based on GNSS/Acoustic seafloor geodesy, Japan-Taiwan International Workshop on Hydrological and Geochemical Research for Earthquake Prediction 2017, 2017 年 9 月
- 生田領野・安藤雅孝・香味建・Y. Tu, HY. Chen, C-H. Lin, 海底地殻変動で見た沖縄トラフ南西端における背弧拡大と琉球弧・台湾北東部の変形
- Imaizumi, F., Satoshi Tsuchiya, Okihiro Ohsaka, Haruki Kobayashi, Makoto Miyagishima, Yuichi S. Hayakawa, Norifumi Hotta, Haruka Tsunetaka (2016/11) Observations of River Bed Deformation by SfM Using Time Lapse Cameras, Joint Workshop of 2016 International Debris-Flow Workshop and 6th International Workshop of Multimodal Sediment Disasters, A-03, Uji, 京都大学防災研究所
- 今泉文寿, 宮本邦明 (2016/10/12) 2013 年伊豆大島土砂災害における崩壊発生メカニズム, 中部森林学会, 津市, 三重大学
- 今泉文寿, 逢坂興宏, 堤大三, 宮田秀介, 中谷加奈, 権田豊, 福山泰治郎, 篠原慶規, 水野秀明, 原田紹臣, 水野正樹 (2016/5/18) 大規模土砂移動の影響範囲の予測と対策手法の整理, 平成 28 年度砂防学会研究発表会概要集, A308-309, 富山市, 富山県民会館

- 石橋秀巳, 種田凌也, 千葉達朗, 外西奈津美, 安田敦 (2017) 伊豆大島 1986 年 B 火口噴火のガブロ捕獲岩にみられる粒間メルト混合. 日本火山学会 2017 年秋季大会.
- 石井輝秋、奥村知世、小原泰彦、Ignacio Pujana、高橋聡、(2016) : 南部マリアナ海溝陸側斜面冷湧水域 (Shinkai Seep Field = SSF)産チムニーの内部構造、平成 27 年度高知大学海洋コア総合研究センター 全国共同利用・共同研究成果発表会、高知大学、2016 年 2 月 29 日、ポスター発表、P-16.
- 石井輝秋 (2017) : 深海冷湧水系の地質学的研究、平成 28 年度高知大学海洋コア総合研究センター 全国共同利用・共同研究成果発表会、高知大学、2017 年 2 月 27 日、P-22、ポスター発表.
- 石井輝秋・奥村知世・Ignacio Pujana・小原泰彦・「しんかい」湧水域研究グループ一同 (2017) : 「しんかい」湧水域(Shinkai Seep Field = SSF)産チムニーの内部構造、東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会—InterRidge-Japan 研究集会、2017/11/27 (月)、千葉県柏市、東京大学大気海洋研究所 (ポスター発表)
- 石井輝秋・Patricia Fryer・高橋聡・松崎琢也・太田秀 (2018) : 「しんかい」湧水域(Shinkai Seep Field)及びコニカル海山産ホワイトチムニーと初島沖シロウリガイの非破壊的観察。日本地球惑星科学連合 2018 年大会 (幕張メッセ) 「BPT05-P03」、2018/5/24(木)、(ポスター発表) .
- 石川宏之 : 東日本大震災後の復興まちづくりに震災遺構を活かすジオパークと大学や博物館の連携体制のあり方—三陸ジオパーク推進協議会を事例として—, 日本建築学会大会, 福岡大学, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.435-438, 2016.8
- Ishikawa, H., : A Study on an Ideal Form of Geopark, University and Museum Partnership for Achieving Post-Disaster Community Development Using Disaster Wreckage after the Great East Japan Earthquake -Case Study of the Sanriku Geopark Promotion Council in Japan—, The 7th International Conference on UNESCO Global Geoparks Abstract Book, English Riviera UNESCO Global Geopark in the UK, p.186, 2016.9
- 石川宏之 : 火山災害後の復興まちづくりで災害遺構の価値を見出す官民学の協働体制と大学関係者の役割—洞爺湖温泉地区における 560 万人の観光地づくりを考えるワークショップを事例として—, 日本建築学会大会, 広島工業大学, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.85-88, 2017.8
- 石川有三, 2016, 震源域データの作成—世界版—, JpGU2016 大会予稿集 SSS30-04, 幕張 5/25
- 石川有三, 2016, 熊本地震の特徴, JpGU2016 大会予稿集 M-IS34-P003, 幕張 5/25
- Ishikawa, Y., 2016, Compiling The Source Area Data Of Large Earthquakes In The World, SE25-A013, 8/2. SE25-D2-PM1-402A(L4S)-006 (SE25-A013) AOGS Beijing
- 石川有三, 2016, 地震と火山の同時表示でわかること—フィリピンの場合—, 第 3 回「巨大地

- 震と火山活動」研究会,山形 9/20
- 石川有三,2016,大地震前後の地震活動変化について,日本地震学会秋季大会,S19-02 名古屋 10/5
- Ishikawa, Y., 2016,Checking the relation between volcanic eruptions and large earthquake activity in and around Philippine, ASC2016,Melbourne, Nov.27.
- Ishikawa, Y., 2017,Difficulty of the determination of hypocenters in early 20 century,British Seismological Meeting 2017, Reading, England April 6.
- 石川有三,2017,イタリアの地震と地震空白域, JpGU2017 大会予稿集 SSS14-03,幕張 5/21
- Ishikawa, Y., 2017,Difficulty of the determination of hypocenters in early 20 century, AOGS2017, Singapore August 9.
- Ishikawa, Y., 2017,Redetermination of several hypocenters of the Utsu catalog in Taiwan area (1906-1925),The 16th Japan-Taiwan International Workshop on Hydrological and Geochemical Research for Earthquake Prediction, Sep. 5 in Taipei
- Ishikawa, Y., 2018,Redetermination of deep hypocenters in the Utsu catalog,The 12th General Assemmbly of Asian Seismological Commission, May 14, Chengdu, China
- 石井輝秋・Patricia Fryer・高橋聡・松崎琢也(2017):「しんかい」湧水域(Shinkai Seep Field)及びコニカル海山産ホワイトチムニーの内部構造;CT スキャンと XRF マッピングによる非破壊的観察、ブルーアースサイエンス・テク、横浜市横浜港大さん橋ホール、BEST18-P059、2018/01/16 (火)、(ポスター発表)。
- 伊藤 巽・小笠原 慎・平野 陽豊・鈴木 彦文・不破 泰・小松 満・草野 健一郎・渡辺 実・二川 雅登,” 斜面崩壊予知に向けた半導体型インピーダンスセンサの土壤密着性向上に関する研究”, 電気学会E部門ケミカルセンサ研究会,東京電機大学,東京都足立区,2016年11月30日
- 岩堀卓弥・矢守克也・飯尾能久・米田格・城下英行:防災教育における「参加型」・「伝達型」モデルの関係性,日本災害情報学会第19回学会大会,2017/10/21-22.
- 岩堀卓弥・岡本拓夫・矢守克也:学校の校舎での地震観測を活用した防災教育,第36回自然災害学会学術講演会,2017/9/27.
- Iwahori, I. and Yamori,K. : Practice of disaster education based on legitimate peripheral participation theory: A new approach to leaning. The 7th International Conference on Integrated Disaster Risk Management. Abassi Hotel, Isfahan, Iran. Oct, 2, 2016,
- Iwahori, T., Yamori, K., Shiroshita, H., Iio, Y., and Yoneda, I. : Reconstructing disaster education based on legitimate peripheral participation theory: A new model of disaster science communication. 第35回自然災害学会学術講演会,2016/9/20.
- 岩井久美子・瀧 和夫・楠田 隆・田村嘉之・近藤昭彦・濱 侃・堀江政樹(2017.10.13): 印旛沼流域の谷津における窒素自浄作用に関する調査、日本地下水学会秋季講演会(弘

前大学)

岩瀬裕斗・生田領野, 沈み込み帯の標高-重力異常の分布と力学的考察, 日本地球惑星科学連合大会 2017, 2017 年 5 月

石田喜美・岡部大介・石幡愛・李勇昕・寺島哲平・名城邦孝・関敦央・宮崎雅幸・矢守克也: ゲームによるインターローカリティのデザインーコミュニティの越境・横断と対話の場の創出ー, 日本質的心理学会第 14 回大会, 2017/9/9.

Izumi, Y., and Kazutaka Iwasaki : FEASIBILITY OF DISASTER NATURAL RISK ANALYSIS BY PLACE NAMES, International Symposium on Remote Sensing 2018(ISRS2018) Pyeong Chang, Koera, 2018 年 5 月 9-11 日

泉友太・岩崎一孝: 地名を利用した自然災害リスク分析の検討, 平成 29 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2018 年 3 月 3 日

Jaboyedoff, M., Chigira, M., Arai, N., D., M.-H., Thierry, O., Ivanna, P., Benjamin, R. and Tsou, C.Y., 2017. 3D failure surface and volume estimation of large rock slope instabilities: a review of a bottleneck problem. In: M. Chigira and G. Wang (Editors), 4th Slope Tectonics 2017, Kyoto, pp. 30.

菅野拓矢, 石橋秀巳, 外西奈津美, 安田敦 (2017) 富士火山, 2500 年前の S-18 サブプリニー式噴火のプレ噴火プロセス. 日本火山学会 2017 年秋季大会.

狩野謙一, 伊藤谷生, 渡辺俊樹, 小田原啓, 山本玄珠, 藤原明, 阿部進: 富士川河口断層帯における 2014 年度浅部高分解能地下構造探査の結果報告, 日本地質学会第 123 年学術大会, 2016 年 9 月.

金子純二・町田嗣樹・安川和孝・飯島耕一・大田隼一郎・藤永公一郎・石井輝秋・中村謙太郎・加藤泰浩 (2017) : 音響探査機器を搭載した有人潜水調査船「しんかい 6500」による南鳥島周辺マンガノジュールの潜航調査. 海洋調査技術学会第 29 回研究成果発表会、日本大学理工工学部駿河台キャンパス、2017 年 11 月 6 日 (月) (口頭発表) .

笠原順三・アルダメハレッド・アルアネジグナウム・村瀬圭・上村彩・藤本理・大沼寛・羽佐田葉子:ACROSS Refraction study for the interpretation of time-lapse data in Al Wasse field, Saudi Arabia,物理探査学会発表,2016 年 5 月.

笠原順三・アルダメハレッド・アルアネジグナウム・村瀬圭・上村彩・藤本理・大沼寛・羽佐田葉子:Time-lapse observation in Al Wasse field in Saudi Arabia using ACROSS seismic source and its interpretation,物理探査学会発表,2016 年 5 月.

笠原 順三・羽佐田 葉子:Time-lapse imaging simulations using a few ACROSS seismic sources and sparse receiver spacing for oil/gas reservoirs,地球惑星連合大会,2016 年 5 月.

笠原 順三・Al-Aneezi Ghunaim・Al Damegh Khaled・村瀬 圭・大沼 寛・藤本 理・上村 彩・羽佐田 葉子:サウジアラビア Al Wasse 地域におけるタイムラプスデータの解釈のためのアクロス屈折法調査,地球惑星連合大会,2016 年 5 月.

- 笠原 順三・Al Damegho Khhaled・Al-Anezi Ghunaim・村瀬 圭・上村 彩・藤本 理・大沼 寛・羽佐田 葉子:超安定震源を用いたサウジアラビア Al Wasse におけるタイムラプス観測とそのデータ解析,地球惑星連合大会,2016年5月.
- Kasahara, J. et al. Time-Lapse Imaging of Heavy Oil Reservoirs at Shallow and Deep Using Ultra-Stable Seismic Sources, AAPG(アメリカ石油地質学会 2016年大会, Calgary, Canada), 2016年6月.
- 笠原順三・羽佐田葉子・藤井直之・上村彩・牛山素行:地震探査用震源を用いたタイムラプス連続観測における再現性の検討, 物理探査学会秋季大会, 2016年10月.
- 笠原順三・Aldamegh Khaled・Al-Anez Ghunaim・羽佐田葉子・村瀬圭・上村彩・藤本理・大沼寛:Repeatability estimation of ACROSS in Al Wasse field, Saudi Arabia, 物理探査学会秋季大会, 2016年10月.
- Kasahara, J., K. Al Damegh, G. Al-Anezi, F. Almalki, K. AlYousef, I. Alrougy, O. Alrougy, K. Murase, A. Kamimura, R. Kubota & Y. Hasada, Long Duration Time-lapse Experiment in Al Wasse, Saudi Arabia Using an Ultra-stable Seismic Source, EAGE(ヨーロッパ物理探査学会), 2017年3月.
- Kasaahra et al., Repeatability Evaluation of the Time-Lapse Technology Using Ultra-Stable Seismic Source, AAPG Annual meeting, 2017年4月.
- 笠原 順三・羽佐田 葉子:Simulation and field studies of the seismic time lapse by ACROSS methodology,地球惑星連合大会,2017年5月.
- 笠原 順三・羽佐田 葉子・Aldamegh Khaled・Al-Anezi Ghunaim・村瀬 圭・上村 彩・藤本 理・大沼 寛:Repeatability of time-lapse measurements using ACROSS in Saudi Arabia,地球惑星連合大会,2017年5月.
- Kasahara, J., et al. Seismic time lapse and imaging technology in EOR application using ultra-stable seismic source called ACROSS,SEG workshop: Reservoir engineering and geophysical monitoring technology for EOR application, 2017年5月.
- Kasahara, J., et al. Simulation approach for the time-lapse imaging of CO2 injected zones using a few seismic sources and a geophone array, EAGE/SEG Research Workshop 2017 28-31 August 2017, Trondheim, Norway EAGE/SEG workshop, 2017年8月.
- 笠原順三・三ヶ田均・高市和義・山口隆司:超臨界地熱開発におけるモニタリングとシミュレーション,日本地熱学会 函館大会,2017年10月.
- Kasahara et al., Imaging of Supercritical Geothermal Reservoir Using Full Waveform Inversion Method, DESCRAMBLE Final Conference, Pisa, Italy, 2018年3月28日.
- Kasahara et al., Quality Evaluation of Optical Fiber DAS and Geophones Applying to Geothermal resources, DESCRAMBLE Final Conference, Pisa, Italy, 2018年3月28日.

- Kawana, K., Sumino, H., Yamane, K., Mori, T., Shimizu, A., Notsu, K., and Hernandez, P. A., Long-term monitoring of helium isotope ratio of volcanic gas and hot spring water at Izu-Oshima volcano, Japan. Goldschmidt 2017 (05g-2177), Paris (France). 16 August, 2017.
- 川名華織、角野浩史、山根康平、森俊哉、清水綾、野津憲治、Hernandez Pedro, 伊豆大島における火山ガス、温泉水中に含まれるヘリウム同位体比の連続観測. 日本地球化学会年会 (2B02)、東京、2017年9月14日
- 河田慈人・矢守克也・竹之内健介：「地域気象情報」を中心に「主体性」に着目した防災教育の展開, 日本災害情報学会第19回学会大会, 2017/10/21-22.
- 河田慈人・竹之内健介・矢守克也：「我がこと」として考えられる防災・減災教育の展開, 第36回自然災害学会学術講演会, 2017/9/27.
- 河田慈人・竹之内健介・矢守克也：「主体的な学び」を目指した防災・減災教育「地域気象情報」を軸とした防災・減災教育実践育, 日本理科教育学会第67回全国大会, 2017/8/6
- Kawata, Y., Takenouchi, K., and Yamori, K.: Education for disaster reduction through "Local Weather Information" at Miyagawa Junior High School. 第35回自然災害学会学術講演会, 2016/9/20.
- Kazama, S., Masahiro AKIMA, Adaptation Effect for Flood in Whole Using GCMs with Scenarios, HS14-D4-AM1-327-006 (HS14-A019), AOGS, Singapore, 2017.8.10.
- Kazama, S., Masayoshi Akima, and Yasuaki Hijioka, Adaptation effect for flood in whole Japan using GCMs with scenarios, XVI World Water Congress, RS-11, pp.1-8, Cancun, Mexico, 2017.6.2.
- 風間聡, 平成27年9月東北豪雨における迫川水系の被害, 土木学会東北支部技術研究発表会, 盛岡, 2016.3.5.
- 木村 圭司(2016)：モンゴルの降水の季節変化. 2016年度北海道地理学会春季学術大会（北海学園大, 2016年6月26日）
- Kimura, K. (2016): Low pressure and rainfall around Mongolia in summer. Europe Meteorological Society 2016 in Trieste, ITALY(on September 14th, 2016)
- 木村 圭司(2017)：夏季における中央アジアの低気圧移動と降水メカニズム. 2017年度北海道地理学会春季学術大会（北海学園大, 2017年6月25日）
- 北村晃寿 伊豆諸島四島の後期完新世の地殻変動・津波・高潮 日本地質学会（2017年9月）愛媛大学 日本地質学会
- 北村晃寿 伊豆諸島に見られる海生生物遺骸の固着した「打ち上げ巨礫」 日本第四紀学会（2017年8月）福岡大学 日本第四紀学会
- 北村晃寿, 今井啓文, 宮入陽介, 横山祐典, 井龍康文 東京都三宅島における離水した海洋固着生物化石の発見 日本古生物学会（2017年6月）北九州市立自然史・歴史博物館 日本古生物学会

北村晃寿, 三井雄太, 宮入陽介, 横山祐典, 徳田悠希 中部日本, 北部錢洲海嶺上に位置する伊豆諸島北部の後期完新世の隆起: 西暦 1498 年明応地震の波源域の含蓄, JpGU-AGU Joint Meeting 2017 (2017 年 5 月) 幕張メッセ 日本地球惑星科学連合.

北村晃寿, 今井啓文, 宮入陽介, 横山祐典, 徳田悠希 伊豆諸島神津島の後期完新世の隆起 単体サンゴ 日本古生物学会第 166 回例会 (2017 年 2 月) 早稲田大学

北村晃寿 南海トラフ・相模トラフにおける海溝型地震に関する研究 地球環境史学会 (2016 年 11 月) 地球環境史学会 早稲田大学

北村晃寿 静岡県焼津平野の完新統の解析に基づく安政東海型地震の発生について, 日本地質学会 (2016 年 9 月) 日本大学.

北村晃寿, 池上直樹, 真鍋 真, 前田晴良 熊本地方の地震による熊本県内の博物館の被害状況 日本地球惑星科学連合大会 (2016 年 6 月) 千葉県千葉市幕張メッセ・日本地球惑星科学連合

北村晃寿 貝化石群集解析・堆積相解析に基づく静岡県焼津市浜当日低地の古津波・古地震の履歴 日本古生物学会年会 (2016 年 6 月) 福井県立大学, 日本古生物学会

北村晃寿 静岡県志太野の津波堆積物 日本地球惑星科学連合大会 (2016 年 5 月) , 千葉県千葉市幕張メッセ, 日本地球惑星科学連合.

小枝 信幸・前田 恭伸: 東日本大震災における被災地の福祉避難所についての研究, 平成 29 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2018 年 3 月.

小松拓海, 橋本 岳, 松原真治, 大石裕也, 坂口祐一: 三次元画像計測による切土法面の連続計測結果の報告, 2017 年電子情報通信学会総合大会, D-11-7, 2017/3/22.

香味建・生田領野・HY. Chen, C-H. Lin, Y. Hsu・安藤雅孝, 沖縄トラフ西端における海底地殻変動観測, 日本地球惑星科学連合大会 2017, 2017 年 5 月

近藤昭彦(2017.5.22): 超学際研究の実現における課題、JpGU-AGU Joint Meeting 2017(幕張メッセ国際会議場)

近藤昭彦、濱 侃、田中 圭(2017.5.21): UAV による課題解決型リモートセンシングの推進[招待講演]、JpGU-AGU Joint Meeting 2017(幕張メッセ国際会議場)

河野卓成、Sandhya Mehrotra、遠藤千夏子、松田真実、木村浩之、蓮沼誠久、横田明穂、松村浩由、蘆田弘樹. アーキアに発見した光合成カルビンサイクルの進化的原型経路. 日本農芸化学会 2017 年度大会、京都、2017 年 3 月.

小杉素子(静岡大学)・渡部幹(モナッシュ大学マレーシア校) 情報の非対称が存在する二者間における監視の効果, 日本社会心理学会第 58 回大会: 広島大学, 2017 年 10 月

小杉素子(静岡大学)・馬場健司(東京都市大)・田中充(法政大学) 気候変動リスクに対する態度による日本人のセグメント, 土木学会第 45 回環境システム研究論文発表会: 大阪大学, 2017 年 10 月

小杉素子(静岡大学)・馬場健司(東京都市大) 農業分野における気候変動適応策に対する態度: 関与度と熟議の効果, 環境科学会 2016 年会: 東京都市大, 2016 年 9 月

- 小杉素子(静岡大学)・須山由佳子(有限会社キャリアアップ) 従業員の経営理念に対する理解と職場満足に関する検討, 産業・組織心理学会第 32 回大会: 立教大学, 2016 年 9 月
- 小山真人・早川由紀夫: 噴火史からみた伊豆大島噴火の類型・成因と 1986 年噴火の意味. 東京大学地震研究所共同利用研究集会「伊豆大島, 三宅島の次回の噴火を考える」, 2017 年 12 月 25~26 日, 東京
- 小山真人: 箱根山の火山防災と 2015 年噴火. 日本地球惑星科学連合 2017 年大会, SVC49-05, 千葉市, 2017 年 5 月
- 小山真人・早川由紀夫: 噴火史からみた伊豆大島噴火の類型・成因と 1986 年噴火の意味. 日本地球惑星科学連合 2017 年大会, SVC51-P02, 千葉市, 2017 年 5 月 発表ポスター
- 小山真人: 南海トラフ地震と連動する火山噴火の可能性と定量的評価. 静岡県立大学グローバル地域センターワークショップ「南海トラフ地震の予測に必要な観測・研究は何か」, 2017 年 2 月 1 日, 静岡
- 小山真人・石橋秀巳・鈴木雄介: 宝永火口で見る富士山の成り立ちと噴火. 日本火山学会 2016 年秋季大会, A1-02, 富士吉田, 2016 年 10 月
- Koyama, M., Suzuki, Y, Sasamoto, S., and Kato, K.: Mysterious connection among a fossil lake, landslides, volcanoes and a local folktale: an interdisciplinary geostory of the Izu Peninsula Geopark, Japan. 7th UNESCO International UNESCO Conference on Global Geoparks, Theme 6: Conservation, Science and Research, Torquay (United Kingdom), September, 2016
- 小山真人: 静岡県周辺の大規模火山災害と低頻度巨大災害リスクの定量評価. 日本地質学会中部支部 2016 年支部年会シンポジウム, 静岡, 2016 年 6 月
- Kubota, R., Yasuyuki Suzuki, Tomoyuki Moriyama, Hitoshi Sugimoto, Yasunobu Maeda: Accuracy enhancement in an App , a Tsunami evacuating simulating game: Especially focusing on altitude detection by using RTK-GNSS method, Society for Risk Analysis Asia Conference 2018, 2018 年 3 月.
- 國友孝洋, 山岡耕春, 石井紘, 浅井康広, 渡辺俊樹: 弾性波アクロスによる S 波走時変化観測から推定される地下坑道閉鎖後の地下水とクラックの挙動, 日本地球惑星科学連合 2016 年大会, 2016 年 5 月.
- 國友孝洋, 山岡耕春, 渡辺俊樹, 浅井康広, 石井紘: 弾性波アクロスによる P 波および S 波速度変化観測から推定される地下坑道閉鎖に伴う地下水とクラックの挙動, 日本地震学会 2016 年秋季大会, 2016 年 10 月.
- 國友孝洋, 山岡耕春, 渡辺俊樹, 浅井康広, 石井紘: 地下坑道の 2 段階の再冠水に伴う P 波速度および S 波速度の変化, 日本地球惑星科学連合 2017 年大会, 2017 年 5 月.
- 李フシン・矢守克也: 地区防災の主役は誰なのかー台湾の「土石流防災専員」を事例にー, 地区防災計画学会第 4 回大会, 2018/3/3
- 李 勇昕・杉山高志・矢守克也: 「逃げトレ」の活用法に関する研究, 日本災害情報学会第

- 19 回学会大会, 2017/10/21-22.
- 李勇昕・矢守克也：復興支援とは言わない復興支援－茨城県大洗町の「ガルパン」を事例に－, 災害復興学会 2017 年度神戸大会, 2017/10/1.
- 李勇昕・矢守克也：地域防災における課題の克服に向けて～台湾における「土石流防災専員」と行政の関係性を事例に～, 第 36 回自然災害学会学術講演会, 2017/9/27.
- 李勇昕・矢守克也：「X がない、Y が X です」の意味とは何か～高知県黒潮町を事例に～, 日本質的心理学会第 14 回大会, 2017/9/9.
- Lee, F. and Yamori, K. : How to Facing Disasters? Meanings of Game-based Disaster Education Tools. Joint Scientific Assembly of the International Association of Geodesy (IAG) and International Association of Seismology and Physics of the Earth' s Interior (IASPEI), Kobe, 2017/8/3.
- 李勇昕・孫英英・杉山高志・矢守克也・鈴木進吾・西野隆博・ト部兼慎, スマホアプリを用いた津波避難訓練の開発と課題（その 1）～概要と特徴～, 日本災害情報学会第 18 回学会大会, 2016/10/22.
- 李フシン・孫英英・杉山高志・矢守克也・鈴木進吾・西野隆博・ト部兼慎：避難訓練支援アプリ「逃げトレ」の開発（その 1）～その概要と特徴～, 日本グループ・ダイナミックス学会第 63 回大会, 2016/10/10.
- 李フシン・矢守克也：東日本大震災における持続可能な復興とは何か～茨城県大洗街の復興過程を例に～, 日本質的心理学会第 13 回大会, 2016/9/25.
- 李フシン・矢守克也：地域防災人材の主体性とは何か～台湾の「土石流防災専員」を事例に～, 第 35 回自然災害学会学術講演会, 2016/9/20.
- 李志鵬, 前田真孝, 秦康範：山梨県ならびに甲府市の浸水想定区域内人口の推移, 土木学会関東支部技術研究発表会, 45, IV-79, 2018.3
- 町田嗣樹・飯島耕一・下村遼・安川和孝・藤永公一郎・野崎達生・金子純二・大田隼一郎・山本浩文・高谷雄太郎・石井輝秋・佐藤太一・中村謙太郎・加藤泰浩、(2016)、南鳥島 EEZ 南東部全域に分布するマンガンノジュール～YK16-01 航海速報～、日本地質学会学術大会（桜上水大会）講演旨.
- 前田真孝, 秦康範：山梨県の浸水想定区域内人口の推移, 地域安全学会梗概集, No.41, , 2017.11
- Maeda, Y., Ryoma Masuda: Simulation of reconstruction of the affected area of 2011 Great East Earthquake, Society for Risk Analysis 2017 Annual Meeting, 2017 年 12 月.
- Maeda, Y. : Resilience, population, and economy: findings from a simulation of reconstruction from 2011 Great East Japan Earthquake, Society for Risk Analysis 2017 Annual Meeting, 2017 年 12 月.
- 前田 恭伸：どこから手をつけるか？：リスクマネジメントにおける評価関数の比較, 2017

- 年度第 30 回日本リスク研究学会年次大会, 2017 年 10 月.
- Maeda, Y. , Gosuke Muramatsu: Comparison of evaluation functions for setting priority of risk management, Society for Risk Analysis 2016 Annual Meeting, 2016 年 12 月.
- 前田 恭伸, 市川怜, 浅野敏久, 犬塚裕雅, 根本和宜: 環境ボランティア獲得における SNS 利用に関する調査, 環境科学会 2016 年会, 2016 年 9 月.
- 前田裕太, 山岡耕春, 渡辺俊樹, 地震活動域の能動監視のための自然地震と規則的人工シグナルの分離, 日本地震学会 2016 年秋季大会, 2016 年 10 月.
- 前田裕太, 山岡耕春, 渡辺俊樹, 國友孝洋, 宮町宏樹, 八木原寛, 井口正人, 為栗健: 桜島火山噴火前後の地震波伝播特性変化の 1 次散乱による解釈, 日本火山学会, 2017 年 9 月
- 眞柄健太, 松下 慎, 石川修伍, 平田悠一郎, 木村浩之. 沖縄本島南部に分布する付加体の深部帯水層におけるメタン生成メカニズム. 日本地球惑星科学連合 2016 年大会, 千葉, 2016 年 5 月.
- 眞柄健太, 松下 慎, 佐藤 悠, 石川修伍, 新里尚也, 木村浩之. 沖縄本島に分布する付加体の深部帯水層におけるメタン生成メカニズム. 日本微生物生態学会第 31 回大会, 横須賀, 2016 年 10 月.
- Magara, K., Makoto Matsushita, Yu Sato, Hiroyuki Kimura. Evidence of microbial methane generation in the deep aquifer of accretionary prism in southern Okinawa Island, Japan. 2017 International Symposium toward the Future of Advanced Researches in Shizuoka University. Shizuoka. 2017.2.
- 眞柄健太, 松下 慎, 佐藤 悠, 木村浩之. 沖縄本島の深部帯水層に生息する地下圏微生物とメタン生成. 第 18 回静岡ライフサイエンスシンポジウム, 静岡, 2017 年 3 月.
- 丸林 創, 荻 祐太郎, 松下 慎, 石川修伍, 木村浩之. 付加体の地下圏微生物によるメタン生成プロセスと分散型エネルギー生産システムの創成. 日本微生物生態学会第 31 回大会, 横須賀, 2016 年 10 月.
- 丸谷浩明, 佐藤 健, 柴山明寛: 大学の業務継続計画の要点及び策定方法に関する考察—東北大学本部事務機構の BCP 策定を踏まえて—, 地域安全学会梗概集, 43-46, 2016/5
- 増田謙・牛山素行: ローカル放送局の防災番組におけるタイトルの傾向に関する調査, 平成 29 年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集, pp.12-13, 2018 年 3 月 3 日.
- 増田俊明, 大森康智, 西脇伸, 松村太郎次郎, 桑谷立. メタチャート中の紅簾石の幅と縦横比: 2 変量対数正規分布による定量化. 日本地質学会第 123 年学術大会. 2016 年 9 月 10 日.
- 増井健志, 横田優至, 経隆悠, 今泉文寿, 堀田紀文, 早川裕弐, 逢坂興宏, 土屋智 (2017/5/24) 荒廃溪流源頭部において地形要因が土石流の流動特性へ与える影響, p.479-480, 奈良市, 奈良春日野国際フォーラム
- 増井健志, 今泉文寿, 土屋智, 逢坂興宏 (2016/5/18) 降雨パターンが荒廃溪流源頭部での土石流流動特性に与える影響, 平成 28 年度砂防学会研究発表会概要集, A146-147, 富山市, 富山県民会館

- 松本武士, 廣井悠, 福和伸夫: 空間経済学に基づく福島県における産業復興政策の人口流出抑制効果の分析, 日本建築学会・大会学術講演梗概集, 2016.08.
- 松村太郎次郎, 増田俊明. Inverse Batschelet 分布を用いた鉱物粒子配列データの統計学的記述. 日本地質学会第 123 年学術大会. 2016 年 9 月.
- 松村太郎次郎, 増田俊明. 順モデルによるマイクロブーディン構造を呈する粒子群データの再現: 簡易マイクロブーディン応力計の提案. 日本地球惑星科学連合 2016 年大会, 2016 年 5 月 22 日.
- 松下 慎, 石川修伍, 平田悠一郎, 眞柄健太, 木村浩之. 付加体の深部帯水層における CH₄ と N₂ の生成プロセスの地域特性. 日本地球惑星科学連合 2016 年大会, 千葉, 2016 年 5 月.
- 松下 慎, 石川修伍, 眞柄健太, 光延 聖, 木村浩之. 付加体の深部帯水層におけるメタン及び窒素ガス生成プロセスの地域特性. 日本微生物生態学会第 31 回大会, 横須賀, 2016 年 10 月.
- 松下 慎, 木村浩之. 付加体の深部帯水層におけるメタンおよび窒素ガス生成プロセスの地域特性. 静岡大学グリーン科学技術研究所-第 3 回シンポジウム 2016-, 静岡, 2016 年 11 月.
- Matsushita, M., Hiroyuki Kimura. Regional variation of CH₄ and N₂ production processes in the deep aquifers of an accretionary prism. 2017 International Symposium toward the Future of Advanced Researches in Shizuoka University. Shizuoka. 2017.2.
- 松本悠花, 権田豊, 宮田秀介, 堤大三, 長谷川祐治, 中谷加奈, 今泉文寿 (2017/5/24) Step-Pool の存在する溪流における土砂流下過程の検討, p.476-477, 奈良市, 奈良春日野国際フォーラム
- 松本悠花, 権田豊, 長谷川祐治, 宮田秀介, 堤大三, 今泉文寿 (2016/5/18) Step-Pool の存在する山地溪流における流砂量の実測値と流砂量式による推定値の比較, 平成 28 年度砂防学会研究発表会概要集, A78-79, 富山市, 富山県民会館
- 道林克禎・Fryer Patty・前川寛和・石井輝秋 (2017): 前弧マントルのフェアブリック〜マリアナ収束域蛇紋岩海山かんらん岩の構造岩石学〜、日本地球惑星科学連合 2017 年大会 (幕張メッセ) [MIS22-17] 2017 年 5 月 25 日(木)、 口頭発表
- 三井 雄太: 平行する複数のすべり面の弾性相互作用に関する数値実験, 日本地震学会 2017 年度秋季大会, 2017/10/26.
- 三井 雄太, 森上 竣介: Elastic net 正則化による地殻変動インバージョン解析のテスト, 日本測地学会第 128 回講演会, 2017/10/4.
- 三井 雄太, 小長井 駿: 重力の時間変化と火山噴火(VEI4 以上)の時期との関係性, 日本測地学会第 128 回講演会, 2017/10/4.
- Mitsui, Y., Kosuke Heki: About 38mHz (26 s) oscillation in northeastern Japan after the

- 2011 Tohoku megathrust earthquake, IAG-IASPEI Joint Scientific Assembly 2017, 2017/8/3.
- Mitsui, Y., Kyohei Yamada: Correlation between annual gravity changes monitored by GRACE and background seismicity rates, AGU 2016 Fall Meeting, 2016/12/16.
- 三井 雄太, 山田 京平: GRACE でモニターされてきた重力の時間変化と背景地震活動度との間に潜む相関, 日本測地学会第 126 回講演会, 2016/10/21.
- 三井 雄太: 断層力学・モデリングに基づく震源過程の多面的研究, 日本地震学会 2016 年度秋季大会, 2016/10/5.
- 三井 雄太・山田 京平: グローバルスケールでの重力の時間変化と背景地震活動度との関係, 日本地震学会 2016 年度秋季大会, 2016/10/5.
- 三井 雄太, 片岡 純: ETAS パラメータの推定アルゴリズムによるバラつき, 日本地球惑星科学連合 2016 年大会, 2016/5/25.
- Miyake, K., Keiji Fushimi, Ni-Ni-Win, Hiroyuki Kimura, Masakazu Sugishima, Masahiko Ikeuchi, and Rei Narikawa. Dihydrobiliverdin as a chromophore for cyanobacteriochromes from chlorophyll d-bearing cyanobacterium *Acaryochloris marina*. 17th International Conference on the Tetrapyrrole Photoreceptors of Photosynthetic Organisms (ICTPPO), Chicago, USA. 2017.7.
- 宮田秀介, 長谷川祐治, 堤大三, 今泉文寿, 権田豊, 三浦直子, 浅野友子, 山野井一輝 (2016/5/18) 山地溪流における河川地形変動・流砂観測手法の比較検討に向けてー現地給砂実験での同時計測ー, 平成 28 年度砂防学会研究発表会概要集, A76-77, 富山市, 富山県民会館
- 森 康, 井浦一, 石橋秀巳 (2016) 福岡県産オパサイト (角閃石) 玄武岩の全岩化学組成: 考古学への応用. 日本鉱物科学会 2016 年年会.
- Morishita, Y., Ikuma, J. and Shibue, Y. (2016) Genesis of the Takatori tungsten-quartz vein deposit, Japan, 26th V. M. Goldschmidt Conference, Yokohama, Japan, 2016.6.26.
- 森山聡之・牛山素行: 平成 29 年 7 月九州北部豪雨における累加雨量と災害発生の関係について, 自然災害研究協議会西部地区部会報 No.42, pp.53-54, 2018 年 2 月 2 日.
- 森保文, 根本和宜, 浅野敏久, 犬塚裕雅, 前田恭伸: ボランティア募集における SNS への期待と現状ー環境活動団体の認識ー, 環境科学会 2017 年会, 2017 年 9 月.
- 本山洸矢, 前田真孝, 秦康範: 埼玉県の浸水想定区域内人口の推移, 土木学会関東支部技術研究発表会, 45, IV-80, 2018.3
- 向井利明・牛山素行: 大雨警報 (土砂災害、浸水害) 等の住民伝達の現状, 日本災害情報学会第 19 回研究発表大会予稿集, pp.158-159, 2017 年 10 月 21 日.
- 村上将士, 原田賢治, 掛川市が目指す海岸林強化事業における整備条件の検討について, 平成 27 年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集, pp.6-7, 2016.3.5.

- 永田雄一郎, 辻健, 池田達紀, 二宮啓, 渡辺俊樹, 山岡耕春: 小型アクロスの解析手法の開発: 効率的な貯留層マネージメントに向けて, 物理探査学会第 137 回学術講演会, 2017 年 11 月.
- 中居楓子・畑山満則・矢守克也: 対話の共通言語としての津波避難シミュレーションの可能性と限界: 高知県黒潮町における津波避難計画づくりの実践を通じた考察, 地区防災計画学会第 4 回大会, 2018/3/3
- 中元真美, 松本聡, 松島健, 酒井慎一, 山下裕亮, 宮崎真大, 飯尾能久, 岡田知己, 高橋浩晃, 渡辺俊樹, 後藤和彦, 浅野陽一, 清水洋, 2016 年熊本地震合同地震観測グループ: 2016 年熊本地震発生域における緊急合同地震観測—臨時地震観測網の構築—, 日本地球惑星科学連合 2016 年大会, 2016 年 5 月.
- Nakano, G. and Yamori, K. : Comparative analysis of tsunami evacuation drill in Zihuatanejo: Resolving “double bind” situation, Annual Meeting 2017 Mexican Geophysical Union, 2017/10/23.
- 中野元太・諏訪清二・矢守克也: 依存/保護の関係性に見る学校教員の主体性の変容—ネパール・ヌワコット郡における防災教育実践の成果—, 第 36 回自然災害学会学術講演会, 2017/9/27.
- Nakano, G. & Yamori, K. : Long term effect of disaster education observed through 2015 Nepal Earthquake. 8th Conference of IDRiM Society, Reykjavik, Iceland, August 23-25.
- Nakano, G. and Yamori, K. 2017. Ensuring the sustainability of disaster risk reduction education. International Conference Workshop and Field Trip on “Towards Building a Regional Platform for Disaster Risk Reduction in Asia” 2017/8/4
- Nakano, G. and Yamori, K. : Adapting the disaster knowledge for the local context - Practices of Tsunami disaster education in Zihuatanejo city, Mexico. Joint Scientific Assembly of the International Association of Geodesy (IAG) and International Association of Seismology and Physics of the Earth’s Interior (IASPEI), Kobe, 2017/8/3.
- Nakano, G., Sugiyama, T. and Yamori, K. : From “instructors/followers” to “facilitators/implementers” : how can we foster school teachers’ initiative in tsunami evacuation drill? Hazard Assessment of Large Earthquakes and Tsunamis in the Mexican Pacific Coast for Disaster Mitigation. Nara Kasugano International Forum. 2017/7/28
- Nakano, G. and Yamori, K. : Tsunami evacuation drill at school of Zihuatanejo, Mexico: Resolving "double bind" situation, Recent Advances in Earthquake, Tsunami, and Volcano Monitoring, Hazard Evaluation, and Disaster Management in Latin America, Ecuador, 2017/3/14-16.

- 中谷泰三・牛山素行：静岡県東部地域 5 市の津波避難計画の特徴とその背景，平成 29 年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集,pp.20-21,2018 年 3 月 3 日。
- 楠城一嘉，吉田明夫，南海トラフ沿いのフィリピン海スラブ内地震活動の b 値の時空間変化，JpGU-AGU meeting, 2017 年 5 月 20-25 日，幕張メッセ（千葉）。
- 楠城一嘉，吉田明夫，2011 年東北地方太平洋沖地震の震源域の応力は地震前に戻ったか？，JpGU-AGU meeting, 2017 年 5 月 20-25 日，幕張メッセ（千葉）。
- Nanjo, K., Yoshida A, (Invited) Is the b value of foreshocks an effective signature in the prediction of a large earthquake occurrence?, JpGU-AGU meeting, 2017 年 5 月 20-25 日，幕張メッセ（千葉）。
- 楠城一嘉，吉田明夫，2017 年 7 月 11 日の鹿児島湾の地震(M5.3)に先行した b 値の時間変化，日本地震学会 2017 年度秋季大会，2017 年 10 月 25-27 日，かごしま県民交流センター(鹿児島), S14-04.
- Nanjo, K. Z., A. Yoshida, A systematic investigation into b values prior to coming large earthquakes (MR42A-02), 2017 AGU Fall Meeting, 2017 年 12 月 11-15 日，New Orleans (米国)。
- 楠城一嘉，吉田明夫，大地震に先行した b 値の系統的研究，日本地震予知学会第 4 回(2017 年)学術講演会，2017 年 12 月 25-26 日，電気通信大学(東京)，アブストラクト集 p15-16.
- 楠城一嘉，井筒潤，織原義明，古瀬慶博，東郷翔帆，新田 英智，岡田朋大，田中利佳，鴨川仁，長尾年恭，2016 年熊本地震に先行した地震活動，日本地震学会 2016 年度秋季大会，2016 年 10 月 5~7 日，名古屋国際会議場，名古屋(日本)。
- Nanjo, K., Jun Izutsu, Yoshiaki Orihara, Nobuhiro Furuse, Shuto Togo, Hidetoshi Nitta, Tomohiro Okada, Rika Tanaka, Masashi Kamogawa and Toshiyasu Nagao (2016) Seismic activity preceding the 2016 Kumamoto earthquakes: Multiple approaches to recognizing possible precursors, American Geophysical Union, December 12-16, 2016, Oral, NH51C-1968.
- 楠城一嘉，吉田明夫，来るべく南海トラフ地震で期待される“前兆現象”，南海トラフ巨大地震の予測に向けた観測と研究，東京大学，東京(日本)，2016 年 9 月 30 日。
- 楠城一嘉，静岡県立大学・グローバル地域センター・地震予知部門における予知研究と市民啓発活動，地震予知学会第 3 回(2016 年)学術講演会，2016 年 12 月 21-22 日，電気通信大学（東京），アブストラクト集 60 ページ。
- 楠城一嘉，災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画の平成 28 年度成果報告シンポジウム，2017 年 3 月 6-7 日。
- 西口尚希，今泉文寿，土屋智，逢坂興宏（2016/5）SAR 干渉画像を用いた地すべり変動の抽出，平成 28 年度砂防学会研究発表会概要集，B494-495，富山市，富山県民会館
- 西文俊・牛山素行：県域民放テレビ局による避難勧告等の伝達実態，日本災害情報学会第 18 回研究発表大会予稿集,pp.130-131,2016 年 10 月 23 日。

- 西浦直子・岩崎一孝：日本における豪雨発生頻度の地域差と長期変化，平成 29 年度自然災害科学中部地区研究集会，2018 年 3 月 3 日
- 西山成哲・千木良雅弘・鈴木浩一・渡部直喜，2017. 新潟県南部の地すべり密集地帯における高塩濃度地下水の分布 JpGU-AGU Joint Meeting, 幕張, pp. HDS17-06
- 野田利弘・矢守克也・原田賢治：災害対応アプリの開発と情報連携を基盤とする地域防災力の向上～産業集積地・津波リスク想定地のレジリエンス向上～ 地震工学会 2017 年度年次大会, 2017/11/13-14
- Notsu, K., Perez, N.M., Fujii, N., Hernandez, P.A., Mori, T., Padron, E., and Melian, G., Diffuse degassing survey at the Higashi Izu monogenetic volcanic field, Japan. EGU General Assembly (14022), Vienna (Austria). 19 April, 2016
- 小田原啓, 山本玄珠, 狩野謙一, 伊藤谷生, 渡辺俊樹, 藤原明, 阿部進: 富士川河口断層帯、星山丘陵周辺の地質構造 (予察), 日本地質学会第 123 年学術大会, 2016 年 9 月.
- 小笠原 慎・伊藤 巽・平野 陽豊・國井 有巳・渡辺 実・鈴木 彦文・不破 泰・竹下 祐二・小松 満・二川 雅登, “斜面崩壊予知を目指した親水性土壌インピーダンスセンサの開発”, 平成 28 年電気学会 E 部門総合研究会, 金沢市民文化ホール, 石川県金沢市, 2016 年 6 月 29 日-30 日
- 小笠原 慎・伊藤 巽・小松 満・草野 健一郎・渡辺 実・秋田 一平・平野 陽豊・二川 雅登, “シールド電極を用いた半導体型土壌インピーダンスセンサの開発”, 平成 29 年電気学会全国大会, 富山大学 五福キャンパス, 富山県富山市, 2017 年 3 月 15 日-17 日
- 小原泰彦・Robert J. Stern・Fernando Martinez・石井輝秋・奥村知世・布浦拓郎・渡部裕美・川口慎介・矢吹彬憲・平井美穂・高井研・大西雄二・宮嶋佑典・大家翔馬・道林克禎・南澤智美, (2016): 南部マリアナ前弧しんかい湧水域の地質学的背景, ブルーアース 2016, 東京海洋大学 (品川キャンパス), 2016 年 3 月 9 日, 口頭発表, BE16-51.
- Ohara, Y., Robert J. Stern, Fernando Martinez, Teruaki Ishii, Shoma Oya and Katsuyoshi Michibayashi, (2016): Lithospheric structure and composition of the Southern Marianas. 日本地球惑星科学連合大会、幕張メッセ, 千葉市, 2016 年 5 月 23 日、口頭発表、SIT11-11.
- 小原泰彦・奥村知世・Stern Robert・大西雄二・大家翔馬・チェン チョン・渡部裕美・山中寿朗・藤井 昌和・Martinez Fernando・石井輝秋・道林克禎・高井研・Science party for the Shinkai Seep Expeditions (2017): Expeditions to the world's deepest serpentinite-hosted seep system, the Shinkai Seep Field, the southern Mariana forearc. 日本地球惑星科学連合 2017 年大会 (幕張メッセ) [BCG08-01], 2017/5/23 (火)、口頭発表
- 小原泰彦・奥村知世・Robert J. Stern・大家翔馬・藤井昌和・笠谷貴文・F. Martinez・石井輝秋・道林克禎・しんかい湧水域研究グループ一同 (2017): しんかい湧水域を育む

- 南部マリアナ前弧の地質、東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会—
InterRidge-Japan 研究集会、2017/11/27 (月)、千葉県柏市、東京大学大気海洋研究所
(口頭発表)
- 大谷竜・林能成・橋本学・堀高峰・隈本邦彦・川端信正・岩田孝仁・入江さやか, 不確実な
地震予測情報が社会及び個人の防災行動に与える影響に関する調査研究, 日本地震学会
秋季大会, かごしま県民交流センター, 2017年10月26日.
- 大石裕也, 小松拓海, 坂口祐一, 鈴木健太, 福島 淳, 石田篤徳, 山本茂広, 橋本 岳: 自
然マーカーを用いた3次元画像計測の計測範囲拡大及び多数点化に関する基礎的研究,
2018年電子情報通信学会総合大会, D-11-22, 2018/3/21.
- 岡田実樹・岩崎一孝: 防災拠点としての道の駅—静岡県を例として—, 平成29年度自然
災害科学中部地区研究集会, 2018年3月3日
- 岡田夏美・矢守克也: 地域防災における児童館の役割について—黒潮町大方児童館の事例
から—, 地区防災計画学会第4回大会, 2018/3/3
- 岡田夏美・矢守克也: 学校防災教育における教科横断型のカリキュラム構築の研究, 日本災
害情報学会第19回学会大会, 2017/10/21-22.
- 岡田夏美・矢守克也: マップ作成を中心とした地域学習が防災活動にもたらす効果—四万
十町興津小学校を事例として—, 第36回自然災害学会学術講演会, 2017/9/27.
- 岡村龍行, 中村譲治, 原田賢治, 焼津市沿岸地域の南海トラフ地震(東海地震)に関する
住民意識調査—特に避難行動に着目して—, 平成28年度自然災害科学中部地区研究集会予
稿集, pp.16-17, 2017.3.4.
- 奥村知世・高井研・渡部裕美・Chong Chen・大西雄二・山中寿朗・石井輝秋・小原泰彦・
YK13-08・YK14-13・YK15-11 乗船研究者, (2016): しんかい湧水域で発見された炭酸
塩・ブルーサイトチムニーの特徴, ブルーアース 2016, 東京海洋大学(品川キャンパス),
2016年3月9日、口頭発表, BE16-52.
- Okumura, T., Ohara, Y., Stern, R. J., Yamanaka, T., Onishi, Y., Watanabe, H., Chen, C.,
Bloomer, S. H., Pujana, I., Sakai, S., Ishii, T., Takai, K. (2016), Brucite chimney
formation and carbonate alteration at the Shinkai Seep Field, a serpentinite-hosted
vent system in the Southern Mariana Forearc. AGU Fall meeting 2016 (San
Francisco, U.S.A.) 2016年12月, ポスター発表.
- 奥村知世・小原泰彦・大西雄二・山中寿朗・宮崎淳一・山本正治・川口慎介・田角栄二・
松井洋平・渡部裕美・Chong Chen・高井研・YK15-11・KR16-14 乗船研究者一同、
(2017): しんかい湧水域における湧水採集の試みとその結果、ブルーアース 2017、2017
年3月2日、日本大学理工学部駿河台キャンパス口頭発表.
- 大西正光・柳澤航平・矢守克也: 津波シナリオの不確実性を考慮したハザードマップの意
義と作成方法, 第36回自然災害学会学術講演会, 2017/9/27.
- 大西正光・柳澤航平・矢守克也: 地域条件を考慮した津波避難原則選択の方法論, 日本災害

- 情報学会第 18 回学会大会, 2016/10/23.
- 大西正光・柳澤航平・矢守克也：地域条件を考慮した津波避難原則に関する規範的分析, 第 35 回自然災害学会学術講演会, 2016/9/20.
- 小野英樹・岩崎一孝：校歌から考える, 地域と自然環境との関係性, 情報学ワークショップ 2017, 2017 年 11 月 26 日
- Rostanti, D., Fadilah, Yasunobu Maeda: Analysis of Critical Factor for Chance and Risk of Technology based Japanese Startup Companies, Society for Risk Analysis Asia Conference 2018, 2018 年 3 月.
- 佐橋潤, 逢坂興宏, 土屋智, 今泉文寿 (2016/5/19) 胸高直径を指標としたヒノキ人工林における樹木根系分布の推定, 平成 28 年度砂防学会研究発表会概要集, B310-311, 富山市, 富山県民会館
- 斉藤健太, 廣井悠, 福和伸夫：災害時疎開シミュレーションの構築と検証, 災害情報学会第 19 回学会大会予稿集, pp.166-167, 災害情報学会, 2017.10
- 斉藤健太, 廣井悠, 福和伸夫：空き家の活用による災害後の仮住まい住宅の確保に関する研究—疎開シミュレーションを用いた量的検討—, 日本建築学会・大会学術講演梗概集, 2016.08.
- 齋藤未歩・中居楓子・矢守克也・千々和詩織・野嶋太加志・杉山高志・李勇昕：高知県黒潮町における成功事例の分析 (その 1) —地域の特性を生かした地区防災計画の実現—, 第 3 回地区防災計画学会大会, 2017/3/4.
- 坂口祐一, 大石裕也, 松原真治, 小松拓海, 橋本 岳, 山本茂広：3 次元画像計測における計測範囲の広域化のための実験的研究, 2017 年電子情報通信学会総合大会, D-11-9, 2017/3/22.
- 坂本正夫・長谷川美行・狩野謙一・酒井幸雄：赤石山脈、赤石構造帯に発見した黒瀬川帯の構成要素. 日本地質学会 (2016 年 9 月 10 日)
- 桜井愛子, 北浦早苗, 村山良之, 佐藤 健：『復興・防災マップづくり』実践のための手引書の開発, 日本安全教育学会第 18 回岡山大会プログラム・予稿集, 51-52, 2017.9
- 桜井愛子, 北浦早苗, 佐藤 健, 村山良之：『復興・防災マップづくり』プログラムの中学校における適用と課題, 日本安全教育学会第 17 回徳島大会プログラム・予稿集, 64-65, 2016.9
- 佐藤 悠, 藤原健智, 木村浩之. 砂漠の塩湖に生息するアーキアの高温適応 ～リボソーム RNA の G+C 含量に着目して～. 第 2 回 Biothermology Workshop, 東京, 2017 年 12 月.
- Sato, P.H., Chigira, M. and Tsou, C.-Y., 2016. Detection of the 2015 Gorkha earthquake-induced landslide surface deformation in Sunkoshi River watershed, Nepal using InSAR images Japan Geosciences Union Meeting 2016, Makuhari.
- 佐藤 健, 桜井愛子：大崎市立岩出山小学校における地域の教育力を活かした防災教育資料の創造, 日本安全教育学会第 18 回岡山大会プログラム・予稿集, 59-60, 2017.9

- 佐藤 健,桜井愛子,佐藤翔輔,村山良之,北浦早苗:東日本大震災からの復興過程における地域ぐるみによる復興教育の実践とその評価ー石巻市立鹿妻小学校の復興マップづくりにおけるインタビューカードの分析ー,第35回日本自然災害学会学術講演会講演概要集,119-120,2016.9
- 佐藤 健,佐藤大介,菅野正道:防災教育のための地域に根差した歴史資料の価値,日本安全教育学会第17回徳島大会プログラム・予稿集,48-49,2016.9
- 佐藤達樹・千木良雅弘・松四雄騎,2017.平成28年熊本地震により発生した軽石層および火山灰土層をすべり面としたテフラ斜面の崩壊,日本地球惑星科学連合大会2017,幕張.
- 佐藤 悠、藤原健智、木村浩之. ゲノム上に G+C 含量の異なる 2 種類の 16S rRNA 遺伝子を有する好塩性アーキアの温度適応. 日本微生物生態学会第 31 回大会、横須賀、2016 年 10 月.
- 佐藤 悠、藤原健智、木村浩之. ゲノム上に G+C 含量の異なる 2 種類の 16S rRNA 遺伝子を有するアーキアの高温度適応戦略. 第 1 回 Biothermology Workshop -生命システムの熱科学-,岡崎、2016 年 12 月
- Sato, Y., Taketomo Fujiwara, Hiroyuki Kimura. Function of different guanine-plus-cytosine content 16S rRNAs in halophilic archaea at various temperatures. 2017 International Symposium toward the Future of Advanced Researches in Shizuoka University. Shizuoka. 2017.2.
- 佐藤 悠、木村浩之. 原核生物の生育温度に影響する 16S rRNA の二次構造の安定性解析. 第 18 回静岡ライフサイエンスシンポジウム、静岡、2017 年 3 月.
- 篠原 海, 笠井将司, 小林峻平, 穂積伸哉, 橋本 岳:ステレオカメラを用いた広範囲かつ高精度計測に関する基礎的研究,平成28年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会,C3-5,2016/9/13.
- 篠原 海, 小林 峻平, 服部 空生, 橋本 岳:既存構造物の健全度評価の一手法として橋梁の振動計測に関する実験的研究,平成29年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会,G2-2,2017/9/7.
- 篠原 海, 平井正之, 金平徳之, 橋本 岳:高精度屋外ステレオ距離計測技術の建築構造物計測への応用に関する基礎的検討,2018年電子情報通信学会総合大会,D-11-21,2018/3/21.
- 祖父江侑紀・開発一郎・近藤昭彦(2017.11.21):モンゴルにおける草本植物のフェノロジー変動とその要因、日本リモートセンシング学会第63回(平成29年度)秋季学術大会(酪農学園大学)
- 祖父江侑紀・開発一郎・近藤昭彦(2017.9.29):モンゴルにおける草本植物のフェノロジー変動とその要因、日本地理学会秋季大会(三重大学)
- 白濱吉起・宮入陽介・何 宏林・狩野謙一・岡田真介・横山祐典:宇宙線生成放射性核種に

- よるチベット高原北東縁共和盆地の埋積過程の解明 日本地球惑星科学連合(2016年5月)
- 末岡 茂・池田安隆・狩野謙一・堤 浩之・田上高広・KOHN B.P.・長谷部徳子・田村明弘・荒井章司・柴田健二.糸静線南部の活動と赤石山脈北部の隆起・削剥史 低温領域の熱年代と thermo kinematic モデルによる検討. 日本活断層学会秋期大会(2016年10月)
- 末岡 茂・池田安隆・狩野謙一・堤 浩之・田上高広・Kohn, B.長谷部徳子・田村明弘・荒井章司・柴田健二, 低温領域の熱年代学と thermo kinematic モデルに基づいた赤石山脈北部の隆起・削剥史. 日本地球惑星科学連合 (2017年5月)
- Sugawara, D., Assessing tsunami source and magnitude information using sediment transport modeling. Workshop "Sedimentary signature of palaeo-tsunamis", French-Japanese Week on Disaster Risk Reduction, 2017年10月3日, 日仏会館(東京都渋谷区).
- Sugawara, D., Yamada, K., Changing landscape of Miho-no-Matsubara: geological and environmental viewpoints. Cultivating the Fujinology: Mt. Fuji and Nature/Culture in Anthropocene, 2018年3月2日, 富士宮市民文化会館(富士宮市).
- Sugawara, D., Nishimura, Y., Takashimizu, Y., Razjigaeva, N.G., Ganzey, L.A., Lebedev, I., Borisov, R., Tsunami characteristics and sediment deposition in the Primorye coast, Russia, due to the Japan Sea earthquakes: a numerical study. Japan Geoscience Union Meeting 2017, 2017年5月23日, 幕張メッセ(千葉市).
- 菅原大助, 津波堆積物の数値モデリングと地震・津波像の復元. 日本第四紀学会 2017年大会, 2017年8月27日, 福岡大学(福岡市).
- 杉村晃一・牛山素行: 大雨に関する災害危険度認知と避難行動意向～避難情報の対象者絞り込みは住民に伝わるのか, 日本災害情報学会第19回研究発表大会予稿集, pp.154-155, 2017年10月21日.
- 杉村晃一・牛山素行: 沿岸部住民における津波・洪水の危険度認知と避難行動意向, 第35回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.135-136, 2016年9月21日.
- 杉山圭介・岩崎一孝: プロ野球16球団構想への提言 一地理的要因に着目して一, 情報学ワークショップ2017, 2017年11月26日
- 杉山高志・矢守克也: 津波避難訓練への参加数のデータを用いた地区防災計画の効果検証, 地区防災計画学会第4回大会, 2018/3/3
- 杉山高志・矢守克也: 後期高齢者を対象とした屋内避難訓練の分析, 日本災害情報学会第19回学会大会, 2017/10/21-22
- 杉山高志・李 勇昕・矢守克也: 「逃げトレ」の教育効果に関する研究～キャラクターとプレーヤーの視座を用いた分析～, 日本災害情報学会第19回学会大会, 2017/10/21-22.
- 杉山高志・矢守克也: 〈Days-After〉に関する研究(2): 津波を描いた3枚の絵画の分析,

- 日本グループ・ダイナミックス学会第 64 回大会, 2017/9/30.
- 杉山高志・中野元太・岩堀卓弥・矢守克也：中学生の遠地津波についての認識に関する国際比較研究, 第 36 回自然災害学会学術講演会, 2017/9/27.
- 杉山高志・矢守克也：津波災害についての絵画の分析～高知県幡多郡黒潮町を例に～, 日本質的心理学会第 14 回大会, 首都大学東京荒川キャンパス, 2017/9/9.
- Sugiyama, T. & Yamori, K. : How to improve ownership in disaster risk rediction for elderly and people with special needs. Obervation from indoor tsunami evacuation drills in Japan. 8th Conference of IDRiM Society, Reykjavik, Iceland, August 23-25.
- Sugiyama, T. and Yamori, K. : Consideration of the challenges of residents with special needs in tsunami prone area in Japan through implementing indoor tsunami evacuation drills. Joint Scientific Assembly of the International Association of Geodesy (IAG) and International Association of Seismology and Physics of the Earth's Interior (IASPEI), Kobe, 2017/8/3.
- Sugiyama, T. Nakano, G. and Yamori, K. : Why do we need to pass down the narratives of disaster? Hazard Assessment of Large Earthquakes and Tsunamis in the Mexican Pacific Coast for Disaster Mitigation. Nara Kasugano International Forum. 2017/7/27
- 杉山高志、野嶋太加志、矢守克也、李勇昕、中居楓子、千々和詩織、齋藤未歩：高知県黒潮町における成功事例の分析（その 2）—地域の特性が類似する地区間における防災実践の連鎖—, 第 3 回地区防災計画学会大会, 2017/3/4.
- 杉山高志・孫英英・李勇昕・矢守克也・鈴木進吾・西野隆博・ト部兼慎：スマホアプリを用いた津波避難訓練の開発と課題（その 2）～「逃げトレ」を活用した避難訓練の効果検証～ 日本災害情報学会第 18 回学会大会, 2016/10/23.
- 杉山高志・李フシン・孫英英・矢守克也・鈴木進吾・西野隆博・ト部兼慎：避難訓練支援アプリ「逃げトレ」の開発（その 3）～津波避難訓練でのユーザビリティ評価の分析～, 日本グループ・ダイナミックス学会第 63 回大会, 2016/10/10.
- 杉山高志・矢守克也：「Days-Before」の視座による津波被災想定地域の語りの研究：高知県幡多郡黒潮町を例に, 日本質的心理学会第 13 回大会, 2016/9/25.
- 杉山高志・矢守克也・野嶋太加志：家具固定推進における「Days-After」の視点を用いた一考察：高知県四万十町と黒潮町の地域防災を例に, 第 35 回自然災害学会学術講演会, 2016/9/20.
- Sugiyama, T., Yamori, K., and Goltz, J. : Experimental study of perceived level of seismic intensity and actual seismic motion by using minimotion simulator. The 31st International Congress of Psychology, 2016/07/29.
- 杉山高志・矢守克也・黒田真吾：小型地震シミュレータを用いた震度の体感に関する実験的研究, 日本社会心理学会第 57 回大会, 2016/9/18.

- Sumino, H., Yamane, K., Kawana, K., Mori, T., Shimizu, A., Notsu, K., Hernandez, P.,
30-year secular variation in helium isotope ratios in Izu-Oshima volcano.
JpGU-AGU Joint Meeting (SVC51-P06), Makuhari (Japan). 21 May 2017.
- 孫英英・杉山高志・李フシン・矢守克也・鈴木進吾・西野隆博・ト部兼慎：避難訓練支援
アプリ「逃げトレ」の開発（その 2）～社会実装を通じた防災教育アプローチの可能性
～，日本グループ・ダイナミックス学会第 63 回大会, 2016/10/10.
- Sun, Y., Yamori, K., Lee, F., Sugiyama, T., Suzuki, S., Nishino, T., & Urabe, K. : My
drill: A smartphone-based simulation tool for tsunami evacuation. The 7th
International Conference on Integrated Disaster Risk Management. Abassi Hotel,
Isfahan, Iran. Oct, 1, 2016.
- Sun, Y. & Yamori, K. : Action research to promote independent action in disaster risk
reduction. The 31st International Congress of Psychology, 2016/07/25.
- 鈴木彦文・二川雅登・小松 満・アサノ デービッド・不破 泰，“災害時に様々な情報収集
が可能なセンサーネットワークの迅速な展開に関する開発研究 ～ 富山県砺波市と広
島県廿日市における展開事例 ～”，電子情報通信学会 安全・安心な生活と ICT 研究会
(ICTSSL)，東北大学, 宮城県仙台市, 2016 年 6 月 14-15 日,
- Tada, Ryuji, Seki, Arisa, Ikeda, Masayuki, Chuang Xuan et al., Emergence and
evolution of millennial-scale variability in the East Asian summer monsoon over the
last 3 Ma recorded in hemipelagic sediments of the Japan Sea recovered by IODP
Expedition 346, American Geophysical Union Fall Meeting, 2016 年 12 月.
- Takahashi, H., Masayo Minami, Takafumi Aramaki, Hiroyuki Kimura. Radiocarbon
changes of unsterilized water samples during the long-term storage. The Fourteenth
International AMS Conference (ASM14). Ottawa, Canada. 2017.8.
- 高橋 浩、半田宙子、松下 慎、木村浩之. 水試料の溶存無機炭素分析における殺菌処理：
水銀を用いない手法の提案. 日本地球化学会年会第 64 回年会、東京、2017 年 9 月.
- 高橋直也、秦康範：持続可能な自主防災活動を行うためのノウハウと課題抽出の試み，地
域安全学会梗概集，No.41，2017.11
- 竹之内健介・矢守克也・河田慈人：住民によるセルフウェザーゲームの実践手法の検討，第
36 回自然災害学会学術講演会, 2017/9/28.
- Takenouchi, K., Kawata, Y. and Yamori, K. : Trial of risk communication through the
collaboration on weather information, 8th Conference of the International Society for
Integrated Disaster Risk Management in cooperation with NORDRESS Nordic
Centre of Excellence Dimensions of Disaster Risk Reduction and Societal Resilience
in a Complex World, Reykjavik, 2017/8/23-25.
- 竹之内健介・矢守克也・河田慈人・中北英一・田中耕司・中島秀明：住民による気象情報
と対応した地域の災害表現の検討，第 35 回自然災害学会学術講演会, 2016/9/20.

- 田中茂信, 角哲也, 佐山敬洋, 本間基寛: 鬼怒川流域における平成 27 年関東・東北豪雨の
水文解析, 第 35 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp. 47-48, 2016 年 9 月.
- 田中佑希子, 石橋秀巳, 外西奈津美, 安田敦 (2016) 富士火山の斑レイ岩捕獲岩に含まれる
メルト包有物. 日本火山学会 2016 年秋季大会.
- 飛田哲男・河原尚徳・千木良雅弘, 2016. 崩壊性地すべりのすべり面に見られる粘性土の力
学特性, 京都大学防災研究所平成 27 年度研究発表会, 宇治.
- Togashi, S, N.T. Kita, Tomiya, A. and Morishita, Y. (2016) cBSM: A bulk silicate Moon
model enriched in crustal-component, 26th V. M. Goldschmidt Conference,
Yokohama, Japan, 2016.6.26.
- Tsou, C.Y., Chigira, M., Matsushi, Y., Hiraishi, N. and Arai, N., 2017. Coupling fluvial
processes and landslide distribution toward geomorphological hazard assessment: a
case study in a transient landscape in Japan. In: M. Chigira and G. Wang (Editors),
4th Slope Tectonics 2017, Kyoto, pp. 63.
- Tsou, C.Y., Ling, X. and Chigira, M., 2017. A flexural toppling failure in the northern
Central Range, Taiwan JpGU-AGU Joint Meeting 2017, pp. HDS09-10.
- Tsou, C.-Y., Higaki, D., Chigira, M., Yagi, H., Sato, G., Sato, H., Wakai, A., Shintaro, Y.
and Yatagai, A., 2016. Landslide mapping in Nepal: the impacts of the 2015 Gorkha
earthquake and the subsequent monsoon Japan Geosciences Union Meeting 2016,
Makuhari.
- 津布久卓也, 松下 慎, 木村浩之. 地下温水中の微生物群集を利用した水素ガス生成システ
ムの開発. 第 19 回静岡ライフサイエンスシンポジウム、静岡、2018 年 3 月.
- 辻修平, 山岡耕春, 生田領野, 渡辺俊樹, 勝間田明男, 國友孝洋: 森町アクロスを用いた東
海地方下における地震波速度変動の観測, 日本地球惑星科学連合 2016 年大会, 2016 年 5
月.
- Tsuji, S., Ikuta, R., Yamaoka, K., Kunitomo, T., Watanabe, T., Yoshida, Y., Katsumata,
A.: Secular and co-seismic velocity changes in Tokai region detected by ACROSS,
Joint Scientific Assembly of IAG-IASPEI, 2017 年 8 月.
- 辻修平, 山岡耕春, 國友孝洋, 渡辺俊樹, 生田領野, 吉田康宏, 勝間田明男: アクロスを用い
て検出した東海地方における地震波速度の経年変化と地震に伴う変化, 日本地震学会
2017 年秋季大会, 2017 年 10 月.
- 経隆悠, 堀田紀文, 今泉文寿, 早川祐弼, 篠原慶規, 増井健志, 酒井佑一, 西口幸希, 日
名純也 (2017/5/24) 三次元計測技術の土石流研究への適用性と課題, 平成 29 年度砂防
学会概要集, p. 352-353, 奈良市, 奈良春日野国際フォーラム
- 経隆悠, 堀田紀文, 今泉文寿, 早川裕弼 (2016/5/19) 小型無人航空機を用いた大規模崩壊
地における地形変化が土石流に及ぶ影響の検討, 平成 28 年度砂防学会研究発表会概要
集, B94-95, 富山市, 富山県民会館

- 津島俊介・牛山素行：台風の勢力と死者・行方不明者の関係(序報)，日本災害情報学会第18回研究発表大会予稿集,pp.22-23,2016年10月22日。
- 坪内暁子,佐藤 健,内藤俊夫,佐々木宏之,土屋陽子,Fan Chia-Kwung,丸井英二,佐伯 潤,奈良武司,大槻公一：大規模災害時におけるペット同行避難の課題ーペットの多様化で高まる人獣共通感染症リスクー，日本安全教育学会第18回岡山大会プログラム・予稿集,111-112,2017.9
- 牛山素行・横幕早季・杉村晃一：平成28年熊本地震による人的被害の特徴(序報)，第35回日本自然災害学会学術講演会講演概要集,pp.67-68,2016年9月20日。
- 牛山素行：豪雨災害の減少傾向に対する認識について，日本災害情報学会第18回研究発表大会予稿集,pp.26-27,2016年10月22日。
- 牛山素行,2016年台風10号による人的被害の特徴(序報)，平成28年度東北地域災害科学研究集会 講演予稿集,(ページ無し),2016年12月24日。
- 牛山素行・横幕早季：1999～2016年の豪雨災害による人的被害の特徴，第36回日本自然災害学会学術講演会講演概要集,pp.53-54,2017年9月28日。
- 牛山素行・本間基寛・横幕早季・杉村晃一：平成29年7月九州北部豪雨による人的被害の特徴(序報)，日本災害情報学会第19回研究発表大会予稿集,pp.190-191,2017年10月22日。
- Wakai, A., Yagi, H., Sato, G. and Chigira, M., 2017. Finite element simulation for seismic ground response in mountainous areas at the time of 2015 Nepal Gorkha Earthquake JpGU-AGU Joint Meeting 2017, Makuhari, pp. HDS09-03.
- Wang, G., CHIGIRA, M. and SUZUKI, T., 2016. Post shear behavior of pyroclastic fall deposits and landsliding phenomena during the 1949 Imaichi earthquake Japan Geosciences Union Meeting 2016, Makuhari.
- Wang, G., Doi, I., Kamai, T., Goto, S. and Chigira, M., 2017. On the fluidized landsliding phenomena on gentle slopes triggered by the 2016 Kumamoto Earthquake JpGU-AGU Joint Meeting 2017, Makuhari, pp. HDS09-01.
- 渡壁卓磨・松四雄騎・千木良雅弘，2016. 降雨浸透-斜面安定カップリングモデルによる表層崩壊発生過程の復元：2014年広島豪雨災害を例に 日本地球惑星科学連合大会，幕張。
- Yang, W., Bunkei Matsushita, Takehiko Fukushima, Akihiko Kondoh(2017.5.22): Remote Estimation of Euphotic Zone Depth for Turbid Inland Waters: A Case Study in Lake Kasumigaura, Japan, JpGU-AGU Joint Meeting 2017(幕張メッセ国際会議場)
- Wu, X., Yanjun Shen, Akihiko Kondoh(2017.5.22): Estimation of Water Consumption of Winter Wheat in the North China Plain Using Remote Sensing Technology, JpGU-AGU Joint Meeting 2017(幕張メッセ国際会議場)
- 八木浩司・廣瀬悠・檜垣大助・若井明彦・千木良雅弘・佐藤剛・佐藤浩，2016. 2015年ネパ

- ール・ゴルカ地震にともなうボテコシ川流域の斜面災害 日本地球惑星科学連合大会 2016, 幕張.
- 山川陽祐, 藤井修人, 今泉文寿, 逢坂興宏, 堀田紀文, 経隆悠, 後藤優弥, 正岡直也, 小杉賢一朗, 小松正弥 (2016/5/19) 土壌水分計付貫入計 (CPMP) を用いた火山堆積物成層構造探査手法の検討—伊豆大島における事例—, 平成 28 年度砂防学会研究発表会概要集, B98-99, 富山市, 富山県民会館
- Yamamoto, A., Tomoyuki Takahashi, Kenji Harada, Masaaki Sakuraba, Kazuya Nojima, Hydraulic experiment on formation mechanism of tsunami deposit and verification of sediment transport model for tsunamis, 2017 AGU Fall Meeting, NH13B-03, New Orleans, 11 Dec. 2017.
- Yamamoto, A., Tomoyuki Takahashi, Kenji Harada, Masaaki Sakuraba, Kazuya Nojima, Basic hydraulic experiment on tsunami sand deposits related with sand grain size and bore wave, JpGU-AGU Joint Meeting 2017, 23/May, 2017.
- Yamamoto, A., Tomoyuki Takahashi, Kenji Harada, Kazuya Nojima, Hydraulic experiment on tsunami sand deposits relating with grain size distribution and magnitude of incident waves, AGU fall meeting 2016, 13/Dec., 2016.
- 山本順司, 石橋秀巳, 高畑幸平 (2016) 流体包有物を用いたマントルの Redox 推定. 日本地球化学会 2016 年会.
- 山村紀香・林能成, 稍深発地震のためオンサイト警報基準検討, 日本地震学会講演予稿集, S15-P15, 2016 年 10 月 6 日.
- 山岡耕春, 宮町宏樹, 八木原寛, 前田裕太, 渡辺俊樹, 國友孝洋, 生田領野, 為栗健, 清水洋, 渡邊将史, 井口正人: 桜島火山における ACROSS で取得した伝達関数の時間変化 (2015 年 1 月~8 月), 日本地球惑星科学連合 2016 年大会, 2016 年 5 月.
- 山岡耕春, 渡辺将史, 渡辺俊樹, 前田裕太, 國友孝洋, 宮町宏樹, 八木原寛, 為栗健, 生田領野, 井口正人: アクロスで捉えた 2015 年 8 月 15 日桜島マグマ貫入イベントに伴う地震波伝播特性の変化, 日本地球惑星科学連合 2017 年大会, 2017 年 5 月.
- Yamaoka, K., Watanabe, M., Miyamachi, H., Kunitomo, T., Watanabe, T., Yakiwara, H., Maeda, Y., Tameguri, T., Ikuta, R., Iguchi, M.: Temporal change in transfer function using ACROSS associated with magma intrusive event in 2015 in Sakurajima volcano, Japan, Joint Scientific Assembly of IAG-IASPEI, 2017 年 8 月.
- 矢守克也: 「当事者研究」としての地区防災計画, 地区防災計画学会第 4 回大会, 2018/3/3
- 矢守克也・杉山高志・李フシン: 「想定外」への対応とは (その 2) — 「キャラクター」と「プレーヤー」 —, 日本災害情報学会第 19 回学会大会, 2017/10/21-22.
- 矢守克也・杉山高志・李フシン: 「想定外」への対応とは (その 1) — 「コミットメント」と「コンティンジェンシー」 —, 日本災害情報学会第 19 回学会大会, 2017/10/21-22.
- 矢守克也: 〈Days-After〉に関する研究 (1): 「まだ」を「もう」として, 日本グループ・

- ダイナミックス学会第 64 回大会, 2017/9/30.
- 矢守克也・千々和詩織：長期的な視点に立った防災教育の検証・評価に関する考察, 第 36 回自然災害学会学術講演会, 2017/9/28.
- Yamori, K. : Action research towards effective disaster risk communication. 8th Conference of IDRiM Society, Reykjavik, Iceland, August 23-25.
- Yamori, K.: Development of participatory disaster risk communication tools. International Conference Workshop and Field Trip on “Towards Building a Regional Platform for Disaster Risk Reduction in Asia” 2017/8/4
- Yamori, K. : Action research towards effective disaster risk communication (Invited speech). Joint Scientific Assembly of the International Association of Geodesy (IAG) and International Association of Seismology and Physics of the Earth’ s Interior (IASPEI), Kobe, 2017/8/3.
- 矢守克也：防災・減災に資するコミュニケーションツール開発に関するアクションリサーチ, 第 133 回日本社会分析学会例会ミニシンポジウム「社会学が開く震災復興・防災の展望」, 2017/7/29.
- Yamori, Y. & Valdés, C. : Summary of 2-years achievements on the SATREPS project: C-2 Group. Workshop on the collaborative project between Japan and Mexico: Hazard Assessment of Large Earthquakes and Tsunamis in the Mexican Pacific Coast for Disaster Mitigation. Nara Kasugano International Forum. 2017/7/26
- 矢守克也：河田恵昭教授の災害リスク・コミュニケーション（前編）：人間化された自然・現在化された想定・極限化された数値, 日本災害情報学会第 18 回学会大会, 2016/10/23.
- 矢守克也：河田恵昭教授の災害リスク・コミュニケーション（後編）：人間化された自然・現在化された想定・極限化された数値, 日本災害情報学会第 18 回学会大会, 2016/10/22.
- 矢守克也・日比野愛子・宮本匠・杉山高志・森直久・曾我亨：(ワークショップ) グループ・ダイナミックスの〈時間〉(その 2: 深める) アクションリサーチの時間 日本グループ・ダイナミックス学会第 63 回大会, 2016/10/9.
- 矢守克也：災害論：人間・自然・社会, 日本グループ・ダイナミックス学会第 63 回大会, 2016/10/10.
- 矢守克也：防災教育について再考するための 3 つの視点, 日本地理学会 2016 年秋季学術大会シンポジウム「防災教育の課題ー人文社会科学から地理学・地理教育へー」, 2016/10/1.
- 矢守克也・高木光太郎・安齋聡子・杉山高志：カタストロフの語り・記憶・時間, 日本質的心理学第 13 回大会, 2016/9/24.
- 矢守克也・大西正光：〈災害 1.0〉と〈災害 2.0〉, 第 35 回自然災害学会学術講演会, 2016/9/21.
- 矢守克也：アクションリサーチとリサーチ・イン・アクション, 2016 年日本教師学会夏季研究会講演, 2016/7/29.

- Yamori, K. : Action research in disaster reduction studies. The 31st International Congress of Psychology, 2016/07/27.
- 安本真也・牛山素行・関谷直也：平成 28 年台風 10 号豪雨における情報伝達と避難行動 地区ごとの比較より【修正資料付き】，日本災害情報学会第 19 回研究発表大会予稿集,pp.152-153,2017 年 10 月 21 日.
- Yatagai, A., Petley, D., Melanie, F., Suzuki, R., Ando, C. and Chigira, M., 2017. Application of the high-resolution APHRODITE precipitation product to rainfall-triggered fatal landslide occurrence in Nepal JpGU-AGU Joint Meeting 2017, pp. HDS09-05.
- 八ッ塚一郎・渥美公秀・加藤謙介・宮本匠・矢守克也：(ワークショップ) 熊本地震の提起するもの：活動報告と考察,日本グループ・ダイナミックス学会第 63 回大会,2016/10/10.
- 横尾泰輔・矢守克也：東日本大震災の初動報道に関する当事者研究：キャスター自身による分析と考察，日本災害情報学会第 18 回学会大会，2016/10/23.
- 横尾泰輔・大窪愛・佐竹祐人・早坂隆信・吉田一貴・里匠・岩田孝仁・田中淳,ロボカメを活用した津波避難呼びかけ表現の検討,日本災害情報学会第 19 回学会大会予稿集,pp.14-15,2017/10/21.
- 横田優至, 増井健志, 経隆悠, 今泉文寿, 堀田紀文, 早川裕弐, 逢坂興宏, 土屋智 (2017/5/24) 多地点観測による土石流段波の流動特性, 平成 29 年度砂防学会概要集, p. 472-473, 奈良市, 奈良春日野国際フォーラム
- Yokoyama, O. and Chigira, M., 2017. Gravitational slope deformation and its transformation into catastrophic landslides during earthquakes in a slate area. In: M. Chigira and G. Wang (Editors), 4th Slope Tectonics 2017, Kyoto, pp. 67.
- Yoshimoto, M., Tsunematsu, K., Uchiyama, T., Baba, A., Fujii, T., Aramaki, S. (MFRI, Yamanashi Pref.), Koyama, M. (Shizuoka Univ.): The evacuation Route Map In Case of Sudden Eruption for Tourists and Climbers of Mount Fuji. Cities On Volcanoes 9 Conference, Session 2.4, Puerto Varas, Chile, November 2016.
- Zhao, S. and Chigira, M., 2017. Geomorphological and Geological Characteristics of Large Catastrophic Ancient Landslides along Minjiang River in Diexi, Western Sichuan, China Annual Meeting of the Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University, Uji, pp. 1-2.
- Zhao, S. and Chigira, M., 2017. Geomorphological and Geological Characteristics of Large Catastrophic Ancient Landslides along Minjiang River in Diexi, Western Sichuan, China JpGU-AGU Joint Meeting, Makuhari, pp. HDS09-P04.
- Zhao, S. and Chigira, M., 2017. The response of catastrophic landslides to fluvial incision in the upstream of Minjiang River, Western Sichuan, China. In: M. Chigira and G. Wang (Editors), 4th Slope Tectonics, 4th Slope Tectonics 2017, pp. 43.

2.2.4 その他の著作物

- 千木良雅弘, 2016. 深層崩壊に起因する災害と場の予測. 基礎工, 2016-6: 29-33.
- 藤井基貴「思考ツールとしての心情円盤」『教室の窓』Vol.1, 4-5 頁, 2018 年.
- 藤井基貴「〈書評〉カントの世界市民的地理教育」『教育学研究』第 85 巻第 1 号, 88-90 頁, 2018 年.
- 藤井基貴「はじまる『考える道徳』, 『議論する道徳』」『小・中学校道徳教育』東京教育研究所, 2-3 頁, 2017 年.
- Furuhashi, Y., Group training program for university students with autism spectrum disorder. World Congress of Psychiatry Association, 2017
- 古橋裕子、里村澄子、他. UPI でみた新入生と 4 年生、大学院生の比較. CAMPUS HEALTH 55(1), 358-359, 2018
- 古橋裕子 自閉症スペクトラム圏大学生への大学適応を促進する多角的支援法の開発 科学研究費助成事業 研究報告書 (課題番号 26381317) , 2017
- Furuhashi, Y., Group training program for university students with autism spectrum disorder. Journal of Emergency Mental Health and Human Resilience, 64, 2016
- Furuhashi, Y., A study of group therapy for Japanese university students with high-functioning autism spectrum disorder. Clinical and Health Psychology on children and adolescents, 159-160, 2016
- 古橋裕子、里村澄子、他. 大学入学後に顕在化した発達障害圏学生の学業転帰 CAMPUS HEALTH 54(1), 457-458, 2017
- 畑山満則・矢守克也・Ana-Maria Cruz・林春男・横松宗太・大西正光・李フシン・岩堀卓弥: 巨大災害研究の現状と展望 京都大学防災研究所年報 A (CD 版) ,60, 171-180, 2017.
- 林 拙郎: 地震による斜面崩壊への地質特性の寄与ー能登半島地震の崩壊面積率よりー, 防災科学技術研究所研究資料, No.411, 61-74, 2017.
- 林 拙郎・山田 孝: 土砂災害に関する豪雨度, 豪雨階の設定法, 防災科学技術研究所研究資料, No.418, 107-114, 2018.
- 本間基寛: 気象・災害情報に対する住民の受容特性について, 安全工学, Vol.56, No.6, pp.424-429, 2017.
- 池田恵子: 「男女共同参画・多様性配慮の視点ー教訓を継承し、定着を目指す (特集: 東日本大震災 7 年ー復興への道筋探る報道)」, 『新聞研究』, 801 号, pp.40-43, 2018 年
- 池田恵子: 「性別による被災状況の違いを関係者と共に要配慮者にも伝える」, 『コミュニティ・ケア』, Vol.19, no.13, pp.95-100, 2017 年
- 池田恵子・柘植あづみ: 「東日本大震災 女性支援ネットワークによる支援者調査」, 『ビオシティ』, Vol.67, pp.46-56, 2016 年
- 石川宏之: 災害遺構を生かす住民活動 洞爺湖有珠山と島原半島のジオパーク, 建築ジャーナル, No.1276, pp.22-25, 2018

- 石川有三,2016,研究者の捉えた熊本地震,Piece Piece Piece,Vol.7,「春号」5月11日発行
Piece 編集部
- 石川有三,2016,前震・本震・余震型の地震—熊本地震の特徴,リスク対策.COM,5月号,12-13.
新建新聞社
- 石川有三・吾妻崇,2016,イタリア中部の地震と活断層,産総研 IEVG ニュースレター,
Vol.3.No.5,10-13.
- 石川有三,2017,イタリアの地震と地中海のプレートテクトニクス,なみふる,No.108,4-5.
- 石川有三,2017,アジア地震学会(ASC2016 オーストラリア・メルボルン市)参加報告,産総
研 IEVG ニュースレター,Vol.3.No.6,13-14.
- 石川有三,2017,韓国慶州マグニチュード 5.8 地震,地震ジャーナル,No.63,45-47.
- 石川有三,2017,英国地震学会参加報告,日本地震学会ニュースレター,Vol.70.No.2,42-43.
- 石川有三,2017,ニュージーランドの巨大地震から1年,なみふる,No.111,4-5.
- 石川有三,2018,四川大地震から10年,なみふる,No.113,p6-7.
- 岩田孝仁,防災は想像力と実行力から,防災ハンドブック 2016 年度保存版,日刊工業新聞
社,p02-05,第64巻 第3号,2016.
- 岩田孝仁,減災から改めて防災へ 静岡県の地震対策 36年の現場から(2),月刊フェスク
416号,pp.2-9,2016年6月.
- 岩田孝仁,減災から改めて防災へ 静岡県の地震対策 36年の現場から(3),月刊フェスク
420号,pp.2-13,2016年10月.
- 岩田孝仁,減災から防災社会へ(熊本地震想定外の災害に備える),月刊自治研 11,p16-p23,vol
58,no 686,2016.
- 岩田孝仁,気候変動!! 災害リスクを捉え防災力を蓄える 第5回 自治体の防災戦略は市民力
の強靱化にある,隔月刊 地球温暖化1月号, No.47, JANUARY 2017.
- 岩田孝仁,火山防災 静岡県内の火山をめぐる取組み(1),月刊フェスク 424号, pp.2-9, 2017
年2月.
- 岩田孝仁,富士山の火山防災の取組と協議会法定化後の課題,科学 vol.87
No2,pp.0118-0120, Feb.2017.
- 岩田孝仁,減災から防災社会の構築へ,防災ハンドブック 2017 年度保存版,日刊工業新聞
社,pp.02-10,第65巻 第5号,2017.
- 岩田孝仁,火山防災 静岡県内の火山をめぐる取組み(2),月刊フェスク, 428号, pp.2-9, 2017
年6月.
- 岩田孝仁,改めて点検を 防災・危機管理行政の役割,住民と自治, 654号, pp.11-14, 2017
年10月.
- 岩田孝仁,想定される南海トラフ地震を自治体はどう考えるか,防災ハンドブック 2018 年度
保存版,pp.2-10,日刊工業新聞社,2018年3月.
- 狩野謙一:「南アルプスユネスコエコパーク教育ビデオ手引書」の監修,教育出版株式会

社, 2017年3月.

Kasahara et al., ACROSS refraction study for the interpretation of time-lapse data in AlWassa field, Saudi Arabia, Proc. 134th SEGJ Conference, 100-103, 2016.

Kasahara et al., Time lapse observation in Al Wasse field in Saudi Arabia using ACROSS seismic source and its interpretation, Proc. 134th SEGJ Conference, 104-107, 2016.

Kasahara et al., Repeatability estimation of ACROSS in Al Wasse field, Saudi Arabia, Proc. 135th SEGJ Conference, 133-106, 2016.

木村 圭司(2017): ユーラシア大陸中央部における夏季の低気圧と降水. 奈良大学紀要, 45, 55-64.

木村 圭司(2017): 砂漠化. 『自然地理学事典』, 小池一之ほか編, 朝倉書店, 424-425.

木村 圭司(2017): 2016年の「迷走台風」10号と防災, 地理地図資料, 2017年度2学期1号, 18-19.

近藤昭彦(2017.9): [巻頭言] スタートラインから踏みだそう—環境問題を解決するというこ
と—, 水文・水資源学会誌, Vol.30(5), pp.291-293.

小山真人 (2017) ドローンで見る大地のいとなみ (12) 火山の山体崩壊. 科学, 87, 821-825.

小山真人 (2017) ドローンで見る大地のいとなみ (11) 富士山から流れた溶岩. 科学, 87, 717-721.

小山真人 (2017) ドローンで見る大地のいとなみ (10) 伊豆半島の貫入岩体. 科学, 87, 631-635.

小山真人 (2017) ドローンで見る大地のいとなみ (9) 大地震が起こした巨大崩壊. 科学, 87, 528-530.

小山真人 (2017) ドローンで見る大地のいとなみ (8) 駿河湾と浜名湖の砂嘴. 科学, 87, 446-449.

小山真人 (2017) ドローンで見る大地のいとなみ (7) 富士山の大沢崩れ. 科学, 87, 323-327.

小山真人 (2017) ドローンで見る大地のいとなみ (6) 伊豆-本州衝突帯の活断層. 科学, 87, 241-243.

小山真人 (2017) ドローンで見る大地のいとなみ (5) 伊豆大島火山. 科学, 87, 113-117.

小山真人 (2017) ドローンで見る大地のいとなみ (4) 箱根火山と大涌谷. 科学, 87, 37-39.

小山真人 (2016) ドローンで見る大地のいとなみ (3) 英国形成の長い歴史. 科学, 86, 1221-1223.

小山真人 (2016) ドローンで見る大地のいとなみ (2) 伊豆東部火山群が作りだした風景. 科学, 86, 1123-1125.

小山真人 (2016) ドローンで見る大地のいとなみ (1) 富士山の宝永火口と宝永山. 科学, 86, 1015-1017.

小山真人・早川由紀夫 (2016) ドローンで見た2016年熊本地震. 科学, 86, 915-920.

- 小山真人 (2016) 日本の火山活動と防災. アカデミア, no.116, 8-13.
- 三井 雄太: 断層力学・モデリングに基づく震源過程の多面的研究, 地震, 70, 1-11, 2017.
- 森俊明、野上愛里子、古橋裕子、他 インフルエンザの易感染性因子についての検討
CAMPUS HEALTH55(1), 217-218, 2018
- 森俊明、野上愛里子、山本こず恵、古橋裕子、山本裕之、他 アンケート法によるアルコール感受性タイプの同定と飲酒行動との関連 CAMPUS HEALTH 54(1), 224-226, 2017
- 村越真 (2017) 方向音痴の博物誌: ミクロからマクロまで. 地図中心、541,3-7.
- 村越真(2017) 地図のファンタジア: 赤色立体図とスーパー地形の世界、フィールドライフ、55、p.69.
- 村越真(2017) 地図のファンタジア: 地図読みエントリーとしてのスマホ&GPS ウォッチ、57、p.55.
- 村越真(2018) トレイルランニング,登山研修、33,71-78.
- 中井春香・武村雅之, 1945年1月13日三河地震における全潰家屋数と死者の関係., 日本地震工学会論文集, 第17巻第2号, 27-37, 2017
- 野上愛里子、森俊明、古橋裕子、他 大学教職員を対象としたストレスチェックにおける集団分析方法の検討 CAMPUS HEALTH 55(1), 433-435, 2018
- 野津憲治、火山ガスの化学分析は世界や日本で誰が最初に行なったか?、火山 61, 253-258 (2016)
- 野津憲治、数奇な運命をたどった110年前の「新元素」ニッポニウム、化学 72 (No.5), 12-18 (2017)
- 太田裕一、太田祐子、山本裕之、古橋裕子、他 心理職による集団アプローチを活用した学生相談と障害学生支援の連携について CAMPUS HEALTH 55(1), 290-292, 2018
- 太田裕一、太田祐子、山本裕之、古橋裕子、山本こず恵 他 新入生ガイダンスにおける対人援助要請スキル育成的な関りについて CAMPUS HEALTH 54(1), 419-420, 2017
- 佐藤 健: 建築物の被害状況からみた熊本地震, 教育展望, 2016年9月号, 特集 震災と学校教育—熊本地震の教訓—, 2016.
- 佐藤 健: 防災教育が学校教育に定着するために必要なこと, 千葉教育<千葉の子どもたちの未来のために>, 2016.
- Sugawara, D., Imai, K., Mitobe, Y., Takahashi, T., Tsunami-induced morphological change of coastal lake: comparing hydraulic experiment with numerical modeling. 2016 AGU Fall Meeting, 2016年12月14日, Moscone Convention Center (San Francisco).
- Sugawara, D., The Geological Record of Tsunamis in the Anthropocene. Creating the Anthropocene - Natural and Cultural Histories, 2017年2月11日, 静岡県コンベンションアーツセンター/グランシップ (静岡市).

- Sugawara, D., Neng-Ti Yu, Jiun-Yee Yen, Wen-Shan Chen, I-Chin Yen, Jin-Hsing Liu, Numerical investigation of the source of the 1867 tsunami in northern Taiwan. 2016 Taiwan Geosciences Assembly, 2016年5月17日, Nangang Exhibition Center (Taipei).
- 菅原大助, 東日本大震災と貞観地震・津波の地質学的痕跡. 日本地質学会中部支部 2016年支部年会, 2016年6月11日, ふじのくに地球環境史ミュージアム (静岡市).
- Sugawara, D., Jaffe, B., Gelfenbaum, G., La Selle, S., Goto, K., Numerical modeling of tsunami deposits: recent advances and future research. Japan Geoscience Union Meeting 2016, 2016年5月26日, 幕張メッセ (千葉市).
- 武村雅之, 1889 (明治 22) 年明治熊本地震—詳細震度分布と震源"平成 28 年 (2016 年) 熊本地震 速報 (6 月 30 日) 調査報告書, 名古屋大学減災センター, 15-18, 2016
- 武村雅之, 天災不忘の旅 第 11 回 工業都市川崎の震災, 日本地震学会広報紙なみふる, No.105 (4月号), 4-5, 2016
- 武村雅之, 連載コラムその 9 復興の記憶, 日本地震工学会ニュースレター, Vol.5No.1, 13-14, 2016
- 武村雅之, 連載コラムその 10 明治にもあった熊本地震, 日本地震工学会ニュースレター, Vol.5No.2, 9-10, 2016
- 武村雅之, 連載コラムその 11 南海道沖大地震の謎, 日本地震工学会ニュースレター, Vol.5No.3, 2016
- 武村雅之, 天災不忘の旅 第 12 回 熊本地震から 1 年, 日本地震学会広報紙なみふる, No.109 (4月号), 2-3, 2017
- 武村雅之, 天災不忘の旅 第 13 回 日本最古の遊園地, 日本地震学会広報紙なみふる, No.111 (10月号), 2-3, 2017
- 武村雅之, 連載コラム その 12 復興を支えた氏神様, 日本地震工学会ニュースレター, Vol.6No.1, 11-12, 2017
- 武村雅之, 連載コラム その 13 章魚 (タコ) 阿弥陀仏, 日本地震工学会ニュースレター, Vol.6No.2, 10-11, 2017
- 武村雅之, 災害情報学会 NLNo.72, 「復興百年誌 石碑が語る関東大震災」, 2018 年 1 月 17 日
- 牛山素行・金井昌信・関谷直也・秦康範・廣井悠・矢守克也: パネルディスカッション『自然災害の避難学』構築を目指して」 牛山素行「オープンフォーラム報告:『自然災害の避難学』構築をめざして」, 自然災害科学, 25, 308-327, 2017.
- 牛山素行: 災害時の管理者責任追及への懸念, 消防防災の科学, 2017 年夏号(No.129), pp.4-5, 2017.
- 牛山素行: ハザードマップへの期待と不安, 月刊地理, 62,8,pp.28-35,2017.
- 牛山素行: 風水害の人的被害と「避難」の特徴, 水循環, Vol.106, , pp.9-12, 2017.

- 山本裕之、森俊明、古橋裕子、山田文康、他禁煙の大学生運動習慣事情への一考察
 CAMPUS HEALTH 54(1), 240-242, 2017
- 山崎登:注目されるタイムラインの防災対策 ～最近の大雨災害が教えること～,季刊『消防
 防災の科学』2018冬号,2018年1月30日.
- 山崎登:南海トラフの新しい情報を生かすために,月刊「フェスク」,2018年3月号.
- 山崎登:連載「時の視点」,月刊「近代消防」,近代消防社刊.
- 矢守克也:防災・減災のための心理学(8):新語・流行語でふりかえる防災・減災この3
 年,防災,420,13-16,2018.
- 矢守克也:巻頭言:フット・アウト・ザ・ドア,地区防災計画学会誌,11,2,2018.
- 矢守克也:ゲーミング手法を用いた防災教育ー「クロスロード」と「ぼうさいダック」ー,建
 築防災,2018-1,16-20,2018.
- 矢守克也:巻頭言:防災に「も」強いまち,地区防災計画学会誌,9,2,2017.
- 矢守克也:ボランティアすること・してもらうことー熊本地震からの経験からー,防災ノー
 ト 焼津高等学校,6-7,2017.
- 矢守克也:防災・減災のための心理学(7):防災ゲーム「クロスロード」,防災,419,
 14-17,2017.
- 矢守克也:災害リスク・コミュニケーションの課題と現状 主催:公益財団法人関西交通
 経済研究センター,災害対策シンポジウム講演記録, p4-17,2017.
- 矢守克也:「私たちのまちには美術館がありません、美しい砂浜が美術館です」,ひょうご
 震災記念21世紀研究機構研究レター,43,1,2017.
- 矢守克也:防災・減災のための心理学(6):2017年7月九州北部豪雨からの学び,防災,418,
 13-16,2017.
- 矢守克也:豪雨災害に備えるー福岡・大分豪雨の経験からー,婦人の友,111-9,104-108,
 2017.
- 矢守克也:防災・減災のための心理学(5):黒潮町のことばから 防災,417,13-16.
- 矢守克也:当事者として学んだ備えの大切さ,地域防災データ総覧(平成28年熊本地震編)
 p.109-117,2017.
- 矢守克也:災害リスク・コミュニケーションの光と陰,消防防災の科学,126,6-10,2017.
- 矢守克也:防災・減災のための心理学(4):3つの避難,防災,416,12-15,2017.
- 矢守克也:防災・減災のための心理学(3):寺田寅彦の防災心理学,防災,415,13-16,2017.
- 矢守克也:避難の心理学 牛山素行「オープンフォーラム報告:『自然災害の被害学』構築
 をめざして」,自然災害科学,25,294-308,2017.
- 矢守克也:「ふだん」と「まさか」のクロスロード,第三文明,687,60-62,2017.
- 矢守克也:防災・減災のための心理学(2):再考ー災害情報三大用語「オカミ少年」・「正
 常性バイアス」・「倍半分」,防 災,414,12-15,2017.
- 矢守克也:「空振り」について考えるーこれからの災害情報ー,月刊不動産物流,417,8-9,

- 2017.
- 矢守克也：災害リスク・コミュニケーションの光と影，月刊ガバナンス，2016-12号，20-22，2017.
- 矢守克也：災害リスクを伝えるーリスクの想定／想定のリスクー，福島医学会学術研究集会シンポジウム抄録「異分野におけるリスク・コミュニケーション事例の俯瞰学」福島医学雑誌，67，92，2017
- 矢守克也：防災・減災のための心理学（1）：熊本地震を経験して，防災，413，2016.
- 矢守克也：書評：共同的な実践としての「アイヒマン実験」，質的心理学研究，15，225-228，2016.
- 矢守克也・林春男・Ana-Maria Cruz・James Goltz・横松宗太・大西正光・李フシン：防災問題における資料解析研究（43），京都大学防災研究所年報A（CD版），59，98-108，2016.
- 矢守克也：助けてもらうことへの備え，婦人の友，2016-9，30-32，2016.
- 矢守克也：大震災に対する備え：熊本地震を経験して，Creative 房総，92，3-6，2016.
- 矢守克也：防災・減災のためのリスク・コミュニケーション，JICE REPORT，29，24-34，2016.
- 矢守克也：特別寄稿（前編）熊本地震をふりかえる：避難、そして後片付け，安全教育ニュース（2016年8月8日号），No.1451，2-3，2016.
- 矢守克也：特別寄稿（前編）熊本地震をふりかえる：当事者として学んだ備えの大切さ，安全教育ニュース（2016年8月8日号），No.1449，2-3，2016.
- 矢守克也：巻頭言：想定内の中の想定外，C+Bousai，7，1，2016.
- 矢守克也：「最悪でも最善」／「窮地でも次善」，兵庫県二十一世紀研究機構研究レター，2016.
- 矢守克也：固有名詞という災害情報：「東日本大震災」から5年，災害情報学会ニュースレター，65，1，2016.
- 矢守克也：物語るモノと物言わぬモノ，人と防災未来センター資料室図録
- 矢守克也：災害リスク・コミュニケーションを考え直す，JIAM 機関誌，91，12-17，2016.
- 矢守克也：「温故知新」ー廣井先生の言語行為論の論文からー，廣井井賞受賞記念講演記録災害情報，14，2016.
- 矢守克也：防災教育について再考するための3つの視点，学校運営，655，6-9，2016.
- 矢守克也：「減災」は身のまわりから：当事者として学んだ備えの大切さ，婦人の友，2016-774-77，2016.
- 矢守克也：地区防災計画をめぐる4つの誤解とホント，消防防災の科学，124，11-15，2016.
- 矢守克也・杉山高志：「わたしに語る資格があるのでしょうか？」，災害復興，15，29-31，2016.
- 矢守克也：学会誌第5号の発行に当たってー形式的理想性と現実的有効性ー，C+Bousai，5，1，2016.
- 矢守克也：双方向のカルチュラル・チューニングを，防災研究所ニュースレター，79. 8，2016.

- 矢守克也：学術賞受賞コメント,自然災害科学, 34, 277-278, 2016.
- 矢守克也：地震計のある小学校 連載「新しい防災教育を実現していくために」(第12回), 安全教育ニュース (2016年3月8日号), No.1436, 2-3, 2016.
- 矢守克也：最近の災害をふりかえるー記憶のゆがみ 連載「新しい防災教育を実現していくために」(第11回安全教育ニュース (2016年2月8日号), No.1433, 2-3, 2016
- 矢守克也：「災害語り部」の新しい形 連載「新しい防災教育を実現していくために」(第10回), 安全教育ニュース (2016年1月8日号), No.1430, 2-3, 2016.
- 矢守克也：「5年」対「20年」, 消防科学と情報, 123, 31-35, 2016.
- 吉田明夫, 2016, 書評：南海トラフ地震 (山岡耕春著, 岩波書店), 地震ジャーナル, 61, 39-41.
- 吉田明夫, 2017, 南海トラフ地震の予測と防災, 日本地震学会モノグラフ第5号「地震発生予測と大震法および地震防災研究」 pp 52-55.
- 吉田明夫, 2017, 想定東海地震の“想定”を見直す時, 科学, 86, 1001-1005.

2.2.5 受賞

- BOLE, M., Peter O. BAUMGARTNER, Rie HORI, Masayuki IKEDA, Best Poster Award of 15th InterRad XV, 2017年10月
- 千木良雅弘, 平成29年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 (科学技術賞), 平成29年4月19日
- 藤井基貴研究室「1.17 防災未来賞 (ぼうさい甲子園)」「ぼうさい大賞」2017年1月.
- 藤井基貴研究室「1.17 防災未来賞 (ぼうさい甲子園)」「ぼうさい大賞」2018年1月.
- 藤井基貴研究室「静岡大学学長表彰」2018年3月.
- 二川雅登, 静岡大学産学連携奨励賞最優秀賞, 2017年3月9日
- 秦康範, 内閣府防災功労者防災担当大臣表彰, 2017年9月12日
- 本間基寛, 平成28年度日本自然災害学会学術奨励賞, 2016年9月21日.
- 石川宏之, 第17回日本ミュージアムマネージメント学会学会賞, 2016年6月
- 石川宏之, 平成27年度日本都市計画学会学会賞 (論文奨励賞), 2016年5月
- 風間聡, 土木学会東北支部, 支部長賞, 2016.5.19.
- 木村浩之, コージェネ大賞2017優秀賞 (民生用部門), 2018年2月15日.
- 木村浩之, 2016 Microbes and Environments 論文賞選考委員会推薦優秀論文, 2017年9月1日.
- 木村浩之, 第3期 (平成28~30年度) 静岡大学若手重点研究者の称号, 2016年4月1日.
- Mitsui, Y., and Kyohei Yamada, Highlighted papers 2017 (by Earth Planets, and Space), 2018/2/26.
- 鈴木彦文・二川雅登・小松満・アサノ デービッド・不破泰, 2016年 安全・安心な生活と ICT 研究会 安全・安心ベストプラクティス賞, 2016年6月14-15日

武村雅之，文部科学大臣表彰（科学技術部門），文部科学省，2017年4月
山崎登，平成30年兵庫県功労者表彰受賞（防災），2018年。

2.2.6 特許等

出願日:2016年7月26日，発明者:二川雅登・草野健一郎・瀬戸 勝，出願人:静岡大学・ラ
ピスセミコンダクタ，出願番号:特願 2016-146584

出願日:2016年9月27日，発明者:二川雅登・草野健一郎，渡辺 実，出願人:静岡大学・ラ
ピスセミコンダクタ，出願番号:特願 2016-188209

出願日:2017年2月10日，発明者:二川雅登，草野健一郎，出願人:静岡大学・ラピスセミコ
ンダクタ，出願番号:特願 2017-023082

出願日:2017年10月23日，発明者:二川雅登・川人祥二・安富啓太，出願人:静岡大学，出願
番号:特願 2017-204337

成立日:2017年11月17日，発明者:二川雅登、澤田和明、高橋聡、出願人:豊橋技術科学大
学，出願日:2012年8月10日、特許第 6241889号

成立日:2017年11月24日，発明者:太齋文博・澤田和明・二川雅登，出願人:豊橋技術科学
大学，出願日:2013年1月11日，特許第 6245612号

成立日:2017年6月27日，発明者:二川雅登・澤田和明・高橋聡，出願人:豊橋技術科学大学，
出願日:2013年8月9日，米国特許 US9,689,837

成立日:2017年3月22日，発明者:太齋文博・澤田和明・二川雅登，出願人:豊橋技術科学大学，
出願日:2013年1月11日，欧州特許 2944951

2018年5月日本特許確定，振動検出システム、信号処理装置及び信号処理方法，JOGMEC・
笠原順三(出願者・発明者同)，出願番号:2014-108923。

2018年3月2日，木村浩之。水素ガス生成方法、水素ガス生成システム、並びに、水素ガ
ス及びメタン生成システム（特願 2018-037195）。

商標登録「逃げトレ」，登録日 2017/12/1，申請者名 矢守克也，出願人・商標権者 国立大
学法人京都大学

3 学内教育活動

3.1 新入生セミナー

静岡大学では新入生全員を対象として、「大学生活における健康管理に関する啓発」、「キャンパスや学外での安全な過ごし方の習得」、「防災意識の涵養と防災教育に関する啓発」、及び「ハラスメントに関する啓発」を目的として、「健康・安全・安心・快適な大学生活講座」を実施している。同講座は、全新入生が受講する「新入生セミナー」という科目の一部として実施されている。

当センターでは、同講座の一部として、「防災のすすめ」というタイトルで、1回45分の講義を分担している。主な内容は下記の通りである。

自然災害の分類 日本で死者・行方不明者が多かった自然災害 地震と震災 世界の震源分布 日本付近で発生する地震 東海・東南海・南海地震の発生史 南海トラフ巨大地震の震度予測 東海地震の予知 緊急地震速報 地震の揺れで死なないために 津波発生のメカニズム	南海トラフ巨大地震による想定津波高 南海トラフ巨大地震による想定津波到達時間 津波浸水予測 津波の危険を感じたら 災害原因別死者・行方不明者の状況 洪水・土砂災害ハザードマップ 洪水・土砂災害への備え 大災害が発生したら 静岡大学安否情報システム 「万能な備え」なんてない
---	---

図 2017年度新入生セミナーで使用した主なスライドのタイトル

2017年度は、静岡キャンパス 1185 名、浜松キャンパス 785 名が受講している。講義は、静岡地区 5 回、浜松地区 4 回で、生田准教授(副担当)、牛山教授(専任)、原田准教授(専任)、小杉特任准教授の 4 名で分担実施した。各日とも、45 分×2 回を担当している。

3.2 全学教育科目「地震防災」

地震防災は、さまざまな分野にまたがる総合科学であり、東海地震の発生が危惧されている静岡県で生活する学生にとってこれを学ぶことは必要不可欠である。地震に備えて普段から何をしておくべきなのか、また地震発生時には何をすべきなのか、地震発生時に生き延びるための基礎知識など地震防災科学を総合的に学ぶことを目標にかかげ2004年度から本講義が開講されている。全学部の学生が受講可能な「学際科目」の一つとなっている。講師陣は大学の研究者ばかりでなく、行政やメディア関係者など幅広い分野で地震防災に関係している人が担当している。2009年度からは浜松キャンパスでの開講もはじまり、2016、2017年度は前期に静岡と浜松で各1講座、後期に静岡（昼間および夜間）の2講座、年間で合計4講座が開講された。受講者は計約550人におよんでいる。

以下に一例として2017年度・静岡地区（前期）の講義内容一覧を掲げる。

	開講日	タイトル	担当者	所属
1	2017/4/14	地震学と東海地震の基礎 1	生田領野	静大
2	2017/4/21	地震学と東海地震の基礎 2	三井雄太	静大
3	2017/4/28	地震予知	長尾年恭	東海大
4	2017/5/12	活断層と地震発生長期予測	狩野謙一	静大
5	2017/5/19	地震による災害：津波災害	原田賢治	静大
6	2017/5/26	地震による災害：建物災害	安村基	静大
7	2017/6/ 2	災害時の心のケア	小林朋子	静大
8	2017/6/ 9	災害報道	荒川修平	テレビ東京
9	2017/6/16	地震による災害：土砂災害	土屋智	静大
10	2017/6/23	地震災害史	武村雅之	名古屋大
11	2017/6/30	地震災害のリスク認知	村越真	静大
12	2017/7/ 7	地震防災行政	岩田孝仁	静大
13	2017/7/14	市民防災	横幕早季	静大
14	2017/7/21	災害時の医療	山本裕之	静大
15	2017/7/28	防災を学ぶ(講義のおわりに)	牛山素行	静大

3.3 全学教育科目「地域社会と災害」

学際科目「地震防災」は、科目立ち上げ時の経緯や、静岡において特に地震災害に対する関心が高いこともあり、内容が地震関係に偏ってしまっていることが課題となっていた。静岡県においても災害は地震だけではなく、また、学生が卒業後に全国、全世界に活躍の場を移すことを考えれば、地震以外の災害に対する教育が必要であることは当然のことである。そこで、地震災害については「地震防災」で学ぶこととして、地震以外の様々な災害を対象に、災害を考えるための基礎的な考え方や、災害をもたらす現象のメカニズム、災害による被害を軽減するための技術や制度について理解し、社会の一員として、当事者意識を持って災害に備える事ができる人材の育成を目的として、2010年度から静岡キャンパスで新科目「地域社会と災害」を開講した。「地震防災」と同様、全学部の学生が受講可能な学際科目の一つとしての開講である。受講者は、2016年度約120人、2017年度約150人などとなっている。「地震防災」は15回すべてで担当者が代わるオムニバス形式だが、「地域社会と災害」では、防災総合センター専任教員2人、兼任教員1人、客員教員2人、教育研究支援員(以下の一覧では「支援員」)2人の計7名が分担する形式としている。

以下に2017年度の講義内容一覧を掲げる。

	開講日	タイトル	担当者	所属
1	2017/10/ 2	自然災害科学概論 1	牛山素行	静大
2	2017/10/16	自然災害科学概論 2	牛山素行	静大
3	2017/10/23	地震災害	原田賢治	静大
4	2017/10/30	津波・高潮災害	原田賢治	静大
5	2017/11/ 6	火山災害	石橋秀巳	静大
6	2017/11/13	風水害 1	牛山素行	静大
7	2017/11/20	風水害 2	牛山素行	静大
8	2017/11/27	原子力災害医療	山岡泰治	浜松医大
9	2017/12/ 4	地域社会と災害	矢守克也	京都大
10	2017/12/11	災害情報	牛山素行	静大
11	2017/12/18	警報と避難	牛山素行	静大
12	2018/ 1/ 9	行政と災害対応	牛山素行	静大
13	2018/ 1/15	防災行政実務	杉村晃一	静岡市(支援員)
14	2018/ 1/22	ハザードマップ	牛山素行	静大
15	2018/ 1/29	災害と身近な暮らし	横幕早季	静大(支援員)

3.4 全学教育科目「地球科学」

全学教育科目「地球科学」では、地球をシステムととらえ、地球の活動を理解するとともに、地球の活動により人間社会へもたらされる災害のメカニズムや地球上に暮らす我々の社会と自然の関わりについて理解し、その課題について考えることを目的としている。主な内容は以下のとおりである。「地球科学」は全学教育科目-現代教養科目-個別分野科目（自然科学分野）として、静岡キャンパスの全学生を対象に開講されており、また平成 28 年度には人文夜間主コースで開講されており、平成 28 年度 140 名、平成 29 年度 121 名の受講生であった。全学教育科目「地球科学」は、平成 24 年度より防災総合センター原田准教授が全 15 回を担当している。

- 地球科学概論
- 地球システム（気圏，水圏，地圏，生物圏，人間圏）
- 流体地球，固体地球
- 物質循環
- サブシステムの相互作用
- 人間社会と地球環境
- 地球システムと自然災害
- 防災・減災

3.5 全学教育科目「社会資本マネジメント論」

防災の地域づくりには私たちが暮らす社会が持続的に発展しかつ安全で暮らしやすい社会であることが重要である。静岡大学には都市計画や防災まちづくりを専門的に学ぶ既存コースがなく、このため街づくりなど中長期を見据えた視点で防災施策を議論する基礎的な学習が困難であった。本講座では静岡県交通基盤部の全面的な協力のもとで、2016年度より開講した。私たちの生活を支える道路や公園など社会資本の意義、それに関する行政・関連産業の仕組みと役割及び事業の企画から完成後の維持管理に至る一連の流れを理解し、どのようなマネジメントが必要か、また、社会資本を利用する住民などとの合意形成に何が必要か、さらに安全な地域社会づくり、街づくり、防災施設としての事前復興の考えなどを学び、社会資本整備に関わるマネジメントやまちづくりを実践していく上での考え方や基礎的知識を習得することができる。

講師は、静岡県交通基盤部の各分野で実務を扱う専門家が専門分野ごとにオムニバス形式で講義を行う。受講生は、理学部、農学部、人文社会学部、教育学部と大谷キャンパスの全学部にまたがっている。

以下に2017年度の講義内容の一覧を掲げる。

	開講日	タイトル	担当者（所属）
①	2017/10/02	社会資本マネジメント概要	岩田孝仁（静大）
②	2017/10/16	社会資本概要	大隅泰史（静岡県）
③	2017/10/23	社会資本整備における広報	伊豆川誠人（静岡県）
④	2017/10/30	交通ネットワーク	塩澤孝洋（静岡県）
⑤	2017/11/06	港湾概論と清水港における	有本彰男（静岡県）
⑥	2017/11/13	社会資本の維持管理計画	伊豆川誠人（静岡県）
⑦	2017/11/20	住民参加と合意形成	坪井宏介（静岡県）
⑧	2017/11/27	社会資本整備計画	伊豆川誠人（静岡県）
⑨	2017/12/04	景観形成	柳本賢一（静岡県）
⑩	2017/12/11	環境保全の取組み	平井武志（静岡県）
⑪	2017/12/18	GIS とその活用	杉本直也（静岡県）
⑫	2018/01/09	防災対策概論 I	岩崎裕一（静岡県）
⑬	2018/01/15	防災対策概論 II	津島康弘（静岡県）
⑭	2018/01/22	都市計画区域マスタープラン	海野智之（静岡県）
⑮	2018/01/29	全体総括	岩田孝仁（静大）

3.6 全学教育科目「公共施設デザイン論」

静岡大学には土木・建築を専門に学ぶ既存コースがなく、このため防災施策の中でもハード面での耐震工学や土木工学、水利工学などを学生が学ぶ機会は限定的である。この解消のため、静岡県交通基盤部の全面的な協力のもとで、私たちの暮らしを支える道路、橋梁、河川、海岸、港湾、砂防など様々な公共施設の整備にあたっての計画段階から設計、施工に関する考え方、さらに都市計画や交通計画の手法について実践事例を交えて学ぶことにより、耐震や防災、安全なまちづくりなどをデザインする上での基礎を身につける科目として2016年度より開講した。

講師は、静岡県交通基盤部の各分野で実務を扱う専門家が専門分野ごとにオムニバス形式で講義を行う。受講生は、理学部、農学部、人文社会学部、教育学部と大谷キャンパスの全学部にまたがっている。

以下に2017年度の講義内容の一覧を掲げる。

開講日	タイトル	担当者（所属）
① 2017/04/14	公共施設デザイン論概要ガイダンス	岩田孝仁（静大）
② 2017/04/21	公共事業の概要	廣瀬 聡（静岡県）
③ 2017/04/28	道路計画と設計Ⅰ	真鍋和敬（静岡県）
④ 2017/05/12	道路計画と設計Ⅱ	財津博幸（静岡県）
⑤ 2017/05/19	橋梁設計Ⅰ	松岡宏典（静岡県）
⑥ 2017/05/26	橋梁設計Ⅱ	松岡宏典（静岡県）
⑦ 2017/06/02	舗装計画と設計	城内左知夫（静岡県）
⑧ 2017/06/09	河川計画と設計Ⅰ	長谷川欣之（静岡県）
⑨ 2017/06/16	河川計画と設計Ⅱ	岡村修幾（静岡県）
⑩ 2017/06/23	海岸保全計画と設計	津島康弘（静岡県）
⑪ 2017/06/30	砂防・治山施設計画と設計	西川 茂（静岡県）
⑫ 2017/07/07	急傾斜地崩壊対策計画と設計	油井克之（静岡県）
⑬ 2017/07/14	港湾・漁港計画と設計	田中 治（静岡県）
⑭ 2017/07/21	都市計画	海野智之（静岡県）
⑮ 2017/07/28	交通計画	杉山一之（静岡県）

3.7 全学教育科目「リスクコミュニケーション」

本科目は、浜松地区で「静岡大学防災マイスター称号制度」をスタートさせるにあたり、必修科目として2016年度より開講している。

(1) 科目概要

本科目は、自然災害を含む日常生活の中のリスクについて、個人や家庭や社会としてどのように対処するかを受講生が主体的に考えられるようになることを目指す。

現代社会は、直接的・局所的・短期的なリスクだけでなく、間接的・広域・長期的かつ複雑な因果関係を伴うリスクが増大してきている。それらのリスクを理解し、適切に管理するためには、科学的なリスク評価の視点だけでなく、多様な利害関係者の視点が必要とされる。本科目は、講義と演習を通して多様なステークホルダーが関与してリスク問題を考えるためのリスクコミュニケーションに関する知識を習得し、その社会的機能やリスクマネジメントへの寄与についても理解を深めることを目標としている。そのため、この科目は、理学や工学分野におけるリスク管理やリスク評価に関する内容、人間の認知や情報処理の特徴やバイアスに関する心理学や認知科学分野の内容、地域コミュニティや利害関係者とのコミュニケーションのあり方に係わる内容などから構成される。

2017年度の講義内容一覧は、以下の通りである。

1	10月6日	イントロダクション：リスクとは何か	小杉素子(静大)
2	10月13日	リスクガバナンス	小杉素子(静大)
3	10月20日	リスクコミュニケーション	小杉素子(静大)
4	10月27日	災害・防災とコミュニティ	笹原 恵 (静大)
5	11月17日	災害時の状況シュミレーション	井ノ口宗成(静大)
6	11月24日	防災とインフラ整備	鈴木康之 (静大)
7	12月1日	地殻変動とプレートテクトニクス	増田俊明 (静大)
8	12月8日	人間の情報処理とコミュニケーション	小杉素子(静大)
9	12月15日	コミュニケーションと社会的現実	小杉素子(静大)
10	12月22日	災害リスクコミュニケーション	前田恭伸 (静大)
11	1月5日	地震・津波の災害評価と防災対策計画	原田賢治(静大)
12	1月12日	リスクコミュニケーション演習(1)	小杉素子(静大)
13	1月19日	リスクコミュニケーション演習(2)	小杉素子 (静大)
14	1月26日	災害への備え～南三陸現場から～	太齋彰浩 (南三陸町)
15	2月2日	総括：リスクを社会でどう扱うか	小杉素子(静大)

3.8 大学院総合科学技術研究科共通科目「津波工学特論」

「津波工学特論」は、平成 27 年度より大学院総合科学技術研究科（修士課程）で開講されており、研究科コースに関わらず選択することができる研究科共通科目となっている。本科目は、防災総合センター原田准教授が全 15 回を担当している。主な内容は下記のとおりである。「津波工学特論」では、現象としての津波、津波災害の特徴、津波防災対策について理解することを目的としている。総合科学技術研究科理学専攻、農学専攻の大学院生を対象に、平成 28 年度は 9 名、平成 29 年度は 8 名の受講者であった。

1. 津波の特性と理論
 - 1.1 津波の波源，規模，強度
 - 1.2 津波の発生メカニズム，地震と津波
 - 1.3 津波の伝播・遡上特性
2. 津波の被害
 - 2.1 津波による被害の分類
 - 2.2 津波の波力，流水力，浮力，揚圧力，漂流物衝突力
3. 津波の予測
 - 3.1 津波発生モデルの理論
 - 3.2 津波伝播モデルの理論
 - 3.3 津波の数値解析手法
4. 津波対策
 - 4.1 津波対策の手法と歴史
 - 4.2 現在の総合的な津波対策

3.9 大学院総合科学技術研究科共通科目「災害情報学特論」

「災害情報学特論」は、当センター専任教員(牛山素行教授)が担当する大学院総合科学技術研究科共通科目として、2015年度から開講された。防災のために必要とされる情報が「災害情報」であり、幅広いものが含まれる。現代は多くの災害情報が存在しているが、実際の災害時に十分活用されていないことがしばしば問題となる。本講では、自然災害に関わる様々な情報を読み解き、活用する上で知っておくべき「災害情報の性質」を理解することを目標としている。災害情報を活用する上で必要な基礎知識を、主に講義・演習形式で解説している。後半では各自事例地を設けて調査レポートをとりまとめる課題を出題し、最終回を報告会とした。

以下に2017年度の主な講義内容を掲げる。

- 災害と防災の基礎
- 繰り返される豪雨災害
- 素因と誘因
- 災害情報の定義、情報の価値
- 災害に関わる情報の精度と誤差
- リスク認知と流言
- 地形と災害
- 防災気象情報の現状
- 質的情報の整理
- 豪雨災害による人的被害
- 災害情報に関わる厳しい現実
- 地域調査とその報告

3.10 静岡大学防災マイスター称号制度(静岡地区)

1) 防災マイスター称号認定とは

地震その他の天災による被害を減じるためには、ハード面のみならずソフト面の充実が欠かせず、教育機関が果たす役割は大きい。本学では地域の防災力向上に貢献するため、これまでも全学を対象に地震防災の授業や新入生セミナーにおける防災についての講演会を実施してきた。「防災マイスター称号付与制度」はこうした防災に関する授業を有機的に結びつけ、一定レベルの防災知識を備えた学生を養成して社会に送り出す事業であり、平成23年度よりスタートした。初年度は波及効果が高いと考えられる教員養成を念頭におき、教育学部で試行的に実施した。おりしも、2011年は東日本大震災が発生し、防災に対する教育の有効性が強く意識された。本制度は、防災についての大学の取り組みの先進的事例として、全国的にも関心を集めた。

2012年度からは、静岡キャンパスの人文社会科学部、理学部、農学部にも対象を広げた。29年度終了時点で、静岡大学防災マイスターは89名、ふじのくに防災マイスター(後述)は83名となった。マイスターを社会に送り出してから6年がたち、修了生たちの今後教育・行政その他の現場での活躍が期待されるとともに、防災総合センターとしてその活動を支援したり、活用を考えることが、今後の課題だと考えられる。

2) 防災マイスター称号付与の条件

防災マイスター称号取得のためには、必修7単位、選択5単位以上の計12単位以上の履修が求められている。必修は共通科目の「地震防災」「地域社会と防災」「災害のリスク危機マネジメント」に加えて、教育学部で開講している「学校におけるリスク管理」「防災科学実習」が指定されている。このうち「学校におけるリスク管理」「防災科学実習」は必修、その他の科目は4単位の選択必修となっている。これらの科目では、地震発生に関する自然科学的な知識のみでなく、自然災害のリスクや防災について広く考えるための人文社会系の授業も含まれている。

選択科目(例)は以下の表のとおりで、教育学部の自然科学、地理学、心理学などの科目が広く指定され、2012年からは農学部、理学部の科目も指定されている。また、修了時には、受講した授業などを踏まえ、卒業後の職場や地域で、得た知識やスキルをどう生かすかをまとめたレポートを義務づけ、学習内容の整理を促している。

科目名	科目名
選択	選択
健康体育 II	学校心理学
進化と地球環境	認知心理学
地球科学	地誌学
自然災害と現代社会	地理学研究法

自然災害学	社会調査法 I
地球システム	視聴覚教育メディア 論
心理学入門	

3) 平成 29 年度の実施状況と今後

29 年度には、新たに 29 名の登録があり、29 年度の登録在籍数は 65 名であった。年度末に修了したものは 20 名であった。学環の創設とともに、防災関係の講義が増えたことを踏まえて、今後必修、選択必修科目の見直しによる、全ての学部でのより受講しやすいカリキュラムの整備が必要になっていると考えられる。

4) 県知事認証について

静岡県では、これまでも一定の受講条件を満たす市民に対して、「静岡県ふじのくに防災マイスター」の称号を与えてきた。静岡大学防災マイスターも概ねこの条件を満たすので、本学防災マイスター取得後、県が主催する 1 日の講習を受講することで、上記の認証も受けられることとなった。29 年度は 20 名全員が受講し、全員が「静岡県ふじのくに防災マイスター」を得た。

3.11 静岡大学防災マイスター称号制度(浜松地区)

浜松地区では、2016年度から「防災マイスター称号制度」をスタートした。称号付与の条件は静岡地区と同一であり、12単位以上（必修単位3単位以上、選択必修4単位以上、選択5単位以上）の履修が必要である。

履修科目は表3-11の通りである。必修科目の「リスクコミュニケーション」については、2016年度より新規科目として設定し、「防災科学実習」は静岡地区の教育学部で開講されているものとほぼ同一の構成で、浜松地区では学際科目として設定した。選択必修および選択科目については、情報学部および工学部から、自然災害の現象やメカニズムだけでなく、防災や減災に関わる技術や地域コミュニティや政策まで幅広い分野の科目が指定されている。

浜松地区では、2017年度までに4名の登録があり、2018年度に2名が修了予定である。修了時には、受講した授業などをふまえ、卒業後の職場や地域で、得た知識やスキルをどう活かすかをまとめるレポートを義務づける予定である。

表3-11 平成30年度防災マイスター取得申請者用の履修科目リスト

学部・学科	科目名	単位	年次	
●必修科目 (3単位)				
学際	リスクコミュニケーション	2	2年	小杉素子ほか
学際	防災科学実習(通年)	1	3年	小杉素子ほか
●選択必修科目 (4単位以上)				
学際(浜松)	地震防災	2	3年	小杉素子ほか
学際	静岡県の防災・減災と原子力	2	2年	大矢恭久ほか
全学(浜松)	地球科学	2	3年	岩崎一孝
全学(浜松)	進化と地球環境	2	2年	増田俊明
工学部	安全工学	2	3・4	戸田三津夫
●選択科目 (5単位以上)				
工・機械工学	材料力学Ⅰ(必)	2	1年	吉田健吾
	確率・統計(必)	2	2年	岡本正芳
	環境工学(選)	2	3年	齋藤隆之
	経営システム工学(選)	2	4年	立岡浩一
工・電気電子	確率統計 <情報エレクトロニクス(必)>	2	2年	大内浩司
	<エネルギー・電子制御(選)>	2	3年	和田忠浩
	数値シミュレーション	3	3年	丹沢徹ほか
	<情報エレクトロニクス(必)>			
	経営システム工学(選)	2	4年	立岡浩一
	技術者倫理	1	4年	橋本岳
	センサ工学 <情報エレクトロニクス(選)>	2	4年	坂田肇
工・電子物質	電気法規および施設管理	2	4年	宇佐見英三
	<エネルギー・電子制御(選)>			
	環境工学 <電子物理デバイス(選)>	2	3年	須田聖一
	<材料エネルギー化学(選必)>			
工・化学バイオ	経営システム工学(選)	2	4年	立岡浩一
	技術者倫理(必)	1	3年	須藤雅夫
	数値計算法 <電子物理デバイス(選必)>	2	3年	伊藤哲
	技術者倫理 <材料エネルギー化学(選)>	1	3年	須藤雅夫
	移動現象論Ⅰ(必)	2	2年	立元雄治
環境化学 <環境応用化学(必)>	2	2年	岡島いづみ	

	<バイオ応用工学(選)>			
工・数理システム	確率統計 (選)	2	1年	佐藤一憲
	リスク分析 (選)	2	3年	前田恭伸
	経営システム工学 (選)	2	4年	立岡浩一
	技術者倫理 (選)	1	3年	守田智
情報学部	統計学入門	2	1年	荒木由布子
	社会モデル	2	2年	高口鉄平
	社会調査論	2	1年	藤岡伸明
	環境・地理情報システム論	2	2年	岩崎一孝
	コミュニティ・デザイン論	2	2年	笹原恵ほか
	web デザイン論	2	2年	杉山岳弘
	都市デザイン論	2	2年	秋元菜摘
	都市・地域政策論	2	3年	中澤高師ほか
自治体行政論	2	3年	笹原恵ほか	
学際	わが街・浜松の市政	2	2年	中澤高師

3.12 防災マイスター制度の展開

本学では平成23年から始まった防災マイスター制度であるが、他の大学での防災科目の開講状況に関する調査および防災教育に関する意見交換を次の3大学を訪問して行った。他の大学で、どのような防災教育、防災啓発活動を行っているのか知ること、静岡大学の活動の質の向上に関するアイデアを得るためであると同時に、静岡大学での活動を広く知ってもらうことも念頭にあった。場合によっては先方で防災マイスター制度と同様の制度を希望する場合には、本学での経験を披露することも視野に入れていた。

(1) 愛知教育大学（平成28年8月30日）

愛知教育大学では最近の改組により、必修2単位の科目の一部に防災関連の内容を含めたことが紹介された。静岡大学での防災教育を参考にしたとのことである。静岡大学側からは防災マイスター制度（12単位）に関して紹介して意見交換を行った。愛知教育大学では防災マイスター制度に興味を示していただいたが、これと同様の規模の防災科目の開講は、防災関連の教員数が不十分、講義時間の確保が難航するなどのために難しいとの感触を得た。

(2) 聖霊クリストファー大学（平成29年10月12日）

聖霊クリストファー大学では医学科と看護学科があり、特に看護学科での防災教育に関して意見交換を行った。防災教育は避難訓練を含めて、しっかり行われているとの印象を得た。本大学の防災マイスター制度に関しても意見交換を行った。

(3) 徳島大学（平成30年2月21日）

徳島大学では、以前は4単位の防災関連講義を開講していたが、前年度から選択2単位の講義に切り替えたとのことである。学部改組に伴い、受講生数の減少があり、やむを得ない変更の様に感じた。

防災関連の啓発活動は、オリジナルのDVDを作成、防災関連講演会の頻繁な開催等を通じて活発に行っており、充実している様に感じた。特筆すべきは香川大学との連携の強さである。徳島大学での意見交換の場に香川大学から2名の教員が参加され、香川大学での防災啓発活動などについての紹介があった。四国4県の大学での連携についても紹介があり、活発な交流を行っているとの印象を持った。

4 プロジェクト・関連行事

4.1 「ふじのくに防災フェロー養成事業」

4.1.1 事業の概要

(1)はじめに

近年、様々な形での防災関係の人材育成の取り組みが各地で行われつつある。静岡県では、平成8年から防災士養成講座を実施し、これまでに静岡県ふじのくに防災士（平成22年度に「静岡県防災士」を改名）を1250名輩出している。この講座の受講生は自治体・企業等での防災に関する実務に従事している防災実務者が多いことが特徴で、ふじのくに防災士取得者は相当数が実務にあたっている。

一方、同講座では講師による講義を聴く座学が中心で「広く浅い」基礎知識の習得にとどまる。防災実務の現場では地域特性・時代特性等、個々の状況にあわせた科学的・技術的知見の応用力が要求されるが、対応できる人材もその育成の場も少ない。そこで、静岡大学は静岡県と連携して平成22(2010)年度より、文部科学省の科学技術戦略推進費(平成25年度からは「社会的システム改革と研究開発の一体的推進事業」)による地域再生人材創出拠点の形成事業「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」として「ふじのくに防災フェロー養成講座」構築に着手した。

なお、本項の一部は牛山ら(2016)の文章、図表の一部をもとに書き改めたものである。

引用文献

牛山素行・横幕早季・大森康智・増田俊明：防災実務者を対象とした人材育成講座の構築—「ふじのくに防災フェロー養成講座」の実践—、災害情報、第14号、2016。

(2)講座の概要

この講座では自治体や企業等で災害・防災に関する実務に従事している者を対象にする。災害発生後の危機管理ノウハウにとどまらず、災害の事前予防を目指して、地域の特性を理解し、科学的専門知識とその情報を読み解ける実践的応用力の習得を目標とする。

それぞれ原則1科目1日の形で開講される22科目(年度により若干変動する)の「講義・実習」と、担当教員による指導により個別の研究テーマの結果をとりまとめる「修了研修」を本講座のカリキュラムの主軸とした。講座修了は、(1)10科目以上の講義・実習の履修、(2)学会等の専門的な研究発表の場で修了研修の内容を発表すること、(3)講座全体の「ゼミ」である地域防災セミナーに1回以上出席することの3条件を満たすことで判定する。講義・実習はインターネット経由で視聴できるシステムを用意し、開講日に出席できない場合、3科目まではネット経由の受講を出席と認めた。受講期間は1年間を基本とし、最長で1年間の期間延長(合計で2年間)は認めるものとした。

募集人数は10名程度で、応募資格として「静岡県ふじのくに防災士」、日本防災士機構

「防災士」またはそれに準ずる資格を持ち、防災に関わる業務に従事していることとした。受講者の選考は提出された出願書類の内容を元にした一次選考、口頭試問及び面接を行う二次選考による。なお、入学料及び受講料は 2015 年度までは無料として来たが、2016 年度より有料化した。毎年 12 月下旬～1 月上旬に応募を受け付け、2 月に選考作業を行っている。2014 年度までは 3 月より講義開始としていたが、年度をまたぐことで不都合が多かったことから 2015 年度からは 4 月から開始としている。

講義・実習は、下表のような科目をほぼ隔週土曜日の終日に開講している。話を聞くだけの形式ではなく、計算・作図等数値や物理的・質的データを用いた作業を伴い、毎回課題提出をもとめている。

表 1 防災フェロー養成講座講義・実習科目開講スケジュール(2017 年度)

科目名	担当者	開講日
自然災害科学概論	牛山素行	2017/4/1
統計法	村越 真	2017/4/15
治山砂防工学	林 拙郎	2017/4/29
災害社会学	矢守克也	2017/5/6
気候学(浜松開催)	岩崎一孝	2017/5/27
火山学	小山真人・鶴川元雄	2017/6/10
リスク論	鈴木清史	2017/6/24
津波工学	原田賢治	2017/7/8
建築防災学	佐藤 健	2017/7/22
地震学	笠原順三	2017/8/5
地震工学	秦 康範	2017/8/19
地理学演習	近藤昭彦	2017/9/2
地球化学	野津憲治	2017/9/16
都市防災概論	廣井 悠	2017/9/30
地質学演習	狩野謙一	2017/10/14
防災気象学	牧原康隆	2017/10/28
地震計測実習	林 能成	2017/11/11
地域調査演習	牛山素行	2017/11/25
強震動・地震災害史	武村雅之	2017/12/9
河川工学	風間 聡	2017/12/23
防災法制度	中川和之	2018/1/6
防災実務実習	岩田孝仁	2018/1/17

修了研修では、受講生と担当教員間のディスカッションにより、特定の研究テーマを

決めて取り組む。2016、2017 年度に発表されたテーマを下記に列挙する。受講生の居住地や実務に関連したものが多い。

2017 年 3 月修了者

- 伊東市内の被害を迅速に把握するための震度観測網の構築と運用 ー伊豆東部火山群の防災対策としてー
- 静岡県と近隣 2 県の市町村の業務継続計画への取組状況について
- 県域民放テレビ局による避難勧告等の伝達実態
- 県内津波想定域内の海岸林における被害軽減効果等に関する考察
- 東日本大震災の被災自治体における災害対応の実態分析 ー岩手県山田町を事例とした震災対応の課題整理ー
- 熊本地震関連新聞記事から見る被災地状況の時系列変化
- 静岡県焼津平野の鯛ヶ島青峰公園における津波堆積物の調査
- 焼津市沿岸地域の南海トラフ地震(東海地震)に関する住民意識調査 ー特に避難行動に着目してー
- 静岡県における大雨警報事例の雨量と浸水害に関する調査
- 付加体の地下圏微生物によるメタン生成プロセスと分散型エネルギー生産システムの創成
- 特別支援学校(要援護者施設)における防災対応力の現状と課題

2018 年 3 月修了者

- 明治 40 年(1907)8 月の台風による静岡市葵区梅ヶ島藤代地区の土砂災害
- 静岡県東部地域 5 市の津波避難計画の特徴とその背景
- 2016 年熊本地震での製造業における被災、復旧、及び影響と B C P について
- ローカル放送局の防災番組における番組タイトルの傾向に関する研究
- 地域防災への関わりー学校としての取り組みー
- 東日本大震災における被災地の福祉避難所についての研究
- 児童向け広報ツールによる防災広報の効果に関する検討
- 防災対策の経済的評価手法に関する基礎検討ー自治体における住民分災害備蓄の経済的評価の試算と分析ー

(3)応募・終了の状況

2018 年 3 月末現在で、8 期生までの募集・選考が終了している。1 期 53 名、2 期 43 名、3 期 35 名、4 期 34 名、5 期 28 名、6 期 16 名、7 期 14 名、8 期 13 名の応募者があり、それぞれ 22 名、20 名、21 名、20 名、17 名、11 名、7 名、7 名を受講生として受け入れた。このうち 6 期までは 2018 年 3 月末時点で最長受講期間が終了しており、1 期 20 名、2 期

17名、3期14名、4期13名、5期10名、6期11名が修了認定された。7期はすでに3名が修了、4名が受講中である。2018年3月末時点で、のべ125名が受講し、うち88名が修了、11名が受講中となっている。

受講者の所属を受講開始時点で分類すると図1となる。市町村、国、県といった行政機関からの受講生が各年とも概ね半数を占めるが、企業等からの受講生も少なくない。受講生の居住地は静岡県内が多いが、各年共に県外からの受講生も少なくない。県外としてはこれまでに、秋田県、宮城県、茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、岐阜県に居住する受講生を受け入れており、広い範囲から受講生が集まっている。

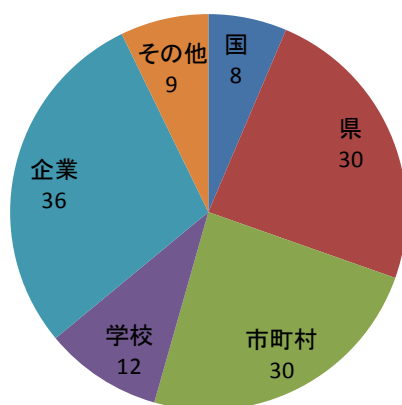


図1 受講者の所属

(4)修了後の対応

まず、受講生および関係教員との連絡を図る目的で、メーリングリストを講座開始直後から運用している。修了後も特に本人からの申し出が無い限りリストから削除していない。修了生から、防災関係の行事案内などが流されるケースもあり、関係者の連絡網として機能しつつある。

当初は、修了後に開講の講義・実習科目は受講できないこととしていたが、受講生からの意見を参考にリカレントの狙いも含め、2014年度から「科目受講制度」を新設し、講義内容を紹介するブログ記事を作成することを条件に、年間3科目までの受講を認める事になった。なお、地域防災セミナーについては、開講当初から修了生も自由に出席できることとしている。また、各担当教員によっては、開講しているゼミに修了生の出席を認めているケースもある。

2014年度からは、本講座修了生らと静岡大学のさらなる連携を図ることを目的として、「静岡大学教育研究支援員」の制度を新設し、これまでに修了生ら8人を任命し、修了研修や講義・実習科目の実施に協力してもらっているほか、研究、普及活動を教員と共同実

施している。また、一部の支援員は、全学共通科目「地震防災」「地域社会と災害」の講義も担当している。

このほか修了生は、各職場において様々な活躍をしており、詳細は次項「受講生の活動成果」に挙げる。

(5)今後の展望

本講座では、受講対象を現役の防災実務者に限定したが、開講後 5 年間にわたり 1 年当たり 10 人程度と想定した受講者数をはるかに上回る旺盛な応募が広域から続いており、防災実務者に対してある程度の魅力を持った内容となっていることが示唆される。修了生はすでに 88 人に上り、修了後も継続的に本講座関係教員、修了生らとの交流が行われ、静岡大学を拠点とする防災に関する人的ネットワークが構築されつつあるとあっていい。

現在、喫緊かつ重大な課題は、文部科学省の助成終了に伴う運営資金の確保策である。2018 年時点では、静岡県および静岡大学からの予算拠出と、運営経費の見直しなどによって運営し、2016 年度からは 1 人 12 万円の受講料徴収を行っているが、厳しい状況が続いている。2018 年度からは、内閣府「防災スペシャリスト養成研修」との連携など、講座内容の更新を予定しているほか、今後も継続的に講座の見直しを計画している。今後、さらに講座の継続、発展を目指したいと考えている。

4.1.2 受講生の活動成果

氏 名：青島 晃

所 属：静岡県立磐田南高等学校

県立高等学校の地学の教員として理科教育，防災教育に取り組んでいます。1981年から中遠行政センターの委託を受け，「昭和19年東南海地震に学ぶ」（1981）を始め，「昭和19年東南海地震の記録」（1982），「写真で見る東南海地震」（1994）などの冊子の編集を中心になって行いました。また，磐田北高校では静岡県地震予知観測学習モデル校，浜松北高校，磐田南高校では地学部顧問として地震観測や歴史地震の研究を指導し，日本学生科学賞で内閣総理大臣賞を受賞するなど，指導力を発揮しました。

研究活動では，昭和東南海地震を対象とした約40,000件にも及ぶアンケート調査を静岡県西部地域や三重県南部地域で実施したり，歴史地震の液状化や津波の痕跡を地質学的手法により研究を行ったりしてきました。また，2011～2012年には袋井市の液状化対策委員として，ハザードマップ作成のために，昭和東南海地震で発生した液状化の記録を提供しました。

現在，太田川河口で発見された歴史地震による津波堆積物の礫や砂の起源について，岩石学的，鉱物学的手法を用いて解明しています。

氏 名：有友春樹

所 属：日本ミクニヤ株式会社

ふじのくに防災フェロー養成講座第4期生として、静岡大学原田賢治准教授ご指導のもと、「市町村の津波避難計画の設定条件に関する特徴の比較検討」として津波避難計画の設定条件の調査を行いました。

私自身民間の建設コンサルタント会社に勤務し、主にソフト防災の分野である計画策定（地域防災計画、職員行動マニュアル、エリア防災計画等）および防災訓練（下水道BCP訓練、大規模土砂災害訓練、火山災害訓練等）支援業務を実施しています。民間企業の事業継続計画（BCP）策定支援業務では、作成手順の提案からワークショップの実施、訓練支援までトータルで行っています。

最近の業務・研究では、「観光客等の帰宅困難者対策」「地域特性等を踏まえた防災訓練」「被災地域の避難行動調査」「レジリエントな防災対応」「台風災害避難の学習方法」などをキーワードに幅広く実施しております。

○主な発表論文

有友春樹，原田智也：帰宅困難者対策における混雑シミュレーションの活用，2016年地域安全学会梗概集 vol139, pp. 137-138, 2016.

有友春樹，松本舞恵，亀井勝一郎，和田剛二：観光客の津波避難等行動特性調査の一事例，日本災害情報学会 第19回学会大会予稿集, p242-243, 2017.

近藤謙太 加藤孝明，有友春樹，高須是樹：地域特性等を踏まえた防災訓練の取り組み事例，2017年地域安全学会梗概集 vol141, 2017.

有友春樹，廣井悠，松原龍，渡辺竜之：糸魚川市大規模火災における住民の避難行動に関する一考察，2017年地域安全学会梗概集 vol141, 2017.

有友春樹，井面仁志，白木渡：避難シミュレーションによるレジリエントな対応の避難信頼性評価の試み，材料別冊第67巻第2号, p151-156, 2018.

有友春樹，高橋亨輔，岩本祐子，井面仁志，白木渡：対応行動データベースの構築と台風災害時避難の学習方法の検討，土木学会論文集 F3(土木情報学) Vol. 73, No. 2, PI_289-I_296, 2018.

氏 名：大石 優

所 属：増田樹脂化学工業株式会社

私は民間企業に勤務しておりますが、社内防災関連業務（BCP 含む）にも従事しております。スキル向上を目的として、「ふじのくに防災フェロー第 6 期生」として、講義を受け、得られた知識を会社ならびに地域に活かしていきます。

フェローでの研究活動は、北村晃寿先生の指導のもと「焼津市沿岸部の津波堆積物調査」として、ボーリング掘削～堆積物分析調査を行いました。焼津市には津波に関する文献史料もありますので、今後も文献史料ともあわせて周辺の状況を調査したいです。講座終了後も防災実務や個人調査で研鑽に大いに役立っております。

最近では、焼津市沿岸部での津波避難訓練における速やかな避難への推進を目的に訓練結果から避難場所などに対する課題や改善等について調査しています。

氏 名：岡村龍行

所 属：志太消防本部 消防総務課

ふじのくに防災フェロー養成講座第6期生として、平成28年度に原田賢治准教授のご指導のもと、焼津市沿岸地域の住民を対象として「南海トラフ地震（東海地震）に関する調査」を行いました。その結果は、2017年3月の平成28年度自然災害科学中部地区研究集会において口頭発表しました。

2017年4月からは、再任用職員として引き続き消防本部に勤務しております。現在は、若手職員とともに職員研修や市民防災講座などに活用するため、藤枝市・焼津市で過去に発生した風水害・地震災害等の記録を調査しています。

氏 名：塩崎竜哉

所 属：多治見市役所

豪雨災害時において、自治体が避難に関する情報の提供や応急対応を迅速に行うため、危険度が高まった地区を的確に把握する手法について研究をしています。

これまで、2011年9月に岐阜県多治見市で発生した豪雨災害や2014年8月広島豪雨災害時の記録から、行政機関への電話通報数と降水量・実被害の関係を調査し、地域ごとに集計した通報数の増大は当該地域の災害危険度の高まりを示す指標になることを明らかにしてきました。

災害時における電話通報については、自治体の災害対応を阻害する一因として取り上げられがちですが、こうした特性が活用できれば、災害対策の強化につながるものと考えられます。

今後については、他の事例における調査を行うとともに、2017年から運用が開始された「警報の災害分布」など他の指標と電話通報数の関係などについても調査し、自治体が災害時に運用できる仕組みを確立したいと考えています。

氏 名：白井 愛

所 属：静岡県警察本部警備部災害対策課

平成 28 年 9 月に津波対策業務に就き、防災訓練や防災広報についての企画及び実施を行い、1 年半となりました。

主な施策としては、平成 29 年 3 月、外国人の津波防災に対する危機意識の醸成を図るため語呂合わせを使った英語版津波防災啓発標語「TSUNAMI」の作成、11 月、県警ホームページを随時更新しての防災啓発、児童向け津波防災啓発資料「てんてんとぼうさいをまなぼう」の作成、12 月、大規模災害時の避難生活において女性と子供を犯罪やトラブルから守ることを目的とした防災防犯マニュアル「防災女子 赤のまもり」「防災女子 青のまもり」の作成、平成 30 年 3 月、ポルトガル語版津波防災啓発標語「TSUNAMI」の作成などです。これら広報ツールを活用して防災啓発を展開しています。



前記取組については、いずれも報道で重ねて取り上げられました。特に「防災女子」については、警察において初の避難生活における防災防犯マニュアルであったこと等様々な理由から、他県警や行政等から多くの問い合わせや講演依頼があるなど、大きな反響でした。また、その反響の中では、県民の方々から直に作成についての謝辞や感想をいただくこととなり、一方通行とまらない広報の大切さについて考える良い機会となりました。

これら施策と並行しながら、ふじのくに防災フェロー養成講座では第 7 期生として、平成 29 年度に原田先生及び中村研究支援員ご指導のもと、「児童向け広報ツールによる防災広報の効果に関する検討」について調査し、その結果を平成 30 年 3 月の平成 29 年度自然災害科学中部地区研究集会において口頭発表しました。業務に直結した内容での調査をさせていただき、今後も業務を改善していく際に大いに活用できる研究となりました。

また、先生方を始め、当講座を通して得られた受講生とのつながりは講座修了後も続いており、その関係が修了後も自らを研鑽させ、歩みを止めない原動力になっているように思います。今後も、絆を大切にしながらより多くの県民の生命を守ることに邁進していきたいと考えています。

氏 名：津島俊介

所 属：気象研究所

2016年度は水戸地方気象台にて観測、予報業務に携わり、気象台としての情報発信も行い、また河川巡視や訓練参加など、いわゆる防災に資する活動も行ってきた。2017年度は気象研究所企画室で研究者のサポート事務を行った。

研究活動については、2014～2015年度に行った台風の勢力と死者・行方不明者数の関係について行った調査研究について、内容追加のうえ、日本災害情報学会大会、および京都大学防災研究所共同研究集会「台風研究会」にて発表を行い、議論を行うことで内容を深めた。今後はこの調査研究結果を論文等、成果としてまとめたうえで、被害として評価する指標を広げることや、勢力の指標についても検討を深めたい。

氏 名：中谷泰三

所 属：静岡県東部地域局 地域課

ふじのくに防災フェロー養成講座第6期生として、平成28年度から受講させていただきました。修了研修が完了したのが平成29年度だったため、修了も平成29年度となりました。

修了研修のテーマは「静岡県東部地域5市の津波避難計画の特徴とその背景」で、牛山素行教授の御指導のもと、自分の勤務する静岡県東部地域局（受講当時は静岡県東部危機管理局）管内で海岸線を有する沼津、熱海、伊東、富士及び伊豆の5市の津波避難計画を調査し、それぞれの特徴とその背景を明らかにしました。そして、調査結果は、今後の津波避難計画改善のための参考としていただければ、との趣旨から5市に還元し、また、他市町への助言の参考となれば、との趣旨から静岡県にも提供しました。

今後も引き続き地域防災の職務を続けてまいります。津波避難対策については、地区別の津波避難計画の策定に関する市町支援ができないか、そして、これにより住民の具体的な避難行動の改善や被害軽減につなげることができないか、現在検討しております。

防災フェロー養成講座で得られたものは知識や情報にとどまらず、牛山先生やすばらしい専門家の方々とのつながりも、自分にとって大きな財産です。「刺激的最新情報満載」の牛山ゼミに引き続き加えていただき、自分自身の職務能力のレベルアップを図ることができれば、大変ありがたく存じます。

牛山先生、メンバーの皆様、今後ともよろしく願いいたします。

氏 名：真鍋明宏

所 属：株式会社 小糸製作所

私は自動車照明機器メーカー（株）小糸製作所に勤務しており、一部 防災・危機管理業務にも従事しております。又、企業危機管理研究会、事業継続推進機構に所属しており、自然災害リスク及び社会リスクの対応及び BCP、BCM の勉強を行なっています。自身のスキル向上を目的に2014年「ふじのくに防災フェロー」、前田恭伸先生の御指導で修了研修を受講しました。

2016～2018年防災関係での外部での発表、活動は、以下の通りです。

<2016年>

- ・ 2月10日事業継続推進機構静岡地域勉強会にて「2014年2月関東甲信越降雪による自動車産業サプライチェーン寸断と対応～2年後の検証～」
- ・ 5月14日ふじのくに防災 DIG セミナーにて「熊本地震における製造業のサプライチェーン寸断の対応状況」
- ・ 12月21日事業継続推進機構静岡地域勉強会にて「福島第一原発事故警戒地域視察～東京電力の事業継続対応、危機管理～」

<2017年>

- ・ 3月19日第1回清水防災まちづくり DIG セミナーにて「静岡市清水区の津波想定区域の庁舎、病院移設、火発建設 問題提起」
- ・ 6月18日清水防災まち歩き
- ・ 7月8日第2回清水防災まちづくり DIG セミナーにて「静岡市清水区の津波想定区域の庁舎、病院移設、火発建設 問題提起」
- ・ 10月28日第3回清水防災まちづくり DIG セミナーにて「静岡市清水区の津波想定区域の庁舎、病院移設、火発建設 問題提起」

<2018年>

- ・ 3月17日ふじのくに防災 DIG セミナーにて「東日本大震災復興状況報告～もう7年、まだ7年～」
- ・ 4月17日事業継続推進機構静岡地域勉強会にて「津波 河川津波を中心として～東日本大震災の教訓と清水巴川、駿河区中島 津波防災の課題」
- ・ 4月28日浜松・三企会にて「賑わい、なりわいと災害リスク対応のバランス～清水区の事例～」
- ・ 5月13日明応地震津波講演会パネルディスカッションにてパネラー参加

以 上

氏名：向井利明

所属：長野地方気象台

ふじのくに防災フェロー養成講座第4期受講生として、牛山素行教授のご指導のもと、気象庁が発表する「記録的短時間大雨情報」と災害との関係について調査し、その成果は、2014年10月の日本災害情報学会第16回学会大会及び2015年3月の平成26年度自然災害科学中部地区研究集会において口頭発表しました。その後、このテーマについて大幅に加筆したものを論文としてまとめ、2017年12月に日本災害情報学会誌「災害情報」に投稿しました。2018年度に登載される見込みです。

同養成講座の講義「災害社会学」（講師：京都大学 矢守教授）において「クロスロード」のことを学んだのをきっかけに、当時在席していた名古屋地方気象台の普及啓発教材として「クロスロード防災気象情報編」を作成し、愛知県内の自治体や防災ボランティア団体等の研修会や市民向け防災講座などに活用していただきました。これらの取り組みについては、2016年3月の平成27年度自然災害科学中部地区研究集会において口頭発表しました。「クロスロード防災気象情報編」については、各地の気象台からも利用したいとの要望があがっていましたが、2017年度末に東京管区気象台が一定のルールを定めてくれて、名古屋地方気象台以外の気象台でも利用できるようになりました。長野地方気象台においても、住民等への普及啓発に活用したいと思っています。

2017年7月に大雨警報・洪水警報が改善され、これまで以上に、「大雨警報（土砂災害）」、「大雨警報（浸水害）」、「洪水警報」が別々に発表されるようになったことから、牛山素行教授のご指導のもと、長野県におけるこれら警報の発表状況の変化、テレビ（テロップ、ローカル枠の天気予報）や自治体の防災メールでの伝達状況等について調査し、2017年10月の日本災害情報学会第19回学会大会において口頭発表しました。また、その成果は放送局や自治体にも共有し警報等の伝達改善の参考にいただきました。

これからも、気象庁の防災情報の利用促進や改善につながる調査や気象防災に関する普及啓発に取り組んでいきたいと思っています。

氏 名：本田 彰

所 属：一般財団法人 日本気象協会

気象庁を退職後、現在は一般財団法人日本気象協会中部支社で主に降雨、降雪などの予測業務を担当しています。また、大雨警報発表時には、自治体への予測情報の提供と防災支援を行っています。

ふじのくに防災フェロー養成講座 6 期生として、牛山素行教授のご指導のもと、2010 年 5 月から 2015 年 12 月までに静岡県内に大雨警報が発表された事例について、静岡県内の 6 市町を対象に警報発表状況と雨量の関係、また、大雨と浸水害の関係を調査しました。その成果は、2017 年 3 月の平成 27 年度自然災害科学中部地区研究集会で口頭発表を行いました。

さらに、調査対象市町と調査対象年を増やして調査を進め、市町ごとの大雨警報基準超過率や浸水害発生率、大雨警報発表から警報基準超過までの時間にどのような傾向が見られるかを調査しました。その成果は、2017 年 10 月の日本災害情報学会第 17 回大会で口頭発表を行いました。

大雨警報の発表基準は、土砂災害については既に土壌雨量指数が用いられていますが、2017 年 7 月 7 日からは浸水害についても表面雨量指数が用いられ、雨量基準による運用が廃止されました。今後は、指数基準と雨量基準による大雨警報発表状況の変化傾向や浸水害の発生状況についても調査を進めていきたいと考えています。

氏 名：渡邊浩喜

所 属：静岡県立中央特別支援学校（静岡県特別支援学校長会）

南海トラフ地震が危惧される中、障害のある幼児児童生徒(避難行動要支援者)の教育を行う特別支援学校においては、学校の特性、設置された学校の環境等に応じたより細やかな対応が必要である。特別支援学校の防災対応力を客観的に分析し、各校がより適切かつ効果的な対応ができるよう推進する。

2016年度は、特別支援学校(要援護者施設)における防災対応力の現状と課題①として、学校を管理する校長の災害に対する意識と防災対策の実態について調査・分析した。

2017年度は、特別支援学校(要援護者施設)における防災対応力の現状と課題②として、スクールバスの運行の実態と、大規模災害時に想定される課題について調査・分析を行った。その結果、「大規模災害時における特別支援学校情報伝達ネットワーク(仮称)」構築の重要性が挙げられ、静岡地区をモデル地域として、市内を走るスクールバスと市内特別支援学校がリアルタイムで情報伝達できるネットワークの実地研究を進めている。

さらに、今後は、大規模災害発生後の生活を支える学校の「再開計画」の作成について、研究を進める。

(1)研究業績

●著書

青島晃：福田町史通史編，福田地域の自然（気象と地形・地質），磐田市，2016

●学術論文

有友春樹，井面仁志，白木渡：参加型避難シミュレーションを活用したレジリエントな対応の定量的な評価の試み，土木学会論文集 F6(安全問題)Vol.72,No.2 特集号，PI_55-I_70, 2016.

有友春樹，井面仁志，白木渡：避難シミュレーションによるレジリエントな対応の避難信頼性評価の試み，信頼性シンポジウム講演論文集 29th,2016.

有友春樹，井面仁志，白木渡：避難シミュレーションによるレジリエントな対応の避難信頼性評価の試み，材料別冊第 67 巻第 2 号,p151-156,2018.

有友春樹，高橋亨輔，岩本祐子，井面仁志，白木渡：対応行動データベースの構築と台風災害時避難の学習方法の検討，土木学会論文集 F3(土木情報学)Vol.73,No.2,PI_289-I_296, 2018.

塩崎竜哉・牛山素行：豪雨時における災害危険度の高まりを推定するための電話通報数の活用について，災害情報，No14, pp.164-173, 2016.

塩崎竜哉・本間基寛・牛山素行：豪雨時における災害危険度の高まりを推定するための電話通報数の活用について－2014 年広島豪雨災害事例による検討－，災害情報，No16-1, pp.49-59, 2018.

●学会口頭発表

青島晃・土屋光永・野嶋宏二・松井孝友：昭和東南海地震（1944）による静岡県西部の軍需工場の被害，歴史地震研究会，2017 年 9 月

青島晃・鈴木怜央・島康太郎・西崎悠樹・川井陸・前田裕貴：遠州灘磐田市鮫島海岸で見られた「ガーネットサンド」に含まれる磁鉄鉱の起源，日本地質学会，2016 年 9 月

有友春樹，原田智也：帰宅困難者対策における混雑シミュレーションの活用，2016 年地域安全学会梗概集 vol39,pp.137-138,2016.

有友春樹，高橋亨輔，岩本祐子，井面仁志，白木渡：対応行動データベースの構築と台風災害時避難の学習方法の検討，土木学会情報学シンポジウム講演集 vol.42,p271-274,2017.

有友春樹，松本舞恵，亀井勝一郎，和田剛二：観光客の津波避難等行動特性調査の一事例，日本災害情報学会 第 19 回学会大会予稿集,p242-243,2017.

有友春樹，廣井悠，松原龍，渡辺竜之：糸魚川市大規模火災における住民の避難行動に関する一考察，2017 年地域安全学会梗概集 vol41,2017.

芦澤尚達・西口尚希・土屋智，明治 40 年(1907)8 月の台風による静岡市葵区梅ヶ島藤代地区の土砂災害，第 66 回砂防学会研究発表会，2017 年 5 月 24 日～26 日

平山賢次，県内津波想定域内の海岸林における被害軽減効果等に関する考察，平成 27 年度

- 静岡県森林・林業研究発表会, 2015年9月3日
- 廣井悠, 松原龍, 有友春樹, 渡辺竜之: 糸魚川市大規模火災における避難行動調査, 日本災害情報学会 第19回学会大会予稿集, p76-77, 2017.
- 本田彰・牛山素行: 静岡県における大雨警報事例の雨量と浸水害に関する調査, 平成28年度自然災害科学中部地区研究集会, 2017年3月4日
- 本田彰・牛山素行: 静岡県における大雨警報事例の警報基準超過率, 猶予時間及び浸水害発生率に関する調査, 日本災害情報学会第19回大会, 2017年10月22日
- 藤井義人・笠原順三, 2016年熊本地震での製造業における被災、復旧、及び影響とBCPについて, 平成28年度自然災害科学中部地区研究集会, 2017年3月4日
- 井口雄亮・前田恭伸, 熊本地震関連新聞記事から見る被災地状況の時系列変化, 日本リスク研究学会第29回年次大会, 2016年11月26日
- 小枝信幸・前田恭伸, 東日本大震災における被災地の福祉避難所についての研究, 平成29年度自然災害科学中部地区研究集会, 2018年3月3日
- 近藤謙太 加藤孝明, 有友春樹, 高須是樹: 地域特性等を踏まえた防災訓練の取り組み事例, 2017年地域安全学会梗概集 vol41, 2017.
- 丸林創・荻祐太郎・石川修伍・松下慎・木村浩之, 付加体の地下圏微生物によるメタン生成プロセスと分散型エネルギー生産システムの創成, 日本微生物生態学会 第31回大会(JSME 2016), 2016年10月23-24日
- 増田謙・牛山素行, ローカル放送局の防災番組における番組タイトルの傾向に関する研究, 平成29年度自然災害科学中部地区研究集会, 2018年3月3日
- 養田圭二・村越真, 地域防災への関わりー学校としての取り組みー, 第18回日本安全教育学会, 2017年9月23日~24日
- 水谷泰啓, 防災対策の経済的評価手法に関する基礎検討~自治体における住民分災害備蓄の経済的評価の試算と分析~, 平成29年度自然災害科学中部地区研究集会, 2018年3月3日
- 向井利明・牛山素行, 大雨警報(土砂災害、浸水害)等の住民伝達の現状, 日本災害情報学会第19回学会大会, 2017年10月21日.
- 中谷泰三・牛山素行, 静岡県東部地域5市の津波避難計画の特徴とその背景, 平成29年度自然災害科学中部地区研究集会, 2018年3月3日
- 西文俊・牛山素行, 県域民放テレビ局による避難勧告等の伝達実態, 日本災害情報学会第18回研究発表大会, 2016年10月23日
- 大石優・北村晃寿, 静岡県焼津平野の鯛ヶ島青峰公園における津波堆積物の調査, 平成28年度自然災害科学中部地区研究集会, 2017年3月4日
- 岡村龍行・中村譲治・原田賢治, 焼津市沿岸地域の南海トラフ地震(東海地震)に関する住民意識調査ー特に避難行動に着目してー, 平成28年度自然災害科学中部地区研究集会, 2017年3月4日.

白井愛, 児童向け広報ツールによる防災広報の効果に関する検討, 平成 29 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2018 年 3 月 3 日.

杉村晃一・牛山素行: 東日本大震災後の沿岸部住民における津波と洪水の危険度認知, 平成 27 年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集, pp.20-21, 2016 年 3 月 5 日.

杉村晃一・牛山素行: 沿岸部住民における津波・洪水の危険度認知と避難行動意向, 第 35 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.135-136, 2016 年 9 月 21 日.

杉村晃一・牛山素行: 大雨に関する災害危険度認知と避難行動意向～避難情報の対象者絞り込みは住民に伝わるのか, 日本災害情報学会第 19 回研究発表大会予稿集, pp.154-155, 2017 年 10 月 21 日.

鈴木淑夫・小山真人・鈴木雄介, 伊東市内の被害を迅速に把握するための震度観測網の構築と運用—伊豆東部火山群の防災対策として—, 平成 28 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2017 年 3 月 4 日

多田多美重・前田恭伸, 静岡県と近隣 2 県の市町村の業務継続計画への取組状況について, 平成 28 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2017 年 3 月 4 日

津島俊介, 牛山素行: 台風の勢力と死者・行方不明者の関係 (序報), 2016 年度日本災害情報学会大会, 2016 年 10 月 22 日

津島俊介, 牛山素行: 台風の勢力と死者・行方不明者の関係, 平成 29 年度京都大学防災研究所共同研究集会「台風研究会」, 2017 年 9 月 28 日

渡邊浩喜・村越真, 特別支援学校(要援護者施設)における防災対応力の現状と課題, 平成 28 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2017 年 3 月 4 日

矢崎祐美・諸橋良・岩崎一孝, 東日本大震災の被災自治体における災害対応の実態分析～岩手県山田町を事例とした震災対応の課題整理～, 平成 28 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2017 年 3 月 4 日

●その他の著作物

青島晃: てくてく地質学講座「ひょうたん池の歴史」, 静岡県袋井土木事務所広報誌「てくてく太田川」No17, p4, 2018 年 3 月

青島晃: てくてく地質学講座「鬼秀瓦の土の違い」, 静岡県袋井土木事務所広報誌「てくてく太田川」No16, p4, 2017 年 4 月

青島晃: てくてく地質学講座「過去のプレートの動きで出来た地層」, 静岡県袋井土木事務所広報誌「てくてく太田川」No15, p4, 2016 年 4 月

向井利明: 避難勧告等の発令判断等への気象情報の活用について, 信州自治, Vol.70, P14-26, 2017.

(2)社会的活動

●外部・公開講演会等

本田彰,日本水道協会愛知県支部総会,公益財団法人愛知水と緑の公社,愛知県豊橋市,2017年
5月29日

本田彰,気象講演会,中部地方整備局静岡国道事務所,静岡市,2017年11月30日

小林正人,津波防災地域づくりの先進事例(静岡県浜松市),平成27年度専門課程「海岸・
津波防災地域づくり研修」,国土交通大学校、小平市,2016年6月7日.

小林正人,ふじのくに防災フェロー養成講座 シンポジウム「現代における防災実務者育成
の重要性」パネリスト,東海圏減災研究コンソーシアム・静岡大学防災総合センター,
静岡市、2017年3月18日.

小林正人,平成28年度専門課程 海岸・津波防災地域づくり研修「津波防災地域づくりの
先進事例(静岡県浜松市)」,国土交通大学校,小平市,2017年5月30日.

小林正人,NAOTORA女性サミット分科会「いろいろな顔を持つ私の防災を考える」パネ
リスト,NAOTORA女性サミット実行委員会,浜松市,2017年11月25日.

小林正人,浜松市・地震保険セミナー「浜松市における地震の被害想定と対策」講演,一
般社団法人日本損害保険協会,浜松市,2017年12月11日.

小林正人,越境地域政策研究フォーラム「越境地域の防災減災と情報支援」パネリスト,
愛知大学三遠南信地域連携研究センター,豊橋市,2018年2月10日.

向井利明,白馬村水防訓練講演,長野県白馬村,長野県白馬村,2016年5月20日.

向井利明,追分宿郷土館教養講座,長野県軽井沢町追分宿郷土館,長野県軽井沢町,2016
年8月7日.

向井利明,長野県警察本部災害警備専科研修,長野県警察本部,長野県長野市,2016年11
月30日.

向井利明,日本気象予報士会長野支部総会記念講演,日本気象予報士会長野支部,長野県
長野市,2017年4月22日.

向井利明,日本赤十字社長野県支部医療救護班(主事)・特殊奉仕団合同研修会,日本赤十
字社長野県支部,長野県長野市,2017年5月13日.

向井利明,市職員向け勉強会,長野県長野市,長野県長野市,2017年5月31.

向井利明,長野県市町村職員年金者連盟長野支部定期総会講演会,長野県市町村職員年金
者連盟長野支部,長野県長野市,2017年7月12日.

向井利明,長野県非常参集職員研修,長野県,長野県長野市,2017年8月3日.

向井利明,長野県防災気象情報講習会,長野県・長野地方气象台,長野県伊那市・松本市・
長野市,2017年9月6日,8日,11日.

向井利明,水防法等の一部を改正する法律の施行に伴う説明会,長野県砂防課,長野県安
曇野市・長野市,2017年11月2日,7日.

向井利明,長野県河川砂防情報ステーション機能強化に伴う説明会,長野県砂防課,長野
県安曇野市・長野市,2018年3月22日,23日.

白井愛,小学生児童に児童向け広報ツールを活用した防災講話,主催:県警,開催地:県

地震防災センター，2016年11月5日

白井愛，「津波防災の日」における防災講話，主催：県警，開催地：伊豆市，2016年11月6日

白井愛，英語版津波防災啓発標語「T S U N A M I」を活用した外国人に対する防災講話，主催：静岡市国際交流協会，開催地：静岡市，2017年3月11日

白井愛，なでしこB O S A I パワーズ第6回全体会 県警作成の広報啓発ツールを活用した防災講話及び県警の取組紹介，主催：県，開催地：県地震防災センター，2017年3月18日

白井愛，中学生に対する防災講話及び津波避難訓練，共催：県警，牧之原市立相良中学校，牧之原市，開催地：牧之原市立相良中学校，2017年11月2日

白井愛，英語版津波防災啓発標語「T S U N A M I」を活用した外国人留学生に対する防災講話，主催：県警，開催地：静岡市，2017年11月8日

白井愛，小学生に対する児童向け広報ツールを活用した参加型防災講話，主催：県警，開催地：県警本部，2017年11月10日

白井愛，なでしこB O S A I パワーズ第7回全体会 県警作成の防災防犯マニュアル「防災女子」，主催：県，開催地：静岡市，2018年2月2日

白井愛，静岡県防災パワーアップ講座，主催：県，開催地：静岡市，2018年2月8日

●マスメディア・新聞等への掲載

青島晃，静岡新聞，「昭和東南海地震から73年」戦時震災復旧困難裏付け，2017年12月7日

青島晃，静岡新聞，「弥生期の津波堆積物か」磐田南高地学部発表太田川河口の地層，2017年5月22日

本田彰，静岡新聞，自然災害の研究成果発表，2017年3月5日

白井愛，中日新聞，津波避難 家族と話そう 県警が児童に防災講話，2016年11月5日

白井愛，静岡新聞，津波避難は「すぐに」 児童，対応学ぶ，2016年11月5日

白井愛，静岡新聞，外国人守る避難7提言 県警「津波」で語呂合わせ，2017年5月18日

白井愛，静岡新聞，この人，2017年6月14日

白井愛，読売新聞，津波が来たら？紙芝居で学ぼう 県警が教材作成，2017年11月15日

白井愛，静岡新聞，津波避難紙芝居で啓発 県警 小学生向けに親しみやすく，2017年11月22日

白井愛，読売新聞，女性・子ども向け災害マニュアル，2017年12月6日

白井愛，朝日新聞，避難所の性犯罪防げ 県警女性や子ども向けマニュアル，2017年12月13日

白井愛，静岡新聞，女性・子ども 犯罪から守れ 避難所での防犯 冊子に，2017年12月18日

白井愛，毎日新聞，県警 防災防犯女子マニュアル作成，2017年12月25日
白井愛，SBSテレビ イブアイしずおかニュース「防災最前線」特集コーナー，災害避難
所での女性・子どもの性被害を防げ，2018年1月31日
白井愛，少年写真新聞社，静岡県警が防災意識を育む教材を作成 「てんてん」と「ぼう
さい」をまなぼう！，2018年3月8日
杉村晃一，静岡新聞，災害危険認知、津波9割も…洪水3割 静岡市沿岸部，2016年6月
17日
杉村晃一，毎日新聞，多数の震災犠牲想定 遺体安置所手順を確認，2016年9月2日
杉村晃一，静岡新聞，「強い揺れ、即避難を」 静岡、日本自然災害学会，2016年9月21
日
杉村晃一，NHK 静岡，災害時の遺体安置所2割近く”選定できず” 2016年9月12日
杉村晃一，SBS，大雨災害の教訓を生かす 水害への備えと課題，2016年9月14日
杉村晃一，NHK 静岡，遺体安置所の運営学ぶ研修会，2016年11月25日
杉村晃一，SBS，どう逃げる？1000年に一度の水害，2017年6月14日
杉村晃一，NHK 静岡，緊急速報メール活用 川の氾濫に備え避難訓練，2017年6月14日
杉村晃一，NHK 静岡，洪水想定での避難訓練，2017年7月30日
杉村晃一，NHK 名古屋，「身近に危険が！」異常豪雨”，2017年9月2日
杉村晃一，NHK 静岡，防災情報を“点”で 自治体に気象予報士，2017年9月6日
杉村晃一，NHK 静岡，自治体に気象予報士，2017年9月19日
杉村晃一，NHK 静岡，南海トラフ地震新情報，2017年10月26日
杉村晃一，NHK 静岡，南海トラフ地震新情報，2017年10月31日
杉村晃一，NHK 静岡，南海トラフ新情報 福祉施設にヒアリング実施，2018年2月8日
杉村晃一，SBS，いま急がねば 水害の避難プラン，2018年3月28日
杉村晃一，NHK 静岡，福祉施設など避難計画づくり促す説明会，2018年4月19日

●公的な委員会等

青島晃：福田町史調査委員，2016年
向井利明，長野県防災会議幹事，2016年度～.
向井利明，長野県水防協議会幹事，2016年度～.
向井利明，長野県国民保護協議会幹事，2016年度～.
向井利明，長野県交通安全対策会議幹事，2016年度～.
向井利明，長野県長野市防災会議幹事，2016年度～.
向井利明，乗鞍岳火山防災協議会幹事，2016年度～.
向井利明，焼岳火山防災協議会幹事，2016年度～.
向井利明，御嶽山火山防災協議会幹事，2016年度～.
向井利明，新潟焼山火山防災協議会幹事，2016年度～.

向井利明, 草津白根山火山防災協議会幹事, 2016 年度～.

向井利明, 浅間山火山防災協議会幹事, 2016 年度～.

向井利明, 弥陀ヶ原火山防災協議会幹事, 2016 年度～.

向井利明, 天竜川上流水防連絡会幹事, 2016 年度～.

向井利明, 焼岳火山噴火緊急減災対策砂防計画検討会委員, 2016 年度～.

向井利明, 浅間山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討会委員, 2016 年度～.

向井利明, 御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討会委員, 2016 年度～.

向井利明, 乗鞍岳火山噴火緊急減災対策砂防計画検討会委員, 2017 年度～.

向井利明, 千曲川・犀川水防連絡会幹事, 2016 年度～.

向井利明, 千曲川・犀川大規模氾濫に関する減災対策協議会幹事, 2016 年度～.

向井利明, 長野県各 10 圏域大規模減災協議会幹事, 2017 年度～.

向井利明, 長野県農業気象協議会委員, 2016 年度～.

向井利明, 長野県総合土砂災害対策推進連絡委員会委員, 2016 年度～.

向井利明, 長野県御嶽山マイスター検討会委員, 2017 年度.

4.1.3 シンポジウム

本事業の成果や今後の展望について議論するため、定期的にシンポジウムを開催している。2016～2017年度の間には、下記2回のシンポジウムを実施した。いずれも別途報告書を刊行、Web公開しており、詳細は報告書を参照されたい。

(1)東海圏減災研究コンソーシアム第4回シンポジウム・ふじのくに防災フェロー養成講座 2016年度シンポジウム「現代における防災実務者育成の重要性」

日時：2017年3月18日(土) 13:30～17:00

場所：静岡県地震防災センター ないふるホール

内容：

- 東海圏減災研究コンソーシアム活動報告
- 基調講演1「減災から防災社会へ”想像力育む情報発信”」
静岡県防災総合センター教授 岩田孝仁
- 基調講演2「『文化系』の防災教育一人をみる／思想をつくる」
東京大学情報学環総合防災情報研究センター特任准教授 関谷直也
- パネルディスカッション「現代における防災実務者育成の重要性」
コーディネータ：牛山素行(静岡大学)
パネリスト： 小山真紀(岐阜大学)
新井伸夫(名古屋大学)
秀島栄三(名古屋工業大学)
名執潔(豊橋技術科学大学)
浅野聡(三重大学)
小林正人(浜松市役所)

(2)2017年度 シンポジウム

日時：2018年3月17日(土) 13:30～16:10

場所：静岡県地震防災センター ないふるホール

内容：

- ふじのくに防災フェロー養成講座 最近の概況報告
静岡大学(ふじのくに防災フェロー養成講座運営主幹) 牛山素行
- 基調講演「美しく、強く、しなやかな”ふじのくに”づくり」
静岡県危機管理監 外岡達朗
- ふじのくに防災フェロー 活動報告会
報告者(1)：原田 久仁一(2015年3月修了・静岡県知事戦略局広聴広報課)
報告者(2)：日下 純(2016年3月修了・静岡エフエム放送)
報告者(3)：清水修二(2015年3月修了・袋井市都市建設部都市計画課)

4.2 自然災害科学中部地区研究集会

京都大学防災研究所を事務局とする自然災害研究協議会は、各地区に部会をおいている。同協議会中部地区部会では、2011年度から毎年度末に「自然災害科学中部地区研究集会」を開催している。この集会は、中部地区の災害、防災関係研究者、技術者、学生などが研究成果を発表するもので、一般的な学会に準ずる集会である。発表に際して、会員登録等の必要はなく、中部地区に在勤していない者でも参加、発表が可能である。静岡大学防災総合センターは、この研究集会の実施事務局となっており、毎年3月上旬に静岡市内で開催している。

2016、2017年度には下記の概要で開催された。

平成28年度自然災害科学中部地区研究集会

主催：自然災害研究協議会中部地区部会・静岡大学防災総合センター

期日：2017年3月4日(土)

場所：静岡県地震防災センター

発表件数：11件

平成29年度自然災害科学中部地区研究集会

主催：自然災害研究協議会中部地区部会・静岡大学防災総合センター

期日：2018年3月3日(土)

場所：静岡県地震防災センター

発表件数：13件

4.3 しずおか防災コンソーシアム・ふじのくに防災学講座

静岡県では県危機管理部，教育委員会および静岡大学，浜松医科大学，静岡県立大学，静岡文化芸術大学，東海大学，常葉大学の県内 6 大学，气象台，報道機関各社を加えた「しずおか防災コンソーシアム」が平成 21 年 4 月に発足した。

このコンソーシアムは，県内の防災に携わる研究者と専門家等の多面的な交流や情報発信を目的としており，その一環として，静岡県地震防災センターを会場として，市民向け公開講座「しずおか防災コンソーシアム地域連携土曜セミナー」を，おおむね 1 ヶ月に 1 回のペースで定期的に開催している。コンソーシアムの準備段階からこのセミナーは始まり，平成 20 年度から平成 23 年度までに 45 回開催し，平成 23 年度からは「ふじのくに防災学講座」と名称を変え，今後も継続の予定である。防災総合センターでは，静岡県地震防災センターと連携してこのセミナーの運営に当たっている。平成 22 年度からは，参加 6 大学と静岡県がそれぞれ持ち回りで担当回を持つ形で運営している。静岡県の防災研究者，防災行政関係者，市民の定期的な交流の場として定着しつつある。

平成 28 年度～平成 29 年度までのセミナー一覧

87 回「静岡県から熊本地震で被災した自治体に派遣された職員による報告会」 H28.5.21

88 回「熊本地震から見た建物被害の分析と対応の課題」 H28.6.18

89 回「静岡大学防災総合センター・2016 年熊本地震調査報告」 H28.7.16

90 回「陸上では捉えられない駿河湾海底下の地震活動について—2009 年「静岡沖の地震 (M6.4)」のその後—」 H28.9.17

91 回「地震予知研究の現状」 H28.10.15

92 回「南海トラフで発生する地震とその被害」他 H28.11.6

93 回「何を守るのか？ どう守るのか？～建築構造の観点から、その原点を考える。～」 H28.12.17

94 回「大震法ができた頃と今」 H29.1.21

95 回「災害に対する公衆衛生活動」 H29.2.18

96 回「静岡大学の地域防災への貢献」 H29.3.18

97 回「地域の防災力を高める～最近の災害取材から～」 H29.5.13

98 回「まちの再建へのながいみちのり～東日本大震災と熊本地震～」 H29.6.17

99 回「近年の豪雨の特徴と今後目指すべき防災・気象情報の姿」 H29.7.15

100 回「不確実な地震予測情報を防災に生かすには」 H29.9.16

101 回「九州北部豪雨，「被災者自身の発信」が映し出した災害現場の素顔」 H29.10.21

102 回「津波を知り、津波に備える」 H29.11.5

103 回「災害医療の基本原則 CSCATTT」 H29.12.16

104 回「日本列島地殻変動の謎に迫る」 H30.1.27

105 回「災害発生時に求められるしなやかさ：命を守るコミュニティ」 H30.2.17

106 回「日本と東南アジアにおける刼近年の大規模な土砂移動現象と斜面災害の特徴」
H30.3.17

4.4 東海圏減災研究コンソーシアム

(1) 東海圏減災研究コンソーシアムとは

東海圏減災研究コンソーシアムとは、南海トラフ巨大地震、巨大台風や集中豪雨による風水害、洪水などの災害による被害を最小限に抑えることを目標に掲げ、東海圏に位置する6つの国立大学法人の防災・減災関連センターが協力・協働する場として、平成25年3月3日に設立されたものである（詳細は、<http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/consortium/index.html>）。

本コンソーシアムに参加する各大学はそれぞれ得意な研究・教育分野を持ち、また各大学はそれぞれが位置する地域や市民と密接な関わりを持っている。このような各大学の特質や長所を有機的に連携させ、東海圏全体の防災・減災力を総合的に向上させるため、本コンソーシアムでは各大学の代表者による幹事会、実務委員会に加え、ハザード評価専門部会、被害予測専門部会、減災技術開発専門部会、地域防災力向上専門部会、人材育成・活用専門部会、そして情報基盤整備専門部会の6つの専門部会を設置している。

防災総合センターは、本コンソーシアムに参画し、地域社会における防災・減災について大学の枠を越えて各大学と連携して研究を推進している。

(2) コンソーシアム参加の各大学のセンター

岐阜大学地域減災研究センター

静岡大学防災総合センター

名古屋大学減災連携研究センター

名古屋工業大学高度防災工学センター

豊橋技術科学大学安全安心地域共創リサーチセンター

三重大学地域圏防災・減災研究センター

(3) 2017年度の活動実績

2017年度の活動としては、幹事会および実務委員会の開催、各専門部会（ハザード評価専門部会、被害予測専門部会・減災技術開発専門部会、地域防災力向上専門部会、人材育成・活用専門部会、情報基盤整備専門部会）の研究会において研究内容や災害事例についての情報交換や連携を行った。また、2017年3月24日に、豊橋公会堂主ホールにて、シンポジウムを開催した。

4.5 減災地域共同モデルの社会実装と検証（SIP）

本プロジェクトは、戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）のうちの、「レジリエントな防災・減災機能の強化」の課題⑦-1 サブテーマ 3 として防災総合センターが行っているものである。

戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）とは、総合科学技術・イノベーション会議が司令塔機能を発揮し、府庁の枠や旧来の分野の枠を超えたマネジメントに主導的な役割を果たすことで科学技術イノベーションを実現するための国家プロジェクトで、日本国民や日本の経済・産業力にとって重要な 11 の課題についてイノベーションを目指している。

このうちの一つ「レジリエントな防災・減災機能の強化」では、リアルタイムに災害情報の共有する仕組みを作り上げ、その情報を災害発生時の災害対応実施機関で共有し応急対策の迅速化・効率化に貢献することを目標に、予測・予防・対応に関する 7 つのテーマに取り組んでいる。

課題⑦「地域連携による地域災害対応アプリケーション技術の研究開発」のうちの一つ、課題⑦-1「産業集積地・津波リスク想定地のレジリエンス向上」では南海トラフ巨大地震に対する大規模災害を念頭に産業集積地や津波リスク想定地を対象とした地域のレジリエンスの向上を目指して西三河、高知県、静岡市などをフィールドとした 3 つのサブテーマで実施している。

防災総合センターはこのサブテーマ 3 として、静岡市をフィールドとした減災地域協働モデルの検証を行っている。2014 年度から名古屋大学の行っているサブテーマ 1「地域協働と情報連携による地域密着型減災シンクタンク構想」によって構築されたモデルを元に、静岡エリアで基礎自治体を含む産官連携の実現を可能とする『場』の構築を推進する社会実装実験を実施する。また、静岡での適用をもとに西三河モデルの標準化も目指す。2017 年度は、静岡市や静岡県などの助力を得て基礎データの収集と GIS データベースの構築を図り、そのデータを活用した以下のワークショップを開催した。

・ワークショップ

静岡における大規模地震災害時の地域協働連携に向けたワークショップ

日時：平成 29 年 11 月 30 日（木）15:00～18:00

場所：静岡県地震防災センターTSUNAMI シアター

4.6 しずおか防災コンソーシアム勉強会

静岡防災コンソーシアム構成機関の担当者が最新の防災関連情報の共有と専門家との意見交換を行う勉強会を、静岡県地震防災センター大会議室を会場に開催

(注) 静岡防災コンソーシアム構成機関

静岡大学、浜松医科大学、静岡県立大学、静岡文化芸術大学、常葉大学、東海大学

静岡県、静岡県教育委員会、静岡地方気象台、静岡新聞、中日新聞静岡総局、NHK 静岡放送局、静岡放送、静岡第一テレビ、静岡朝日テレビ、テレビ静岡

<2016 年度>

第 1 回 2016/06/28 19:30~21:00

テーマ 建物の耐震基準って

講師 名古屋大学減災連携研究センター長 教授 福和伸夫

参加者 69 名



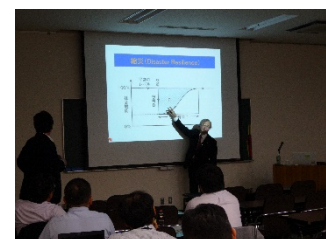
第 2 回 2016/10/24 19:30~21:00

テーマ 国難となる巨大地震に日本はどう立ち向かうべきか

講師 京都大学名誉教授

関西大学社会安全研究センター長 河田恵昭

参加者 59 名



<2017 年度>

第 3 回 2017 年 5 月 12 日(金) 19:30~21:00

テーマ 避難って何?

講師 東京大学大学院総合防災情報研究センター長 田中 淳

参加者 57 名



第 4 回 平成 29 年 11 月 8 日(水) 19:30~21:00

テーマ 静岡県の気象災害事例と最近の気象と災害の特徴

講師 (株)ハレックス参与 市澤成介

参加者 46 名



第 5 回 平成 30 年 1 月 25 日(木) 19:30~21:00

テーマ 災害から命を守る言葉とは

～NHK の 3・11 報道の当事者分析から

講師 NHK アナウンサー 横尾泰輔

参加者 71 名



4.7 防災総合センター主催シンポジウム

4.7.1 地震津波シンポジウム 東海・南海巨大地震を考える in SHIMIZU

迫り来る東海・南海地震に備えて最新の研究成果を報告し、防災意識を高めてもらうことを目的としてシンポジウムを開催した。シンポジウム会場の外では東北大による東日本大震災の震災以降の3Dバーチャル画像体験展示や、JAMSTECの活動についての展示も行われた。

地震津波シンポジウム 東海・南海巨大地震を考える in SHIMIZU

日時：2017年3月25日（土） 13:00～17:00

場所：清水テルサ1階 テルサホール

主催：静岡大学防災総合センター、東北大学総合学術博物館

共催：ふじのくに地球環境史ミュージアム、静岡県危機管理部、高知大学海洋コア総合研究センター

協賛：JAMSTEC

後援：地震・津波対策を考える都道府県議会議員連盟

講演内容：

「古地震・津波研究からみた東日本大震災」

菅原大助（ふじのくに地球環境史ミュージアム）

「「ちきゅう」による深海掘削で明らかになった東北沖地震・巨大津波発生のメカニズム」

氏家恒太郎（筑波大学）

「津波堆積物層の発掘調査から戦国時代の津波災害を想定する」

金子浩之（伊東市史編さん室）

「静岡県のレベル2と1,そして1.5の地震・津波」

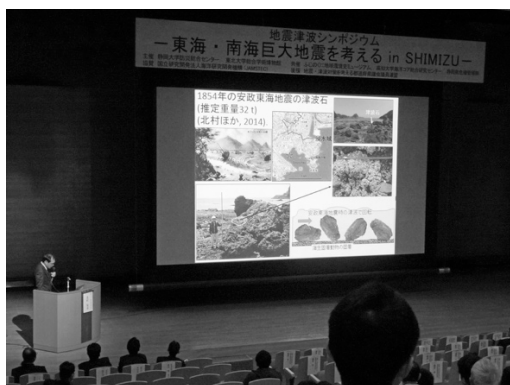
北村晃寿（静岡大学）

「水・ガス・電気を自家供給する災害時地域防災拠点の創成」

木村浩之（静岡大学）

「静岡県の地震・津波対策」

鈴木亨（静岡県危機管理部）



4.7.2 平成 29 年 7 月九州北部豪雨による災害・現地調査速報会

2017 年 7 月 5 日に発生した平成 29 年 7 月九州北部豪雨による災害に関して、当センター関係者による調査研究が行われた。この災害について、災害発生 1 ヶ月時点での調査結果を静岡県内の防災関係者に報告する目的で、2017 年 8 月 4 日に下記要領で速報会を実施した。

「平成 29 年 7 月九州北部豪雨による災害・現地調査速報会」

主催：静岡大学防災総合センター

開催日：2017 年 8 月 4 日(金)

時間：13 時 00 分～15 時 00 分

場所：静岡県地震防災センター ないふるホール（2 階）

静岡市葵区駒形通 5 丁目 9 番 1 号

内容：

「防災行政の観点からの報告」

岩田孝仁(静岡大学防災総合センター教授・センター長)

「人的被害・家屋被害の特徴(仮題)」

牛山素行(静岡大学防災総合センター教授・副センター長)

5 社会的活動

5.1 外部・公開講演会等

阿部秀保・北村育美・佐藤敏郎・矢守克也・佐藤翔輔・中林一樹：日本災害復興学会石巻大会公開シンポジウム，パネルディスカッション「被災地から未来へ～子どもたちと考える復興～」，2016/10/2

千木良雅弘，斜面崩壊発生場所に関する最近の研究進展と物理探査に期待するもの 物理探査学会，早稲田大学国際会議場井深大記念ホール，2016年5月17日。

藤井基貴「防災教育」越境地域政策研究フォーラム」招待講演，2018年2月10日，於愛知大学。

藤井基貴「心理学は道徳性をどう捉えるか」心理科学研究会，全体シンポジウム招待講演，2017年11月18日，於愛知県犬山市。

藤井基貴「考え，議論する道徳に向けて」静岡大学附属浜松小学校，2018年3月。

藤井基貴「考え，議論する道徳教育」菊川市教育委員会，2017年7月。

藤井基貴「考え，議論する道徳の授業づくり」亀山市教育委員会，2017年7月。

藤井基貴「主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくり」愛知サマーセミナー，2017年7月。

藤井基貴「いのちを考える『防災道徳』授業の実践」佐世保市教育委員会，2016年12月。

二川雅登，H28年度研究成果情報交換会，静岡県先進的農業推進協議会，静岡大学農学部，2017年1月19日

二川雅登，第92回湿度、水分計測・センサ研究会，（一社）日本計量機器工業連合会，日本計量会館，2017年1月30日

秦康範，やまなし福祉救援活動フォーラム 基調講演・コーディネーター，山梨県社会福祉協議会，2018年3月2日

秦康範，防災講習会 講師，山梨県建設コンサルタント協会、山梨県測量設計業協会，2017年12月13日

秦康範，勉強会講師，峡南地区小中学校教頭会，2017年11月2日

秦康範，講演会講師，甲府防火協会，2017年9月14日

秦康範，長野県地震総合防災訓練 講評，長野県，2017年9月1日

秦康範，勉強会講師，北都留地区教育研究協議会，2017年8月18日

秦康範，山梨県教職員初任者研修 講師，山梨県総合教育センター，2017年7月28日

秦康範，研修会講師，南アルプス市立白根源小学校，2017年7月25日

秦康範，講演会講師，協同組合ハイキュー，2017年7月21日

秦康範，防災研修会講師，阿南町，2017年7月7日

秦康範，勉強会講師，都留市小中学校教頭会，2017年7月5日

秦康範，山梨災害ボランティア連絡会議15周年記念シンポジウム「大規模災害と受援力」，

コーディネーター，2017年5月15日

秦康範，防災講習会講師，伊那市，2017年5月12日

秦康範，新防災教育リーダー研修会講師，山梨県総合教育センター，2017年4月26日

原田賢治，「地域の特徴を踏まえたソフト・ハード両面からの対策の最適化，静岡市清水の事例」，巨大地震・津波に対し水循環施設はどう備えるべきか，土木学会平成29年度全国大会研究討論会，九州大学，2017.9.11.

原田賢治，「ポータルサイトや論文レビューの完成イメージ」，第63回土木学会海岸工学講演会，前日シンポジウム，津波防災研究ポータルサイトおよびベンチマーク問題の構築～実験・調査データ等の津波防災研究および実務への利活用～，大阪大学中之島センター，2016/11/15.

原田賢治，「南海・駿河トラフの巨大津波のシミュレーション」，日本地質学会中部支部，2016年支部年会シンポジウム，地質記録から探る静岡県の低頻度大規模自然災害，ふじのくに地球環境史ミュージアム，2016.6.11.

原田賢治，静岡県中小企業家同友会，大規模災害リスクへの対応～静岡県の被害想定について，2018.2.3.

原田賢治，平成29年度ふじのくに防災士養成講座Bコース，「津波防災，静岡県第4次地震被害想定における津波被害想定の実状とその対策」，静岡県地震防災センター，2017.10.28

原田賢治，平成29年度ふじのくに防災士養成講座Aコース，「津波防災，静岡県第4次地震被害想定における津波被害想定の実状とその対策」，静岡県立大学，2017.9.14

原田賢治，平成29年度静岡県地質調査業協会技術講習会，「地震被害想定における津波シミュレーション」，静岡市産学交流センターBnest，2017.7.21.

原田賢治，吉田町教育委員会，吉田町シニアカレッジ，「津波による災害と防災対策」，吉田町中央公民館，2017/2/22.

原田賢治，静岡県糖尿病協会・日本イーライリリー株式会社，糖尿病市民公開講座，「津波による災害と津波防災について」，キラメッセぬまづ，2016/11/26.

原田賢治，平成28年度ふじのくに防災士養成講座Bコース，「津波防災，静岡県第4次地震被害想定における津波被害想定の実状とその対策」，静岡県地震防災センター，2016.11.12.

原田賢治，平成28年度ふじのくに防災士養成講座Aコース，「津波防災，静岡県第4次地震被害想定における津波被害想定の実状とその対策」，静岡県立大学，2016.9.15.

原田賢治，平成28年度静岡市市民大学リレー講座，「津波防災対策とリスク・コミュニケーション」，アイセル21（葵生涯学習センター），2016.9.3.

橋本 岳，【招待講演】第103回「産学官交流」講演会・交流会，静岡市清水産業・情報プラザ（静岡商工会議所），静岡商工会議所・清水事務所，2016年9月26日.

橋本 岳，【招待講演】画像応用技術専門委員会2017年度第3回研究会，精密工学会，

中央大学理工学部, 2017年9月29日.

橋本 岳, 【招待講演】「攻め」の防災に向けた気象災害の能動的軽減を実現するイノベーションに関する第5回気象災害におけるAI活用検討会, 防災科学技術研究所, 防災科学技術研究所, 2018年2月27日.

林能成, 熊本地震から考える 地震対策の課題, 平成28年度静岡県公立高等学校防災担当者研修会, 静岡県教育委員会 グランシップ会議ホール・風, 2016年5月23日.

林能成, 地震予知の功罪を考える, 第3回震災対策技術展 グランフロント大阪, 2016年6月2日.

林能成, 地震から新幹線を守れ!ー地震を知る、使う、備えるー, 丸の内キッズジャンボリー2016 東京国際フォーラム, 2016年8月18日.

林能成, 地震・津波発生メカニズムと実態(事例), 防災スペシャリスト養成研修・平成28年度第1期 有明の丘基幹的広域防災拠点施設, 2016年9月5日.

林能成, 地震・津波発生メカニズムと実態(事例), 防災スペシャリスト養成研修・平成28年度第2期 有明の丘基幹的広域防災拠点施設, 2017年1月24日.

林能成, 地震と鉄道～被災の歴史と対策の進化～, 日本技術士会近畿本部機械システム部会機械システム部会・例会, 大阪科学技術センター, 2017年3月11日.

林能成, 地震予知の科学と防災, 関西大学社会安全学部連続セミナー「安全・安心に関わる科学技術の最前線」, 関西大学東京センター, 2017年5月11日.

林能成, 地震予知と学校対応～東海地震対策の特殊性と将来展望～, 平成29年度静岡県公立高等学校防災担当者研修会, 静岡県教育委員会 グランシップ会議ホール・風, 2017年5月17日.

林能成, 地震学の理科と社会, 夢ナビライブ2017大阪, インテックス大阪, 2017年6月17日.

林能成, 地震・津波発生メカニズムと実態(事例), 防災スペシャリスト養成研修・平成29年度第1期 有明の丘基幹的広域防災拠点施設, 2017年9月7日.

林能成, 地震・津波のしくみと被害, 平成29年度上越市防災士養成講座, ユートピアくびき・希望館 第一会議室, 2017年11月12日.

林能成, 南海トラフ巨大地震と地震予知, 第26回高槻ミュージックキャンパス公開講座「高槻の地震災害」, 関西大学高槻ミュージックキャンパス, 2017年11月18日.

林能成, 熊本地震とはどのような地震だったのか?, 関西大学社会安全学部第8回東京シンポジウム, 関西大学東京センター, 2017年12月1日.

林能成, 巨大災害(地震・津波)に備えて～熊本地震などの教訓から～, 尼崎市塚口西自主防災訓練等, 尼崎北高校体育館, 2017年12月2日.

林能成, 南海トラフ巨大地震に向けた地震情報の活用策, 尼崎市中央公民館講座, 尼崎市中央公民館, 2017年12月14-15日.

林能成, 地震・津波発生メカニズムと実態(事例), 防災スペシャリスト養成研修・平成29

- 年度第2期 有明の丘基幹的広域防災拠点施設, 2018年1月25日.
- 本間基寛: 第99回ふじのくに防災学講座, 静岡県危機管理部, 静岡県静岡市, 2017年7月14日.
- 本間基寛: 日本包装専士会アカデミーキャンパス, 日本包装専士会, 東京都江東区, 2017年8月4日.
- 本間基寛: 愛知県循環ビジネス創出会議, 愛知県環境部資源循環推進課, 愛知県名古屋市, 2017年8月28日.
- 本間基寛: 廃棄物資源循環学会セミナー, 廃棄物資源循環学会, 東京都北区, 2017年10月6日.
- 本間基寛: 経営を効率化するための省エネ・再エネ推進セミナー, 宮城県中小企業団中央会, 宮城県仙台市, 2017年11月9日.
- 本間基寛: 第10回省エネセミナー, 東京都環境公社, 東京都千代田区, 2017年11月22日.
- 池田恵子, 「防災・災害対応における男女共同参画の視点～定着を目指して」, みらいねっとフォーラム2018(福岡県), 主催: 福岡県男女共同参画推進連絡会議(ふくおか みらいねっと), 福岡県: クローバープラザ, 2018年3月11日(講演)
- 池田恵子, 「防災・災害対応における男女共同参画・多様性配慮の視点」, 平成29年度茨城県男女共同参画推進員研修会, 主催: 茨城県, 茨城県: 茨城県水戸合同庁舎, 2018年2月20日(研修講師)
- 池田恵子, 「震災から自分の身を守る～高齢者・障害者・子ども・女性などの視点から～」, 防災講演会, 主催: 藤沢市村岡公民館, 神奈川県: 藤沢市村岡公民館, 2018年2月18日(講演)
- 池田恵子, 「これからの地域防災を変える! 女性防災リーダーの力」, 平成29年度「ふじのくに男女共同参画防災ネットワーク会議」, 主催: 静岡県くらし・環境部県民生活局, 静岡県: 男女共同参画センターあざれあ, 2018年2月14日(パネリスト)
- 池田恵子, 「多様な人々にとって安心で安全な避難所運営」, 平成29年度常滑市防災リーダー養成講座, 主催: 常滑市, 愛知県: 常滑市消防本部, 2018年1月28日(研修講師)
- 池田恵子, 「避難所運営から考える男女共同参画～防災力を高めるために大切なこと～」, 地域講演会(ふじさわ男女共同参画ネットワーク協力員・六会地区防災リーダー連絡会), 主催: 藤沢市企画政策部人権男女共同平和課, 神奈川県: 藤沢市六会市民センター, 2018年1月27日(講演)
- IKEDA, Keiko, Gender Mainstreaming in Disaster Risk Reduction, JICA Training course: Gender Mainstreaming Policies for Government Officers 2017 B, 主催: JICA, 東京: JICA 東京, 2018年1月25日
- 池田恵子, 「災害時における暴力とその対策」, 「女性関連施設の役割とこれから」ほか, 災害(復興)・防災と男女共同参画に関する講師育成研修, 主催: 全国女性会館協議会, 東

- 京：エセナ大田，2017年12月15 - 16日（研修講師）
- 池田恵子，「〔女性の参画実践編〕地域防災活動の現場へ」，2017年地域の防災女子力パワーアップ講座，主催：静岡県，静岡：静岡県男女用同参画センターあざれあ，2017年12月15日（研修講師）
- IKEDA, Keiko, Experience of Training Center for Gender and Disaster Risk Reduction, International Symposium of the Institute of Global Leadership Women Taking the Lead: Women's International and Social Leadership in East and Southeast Asia, Institute for Global Leadership, Ochanomizu University, Tokyo: Ochanomizu University, Dec., 5, 2017,（講演）
- 池田恵子，「男女共同参画の視点で考える防災」，つばめ「人とひと」ふれあいフェスタ 2017，主催：新潟県燕市，新潟県：燕市吉田産業会館，2017年12月3日（講演）
- 池田恵子，「女性&男性の視点で 防災力アップ！」，平成 29 年度阿賀野市男女共同参画意識啓発事業，（公財）新潟県女性財団地域セミナーin 阿賀野，主催：新潟県女性財団・阿賀野市，新潟県：阿賀野市役所，2017年11月30日（研修講師）
- 池田恵子，「女性の視点で実践する避難所運営図上訓練」，平成 29 年度第 3 回女性防災講座，主催：湖西市危機管理課，静岡：湖西市健康福祉センターおぼと，2017年11月26日（研修講師）
- 池田恵子，「静岡県の女性防災人災育成」，トーク×トーク 女性たちのリーダーシップ 2017 世界防災フォーラム／防災ダボス会議@仙台，トークセッション「平時にできないことは、災害時にはなおできない」，主催：仙台市・公益財団法人せんだい男女共同参画財団，宮城県：仙台国際センター，2017年11月26日（パネリスト）
- 池田恵子，「〔女性の参画実践編〕地域防災活動の現場へ」，2017年地域の防災女子力パワーアップ講座，主催：静岡県，静岡：御殿場市民会館，2017年11月19日（研修講師）
- 池田恵子，「スフィア基準って何だろう？」，仙台防災減災講座 2017，主催：仙台市女性防災リーダー（SBL）・仙台市生涯学習支援センター，宮城県：仙台市生涯学習支援センター，2017年11月18日（研修講師）
- 池田恵子，「避難所であなただんな役割を担えますか？」，「みんなで助け合える避難所づくり」講習会，主催：ネットワークながいずみ，静岡：長泉町コミュニティながいずみ，2017年11月12日（研修講師）
- 池田恵子，「わが家と地域の防災対策」，平成 29 年度静岡市葵区地域総務課×西部生涯学習センター共催事業防災講演会，静岡：静岡市西部生涯学習センター，2017年11月10日（研修講師）
- 池田恵子，「被災した女性の『ニーズ』と災害支援～東日本大震災女性支援ネットワーク『支援者調査』から～」，生きづらさ学ワークショップ&講演会 2017，生きやすさ応援実行委員会，平成 29 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ連携型共同研究，岐阜：岐阜女子大学文化情報研究センター，2017年

11月3日（研究会講師）

池田恵子、「防災・減災の視点で地域を考える」、静岡県助産師会災害時支援助産師養成講座、主催：静岡県助産師会、静岡：静岡労政会館、2017年10月29日（研修講師）

池田恵子、「男女共同参画の視点からの防災」、平成29年度静岡県ふじのくに防災士養成講座Bコース、主催：静岡県危機管理課、静岡：静岡県地震防災センター、2017年10月29日（研修講師）

IKEDA, Keiko, Introduction to Gendering Disaster Risk Reduction, JICA Training course: Gender and Diversity in DRR 2017, 主催：国際協力機構（JICA）, 仙台：仙台都会館, 2017年10月12日東京：JICA東京, 2017年10月27日,

池田恵子、「男女双方の視点で災害に強い地域づくりを」、平成29年度男女共同参画体制づくり支援事業（新潟県）、主催：胎内市、新潟県：胎内市役所、2017年10月20日（研修講師）

池田恵子、「男女共同参画の視点で考える防災・減災～より災害に強い社会の創生に向けて～」、平成29年度伊勢市防災大学、主催：伊勢市危機管理課、三重県：伊勢市防災センター、2017年10月15日（講演）

池田恵子、「多様な人々の人権・ニーズに基づく防災・災害対応」、平成29年度静岡県人権教育行政担当者連絡協議会、主催：静岡県教育委員会教育政策課、静岡：静岡市総合福祉会館、2017年10月6日（研修講師）

池田恵子、「わが家と地域の防災対策」、静岡市西部生涯学習センター高齢者学級みのり大学西部学級、主催：静岡市西部生涯学習センター、静岡：静岡市西部生涯学習センター、2017年9月7日（研修講師）

池田恵子、「多様な人々にとって安心して安全な避難所運営」、平成29年度女性のための防災・減災リーダー養成講座、主催：御前崎災害支援ネットワーク、静岡：御前崎市佐倉公民館、2017年9月30日（研修講師）

池田恵子、「男女共同参画の視点による防災・災害対応〔実践編〕」、静岡県男女共同参画センターあざれあ講師養成研修、静岡：静岡県男女共同参画センターあざれあ、2017年9月18日（研修講師）

池田恵子、「男女共同参画の視点から考える防災・減災～より災害に強い社会の創生に向けて～」、茨城県女性プラザ男女共同参画ネットワーク講座、主催：茨城県・茨城県女性プラザ、茨城県：県南生涯学習センター、2017年9月13日（研修講師）

池田恵子、当事者の声が生きる災害支援セミナー、2017年9月10日、主催：静岡市女性会館・静岡大学（地域連携事業）、静岡：静岡市女性会館（パネルディスカッション進行）

池田恵子、「男女共同参画の視点からの防災」、平成29年度静岡県ふじのくに防災士養成講座Aコース、主催：静岡県危機管理課、静岡：静岡県立大学、2017年9月20日（研修講師）

池田恵子、「人間の安全保障論をジェンダーの視点から問い直す」国際ジェンダー学会2017

- 年大会シンポジウム I, 主催: 国際ジェンダー学会, 東京: 明星大学, 2017 年 9 月 2 日,
(趣旨説明)
- 池田恵子, 「防災・減災の視点で地域を考える」, 静岡市地域デザインカレッジ 2017 (コミュニティコース) 第 3 回, 主催: 静岡市, 静岡: 葵区生涯学習センター, 2017 年 8 月 19 日 (研修講師)
- 池田恵子, 「男女双方の視点で災害に強い地域づくりを」, 平成 29 年度愛媛県女性消防団員加入促進アピール大会, 主催: 愛媛県危機管理部, 愛媛県: 宇和文化会館, 2017 年 8 月 5 日 (講演)
- 池田恵子, 「男女双方の視点で災害に強い地域づくり」, 平成 29 年度地域防災入門講座, 主催: 静岡市社会福祉協議会葵区地域福祉推進センター・静岡市女性会館, 静岡: 静岡市女性会館, 2017 年 7 月 26 日 (研修講師)
- 池田恵子, 「男女が共に担う地域防災体制づくり」, 焼津市市民防災リーダー育成講座主催: 焼津市, 静岡: 焼津市消防センター, 2017 年 7 月 25 日 (講演)
- 池田恵子, バングラデシュの都市地方自治体の首長に対する地方行政能力強化研修, JICA 研修コース バングラデシュ国「ポルショバの市長に対する本邦研修」, 主催: JICA, 静岡: 静岡市役所ほか, 2017 年 7 月 24 日~28 日 (研修企画協力)
- 池田恵子, 「避難所運営の課題~近年の大災害の事例から~」, NPO 法人あいち防災リーダー育成支援ネット フォローアップ研修, 主催: NPO 法人あいち防災リーダー育成支援ネット, 愛知県: ウィルあいち, 2017 年 7 月 15 日 (講演)
- 池田恵子, 避難所開設訓練の指導, 長泉小学校避難所開設訓練 (駿東郡長泉町), 主催: ネットワークながいずみ, 静岡: 長泉町立長泉小学校, 2017 年 7 月 1 日 (研修講師)
- 池田恵子, 「男女双方の視点を取り入れた地域防災活動の推進」, 富士宮市男女共同参画セミナー, 主催: 富士宮市, 静岡: 富士宮市総合福祉会館, 2017 年 6 月 12 日 (講演)
- IKEDA, Keiko, Gender Mainstreaming in Disaster Risk Reduction, JICA Training course: Gender Mainstreaming Policies for Government Officers 2017 A, 主催: JICA, 東京: JICA 東京, 2017 年 6 月 8 日 (研修講師)
- 池田恵子, 「男女双方の視点で災害に強い地域づくりを」, 平成 29 年度第 1 回女性防災講座, 主催: 湖西市危機管理課, 静岡: 湖西市健康福祉センターおぼと, 2017 年 5 月 27 日 (研修講師)
- 池田恵子, 「男女共同参画と防災~災害に備えたネットワークづくり~」, NPO 法人あざれあ交流会議第 11 回総会記念講演会, 主催: NPO 法人あざれあ交流会議, 静岡: 静岡県男女共同参画センターあざれあ, 2017 年 5 月 20 日 (講演)
- 池田恵子, 「東日本大震災の教訓に学ぶ 男女双方の視点で考える避難生活」, みんなで話そう! 女性にやさしい避難所ライフ, 主催: 裾野市危機管理課, 静岡: 裾野市生涯学習センター, 2017 年 5 月 19 日 (研修講師)
- 池田恵子, 「男女共同参画と防災~災害に備えたネットワークづくり~」, 静岡県保育所連

- 合会所長研修会，主催：静岡県保育所連合会，静岡：静岡市民文化会館，2017年4月28日（講演）
- 池田恵子，「防災＝すべての人が安心して暮らせる地域づくり」，焼津市大村公民館主催講座社会学級合同講座，主催：焼津市大村公民館，焼津市：大村公民館，2017年3月22日（研修講師）
- 池田恵子，「防災を通して考えよう！男女が共に担う地域づくり」，駿東郡清水町区長会研修会，主催：駿東郡清水町区長会，静岡県：おおとり荘，2017年3月15日（講演）
- 池田恵子，「防災を通して考えよう！男女が共に担う地域づくり」，北九州市八幡東区自治総連合会全体研修会，主催：北九州市八幡東区自治総連合会，福岡県：響ホール，2017年3月11日（講演）
- 池田恵子，「女性と防災～女性の視点を防災へ～」，坂東市女性フォーラム「女性と防災のシンポジウム」，主催：坂東市女性フォーラム，茨城県：坂東郷土館ミュージズ，2017年2月11日（講演）
- 池田恵子，「男女共同参画の視点で取り組む防災」，あぐい女性の会男女共同参画講演会主催：あぐい女性の会・阿久比町・阿久比町教育委員会，愛知県：あぐい町公民館，2017年2月5日（講演）
- 池田恵子，「女性・多様な人々の視点を生かした災害対応と防災体制」，第21回「震災対策技術展」横浜セミナー，主催：「振動技術展」事務局，神奈川県：パシフィコ横浜，2017年2月3日（講演）
- 池田恵子，「発災時の時系列の状況」，団体力パワーアップ講座2016 日頃の活動を減災に活かす～もしも活動中に発災したら…～，主催：静岡市女性会館，静岡県：アイセル21，2017年年1月28日（研修講師）
- IKEDA, Keiko, Gender Mainstreaming in Disaster Risk Reduction, JICA Training course: Gender Mainstreaming Policies for Government Officers 2016 B, 主催：JICA, 東京：JICA 東京, 2017年1月19日（研修講師）
- 池田恵子，「男女双方の視点で災害に強い地域づくりを」，湖西市女性防災セミナー，主催：湖西市危機管理課，湖西市：湖西市健康福祉センター，2017年1月7日（研修講師）
- 池田恵子，「災害時の女性のニーズを支援につなげる」，磐田市助産師会研修会，主催：静岡県磐田市助産師会，磐田市：アミューズ豊田，2016年12月18日（研修講師）
- 池田恵子，「災害時における暴力とその対策」，「女性関連施設の役割とこれから」ほか，災害（復興）・防災と男女共同参画に関する講師育成研修，主催：全国女性会館協議，東京：エセナ大田，2016年12月16-17日（研修講師）
- 池田恵子，「地方自治体レベルの地域開発計画への災害リスク削減の主流化」，シンポジウム「バングラデシュにおける災害支援と地域開発の最前線」，主催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・基幹研究人類学班，東京：東京外国語大学，2016年12月11日（パネリスト）

池田恵子,「男女双方の視点で災害から家族と地域を守る」, 第 12 回防災フェア, 主催: 豊橋市, 愛知県: ライフポートとよはし, 2016 年 12 月 10 日 (講演)

IKEDA, Keiko, Introduction to Gendering Disaster Risk Reduction, JICA Training course: Gender and Diversity in DRR 2016, 主催: 国際協力機構 (JICA), 東京: JICA 東京, 2016 年 12 月 6 日 (研修講師)

池田恵子,「男女双方の視点で 家族と地域を守る」, 平成 28 年度地域セミナー, 主催: 燕市, 共催: (公財)新潟県女性財団, 新潟県: 燕市役所, 2016 年 12 月 4 日 (研修講師)

池田恵子,「男女共同参画の視点から考える防災・減災」, 平成 28 年度さわやかハーモニー講座, 主催: 石岡市, 茨城県: ふれあいの里ひまわりの館, 2016 年 11 月 27 日 (研修講師)

池田恵子,「導入: 防災・減災になぜジェンダーの視点が必要か」, 「ジェンダー理論」, 演習「被害・リスクのジェンダー分析」, FASID2016 年度第ジェンダー分析コース, 主催: FASID, 東京都: FASID, 2016 年 11 月 24-25 日 (研修講師)

池田恵子,「震災から自分の身を守る」, 2 市 1 町 (藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町) 広域連携事業男女共同参画啓発講演会, 主催: 共に生きるフォーラムふじさわ 2016 実行委員会・藤沢市, 神奈川県: ND ビル, 2016 年 11 月 20 日 (研修講師)

池田恵子,「地域的特色を理解する眼を養う～アジア州の学習を通して～」, 平成 28 年度静岡大学教育学部附属島田中学校教育研究発表会, 主催: 静岡大学教育学部附属島田中学校, 2016 年 11 月 10 日 (研修講師)

池田恵子,「男女双方の視点で考える防災」, 防災講演会&公開円卓会議, 主催: 瀬戸市市民活動センター, 愛知県: パルティセと, 2016 年 11 月 5 日 (講演)

池田恵子,「地震、災害時に役立つ! 女性のための防災学」, 静岡市西部生涯学習センターときめきカレッジ, 主催: 静岡市西部生涯学習センター, 静岡市: 西部生涯学習センター, 2016 年 10 月 25 日 (研修講師)

池田恵子,「“わたし”の視点で家族と地域を守る」, 平成 28 年度磐田市協働のまちづくり提案事業「いわた防災マッププロジェクト」講演会, 主催: いわた防災マッププロジェクト, 磐田市: 向笠交流センター, 2016 年 10 月 21 日 (研修講師)

池田恵子,「男女共同参画の視点による防災・復興」, 平成 28 年度男女共同参画推進体制づくり研修会及び(公財)新潟県女性財団行政職員交流支援事業, 主催: 新潟県・(公財)新潟県女性財団, 新潟県: 新潟ユニゾンプラザ, 2016 年 10 月 20 日 (研修講師)

池田恵子,「女性の視点から見た避難所の課題と対策について」, 静岡県助産師会災害時支援助産師養成講座, 主催: 静岡県助産師会, 静岡県: 男女共同参画センターあざれあ, 2016 年 10 月 9 日 (研修講師)

池田恵子,「男女双方の視点で災害に強い地域づくりを」, 平成 28 年度男女共同参画事業「女性の日」講演会, 主催: 山口県山陽小野田市, 山口県: 山陽小野田市民館, 2016 年 10 月 8 日 (講演)

- 池田恵子,「男女共同参画の視点からの防災」,平成28年度静岡県ふじのくに防災士養成講座 B コース,主催:静岡県危機管理情報課,静岡:静岡県地震防災センター,2016年10月2日(研修講師)
- 池田恵子,「避難所運営 基礎知識」,ネットワークながいずみ勉強会,主催:ネットワークながいずみ,静岡県駿東郡長泉町:ベルフォーレ,2016年10月1日(研修講師)
- 池田恵子,「災害時の女性と子どもに対する暴力とその対策」,平成28年度女性のための防災・減災リーダー養成講座,主催:御前崎災害支援ネットワーク,静岡:御前崎市佐倉公民館,2016年9月24日(研修講師)
- 池田恵子,「男女共同参画の視点からの防災」,平成28年度静岡県ふじのくに防災士養成講座 A コース,主催:静岡県危機管理情報課,静岡:静岡県立大学,2016年9月7日(研修講師)
- 池田恵子,「農村女性の視点から考える 地域防災」,平成28年度「長野県農村生活マイスターのつどい」,2016年9月1日,主催:長野県農村生活マイスター協会,長野:上田市別所温泉(研修講師)
- 池田恵子,「男女双方の視点を取り入れた地域防災活動の推進」,富士宮市男女共同参画セミナー(防災セミナー),主催:富士宮市,富士宮市:市民文化会館,2016年8月28日(講演)
- 池田恵子,「災害時の備えと連携」,長泉町立幼稚園教育研究会講演会,主催:長泉町,静岡:長泉町立長泉幼稚園,2016年8月25日(研修講師)
- 池田恵子,「防災・減災の視点で地域を考える」,地域デザインカレッジ2016(コミュニティーコース)第4回目,主催:静岡市生涯学習推進課,静岡県:アイセル21,2016年8月20日(研修講師)
- 池田恵子,「災害時の体制づくり」,静岡市女性会館「災害時の体制づくり」,主催:静岡市女性会館,静岡市:静岡市女性会館,2016年8月8日(研修講師)
- 池田恵子,「男女双方の視点で考える 地域の防災体制～災害は社会を映し出す鏡～」,女性講座・さわやか学級&一般公開講座,主催:焼津市和田公民館,静岡:焼津市和田公民館,2016年8月3日(研修講師)
- 池田恵子,「地域に暮らす多様な人々の視点を活かして地域の防災力を高めよう」,焼津市平成28年度市民防災リーダー育成講座,主催:焼津市,静岡:焼津市消防防災センター,2016年8月2日(研修講師)
- 池田恵子,「防災の視点で地域を考えるワークショップ」,静岡市地域デザインカレッジ2016(コミュニティーコース)第4回目,主催:静岡市,静岡県:アイセル21,2016年8月20日(研修講師)
- 池田恵子,「ジェンダーの視点から考える防災・減災～より災害に強い社会の創生に向けて～」,男女共同参画ネットワーク講座,主催:茨城県,茨城県:水戸生涯学習センター,2016年7月14日(研修講師)

- 池田恵子,「男女双方の視点から考える災害時の避難所運営」,長泉町赤十字奉仕団研修会,
主催:長泉町赤十字奉仕団,静岡:長泉町ウェルピアながいずみ,2016年7月10日(研
修講師)
- 池田恵子,「家族と自分を守る防災講座」,家族と自分を守る防災講座,主催:静岡市立安
東こども園PTA,静岡市:安東小学校,2016年6月18日(講演)
- IKEDA, Keiko, Gender Mainstreaming in Disaster Risk Reduction, JICA Training
course: Gender Mainstreaming Policies for Government Officers 2016 A, 主催: JICA,
東京: JICA 東京, 2016年6月16日(研修講師)
- 池田恵子,「性別や多様な人々の視点で考える防災」,静岡県歯科衛生士会第10回通常総会
同日研修会,主催:特定非営利活動法人静岡県歯科衛生士会,静岡:静岡県産業経済会
館,2016年5月29日(研修講師)
- 池田恵子,「女性が考える地域防災」,庵原生涯学習交流館女性学級講座,主催:庵原生涯
学習交流館,静岡:庵原生涯学習交流館,2016年5月27日(研修講師)
- 池田恵子,「Bangladeshの都市地方自治体の首長に対する地方行政能力強化研修」, JICA
研修コース Bangladesh国「Polshobhaの市長に対する本邦研修」,主催: JICA,
静岡:静岡市役所ほか,2016年5月16日~20日(研修企画協力)
- 池田恵子,「男女双方の視点で考える地域の防災体制~災害は社会を映し出す鏡~」,焼津
市大村公民館主催講座女性講座,主催:焼津市大村公民館,静岡:焼津市大村公民館,
2016年5月11日(研修講師)
- 池田恵子,「Bangladeshに学ぶ災害とジェンダー ~なぜ日本はジェンダー主流化が進ま
ないのか~」, JCC-DRR「ジェンダー・多様性と災害」小委員会 第3回講演&ワーク
ショップ,主催: JCC-DRR, 東京:日本女子会館,2016年4月21日(話題提供)
- Ikeda, Masayuki, JASS meeting, Japanese Association of Scholars in Science, 2018年2
月.
- Ikeda, Masayuki, Tada, R., Ozaki, Kazumi, 15th InterRad XV, InterRad, Niigata, 2017
年10月.
- Ikeda, Masayuki, Olsen, P., Tada, R., Ozaki, Kazumi, Earth's Climate Change: Science
and Impacts at Serbian Academy of Sciences and Arts. Serbian Academy of Sciences
and Arts, Belgrade, 2017年10月.
- Ikeda, Masayuki, 5th Symposium of IGCP 632, IGCP 632, 2017年10月.
- 生田領野,第24回海洋教育フォーラム「駿河湾のふか~い話 ~深海をのぞいてみよう~」,
日本船舶海洋工学会海洋教育推進委員会主催,静岡市,2016年11月26日
- 生田領野,講演会「駿河湾をもっと知ろう」,長田生涯学習センター,静岡市,2017年7
月25日
- 生田領野,サイエンスカフェ「静かでは無い岡、かならず起こる大地震を知って備えよう」,
静岡科学館るくる主催,静岡市,2017年12月17日

- Imaizumi, F., International Symposium on Soil Management for Sustainable Agriculture 2017 「Relationship between vegetation cover and sediment transport activities on mountain hillslopes」, 2017年8月29日, 岐阜大学
- 今泉文寿, 第2回山の日フォーラム「山の脅威ー土砂災害の恐ろしさと対策ー」2017年5月14日, 東京国際フォーラム
- 今泉文寿, 日本地理学会公開シンポジウム「山岳科学の創出」, 「崩れゆく山々と土砂災害の軽減」, 2017年3月, 筑波大学
- 今泉文寿, 土木研究所勉強会, 「荒廃流域(大谷崩)における土石流の発生・発達プロセス」, 2017年2月, 土木研究所
- 今泉文寿, 第1回 総合的な流域土砂管理に関する勉強会, 「流域内における土砂生産と土砂流出のつながりー連続性, 不連続性と土砂の貯留ー」, 2016年11月, 北海道総合研究プラザ
- 今泉文寿, 梅ヶ島災害50年防災講演会, 「土砂災害はどのくらい危険なのか?ー最近の研究で解明された土石流の実態ー」, 2016年6月, 梅ヶ島小中学校【書式】氏名, 会合名, 主催者, 開催地, 開催年月日.
- 石橋秀巳, 日本火山学会一般普及講演「ザ・富士山を知る!!」, 日本火山学会, 富士吉田市民会館, 2016年10月18日.
- 石川有三, 放送大学埼玉学習センターの一般講演会「地震についてー熊本地震などからー」2016/8/7 大宮学習センターにて
- 石川有三, 第21回「震災対策技術展」で「海外の地震情報について」2017/2/3 パシフィコ横浜
- 岩松 暉, 石碑にみる桜島大正噴火の災害伝承, 鹿児島大学「降水と噴火」研究会, 2017年3月10日.
- 岩松 暉, 錦江湾岸と桜島大正噴火, 桜島・錦江湾ジオパーク・ジオ講座, 2016年9月15日.
- 岩田孝仁, (株) 明治リスクコンプライアンス研修会 講演「減災から防災へー危機管理とは」, 2016/04/13.
- 岩田孝仁, 東海圏減災研究コンソーシアムシンポジウムパネラー「熊本地震が警告する南海トラフ巨大地震対策の盲点」, 2016/05/14.
- 岩田孝仁, 日本地方財政学会第24回大会シンポジウムⅡ「大震災と防災減災に向けた政府間関係の再構築ー自助・公助・共助の在り方と地域連携ーパネリスト「巨大災害に備える静岡県の取り組みと課題」, 2016/05/22.
- 岩田孝仁, 群馬県・市町村防災トップセミナー講演「大規模災害に備える危機管理」, 2016/05/25.
- 岩田孝仁, 大学産業(株)講演会 講演「映画から学ぶ自然災害・防災対策」, 2016/05/28.
- 岩田孝仁, 日本ジオパークネットワークガイドフォーラム in 伊豆半島ジオパーク 基調講演「懸念される災害にジオガイドはどう考え何を語るのか」, 2016/06/04.

岩田孝仁,日本地質学会中部支部 2016 年会シンポジウム講演「静岡県・静岡大学の低頻度大規模自然災害への防災」,2016/06/11.

岩田孝仁,静岡県防災用品普及促進協議会ジェトロ地域間交流事業第1回研究会,講演「なぜ防災支援協定と地域間連携か」,2016/06/16.

岩田孝仁,海上保安庁清水海上保安本部「清水港台風津波等対策協議会」講演「地震・津波に備える」,2016/06/22.

岩田孝仁,静岡県立高校理科教育研修会（浜松湖東高校）講演「2016 熊本地震から学ぶ」,2016/06/24.

岩田孝仁,政策研究大学院大学講義「減災から防災社会へ 地域防災の現場から」,2016/06/29.

岩田孝仁,リハビリテーション中伊豆温泉病院防災研修会講演「大規模地震に備える」,2016/07/01.

岩田孝仁,鹿児島県・消防防災科学センター 鹿児島県市町村長防災研修会 講演「大規模災害に備える危機管理」,2016/08/04.

岩田孝仁,浜松市自主防災隊連合会防災研修会 講演「大規模災害に立ち向かう地域の防災力」,2016/08/06.

岩田孝仁,全労済講演「減災から防災社会へ」,2016/08/20.

岩田孝仁,建築学会海洋建築部会研究協議会シンポジウム「防災～減災社会へ 静岡県の東海地震対策」2016/08/24.

岩田孝仁,宮崎県危機監理ラボ「減災から防災社会へ」,2016/08/26.

岩田孝仁,浜松アクロシティ事業所組合研修会 講演「減災から防災社会へ」,2016/09/02.

岩田孝仁,東海大学海洋研究所防災シンポジウム講演,2016/09/04.

岩田孝仁,静岡新聞社 21 世紀クラブ懇話会講演「減災から防災社会へ」,2016/09/23.

岩田孝仁,静岡県東部労務管理研究会講演「減災から防災社会へ 熊本地震など近年の災害教訓を踏まえて」,2016/10/04.

岩田孝仁,内閣府防災スペシャリスト養成講座 講義,2016/10/13-14.

岩田孝仁,神奈川大学連続講演会 講演「減災から防災社会へ」,2016/10/15.

岩田孝仁,日刊工業新聞主催 防災シンポジウム基調講演「減災から防災社会へ」,2016/11/25.

岩田孝仁,静岡県警察災害対策研修,2016/12/01

岩田孝仁,国土交通大学校危機管理研修 講義「防災政策」2016/12/07.

岩田孝仁,静岡県立湖北高校防災学習授業,2017/01/13.

岩田孝仁,シンポジウム「南海トラフ地震の予測に必要な観測・研究は何か」特別講演「大規模地震対策と地震予知情報」,2017/02/01.

岩田孝仁,愛媛県防災啓発研修講演「南海トラフ地震に備える防災対策」,2017/02/06.

岩田孝仁,長野県松本地域地震防災講演会講演「減災から防災へ 大規模地震に備える危機管理」,2017/02/07.

岩田孝仁,内閣府防災スペシャリスト養成講座講義「地域防災計画」,2017/02/09.
岩田孝仁,秩父市まちづくり協議会防災講演会「減災から防災社会へ」,2017/02/15.
岩田孝仁,浜松市技術職員防災研修講義,2017/02/27.
岩田孝仁,防災スペシャリスト養成研修、講義とコーディネーター,2017/02/28-03/01.
岩田孝仁,東海圏大学コンソーシアム基調講演「減災から防災社会へ」,2017/03/18.
岩田孝仁,地震・津波対策を考える都道府県議会議員連盟 研修会講演「減災から防災社会へ」,2017/03/2.
岩田孝仁,(社)静岡県消防防災業協会総会防災講演「減災から防災社会へ」,2016/05/19.
岩田孝仁,瀬戸市自主防災会講演「自主防災組織の活動について」,2017/06/05.
岩田孝仁,地震学会シンポジウム 地震発生予測と大震法及び地震防災研究 講演,2017/06/17.
岩田孝仁,名古屋大学減災連携研究センターシンポジウム 講演「減災から防災社会へ」,2017/06/29.
岩田孝仁,静岡大学防災総合センター 2017年7月九州北部豪雨災害調査報告会,2017/08/04.
岩田孝仁,全国高等学校 PTA 連合会大会静岡大会特別第 1 分科会「防災減災教育の推進」,2016/08/24.
岩田孝仁,日本地震学会教員免許状更新講習「学校防災を考える」,2017/08/25.
岩田孝仁,静岡大学教育学部 OB 会講演会講演,2017/08/26.
岩田孝仁,静岡県立清水東高校防災授業,2017/08/31.
岩田孝仁,掛川市自治会連合会防災講演会「減災から防災社会へ」,2017/09/20.
岩田孝仁,産総研地質調査総合センターシンポジウム「富士山 5000mの科学 駿河湾北部の地質と自然を探る」講演 想像力の欠如に陥らない防災を,2017/09/21.
岩田孝仁,関東弁護士会シンポジウムパネル討論,2017/09/29.
岩田孝仁,産総研地質調査総合センターシンポジウム「富士山 5000mの科学 駿河湾北部の地質と自然を探る」講演想像力の欠如に陥らない防災を,2017/10/10.
岩田孝仁,関西サイエンスフォーラムシンポジウム講演,2017/10/11.
岩田孝仁,内閣府防災スペシャリスト総合監理コース研修コーディネーター,2017/10/12-13.
岩田孝仁,静岡県立短期大学公開講座講師 減災から防災社会へ,2017/10/14.
岩田孝仁,掛川市倉真地区まちづくり協議会勉強会講師,2017/10/16.
岩田孝仁,工務店フォーラム講演 大規模災害に備える防災の必要性,2017/10/27.
岩田孝仁,関西学院大学災害復興メディアシンポジウム南海トラフ巨大地震に立ち向かうメディアの役割パネル討論,2017/10/29.
岩田孝仁,静岡県立総合病院災害感染症セミナー講演「減災から防災社会へ」,2017/12/02.
岩田孝仁,国土強靱化地域ワークショップ三島セミナー講演「減災から防災社会へ」,2017/12/10.
岩田孝仁,日本海地震・津波調査プロジェクト新潟県地震・津波地域研究会講演「減災から

防災社会への地震津波対策」,2017/12/19.

岩田孝仁,静岡県立湖北高校防災授業,2018/01/12.

岩田孝仁,磐田市危険物安全協会保安管理研修講演「減災から防災社会へ」,2018/01/16.

岩田孝仁,大阪府トップセミナー講演「防災から減災、縮災、そして防災社会へ」,2018/01/22.

岩田孝仁,国土交通大学校専門課程自然災害対応（基本コース）研修講師「自治体の防災対策」,2018/01/24.

岩田孝仁,高岡市防災講演会「減災から防災社会へ」,2018/01/28.

岩田孝仁,静岡県立大学ワークショップ「地震予測の現状と防災情報を生かすためには」 基調講演「不確実な地震予測 どう生かす」,2018/02/02.

岩田孝仁,内閣府防災スペシャリスト総合監理コース研修講師,コーディネーター,2018/02/08-09.

岩田孝仁,内閣府防災スペシャリスト災害への備えコース研修講師「地域防災計画」,2018/02/14.

岩田孝仁,日本身体障害者団体連合会フォーラム「災害 その時 私たちは」,ワークショップコーディネーター,シンポジウムパネリスト,2018/03/03.

岩田孝仁,I Love しずおか協議会防災・減災講座 講演「想像力を育む減災から防災社会へ」,2018/03/15.

岩田孝仁,東海圏減災研究コンソーシアム防災シンポジウム講演「大震法がはたしてきた役割」,2018/03/24.

狩野謙一,地層から読み解く海底火山活動 - 伊豆半島南部の新第三系白浜層群での例（講演）伊豆半島ジオガイド協会（静岡県伊豆市: 2016年10月21日）

狩野謙一,伊豆南部の海底火山活動に関する現地学習会（講師）伊豆半島ジオガイド協会（静岡県下田市・南伊豆町: 2017年2月7～8日）

狩野謙一,糸魚川-静岡構造線露頭を中心とした地質巡検（講師）. 石灰石鉱業協会（山梨県早川町: 2017年4月26～27日）

狩野謙一,学術研究サイドとジオパークとの橋渡しとしての「伊豆半島南部のジオガイド」（講演）. 東京地学協会平成29年度秋期講演会（東京都千代田区: 2017年11月25日）

笠原順三,熊本地震活動の地学的背景と広域な地震活動,静岡県防災セミナー,静岡,2016年7月.

笠原順三,熊本地震活動の特徴と地学的背景と周辺の地震活動,静岡地質調査協会 Geo Forum で特別講演,2016年10月14日.

笠原順三, Korea' s earthquake damage could be greater than Japan' s, 韓国 Financial News 主催のシンポジウム(Busan)で特別講演,2016年11月4日.

笠原順三, What Korean government, public and other sectors can do to prepare possible and future large earthquakes, WGEF(World Green Environmental Forum)(Kyonju, SK)国際シンポジウムで特別講演,2016年11月10日.

- 笠原順三, 環境とエネルギー～課題と将来展望」—基調講演 : 水が地震を支配する, 日本
ファインセラミックセンター主催, 2017年10月13日.
- 片田敏孝・佐藤良夫・坂本あや・大塚明人・大西勝也・矢守克也 : パネルディスカッション「～犠牲者ゼロを目指すための今後の地域の活動」黒潮町第3回地区防災計画シンポジウム, 大方高校, 2017/10/28
- 加藤照之・福岡浩・今村文彦・山口勝・飯田和樹・矢守克也 : パネルディスカッション 国立大学附置研究所・センター長会議第1部会シンポジウム「災害科学とメディア」, 東北大学, 2017/10/7
- 風間聡, 気候変動の将来の水害展望とその対策, 環境生態工学研究所定例セミナー, 仙台, 2017.12.9. (基調)
- 風間聡, 気候変動の水害展望と適応策, 建設コンサルタント協会東北支部, 仙台, 2017.11.29. (基調)
- 風間聡, 気候変動と将来の水害展望ならびにその対策, 第4回地方公共団体の危機管理に関する研究会, 仙台, 2017.10.25. (基調)
- 風間聡, 川の関心をあげるための基礎的研究, 公益事業50年記念講演会, -東北の創生に向けて-, 東北地域づくり協会, 仙台, 2017.2.1.
- 風間聡, 融雪洪水解析, 研究討論会19, 水工情報システムの発展, 土木学会年次講演会, 仙台, 2016.9.9. (パネラー)
- 風間聡, 水災害の適応策と費用便益分析, 研究討論会06, 気候変動への適応研究推進に向けて!, 土木学会年次講演会, 仙台, 2016.9.7. (パネラー)
- 風間聡, 気候変動に対応した防災・減災の在り方, 第21回水シンポジウム, 山口, 2016.8.25. (第一分科会コーディネーター)
- 風間聡, 温暖化と防災, 特に水災害に関連して, 第25回市民セミナー, 水環境学会, 東京, 2016.8.5.
- 吉川肇子・矢守克也 : オープニングアドレス クロスロードのつどい全国大会 in 熊本「熊本地震から1年…これまでとこれからのジレンマ」, 熊本市現代美術館アートロフト, 2017/4/29
- 木村浩之, 清水ロータリークラブ第3080回例会, 清水, 2018年3月6日.
- 木村浩之, 第11回静岡大学超領域研究会, 浜松, 2017年12月8日.
- 木村浩之, 第108回「産学官交流」講演会・交流会, 清水, 2017年7月24日.
- 木村浩之, 室蘭工業大学環境科学防災研究センター講演会, 室蘭, 2017年4月27日.
- 木村浩之, 浜松市議会自由民主党浜松勉強会, 浜松, 2017年4月18日.
- 木村浩之, 地震津波シンポジウム“東海・南海巨大地震を考える in SHIMIZU”, 静岡, 2017年3月25日.
- 木村浩之, メタン利活用協議会, 東京都港区, 2017年3月13日.
- 木村浩之, 浜松新エネルギー研究会セミナー, 浜松, 2017年1月17日.

木村浩之, 第 24 回静岡フォーラム・第 49 回研究交流セミナー, 浜松, 2016 年 12 月 20 日.

木村浩之, 第 9 回みのり大学西奈学級, 静岡, 2016 年 10 月 12 日.

木村浩之, インドネシア技術評価対応庁講演会, ジャカルタ, 2016 年 9 月 14 日.

木村浩之, 大村屋酒造場サロン若竹講演会, 島田, 2016 年 8 月 26 日.

木村浩之・佐藤 悠, 第 1 回 Biothermology Workshop -生命システムの熱科学-, 岡崎, 2016 年 12 月.

木村圭司, 高の原カルチャーサロン「近畿圏の中での奈良～暮らしと環境～」第 2 回, 講演題目「奈良は温暖化しているか?」(2017 年 9 月 30 日)

木村圭司, 第 46 回 T-TOC セミナー, 玉野総合コンサルタント株式会社, 講演題目「人工衛星リモートセンシングは業務で使えそうか?」2017 年 10 月 2 日

北村晃寿 2017 年 9 月 7 日 サイエンスカフェ in 静岡「レベル 1.5 津波」B-nest 静岡大学理学部

北村晃寿 2017 年 7 月 20 日 出張講義 父兄学級公開講座「焼津市における津波堆積物調査」焼津市港公民館 焼津市

北村晃寿 2017 年 5 月 18 日・6 月 1 日 公開講座 平成 29 年度富士市民大学前期ミニカレッジ「防災講座」常葉大学 富士市

北村晃寿 2017 年 3 月 25 日 地震津波シンポジウム「東海・南海巨大地震を考える in SHIMIZU」. 「静岡県のレベル 2 と 1, そして 1.5 の地震・津波」を講演. 清水テルサ主催: 静岡大学防災総合センター, 東北大学総合学術博物館, 共催: ふじのくに地球環境史ミュージアム, 静岡県危機管理部, 高知大学海洋コア総合研究センター, 協賛: 海洋研究開発機構(JAMSTEC), 後援: 地震・津波対策を考える都道府県議会議員連盟

北村晃寿 2017 年 2 月 1 日 ワークショップ「南海トラフ地震の予測に必要な観測・研究は何か」 研究講演 静岡県におけるレベル 1.5 地震・津波の発生について静岡県立大学 静岡県立大学

北村晃寿 2016 年 9 月 27 日 静岡市において「静岡県における東海地震(レベル 1)および最大クラス(レベル 2)の巨大地震・津波の研究」(主催 静岡市清水産業・情報プラザ)

北村晃寿 2016 年 7 月 30 日 静岡市において「津波堆積物調査の方法と沖積平野における試料観察による堆積環境(場)の推定」(主催 静岡県地質調査業協会)

北村晃寿 2016 年 6 月 11 日シンポジウム:「地質記録から探る静岡県の低頻度大規模自然災害」で「地質記録から探る静岡県の巨大津波・地震の記録」を講演. 主催: 日本地質学会中部支部, 共催: ふじのくに地球環境史ミュージアム, 静岡大学防災総合センター, 静岡大学地殻・マントル変動フォーラム ふじのくに地球環境史ミュージアム開催

近藤昭彦, 「山木屋の歴史と風土が生み出す地域の誇り」, 福島ダイアログ「山木屋の住民たちと現状を共有するダイアログ」, 山木屋ダイアログ実行委員会, 福島県伊達郡川俣町山木屋, 2017 年 11 月 25, 26 日.

近藤昭彦,「閉鎖性水域の水環境問題ー地域環境問題を地球的課題につなげる考え方」,日本
学術会議公開シンポジウム GLP(全球陸域研究計画)の推進と 国連持続可能な開発目標
(SDGs)への貢献,主 催:日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE WCRP
合同分科会,2017年10月16日.

小山真人,伊豆東部火山群火山防災協議会コアメンバー会議,伊東市,「富士山・箱根山の火
山防災と伊豆東部火山群の課題」,2016年1月28日.

小山真人,伊豆半島ジオガイド認定試験(下田エリア)審査員,2016年2月1日.

小山真人,函南町立函南西学校校内研修講師,「伊豆と函南の大地の物語」,2016年2月2日.

小山真人,伊豆半島ジオガイド認定試験(西伊豆エリア)審査員,2016年2月8日.

小山真人,中部圏開発整備地方協議会情報交換会,静岡市,「中部圏の地震・火山災害リスク
とその対策」,2016年6月6日.

小山真人,ふじのくに防災フェロー講座 2016年度講義,静岡市,「火山学」,2016年6月18
日.

小山真人,伊豆半島ジオパーク推進協議会学術部会,伊豆市,「伊豆半島ジオパークの理念と
現状」,2016年7月4日.

小山真人,静岡県教育委員会主催オリンピックチャレンジ事業,掛川市,「2016年熊本地震
とその地学的背景」「日本列島で最近起きた噴火とその特徴」,2016年8月6日.

小山真人,第7回日本ジオパーク全国大会,沼津市,分科会3「ジオパークを防災に役立て
るために」アドバイザー,2016年10月11日.

小山真人,静岡県中小企業同友会主催第14期同友会大学,静岡市,「富士山 その大自然を
めぐる」,2016年11月19日.

小山真人,平成28年度富士山火山防災対策図上訓練,静岡市,「火山噴火の基礎と富士山の
特徴」,2016年12月8日.

小山真人,伊豆東部火山群火山防災協議会コアメンバー会議,伊東市,伊豆東部火山群の防
災ー現状と課題ー,2016年12月21日.

小山真人,平成28年度気概塾,静岡市,「静岡県の自然災害リスクーとくに地震と火山噴火に
ついてー」,2017年1月27日.

小山真人,志太教育研究集会,藤枝市,「静岡県の自然災害リスクーとくに地震と火山噴火に
ついてー」,2017年8月3日.

小山真人,富士山噴火時避難ルートマップ検証会,御殿場市,2017年10月25日.

小山真人,富士山噴火時避難ルートマップ検証会,富士宮市,2017年11月27日.

小山真人,静岡県登録富士山世界遺産ガイド養成講座,富士市,「火山としての富士山」,2016
年1月9日.

小山真人,伊豆半島ジオガイド養成講座修了式記念講演,伊豆市,「ジオガイドに期待するこ
と」,2016年1月12日.

小山真人,三嶋大社崇敬会新年祭記念講演,三島市,「三島の大地の物語ー伊豆半島ジオパー

クと三島-」,2016年1月20日.

小山真人,富士山における適正利用推進協議会主催富士山ガイドンス 2016, 東京都新宿区,
「火山がつくった世界遺産に登る」,2016年2月4日.

小山真人,千葉県代協木更津支部新春セミナー, 木更津市,「富士山噴火のメカニズムとその
影響」,2016年2月5日.

小山真人,高齢者学級「みのり大学」東部学級, 静岡市,「東海地震と富士山噴火」,2016年
2月9日.

小山真人,NPO 法人静岡山の文化交流センター主催「南アルプス学概論+」, 静岡市,「火山
がつくった名峰・富士山 登山の前に知っておきたいこと」,2016年2月13日.

小山真人,富士宮市主催富士山の日記念講演会, 富士宮市,「火山がつくった世界遺産・富士
山」,2016年2月19日.

小山真人,高原町主催, 宮崎県高原町,「3人の火山学者から見た新燃岳 2011年噴火」,2016
年5月13日.

小山真人,霧島ジオパーク・ユニバーサルデザインフォーラム・霧島ジオパーク友の会, 鹿
児島市, 4名の火山学者によるトークイベント「キーワードは巨大噴火」,2016年5月
16日.

小山真人,伊豆半島ジオガイド協会, 第2回 JGN ガイドフォーラム in 伊豆半島ジオパーク
-災害の記憶を未来につなぐジオガイド-, 伊豆市,「ジオパークは地域の防災にどのよう
に貢献すべきか?」,2016年6月4日.

小山真人,伊東市危険物安全協会 50周年記念防災講演会, 伊東市, 日本の火山活動と防
災,2016年7月22日.

小山真人,沼津市立図書館夏休み子ども講座, 沼津市, 沼津の大地はどうやってできたの?
～火山と地震がつくった静岡県～,2016年7月29日.

小山真人,美しい伊豆創造センター1周年記念フォーラム, 函南町, パネリスト,2016年7
月31日.

小山真人,三島市老人クラブ連合会寿大学, 三島市, 南から来た火山のおくりもの:伊豆半
島ジオパーク,2016年8月3日.

小山真人,静岡県・富士宮市主催富士山世界遺産セミナー第4回「山の日記念公開シンポジ
ウム 生活が育んだ山の風景 1万年の物語」, 富士宮市,「火山がつくった世界遺産・
富士山」,2016年8月11日.

小山真人,2016年度ふじのくに防災士養成講座 A コース, 静岡市,「火山災害一般と静岡県
の活火山」,2016年9月14日.

小山真人,第7回日本ジオパーク全国大会, 沼津市, 基調講演者とのトークセッション,2016
年10月10日.

小山真人,世界遺産富士山の美の秘密に迫る講座と散策(電通東日本主催), 富士宮市,「火
山がつくった富士宮の大地」,2016年10月30日.

小山真人,静岡県市議会議長会定例総会記念講演,伊東市,「静岡県の活火山と防災」,2016年11月1日.

小山真人,2016年度ふじのくに防災士養成講座 B コース,静岡市,「火山災害一般と静岡県の活火山」,2016年11月12日.

小山真人,第2回伊豆半島ジオパーク学術研究発表会,伊豆市,講評,2017年3月11日.

小山真人,伊豆東部火山群住民避難訓練,伊東市,「もしも伊豆東部火山群が噴火したら」,2017年3月22日.

小山真人,埼玉県立歴史と民俗の博物館・埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会共催講演会,大宮市,「火山がつくった世界遺産・富士山」,2017年5月27日.

小山真人,静岡大学主催 COC+地域課題解決支援プロジェクト・研究フォーラム「伊豆半島の学習・交流・協働拠点づくりを考える」,南伊豆町,伊豆半島の地域資源とジオパーク～ジオパークは地域の未来を変えるか?～,2017年8月10日.

小山真人,伊豆半島ジオパーク推進協議会,伊豆市,伊豆半島ジオガイド養成講座(公開講座)第1回「伊豆半島ジオパークの楽しみ方」,2017年9月12日.

小山真人,2017年度ふじのくに防災士養成講座 A コース,静岡市,「火山災害一般と静岡県の活火山」,2017年9月19日.

小山真人,2017年度ふじのくに防災士養成講座 B コース,静岡市,「火山災害一般と静岡県の活火山」,2017年10月14日.

小山真人,静岡ホーチキ主催防災セミナー,富士市,「世界遺産・富士山の噴火史と防災」,2017年11月8日.

小山真人,静岡大学主催トップガン講演会,浜松市,「火山学と火山防災の最前線」,2017年11月19日.

小山真人,伊豆半島ジオガイド協会主催:第2回 JGN ガイドフォーラム in 伊豆半島ジオパーク-災害の記憶を未来につなぐジオガイド-,伊豆市,2016年6月5日.

小山真人,世界遺産富士山の美の秘密に迫る講座と散策(電通東日本主催),富士宮市,2016年10月30日.

小山真人,伊豆半島ジオパーク世界審査リハーサル(1日め),伊豆市・西伊豆町,2017年6月27日.

小山真人,伊豆半島ジオパーク世界審査リハーサル(2～3日め),松崎町・南伊豆町・下田市・伊東市・函南町,2017年7月6～7日.

小山真人,伊豆半島ジオパーク世界認定審査,伊豆市・西伊豆町・松崎町・南伊豆町・下田市・伊東市・函南町,2017年7月25～27日.

小山真人,富士山火山現地勉強会,富士加算火山防災対策協議会事務局,富士宮市,2017年10月11日.

小山真人,伊豆半島ジオパーク推進協議会主催:伊豆半島ジオガイド養成講座野外実習(伊東・熱海エリア),2017年11月14日.

小山真人,木曜会主催富士山見学会, 富士宮市・御殿場市・三島市,2017年11月17日.

小山真人,伊東市立対島中学校, 1、3年生, 伊豆半島ジオパークの楽しみ方,2016年1月22日.

小山真人,函南町立函南西学校, 5年生, 伊豆半島ジオパークの楽しみ方,2016年2月2日.

小山真人,浜松大平台高校, 出前授業「ジオパーク 大地の贈り物」と座談会,2016年7月1日.

小山真人,静岡大学教育学部附属浜松小学校, 5・6年生林間学校, 宝永山と宝永火口,2016年7月26日.

小山真人,浜松修学舎高校, 出前授業「ジオパーク 大地の贈り物」,2016年10月20日.

小山真人,静岡大学教育学部附属浜松小学校, 3・4年生自然学校, 観音山の岩石,2016年10月29日.

小山真人,静岡大学教育学部附属浜松小学校, 総務省「若年層に対するプログラミング教育の普及推進」事業, 講義「浜松の地震と防災」,2017年7月14日.

小山真人,浜松大平台高校, 出前授業「浜松の地震と防災」ならびに生徒による模擬ジオツアー「舞阪」への講評,2017年7月19日.

小山真人,静岡大学教育学部附属浜松小学校, 総務省「若年層に対するプログラミング教育の普及推進」事業, 全体講評,2017年7月29日.

小山真人,西伊豆町立賀茂小学校, 総務省「若年層に対するプログラミング教育の普及推進」事業, 講義「伊豆の大地と地震・津波」,2017年10月3日.

小山真人,西伊豆町立賀茂小学校, 総務省「若年層に対するプログラミング教育の普及推進」事業, 全体講評,2017年10月31日.

前田 恭伸: リスクマネジメントシステムとその課題, OSV Seminar in Hiroshima:モニタリング技術の進化とリスクマネジメントの未来, On-Site Visualization 研究会, 広島, 2017年12月.

Maeda, Y.: Roundtable: Risk Analysis Around the World: Activities in the SRA Regions, Society for Risk Analysis 2017 Annual Meeting, Society for Risk Analysis, Arlington, USA, 2017年12月.

前田 恭伸: リスクのグローバル化とリスク学の方向, 2017年度第30回日本リスク研究会年次大会, 日本リスク研究会, 彦根, 2017年10月.

前田 恭伸: 看護業務の事故とヒヤリハットの境目は何か? テキストマイニングによる探索, 日本ソーシャルデータサイエンス学会第3回シンポジウム, 日本ソーシャルデータサイエンス学会, 2017年2月.

前田恭伸: 講演会「リスクマネジメントとリスクコミュニケーションの課題」, 中部電力, 名古屋, 2016年11月.

増田俊明. 「静岡大学の地域防災への貢献」第96回ふじのくに防災学講座.静岡大学. 静岡県地震防災センターなみふるホール.平成29年3月18日.

三井 雄太, 一日大学, 静岡県, 富士宮西高校, 2016/10/28.

森本晋也・原田正伸・西本貴俊・片田敏孝・矢守克也・大西勝也: パネルディスカッション 黒潮町防災教育フォーラム「防災教育は地域を創る」, 黒潮町ふるさと総合センター, 2017/2/1

森下祐一 (2016) 高品位金鉱床探査に資する微小領域分析技術、日本鉱業振興会研究助成研究成果報告会, 東京 (東京ガーデンパレス), 2016.11.11. (招待講演)

村越真・宮内佐季子、公開講座「安心・安全登山のための読図とナビゲーション (初級編)、静岡大学、2014年5月14日

村越真・小泉成行、公開講座「安心・安全登山のための読図とナビゲーション (中級編)、静岡大学、2014年10月9日

村越真・小泉成行、山岳救助隊読図訓練、静岡市消防局、2017年10月16日

楠城一嘉, ビックデータから読み解く地震予知の現状, 南部防災研究室, 静岡市南部生涯学習センター(静岡), 2017年9月10日.

楠城一嘉, 地震発生予測の研究最前線:地震の仕組みから防災まで, 「防災セミナー」～大規模地震等から身を守るには, 清水生涯学習交流館(静岡), 2017年10月28日.

楠城一嘉, 地震予知研究の現状と地震リスク評価, 第9回 JAGA 東日本部会, 2017年10月14日, 静岡県総合研修所「もくせい会館」(静岡).

楠城一嘉, 防災と地震予知研究の最前線, 防災スクール in 県大(静岡県立大学防災ボランティアクラブ防' z), 2017年7月1日, 静岡県立大学(静岡).

楠城一嘉, 南海トラフ巨大地震の予測について, 大規模災害対応連絡会, 2017年7月5日, 富士商工会議所(静岡).

楠城一嘉, 地震予知研究:ビックデータ解析と防災の複合領域研究, 産学官金連携マッチング会, 2018年1月30日, 静岡県立大学.

楠城一嘉, 平成28年熊本地震に関する地殻活動について, 平成28年熊本地震緊急報告会, 静岡県立大学, 静岡(日本), 2016年4月22日.

楠城一嘉, 防災と地震予知の現状, 有度生涯学習交流館 高齢者学級「たちばな教室」, 有度生涯学習交流館, 静岡(日本), 2016年8月25日.

楠城一嘉, 南海トラフ地震の予測に向けて, 静岡県立大学創立30周年記念事業「10年後の静岡を創るスーパーセミナー」, 2017年3月11日, 静岡県立大学, 静岡(日本).

楠城一嘉, 2016年熊本地震に関する地殻活動, 平成28年度BCP研究会, もくせい会館, 静岡(日本), 2016年7月1日.

楠城一嘉, 地震予知研究の現状, 第91回ふじのくに防災 学講座, 静岡県地震防災センター, 静岡(日本), 2016年10月15日.

楠城一嘉, 地震予知研究:ビックデータ解析と防災の複合領域, ”産・学・民・官“の連携を考えるつどい2016, 2016年12月3日, 静岡県立大学 (静岡).

楠城一嘉, 南海トラフ海域の先行現象を検知するためのモニタリング, ワークショップ「南

海トラフ地震の予測に必要な観測・研究は何か」, 2017年2月1日, 静岡県立大学(静岡).

佐藤 健, 平成29年度「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」に関する第1回運営協議会「関係機関や地域との連携を大切にした防災教育～仙台市片平地区の活動事例の紹介～」, 福島市, 2017.4.25

佐藤 健, 日本安全教育学会研究会「熊本地震1年後の震災復興」, 東京都千代田区, 2017.5.27

佐藤 健, 河北防災トークセッション「これからのマンションコミュニティを考える(ファシリテーター)」, 仙台市, 2017.6.12

佐藤 健, 宮城教育大学教員キャリア研究機構設立記念事業特別講演「防災教育の充実に向けた連携から融合へ」, 仙台市, 2017.6.19

佐藤 健, 仙台市立通町小学校地域防災訓練講話「地元学のすすめ～ぼうさいの学び方～、学校と家庭・地域の連携から協働へ」, 仙台市, 2017.6.24

佐藤 健, 全国国立七大学安全衛生管理協議会「東北大学の復興と災害対策」, 仙台市, 2017.8.3

佐藤 健, 平成29年度石巻市学校防災フォーラムパネルディスカッション「学校、地域、行政が連携して取り組むこれからの学校防災(パネリスト)」, 石巻市, 2017.8.9

佐藤 健, 第65回日本PTA全国研究大会仙台大会第5分科会「地域連携(コーディネータ)」, 仙台市, 2017.8.25

佐藤 健, 仙台市鶴ヶ谷地区婦人防火クラブ研修会「ぼうさいの学び方としての地元学のすすめ」, 仙台市, 2017.9.14

佐藤 健, 青少年赤十字研究協力校実践発表「地域ぐるみによる地域に根差した防災教育の価値」, 石巻市, 2017.9.20

佐藤 健, 防災教育チャレンジプラン防災教育交流会「東日本大震災と東北の防災教育の現状と課題」, 東京都文京区, 2017.10.14

佐藤 健, グリーンキャピタル長町Ⅱ防災講演会「マンション防災の活動を通じたコミュニティづくり～ライオンズマンション長町南第2の取り組み事例から～」, 仙台市, 2017.10.15

佐藤 健, 平成29年度仙台市地域防災リーダー養成講習会(会場:太白消防署)「自分の住んでいる地域の特性の理解」, 仙台市, 2017.10.24

佐藤 健, 平成29年度仙台市地域防災リーダー養成講習会(会場:泉消防署)「自分の住んでいる地域の特性の理解」, 仙台市, 2017.10.29

佐藤 健, 石巻市第4回防災主任研修会「地域の地形、土地利用の変遷を理解するための地図の理解と活用促進に向けて」, 石巻市, 2017.11.8

佐藤 健, 福島県放射線・防災教育フォーラム「石巻・仙台での学校・家庭・地域協働による復興・防災学習の取組と実践(パネリスト)」, 三春町, 2017.11.15

佐藤 健, 仙台市サイエンススクール(東北大学出前授業:仙台市立東仙台小学校)「①地しん

- により大地が変化した身近な場所を探そう、②家の中の地しん危険予知アンテナを持つ」, 仙台市, 2017.11.22
- 佐藤 健, 平成 29 年度防災教育を中心とした学校安全フォーラム「パネルディスカッション: これからの災害に備えて (コーディネータ)」, 岩沼市, 2017.11.24
- 佐藤 健, 世界防災フォーラム前日祭「第 1 部 青少年からのメッセージ (コメンテータ)」, 仙台市, 2017.11.25
- 佐藤 健, 防災推進国民大会 2017「あの時、地区防災計画があれば・・・ (パネリスト)」, 仙台市, 2017.11.26
- 佐藤 健, 防災推進国民大会 2017 防災教育フォーラム「『防災教育これまでとこれから』～防災教育と地域の融合、好取組みと課題～ (パネリスト)」, 仙台市, 2017.11.26
- 佐藤 健, 世界防災フォーラムテクニカルセッション「持続可能な防災まちづくりと防災人材育成～片平流防災まちづくり～ (コメンテータ)」, 仙台市, 2017.11.26
- 佐藤 健, 防災推進国民大会 2017「仙台市地域防災リーダーSBL の活動について (コーディネータ)」, 仙台市, 2017.11.27
- 佐藤 健, 仙台教育事務所防災主任研修「防災教育こそ地元学～土地に根ざした学びの魅力と波及効果～」, 名取市, 2017.11.29
- 佐藤 健, みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会「防災・減災の基礎知識」, 仙台市, 2017.12.25
- 佐藤 健, 平成 29 年度「実践的安全教育総合支援事業」研修会「緊急地震速報システムを題材とした防災教育の指導案」, 石巻市, 2018.1.12
- 佐藤 健, 泉区内仙台市地域防災リーダー研修会「地域における S B L の活動について～防災活動の継続性と地域の持続可能性の観点から～」, 仙台市, 2018.1.29
- 佐藤 健, 学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス講座仙台学「仙台の地名と災害」, 仙台市, 2018.2.3
- 佐藤 健, 平成 29 年度第 5 回榴岡地区寺子屋講演「防災活動を通じたコミュニティづくり」, 仙台市, 2018.2.24
- 佐藤 健, 第 16 回学校危機メンタルサポートセンターフォーラム「子どもたちの命を守る安全・防災教育の充実と発展を目指して (指定発言)」, 池田市, 2018.3.2
- 佐藤 健, 福島県平成 28 年度放射線教育推進支援事業及び平成 28 年度「生き抜く力」を育む 防災教育推進事業に関する第 1 回運営協議会「宮城県内における復興教育・防災教育の取り組み～石巻市鹿妻と大崎市岩出山の事例を中心に～」, 福島市, 2016.4.22
- 佐藤 健, 仙台市中学校教育研究会「総合的な学習の時間」部会「中学校における防災教育の推進とその概要」, 仙台市, 2016.5.6
- 佐藤 健, 日本安全教育学会研究会「平成 28 年熊本地震調査速報」, 東京都千代田区, 2016.5.14
- 佐藤 健, 災害対策について「伴に」考える研究会第 9 回定例会「平成 28 年熊本地震調査速

報」，東京都文京区，2016.5.19

佐藤 健，JSCA 東北支部 30 周年記念行事パネルディスカッション「東日本大震災から 5 年～災害からの教訓と減災のための技術・知識～（パネリスト）」，仙台市，2016.6.26

佐藤 健，宮城県多賀城高等学校（模擬講義）「郷土の自然と歴史を理解することの重要性～防災学習のきっかけとしての地名の活用～」，多賀城市，2016.7.27

佐藤 健，防災フォーラム in 太白パネルディスカッション「熊本地震から学ぶこと私たちにできること（コーディネータ）」，仙台市，2016.8.4

佐藤 健，平成 28 年度石巻市学校防災フォーラムパネルディスカッション「地域と学校、行政が連携した防災体制のあり方（パネリスト）」，石巻市，2016.8.8

佐藤 健，第 3 回震災メモリアル勉強会「震災遺構と地域連携 宮城県内の防災教育・防災研修の概観」，仙台市，2016.8.23

佐藤 健，2016 年度東北青年フォーラム in 水の里とめ「防災セミナー（パネリスト）」，登米市，2016.9.3

佐藤 健，仙台市教頭悉皆研修「学校における防災・減災の在り方」，仙台市，2016.9.6

佐藤 健，内閣府主催事業平成 28 年度スペシャリスト養成研修「防災教育」，東京都江東区，2016.9.9

佐藤 健，平成 28 年度仙台市地域防災リーダー養成講習会（会場：青葉消防署）「自分の住んでいる地域の特性の理解」，仙台市，2016.10.20

佐藤 健，平成 28 年度仙台市防災主任研修「各地域の自然や歴史を生かした防災教育」，仙台市，2016.10.21

佐藤 健，平成 28 年度仙台市地域防災リーダー養成講習会（会場：泉消防署）「自分の住んでいる地域の特性の理解」，仙台市，2016.10.30

佐藤 健，南三陸町立入谷小学校地域防災講演会「地域ぐるみによる地域に根差した防災推進～学校防災と地域防災の融合～」，南三陸町，2016.11.6

佐藤 健，第 2 回「災害と健康」学際研究推進セミナー「地震工学と災害医学との学際研究のこれまでとこれから」，仙台市，2016.12.20

佐藤 健，平成 28 年度「実践的安全教育総合支援事業」研修会「地震動の性質と猶予時間の活用」，石巻市，2017.1.6

佐藤 健，大崎市立岩出山小学校「防災・安全教育シンポジウム」「地域を学び、地域を愛する子どもを育てる防災・安全教育」，大崎市，2017.1.19

佐藤 健，文部科学省研究開発学校仙台市立七郷小学校運営指導委員会「地域を学び、地域を愛する子どもを育てる防災・安全教育」，仙台市，2017.1.20

佐藤 健，内閣府防災スペシャリスト養成研修「防災教育」，東京都江東区，2017.2.9

佐藤 健，平成 28 年度「放射線教育推進支援事業」・『生き抜く力』を育む防災教育推進事業」第 6 回運営協議会「関係機関や地域との連携を大切にした防災教育」，福島市，2017.2.16

佐藤 健, 自治体政策青年ネットワーク (JISSEN) 研修会「3.11 からの学びに基づいた防災人材育成の取り組み」, 仙台市, 2017.2.17

佐藤 健, 第 15 回学校危機メンタルサポートセンターフォーラム「安全・防災教育教材を用いた実証実験授業の成果と課題 (指定発言)」, 池田市, 2017.3.3

佐藤 健, 宮城県立多賀城高等学校平成 28 年度東日本大震災メモリアル day「DRR の実現に向けて高校生に期待すること」, 多賀城市, 2017.3.4

佐藤 健, 仙台防災未来フォーラム 2017「地域のきずなが生きる防災まちづくり～仙台市の事例から学ぶ～ (コーディネーター)」, 仙台市, 2017.3.12

佐藤 悠・木村浩之, 日本進化学会第 19 回大会, 京都, 2017 年 8 月.

佐藤 悠・木村浩之, 第 55 回日本生物物理学会年会, 熊本, 2017 年 9 月.

佐藤 悠・藤原健智・木村浩之, 第 12 回日本ゲノム微生物学会年会, 京都, 2018 年 3 月.

菅原大助, 2017 年 10 月 18 日, 静岡県の成り立ちと長泉町周辺の地質. 長泉町図書館 (長泉町).

菅原大助, 2017 年 12 月 8 日, 浜松が危ない 地球編 その 1. 静岡文化芸術大学 (浜松市).

菅原大助, 2017 年 3 月 25 日, 古地震・古津波研究からみた東日本大震災. 地震津波シンポジウム東海・南海巨大地震を考える in SHIMIZU. 清水テルサ (静岡市).

武村雅之, 防災概論: 人生無常の実際に覚醒せよ!, 平成 28 年度防災・減災カレッジ, 愛知県・豊田市福祉センター, 2016 年 7 月

武村雅之, 歴史に学ぶ防災論, 日進消費生活研究グループ防災学習会, 日進市立図書館, 2016 年 7 月

武村雅之, 歴史に学ぶ防災論: 人生無常の実際に覚醒せよ!, あいち防災リーダー会フォローアップ講座、ウィルあいち 2F 特別会議室, 2016 年 7 月

武村雅之, 「三河地震」過去の体験を未来へつなぐ, KATCH ネットワーク (トークショー), 西尾駅前ヴェルサコート, 2016 年 8 月

武村雅之, 歴史に学ぶ防災論: 関東大震災は語る, 第 16 回免振フォーラム, 工学院大学, 2016 年 9 月

武村雅之, 2 つの熊本地震から分かったこと, 減災カフェ, 名古屋大学減災館, 2016 年 9 月

武村雅之, 災害復興過程をめぐる人文学的アプローチの再検討, 質的心理学会シンポジウム, 名古屋市立大学, 2016 年 9 月

武村雅之, 歴史に学ぶ防災論ー関東大震災は生きている, 生涯学習センター市民講座, 羽村市生涯学習センターゆろろぎ, 2016 年 10 月

武村雅之, 日泰寺関東大震災めぐり (巡検), 平成 28 年度防災・減災カレッジ, 日泰寺, 2016 年 10 月

武村雅之, 災害の歴史に学び備えを考える, 平成 28 年度中川区防災講演会, 中川区役所講

堂, 2016年10月

武村雅之, 過去の災害から地域防災を学ぶ, 防災講演会「災害に強いまちづくり」, 藤岡交流会館, 2016年10月

武村雅之, 歴史に学ぶ防災論: 関東大震災は生きている, すみだ文化資料館, すみだ郷土文化資料館, 2016年11月

武村雅之, 歴史から学ぶ熊本地震, 第7回震災予防講演会(日本地震工学会), パシフィコ横浜・アネックスホール, 2017年2月

武村雅之, 歴史に学ぶ防災論, 第5回京丹后市文化セミナー「丹後震災90年」

武村雅之, 石碑が語る震災復興: 関東大震災, 第33回歴史地震研究会, 大槌町中央公民館, 2016年9月

武村雅之, 地震学140年の歴史と防災: 先駆者関谷清景の足跡を訪ねて, 企画展「関谷清景」関連講演会, 奥の細道むすびの地記念館, 2017年8月

武村雅之, 歴史に学ぶ防災論: 人生無常の実際に覚醒せよ, 岡崎高校PTA研修講演会, 愛知県立岡崎高校, 2017年10月

武村雅之, 歴史に学ぶ防災論: 関東大震災は生きている, 東京江東ワイズメンズクラブ例会講演会, YMCA 東陽町センター, 2017年10月

武村雅之, 関東大震災: 復興百年誌, 第8回震災予防講演会(日本地震工学会), パシフィコ横浜・アネックスホール, 2018年2月

武村雅之, 災害の歴史と防災の科学, NHK「ひとの大学」, NHK名古屋放送センター, 2018年2月

竹之内健介・矢守克也: 「地域の災害対応を支える防災文化の今」, 京都大学防災研究所九州北部豪雨プロジェクト中間報告会, 京都大学防災研究所, 2017/11/30

牛山素行, 「危機管理総論」, 気象予報士活用モデル事業事前研修, 気象庁, 千代田区, 2016年4月14日.

牛山素行, 「風水害のメカニズムと実態」, 気象予報士活用モデル事業事前研修, 気象庁, 千代田区, 2016年4月14日.

牛山素行, 「地域を知り, 防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」, 国土交通大学校 専門課程 水災害予報・水防企画研修, 国土交通大学校, 小平市, 2016年4月21日.

牛山素行, 「地域調査演習」, 気象予報士活用モデル事業事前研修, 気象庁, 千代田区, 2016年4月26日.

牛山素行, 「地形と災害」, 気象予報士活用モデル事業事前研修, 気象庁, 千代田区, 2016年4月26日.

牛山素行, 「避難勧告ガイドライン」, 気象予報士活用モデル事業事前研修, 気象庁, 千代田区, 2016年4月27日.

牛山素行, 「平成28年熊本地震に伴う人的被害の特徴(序報)」, 東海圏減災研究コンソーシ

アムシンポジウム, 東海圏減災研究コンソーシアム, 名古屋市, 2016年5月14日.

牛山素行,「豪雨災害と災害情報」, とよはし防災リーダー養成講座, 豊橋市, 豊橋市, 2016年5月22日.

牛山素行,「地域を知り, 防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」, 防災講演会, 津地方気象台・三重県・津市, 津市, 2016年6月25日.

牛山素行,「地域を知り, 防災を考える」, 水害研修(中津会場), 茨木市, 茨木市, 2016年6月26日.

牛山素行,「地域を知り, 防災を考える」, 水害研修(東会場), 茨木市, 茨木市, 2016年6月26日.

牛山素行,「地域を知り, 防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」, 奈良大学大学院特別講義, 奈良大学, 奈良市, 2016年7月5日.

牛山素行,「豪雨災害と災害情報 ―最近の日本各地での災害事例から学ぶこと―」, 高知市防災ひとづくり塾, 高知市, 高知市, 2016年7月7日.

牛山素行,「地域を知り, 防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」, 長崎県防災推進員養成講座, 長崎県, 長崎県諫早市, 2016年7月18日.

牛山素行,「地域を知り, 防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」, 市町村長トップセミナー(防災危機管理ラボ), 青森県・一般財団法人消防科学総合センター, 青森市, 2016年7月25日.

牛山素行,「地域を知り, 防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」, 千葉県町村会総務課長研修会, 千葉県町村会長, 千代田区, 2016年7月28日.

牛山素行,「地域を知り, 防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」, 龍ヶ崎市市民防災フェア2016講演会, 茨城県龍ヶ崎市, 茨城県龍ヶ崎市, 2016年8月11日.

牛山素行,「津波防災を考える上で知っておきたいこと」, 伊豆地域における津波災害時の避難にかかる勉強会, 静岡県, 静岡県下田市, 2016年8月19日.

牛山素行,「防災基礎総論」, 防災スペシャリスト養成研修, 内閣府, 東京都江東区, 2016年9月5日.

牛山素行,「風水害のメカニズムと実態」, 防災スペシャリスト養成研修, 内閣府, 東京都江東区, 2016年9月6日.

牛山素行,「風水害の基礎」, 静岡県ふじのくに防災士養成講座, 静岡県, 静岡市, 2016年9月7日.

牛山素行,パネルディスカッションコーディネータ,自然災害に関するオープンフォーラム『『自然災害の避難学』構築を目指して』,日本自然災害学会・日本災害情報学会・静岡大学防災総合センター,静岡市,2016年9月22日.

牛山素行,「風水害の基礎」, 静岡県ふじのくに防災士養成講座, 静岡県, 静岡市, 2016年10月16日.

牛山素行,「地域を知り, 防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」, 災害対応

研究会，災害対応研究会，大阪市，2016年10月28日。

牛山素行，「地域を知り、防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」，長崎県防災推進員養成講座，長崎県，長崎県西海市，2016年10月30日。

牛山素行，「豪雨による犠牲者の特徴 ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」，大規模災害発災直後における対応，全国建設研修センター，東京都小平市，2016年10月31日。

牛山素行，「地域を知り、防災を考える」，静岡県消防団員幹部教育指揮幹部科現場指揮課程，静岡県消防学校，静岡市，2016年11月5日。

牛山素行，「地域を知り、防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」，中国地方治水大会，鳥取県・全国治水期成同盟会連合会，鳥取市，2016年11月8日。

牛山素行，「地域を知り、防災を考える」，気象大学校管理者研修，気象大学校，千葉県柏市，2016年11月9日。

牛山素行，「地域を知り、防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」，滋賀県消防防災講演会，滋賀県消防協会，滋賀県彦根市，2016年11月12日。

牛山素行，「最近の豪雨災害事例から学ぶこと ―風水害・土砂災害と対策―」，福井県防災士養成講座，福井県，福井県南越前町，2016年11月13日。

牛山素行，「地域を知り、防災を考える」，諏訪教育会こども季節大学会，諏訪季節大学会，長野県諏訪市(諏訪中学校)，2016年11月16日。

牛山素行，「地域を知り、防災を考える」，諏訪教育会季節大学会，諏訪季節大学会，長野県茅野市(茅野北部中学校)，2016年11月16日。

牛山素行，「地域を知り、防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」，掛川市防災研修会，掛川市，掛川市，2016年11月17日。

牛山素行，「防災基礎総論」，防災スペシャリスト養成研修(地域別総合防災研修:山形県)，内閣府，山形市，2016年11月24日。

牛山素行，「最近の豪雨災害事例から学ぶこと ―風水害・土砂災害と対策―」，福井県防災士養成講座，福井県，福井県小浜市，2016年11月27日。

牛山素行，「2016年の風水害(等)をふりかえって ―防災実務者をどう支えていくか―」，気象講演会，気象庁，千代田区，2016年11月30日。

牛山素行，「豪雨災害と災害情報」，国土交通大学校 専門課程 緊急災害対策派遣隊研修，国土交通大学校，小平市，2016年12月13日。

牛山素行，「最近の豪雨災害事例から学ぶこと ―風水害・土砂災害と対策―」，福井県防災士養成講座，福井県，福井県永平寺町，2016年12月18日。

牛山素行，「2016年の自然災害をふりかえって ―ますます高まる管理者(行政等)の責任―」，静岡県危機管理監研修，静岡県，静岡市，2016年12月22日。

牛山素行，「災害と情報 最近の豪雨災害事例から学ぶこと」，消防団幹部特別研修，日本消防協会，東京都港区，2017年1月11日。

牛山素行，2016年の自然災害をふりかえって ―ますます高まる管理者(行政等)の責任―，

(岩手県)災害情報協議会, 東北地方整備局岩手河川国道事務所, 盛岡市, 2017年1月13日.

牛山素行,「全体討論」コーディネータ, 防災スペシャリスト養成研修(地域別総合防災研修: 宮崎県), 内閣府, 宮崎市, 2017年1月20日.

牛山素行,「危機管理総論」, 防災スペシャリスト養成研修, 内閣府, 東京都江東区, 2017年1月24日.

牛山素行,「風水害のメカニズムと実態」, 防災スペシャリスト養成研修, 内閣府, 東京都江東区, 2017年1月25日.

牛山素行,「地域を知り, 防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」, 京都市技術管理委員会技術研修部会主催研修, 京都市, 京都市, 2017年1月31日.

牛山素行,「災害と情報 ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」, 消防団幹部候補特別研修, 日本消防協会, 東京都港区, 2017年2月3日.

牛山素行,「地域を知り, 防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」, 土砂災害の警戒避難体制に関する技術講習会, 東京都, 新宿区, 2017年2月13日.

牛山素行,「地域を知り, 防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」, 静岡経済同友会例会, 静岡経済同友会, 静岡市, 2017年2月20日.

牛山素行,「地域を知り, 防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」, 島根県自主防災リーダー研修会, 島根県, 島根県出雲市, 2017年3月5日.

牛山素行,「地域を知り, 防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」, 東京都高度技術政策研修, 東京都, 江東区, 2017年3月7日.

牛山素行,「地域を知り, 防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」, 木造耐震ネットワーク知多・総会, 木造耐震ネットワーク知多, 知多市, 2017年3月7日.

牛山素行,「避難」について考える ―近年の豪雨災害事例を踏まえて―」, 避難勧告等のガイドラインに関する説明会, 静岡県, 静岡市, 2017年3月15日.

牛山素行,パネルディスカッション「現代における防災実務者育成の重要性」コーディネータ, 東海圏減災研究コンソーシアム第4回シンポジウム, 東海圏減災研究コンソーシアム・静岡大学防災総合センター, 静岡市, 2017年3月18日.

牛山素行,「地域を知り, 防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」, 国土交通大学校 専門課程 水災害予報・水防企画研修, 国土交通大学校,小平市,2017年4月20日.

牛山素行,パネルディスカッションパネリスト,大震法シンポジウム「みんなで考える地震予測～限界と活用法～」,静岡新聞社・静岡放送,静岡市,2017年5月13日.

牛山素行,「豪雨災害と災害情報」,国土交通大学校 土砂災害防止対策〔警戒避難等〕研修, 国土交通大学校,小平市,2017年5月17日.

牛山素行,「地域を知り, 防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」, 山形県防災・危機管理トップセミナー, 山形県・一般財団法人消防科学総合センター, 山形市,

2017年6月1日.

牛山素行,「豪雨災害と災害情報」,とよはし防災リーダー養成講座,豊橋市,豊橋市,2017年6月10日.

牛山素行,「最近の豪雨災害事例から学ぶこと」,陸前高田市自主防災組織リーダー研修会,陸前高田市,2017年6月28日.

牛山素行,「地域を知り、防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」,盛岡市管理者等特別研修,盛岡市,盛岡市,2017年7月4日.

牛山素行,「地域を知り、防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」,江崎新聞店防災講演会,株式会社江崎新聞店,静岡市,2017年7月11日.

牛山素行,「地域を知り、防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」,江崎新聞店防災講演会,株式会社江崎新聞店,静岡市,2017年7月12日.

牛山素行,「地域を知り、防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」,長崎県防災推進員養成講座,長崎県,長崎県壱岐市,2017年7月17日.

牛山素行,「平成29年7月九州北部豪雨による人的被害発生状況・発生場所の特徴(速報)」,気象庁予報課談話会,気象庁,千代田区,2017年8月3日.

牛山素行,「平成29年7月九州北部豪雨による人的被害発生状況・発生場所の特徴(速報)」,静岡大学防災総合センター 現地調査速報会,静岡大学防災総合センター,静岡市,2017年8月4日.

牛山素行,「豪雨災害と災害情報 ―最近の日本各地での災害事例から学ぶこと―」,高知市防災ひとつくり塾,高知市,高知市,2017年8月19日.

牛山素行,「豪雨災害と災害情報 ―最近の日本各地での災害事例から学ぶこと―」,春野防災ネットワーク会防災講演会,春野防災ネットワーク会,高知市,2017年8月20日.

牛山素行,「平成29年7月九州北部豪雨による人的被害発生状況・発生場所の特徴(速報)」,「平成29年7月九州北部豪雨」現地調査速報会,日本気象協会,豊島区,2017年8月24日.

牛山素行,「地域を知り、防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」,長崎県防災推進員養成講座,長崎県,長崎県松浦市,2017年8月27日.

牛山素行,「地域を知り、防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」,久慈市防災講演会,岩手県久慈市,岩手県久慈市,2017年8月30日.

牛山素行,「防災基礎総論」,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,東京都江東区,2017年9月7日.

牛山素行,「風水害のメカニズムとその被害」,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,東京都江東区,2017年9月7日.

牛山素行,「被害の実態と地域の脆弱性」,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,東京都江東区,2017年9月7日.

牛山素行,「平成29(2017)年7月九州北部豪雨による人的被害等についての調査速報」,日

本災害情報学会勉強会，日本災害情報学会，文京区，2017年9月9日。

牛山素行，「風水害の基礎」，静岡県ふじのくに防災士養成講座，静岡県，静岡市，2017年9月13日。

牛山素行，「地域を知り、防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」，広島市防災講演会，広島市，広島市，2017年9月24日。

牛山素行，「風水害の基礎」，静岡県ふじのくに防災士養成講座，静岡県，静岡市，2017年10月1日。

牛山素行，「地域を知り、防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」，平成29年度管理者研修，気象大学校，千葉県柏市，2017年10月19日。

牛山素行，「豪雨災害による犠牲者の特徴」，平成29年度研修「災害発生直後における対応」，全国建設研修センター，東京都小平市，2017年10月31日。

牛山素行，「最近の豪雨災害事例から学ぶこと」，第8回砂防講習会，建設コンサルタンツ協会，東京都港区，2017年11月10日。

牛山素行，「地域を知り、防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」，島根県自主防災リーダー研修会，島根県，島根県浜田市，2017年11月11日。

牛山素行，「最近の豪雨災害事例から学ぶこと ―風水害・土砂災害と対策―」，福井県防災士養成講座，福井県，福井県美浜町，2017年11月12日。

牛山素行，「危機管理と防災対策」，消防職員幹部教育中級幹部科，静岡県消防学校，静岡市，2017年11月14日。

牛山素行，「2016年台風10号災害による岩手県・北海道の人的被害の特徴」，平成28年台風第10号災害に係る報告会(町職員研修)，岩泉町，岩手県岩泉町，2017年11月29日。

牛山素行，「2016年台風10号災害による岩手県・北海道の人的被害の特徴」，平成28年台風第10号災害に係る報告会(一般向け)，岩泉町，岩手県岩泉町，2017年11月29日。

牛山素行，「2017年の風水害をふりかえって」，(岩手県)災害情報協議会，東北地方整備局岩手河川国道事務所，盛岡市，2017年11月30日。

牛山素行，「最近の豪雨災害事例から学ぶこと ―風水害・土砂災害と対策―」，福井県防災士養成講座，福井県，福井県永平寺町，2017年12月3日。

牛山素行，「豪雨災害と災害情報」，国土交通大学校 専門課程 TEC-FORCE(班長)研，国土交通大学校，小平市，2017年12月12日。

牛山素行，「地域を知り、防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」，岩手県議会防災・減災対策調査特別委員会県外調査，静岡大学防災総合センター，静岡市，2017年12月19日。

牛山素行，「平成29年7月九州北部豪雨による人的被害の特徴」，防災学術連携体シンポジウム，防災学術連携体，東京都港区，2017年12月20日。

牛山素行，「2017年の風水害をふりかえって」，陸前高田市防災会議，岩手県陸前高田市，岩手県陸前高田市，2018年1月23日。

牛山素行,「防災基礎総論」, 防災スペシャリスト養成研修, 内閣府, 東京都江東区, 2018年1月25日.

牛山素行,「風水害のメカニズムとその被害」, 防災スペシャリスト養成研修, 内閣府, 東京都江東区, 2018年1月25日.

牛山素行,「被害の実態と地域の脆弱性」, 防災スペシャリスト養成研修, 内閣府, 東京都江東区, 2018年1月25日.

牛山素行,「危機管理総論」, 気象防災アドバイザー育成研修, 気象庁, 気象庁, 東京都千代田区, 2018年2月10日.

牛山素行,「ハザードとリスク・脆弱性」, 気象防災アドバイザー育成研修, 気象庁, 気象庁, 東京都千代田区, 2018年2月10日.

牛山素行,「災害発生のメカニズムと実態(風水害)」, 気象防災アドバイザー育成研修, 気象庁, 気象庁, 東京都千代田区, 2018年2月10日.

牛山素行,「最近の豪雨災害事例から学ぶこと ―風水害と対策―」, 富山県防災士養成研修, 富山県, 富山市, 2018年2月11日.

牛山素行,「災害と情報 ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」, 市町村アカデミー研修「災害に強い地域づくりと危機管理」, 市町村アカデミー, 千葉市, 2018年2月20日.

牛山素行,「地形と災害」, 気象防災アドバイザー育成研修, 気象庁, 気象庁, 東京都千代田区, 2018年3月10日.

牛山素行,「災害発生前後の対応イメージトレーニング」, 気象防災アドバイザー育成研修, 気象庁, 気象庁, 東京都千代田区, 2018年3月10日.

牛山素行,全体討論コーディネータ, 気象防災アドバイザー育成研修, 気象庁, 気象庁, 東京都千代田区, 2018年3月18日.

渡辺俊樹, 今こそ知ろう! 地震のメカニズム, ITC 岡崎クラブ1月例会, 岡崎市, 2017年1月11日.

山崎登,ますます重要になる災害情報,兵庫県防災リーダー講座,2017年12月2日.

山崎登,災害情報を防災に生かす,三重県四日市市防災大学,2017年12月16日.

山崎登,中部地方で考える火山防災,名古屋大学,2018年1月17日.

山崎登,首都直下地震に備える,八王子市防災協会,2018年1月20日.

山崎登,タイムラインで変わる地域防災,全国建設研修センター,2018年1月26日.

山崎登,地域の防災力を高める,横浜市都筑区,2018年2月19日.

山崎登,災害情報と災害報道,日本防災士機構研修講師,2018年3月25日.

山崎登,東日本大震災から5年シンポジウム,2017年3月8日,日本消防協会.

山崎登,東日本大震災に学ぶ,2017年3月13日,埼玉県草加市.

山崎登,首都直下型地震に備える,国士舘大学,2017年10月28日.

山崎登,最近の災害と対策,日本消防協会男性消防団員研修,2018年2月1日.

山崎登,水防災タイムライン～先進地からの発信～』,水防災タイムラインカンファレンス球

磨川,2018年2月9日.

山崎登,地域の防災力を高める,日本消防協会女性消防団員研修,2018年2月16日.

山崎登,防災教育をどう進めるか,国士舘大学,2018年3月24日.

山崎登,みんなで考えるタイムライン防災,岡山市,2018年3月19日.

矢守克也:防災学習のまとめ(2017年度根雨小学校防災授業),鳥取県日野町根雨小学校,
2018/2/13

矢守克也:コメンテーター NHK 滋賀 防災トークイベント「防災を伝える新しいカタチ
~若い力を防災に活かすには?~」,滋賀県庁,2018/2/12

矢守克也:コメンテーター NHK 防災ラジオ滋賀 2018「おうみ防災カフェ」,滋賀県庁,
2018/02/12

矢守克也:災害教育-宇宙教育の先陣か後衛か-,第11回宇宙総合学研究ユニットシンポジ
ウム人類は宇宙人になれるか?-宇宙教育を通じた挑戦,京都大学,2018/2/11

矢守克也:避難所生活(興津小学校防災学習発表会),高知県四万十町興津小学校,
2018/2/10

矢守克也:避難所までの長い道のり(吉野小学校防災授業),高知年本山町吉野小学校,
2018/2/1

矢守克也:クロスロードの基本 災害対応ツール検討会(クロスロードのつどい),慶應義
塾大学,2018/1/27

矢守克也:南海トラフ地震発生、最初の1時間、何を伝えるか,朝日放送「南海トラフ地
震勉強会」,朝日放送,2018/1/24

矢守克也:パネルディスカッション「住民と行政機関が連携した避難所運営に向けて」コ
ーディネーター,伊賀地域防災セミナー,三重県伊賀庁舎,2018/1/9

矢守克也:地域・行政・学校の連携による地域防災のススメ,伊賀地域防災セミナー,三重
県伊賀庁舎,2018/1/9

矢守克也:非常持出袋について考えよう,摂津小学校,2017/11/30

矢守克也:地域防災力の強化・向上 横浜市議会減災対策推進特別委員会講演,横浜市議会,
2017/11/29

矢守克也:避難の心理学-リスクの情報/情報のリスク-,日本気象協会講演階,日本気象
協会,2017/11/28

矢守克也:コミュニティがつくるレジリエンス,内閣府第37回ナショナル・レジリエンス
懇談会,内閣府,2017/11/28

矢守克也:コメント 四万十町興津地区避難所運営マニュアル第1回検討会,さくら貝,
2017/11/26

矢守克也・竹之内健介,マイスイッチ・地域スイッチ~平成29年九州北部豪雨災害を踏まえ
て~,地区防災計画学会公開シンポジウム「九州北部豪雨の教訓と地域防災力」,福岡,
2017/11/23

矢守克也：南海トラフ地震発生、最初の1時間、何を伝えるか、関西なまずの会, 2017年度阿武山観測所合宿勉強会, 京都大学防災研究所阿武山地震観測所, 2017/11/19

矢守克也・李フシン：愛知県西尾市一色町大塚町内会避難訓練結果報告, 西尾市役所, 2017/11/14

矢守克也：防災学習ゲーム「クロスロード」, 平成29年度津市民防災大学, アスト津, 2017/11/6

矢守克也：市民参加がつくる地震学・防災学の最先端, 京大ウィークス阿武山観測所講演, 京都大学防災研究所阿武山地震観測所, 2017/11/3

矢守克也：「防災・減災：こんな工夫、取り組みもあります!」, 須崎高校防災フォーラム, 須崎高校, 2017/10/27

矢守克也：特別講演：学校と地域が連携した防災教育, 尼崎市大島小学校, 2017/10/26

矢守克也：津波避難について考える, ひょうご21世紀文明研究セミナー, 兵庫県民会館, 2017/10/24

矢守克也：ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ, 人と防災未来センター平成29年度秋期「災害対策専門研修」, 人と防災未来センター, 2017/10/18

矢守克也：コメント 興津中防災教育プログラム, 興津中学校, 2017/10/11

矢守克也：コメント 興津小防災教育プログラム, 興津小学校, 2017/10/10

矢守克也：クロスロード・ゲーム, 岐阜県高山市栴尾小学校防災教育プログラム, 京都大学防災研究所穂高砂防観測所, 2017/10/3

矢守克也：防災について考えるためのヒント, 関西学院千里国際高等部講義, 2017/9/21

矢守克也：阿武山観測所サイエンスミュージアムプロジェクトとオープンサイエンス, 阿武山観測所サポーター養成講座2017, 京都大学防災研究所阿武山地震観測所, 2017/9/10

矢守克也：災害時のよびかけについて, MBS 災害報道講演, 毎日放送本社, 2017/9/7

矢守克也：地区防災計画のポイントー熊本地震や黒潮町の様子からー, 四万十町興津地区避難所運営マニュアル第1回検討会, さくら貝, 2017/9/3

矢守克也：模擬授業ワークショップ「防災ゲーム「クロスロード」を活用した防災学習」(第9回土木と学校教育フォーラム), 土木学会本部, 2017/8/6

矢守克也：災害時のよびかけについてー南海トラフ地震・津波を題材にー NHK 大阪放送局アナウンス室勉強会, NHK 大阪放送局, 2017/8/1

矢守克也：「災害伝承学」について考えたこと, 日本災害復興学会「被災の教訓を未来に伝える研究会(未来研) 災害アーカイブ研究会」(関西ブロック) 災害アーカイブ, 関西学院大学梅田キャンパス, 2017/7/24

矢守克也：ネット中継解説：黒潮町佐賀中学校およびメキシコ・シワタネホ市エヴァサマノ中学校による国際合同避難訓練, 黒潮町佐賀中学校, 2017/7/12

矢守克也：学校・家庭・地域と防災教育～子どもたちの命を救う防災の取組について～, 平成29年度高知県PTA研究大会, 高知県立高知追手前高等学校芸術ホール, 2017/7/9

矢守克也：こんな防災対策もあります！，興津小学校防災学習会，四万十町興津小学校，
2017/7/8

矢守克也：学校における災害リスク・コミュニケーション，中国四川省 NGO 備災センター
中日減災・防災国際交流事業講義，人と防災未来センター，2017/6/24

矢守克也：地震リスクのインフォメーション／コミュニケーション，日本地震学会主催シン
ポジウム「地震発生予測と大震法および地震防災研究」，東京大学地震研究所，
2017/06/17

矢守克也：ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ，人と防災未来センター平
成 29 年度春期「災害対策専門研修」，人と防災未来センター，2017/6/15

矢守克也：「前日」について考えてみませんか，第 52 回大阪野田村サテライトセミナー，大
阪大学野田村サテライト，2017/6/11

矢守克也：学校と地域が連携した防災教育，高槻市けやきの森市民大学 2017 年春講座，高槻
市立生涯学習センター，2017/6/10

矢守克也：地域における防災体制の構築に向けて～災害のリスク・コミュニケーション戦
略～，全国市町村国際文化研修所「地域住民の防災力向上～平時からの取り組み～」研
修会，全国市町村国際文化研修所会，2017/5/24

矢守克也：災害リスク・コミュニケーションの課題と展望，科学研究費研究：「予測」をめ
ぐる科学・政策・社会の関係研究会，東京大学地震研究所，2017/5/22

矢守克也：地区防災計画の基本と活動のポイントー熊本地震からー，平成 29 年度黒潮町防
災地域担当職員研修実施要領，黒潮町保健福祉センターおよび佐賀庁舎会議室，
2017/5/9-10

矢守克也：災害リスク・コミュニケーションの新しいかたち，第 443 回 KSP(関西社会心
理学研究会)，関西大学梅田キャンパス，2017/4/22

矢守克也：熊本地震から感じたこと三題，地区防災計画学会シンポジウム「熊本地震から 1
年を振り返って～熊本地震の教訓と地域防災力の在り方～」，福岡大学，2017/4/8

矢守克也：サイエンス・コミュニケーションとは，京都大学防災研究所サイエンスコミュ
ニケーター養成講座，京都大学防災研究所，2017/3/1

矢守克也：家庭と地域で進める防災・減災対策ー熊本地震を経験してー，横浜市東日本大震
災特別講演会，神奈川公会堂，2017/2/18

矢守克也：全体総括 興津小学校防災学習発表会，高知県四万十町興津小学校，2017/2/12

矢守克也：防災・減災に向けてできること：平成 28 年度防災学習のまとめ，高知県本山町吉
野小学校，2017/1/31

矢守克也：基調講演「地域と学校が連携した防災教育」，平成 28 年度高知県防災教育推進
フォーラム，高知市追手前高校，2017/1/29

矢守克也：パネルディスカッション「『世界津波の日』高校生サミット in 黒潮に参加して」
地域と学校が連携した防災教育」コーディネーター，平成 28 年度高知県防災教育推進フ

- オーラム高知市追手前高校, 2017/1/29
- 矢守克也: 災害リスク・コミュニケーションの課題と現状, 関西交通経済研究センター「災害対策シンポジウム」, テイジンホール, 2017/1/17
- 矢守克也: 「逃げトレ」避難訓練総括, 高知県立須崎高校, 2016/12/18
- 矢守克也: 災害リスクを伝えるーリスクの想定/想定のリスクー, 福島医学会学術研究集会シンポジウム「異分野におけるリスク・コミュニケーション事例の俯瞰学」, コラッセ福島, 2016/12/16
- 矢守克也: 南海トラフ地震への備えと課題, 朝日二火会, 中之島フェスティバルタワー, 2016/12/13
- 矢守克也: 黒潮町の地区防災計画, 地区防災計画学会連続公開シンポジウム 5 (熊本地震を踏まえた地域防災力強化の在り方 in 大阪: 地区防災計画と事業継続計画と ICT), 大阪大学中之島センター, 2016/11/20
- 矢守克也: 防災・減災のためのリスク・コミュニケーション, いけだウオンバット塾, 池田市役所, 2016/11/14
- 矢守克也: 防災学習ゲーム「クロスロード」, 平成 28 年度津市民防災大学, アスト津, 2016/11/9
- 矢守克也: 学校における災害リスク・コミュニケーション, 平成 28 年度第 3 回副校長・教頭等研修, 独立行政法人教員研修センター, 2016/11/9
- 矢守克也・片田敏孝・佐々木慶一・福島まり子・大西勝也: パネルディスカッション黒潮町第 2 回地区防災計画シンポジウム, 黒潮町総合センター, 2016/11/5
- 矢守克也: 防災・減災のためのリスク・コミュニケーション, 「高知家・地震防災ネットワーク」, テレビ高知, 2016/10/26
- 矢守克也: 熊本地震について学ぼう, 平成 28 年度吉野小学校防災学習会, 高知県本山町吉野小学校, 2016/10/26
- 矢守克也: ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ, 人と防災未来センター平成 28 年度秋期「災害対策専門研修」, 人と防災未来センター, 2016/10/18
- 矢守克也: 文理工有効の防災: 減災研究の現場から, 茨城大学地球変動適応科学研究機関設立 10 周年記念シンポジウム, 茨城大学, 2016/10/15
- 矢守克也: 津波避難のリアル: 新しい訓練手法のご紹介, ひょうご 21 世紀文明研究セミナー 2016, 人と防災未来センター, 2016/10/12
- 矢守克也: 避難の心理学ーリスクの情報/情報のリスクー 第 35 回自然災害学会学術講演会, オープンフォーラム「自然災害の避難学」構築をめざして, 静岡県地震防災センター, 2016/9/22
- 矢守克也: 防災学習ゲーム「クロスロード」, なごや災害ボランティア連絡会結成 10 周年記念平成 28 年度三遠南信災害ボランティア交流学習会, 名古屋大学減災館, 2016/9/17
- 矢守克也: 防災ゲーム「クロスロード」体験, 日本災害救援ボランティアネットワーク平成

- 28年度災害ボランティア養成講座, 西宮市共生会館ふれぼの, 2016/9/10
- 矢守克也: いま熊本復興のために、私たちは何ができるのか?, 平成28年度熊本大学政創研政策フォーラム熊本地震復興のこれからを考えるーおたがいさまの社会づくりー, 熊本大学工学部百周年記念館, 2016/8/30
- 矢守克也: 防災・減災のためのリスク・コミュニケーション, 産業技術総合研究所活断層・火山研究部門セミナー, 産業技術総合研究所, 2016/7/27
- 矢守克也: 津波避難研究の理論と実践ーSIPプロジェクトの成果からー, 南海トラフ広域防災研究プロジェクト第7回関西地域研究会, ホテルメルパルク大阪, 2016/7/25
- 矢守克也: 地区防災計画〜熊本地震を踏まえて〜, 四万十町防災講演会, 窪川四万十町会館, 2016/7/24
- 矢守克也: 熊本地震を経験して, 興津小学校防災学習発表会, 高知県四万十町興津小学校, 2016/7/9
- 矢守克也: 熊本地震から学んだこと, 焼津高校防災学習会, 静岡県焼津高校, 2016/6/30
- 矢守克也: ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ, 人と防災未来センター平成28年度春期「災害対策専門研修」, 人と防災未来センター, 2016/6/16
- 矢守克也: 災害リスク・コミュニケーションについて, 高槻市「けやきの森市民大学講座」, 高槻市生涯学習センター, 2016/6/11
- 矢守克也: 防災・減災のためのリスク・コミュニケーション, 平成28年度「地域住民の防災力向上〜平時からの取り組み〜」セミナー, 全国市町村国際文化研究所, 2016/5/30
- 矢守克也: 熊本地震について学ぼう, 高知県本山町平成28年度合同修学旅行, 人と防災未来センター, 2016/5/25
- 矢守克也: 防災・減災のためのリスク・コミュニケーション, 国土技術研究センター, 2016/5/18
- 矢守克也: 地域防災の新しいかたち: クロスード・生活防災・個別避難訓練, 佐用町防災リーダー研修会, さよう文化情報センター, 2016/5/15
- 矢守克也: 地区防災計画とは, 黒潮町地区防災研修講演, 黒潮町役場, 2016/5/9-10
- 矢守克也: 熊本地震の経験から, 構想日本第223回J.I.フォーラム防災も「他人事」から「自分事」へ, アルカディア市ヶ谷, 2016/4/18
- 矢守克也: 車で避難どう考える?, 万行地区第5回防災勉強会&避難訓練, 高知県黒潮町万行地区公民館, 2016/4/10
- 吉田明夫, ワークショップ「南海トラフ地震の予測に必要な観測・研究は何か」, 静岡県立大学グローバル地域センター 主催, 静岡, 2017年2月1日.
- 吉田明夫, 大震法シンポジウム「沈黙の駿河湾〜東海地震説40年」基調講演, 静岡新聞社, 静岡, 2017年5月13日

5.2 マスメディア・新聞等への掲載

藤井基貴,共同通信社・中国新聞,明日のデザイン:スポーツ巡る道徳的葛藤,2018年3月25日.

藤井基貴,中日新聞朝刊32面,静大の紙芝居 被災地に 「怖くない」津波避難学べる,2018年3月18日.

藤井基貴,朝日新聞朝刊27面,「教える」から生徒の「伴走者」に 防災道徳 話し合い悩む過程を重視,2018年2月28日.

藤井基貴,朝日新聞朝刊29面,道徳教科化,教室変革の好機 「答えが一つでない問題」とこ
とん議論,2018年2月27日.

藤井基貴,毎日新聞(東京夕刊),草津白根山噴火 1カ月 外国人避難に課題 予算限られ
住民優先,2018年2月24日.

藤井基貴,中日新聞朝刊15面マイスター取得へ 防災紙芝居を紹介,2018年1月19日.

藤井基貴,静岡新聞朝刊22面,毎日新聞朝刊25面,静大藤井研究室 防災未来賞大賞,2018年
1月8日.

藤井基貴,朝日新聞朝刊25面,やさしい言葉で防災紙芝居 静大教育学部ゼミ生ら制作 「地
震」使わず「助けて」→「早く来て」,2018年1月7日.

藤井基貴,毎日新聞朝刊24面,「災害弱者」を守る教材 静大教育学部藤井基貴研究室が開
発 学生の教育実践評価,2017年12月7日.

藤井基貴,静岡新聞夕刊2面,静大制作の絵本 紙芝居に 伊勢湾台風の教訓継承に一
役,2017年9月21日.

藤井基貴,毎日新聞(大阪),飛び出せ防災教室 静岡大・藤井研究室 絵本・ダンスで外国
人サポート,2017年5月17日.

藤井基貴,朝日新聞朝刊,災害時の「悩ましさ」静大生が問う 高齢者らに「出前授業」「切
迫状況リアルに感じて」,2017年5月11日.

藤井基貴,日本経済新聞,住民の決断力養成,自発的な避難促す 近年の防災教育,2017年3月
22日.

藤井基貴,静岡新聞朝刊,風水害の備え 絵本で易しく,2017年1月29日.

藤井基貴,毎日新聞朝刊27面,静大・藤井研究室が大賞 大学部門で2年連続「小中と連携
広がり」 ぼうさい甲子園,2016年12月10日.

藤井基貴,日本経済新聞(夕刊),判断・行動力磨く機会に,2016年7月22日.

藤井基貴,毎日新聞朝刊20面,静岡大 受賞機に他校と交流 ぼうさい甲子園 募集始ま
る,2016年6月24日.

二川雅登,CEATEC JAPAN、グリーンイノベーション部門 部門賞 グランプリ受賞,本研
究シーズを展示した、共同研究のラピスセミコンダクタが CEATEC JAPAN でグラン
プリを受賞,2016年10月06日

二川雅登,毎日新聞・中日新聞・朝日新聞・朝日新聞デジタル・信濃毎日新聞・塩尻市民タ

イムス・産経フォト, 塩尻市・信州大学・岡山大学・静岡大学で土中水分量からの斜面崩壊予測の実用化が紹介される, 2016年10月13日

二川雅登, 中日新聞・静岡新聞・日刊工業新聞・読売新聞, 土壌の水分測る半導体センサーが紹介される, 2017年2月22日

二川雅登, 静岡新聞, 静岡大学産学連携奨励賞最優秀賞を受賞したことが紹介される, 2017年3月10日

二川雅登, テレビ静岡「みんなのニュースしずおか なるほど!防災情報」, 斜面崩壊予知の研究と浜松市春野町での実証実験が紹介される, 2017年04月04日

二川雅登・不破泰・小松満, テレビ東京「ミライダネ」水分センサを使った斜面崩壊予知の研究が紹介される, 2017年09月30日

秦康範, FM富士, 2017年11月16日

秦康範, 山梨日日新聞 時標, 2017年8月20日

秦康範, YBS ラジオ, 2017年4月4日

原田賢治, 夜間訓練 避難行動の情報収集, ビーコン使い経路記録, 伊豆・土肥, 静岡新聞(朝刊), 2018.3.15.

原田賢治, 津波災害特別警戒区域指定へ, 16日, 伊豆で市民集会, 県と市, 静岡新聞(朝刊) 県内政治, 2018.1.11.

原田賢治, 「争点」の現場, 託す'17衆院選しずおか, 津波防災対策ー変化する住民意識ー地域の将来像考慮を, 静岡新聞(朝刊), 社会, 2017.10.16.

原田賢治, 町の将来考え津波対策, 提言減災, 静岡新聞(朝刊), 特集, 2017.9.24.

原田賢治, 津波の区域指定推進を, いのち守る防災しずおか, 提言減災, 静岡新聞(朝刊), 2017.6.11.

原田賢治, 危険性の「見える化」を(インタビュー), 県内津波災害警戒区域本社アンケート, 静岡新聞(朝刊), 2017.3.11.

原田賢治, 地域全体で安全議論を, いのち守る-防災しずおか, 提言減災, 静岡新聞(朝刊), 2017.2.26.

原田賢治, 住民参加の津波対策を, いのち守る-防災しずおか, 提言減災, 静岡新聞(朝刊), 2016/10.23.

原田賢治, 津波避難対策屋内から, いのち守る-防災しずおか, 提言減災, 静岡新聞(朝刊), 2016.6.12.

本間基寛: 日刊工業新聞, 地震の微気圧振動で災害予知 気象協会、来春に計測データ公開, 2016年11月3日.

本間基寛: 日刊工業新聞, 津波のメカニズムを表すシミュレーション動画の紹介, 2016年11月8日.

本間基寛: 毎日新聞, 体感指数見える化 企業の食品ロス削減狙う, 2017年5月4日.

本間基寛: 日経テクノロジーonline, 「暑いと売れる」を定量化、気象とPOSで需要を予測,

2017年8月23日.

本間基寛：日刊工業新聞，九州北部豪雨、福岡・朝倉は「550年に1度」，2017年8月25日.

池田恵子，朝日新聞，「静岡市で異文化体験 静大生「マップ」作成」，2018年3月3日

池田恵子，静岡新聞，「女性の視点 生かした防災探る 静岡で行政担当者ら会議」，2018年2月15日

池田恵子，静岡新聞，「静岡大生が異文化マップ」，2018年2月14日

池田恵子，河北新報，「防災ダボス会議のトーク&トークセッションで、防災体制への多様な立場の人の参加の必要性について述べた」，2017年12月13日

池田恵子，静岡新聞，「湖西 男女共同参画の在り方議論（男女共同参画地域セミナー「介護と仕事・育児を両立できますか？」）」，2017年10月31日

池田恵子，静岡新聞，「避難所の女性やLGBT支援 団体、個人つながり重要 静岡で経験者語る」，2017年9月26日

池田恵子，みんなのニュース（テレビ静岡），「女性に配慮した避難所運営 災害時の性暴力対策の必要性」，2017年9月5日

池田恵子，文化放送 全国38局ネット，防災の日スペシャル「自然災害、つながる力で互いを守る」，2017年9月1日

池田恵子，デーリー東北，「被災女性の声反映した防災対策の公開研究会 開催」，2017年8月27日

池田恵子，静岡新聞，「防災食を作って試食 チームバディー指導で交流行事」，2017年5月21日

池田恵子，中日新聞，「気配り防災 心強く：浜松、、自主防に女性加入」，2017年5月1日

池田恵子，静岡新聞，「女性被災者の支援迅速化 市民団体連携、地域超え共助」，2017年4月9日

池田恵子，静岡新聞，「被災地の性暴力 対策急務」，2016年11月13日

池田恵子，読売新聞（山梨県版），「子どもの命 災害から守る」，2016年9月24日

池田恵子，ラジオ NHK ラジオ国際放送ベンガル語プログラム 「防災の日とは」，2016年9月1日

池田恵子，中日新聞，「避難所の女性配慮前進 女性の目線反映を」，2016年6月8日

池田恵子，静岡新聞ほか，「識者評論 避難者支援 性別配慮が効果生む」，2016年4月27日

池田昌之，NHK コズミック フロント☆Next，「史上最大の大量絶滅 真犯人を追い！」，2018年4月5日

池田昌之，Academist Journal，恐竜時代の地球軌道が、地球環境を変えた？ - 新たな変動メカニズムの提唱，2017年7月13日

池田昌之, マイナビニュース, 恐竜時代の日射量の増減が陸の「風化」に影響を与えた,
2017年6月19日

池田昌之, Science portal, 恐竜時代の日射量の増減が陸の「風化」に影響を与えた, 2017
年6月16日

生田領野, 中日新聞朝刊, 南海トラフ事前避難案 予知困難前震で (「大震法存続を批判」),
2017年8月26日

岩崎一孝・泉友太, 静岡新聞, 地名と災害の関係を統計分析 静岡大の岩崎研究室, 2017
年5月17日.

岩田孝仁, 静岡新聞 (朝刊) 社会 P 26, 長引く余震本県も覚悟 避難所運営「自主防が主体
に」調査報告, 2016/04/21.

岩田孝仁, 中日新聞 (朝刊) P 1, 熊本県震度7「現場混乱」広報 SNS 初動遅れ 防災専門
開始 静岡県は自動配信, 2016/04/22.

岩田孝仁, 朝日新聞 (朝刊) 総合2 P2, 時時刻刻 遅れた耐震化 直撃 地区50年庁舎閉
鎖 機能移転体育館に窓口も財政不足立替困難 他施設より進まず, 2016/04/23.

岩田孝仁, 読売新聞 P 1, 連鎖地震検証 (4) 物資滞留 三つの「誤算」, 2016/04/25.

岩田孝仁, 中日新聞 (朝刊) 社会 P 36, 熊本地震から静岡が学ぶ教訓 現地視察の静岡大・岩
田教授に聞く 自主防災組織 地域の要, 2016/04/28.

岩田孝仁, 毎日新聞 (朝刊) 特集 静岡 P22, 耐震化強化で生存率向上, 2016/05/07.

岩田孝仁, 静岡新聞 (朝刊) P 1, 浜岡原全炉停止 5年目の証言 (5) 完 広域避難計画進め
る県 重い責務で板挟み, 2016/05/13.

岩田孝仁, 静岡新聞 (朝刊) 県内政治 P 9, 地方創生テーマ 21.22日に大会 日本地方財政学
会, 2016/05/17.

岩田孝仁, 読売新聞 (東京朝刊) 横浜, 指定避難所8割未設置 自治体に義務づけ 安全性確
認手間取る, 2016/05/18.

岩田孝仁, 静岡新聞 (朝刊) 社会 P 22, 防災と自治議論 静大教授や湖西市長, 2016/05/23.

岩田孝仁, 読売新聞 (朝刊) 群馬 P 28, 防災行政の意識高める 前橋 セミナーで相馬市長
ら講演, 2016/05/26.

岩田孝仁, 毎日新聞 (朝刊) 群馬, 「事前想定」を 前橋で静岡大教授が講演, 2016/05/26.

岩田孝仁, 毎日新聞 (東京朝刊), 遺体安置所の選定に遅れ 岩田孝仁・静岡大学防災総合セン
ター教授の話, 2016/06/03.

岩田孝仁, 静岡新聞 (朝刊) P 1, 沈黙の駿河湾 東海地震説40年 第5章 警告する大地
(2) ”前進”の恐れ、頭よぎる, 2016/06/11.

岩田孝仁, 静岡新聞 (朝刊) 県内総合 P 22, 台湾への展開探る 静岡で県防災用品普及促進
協研究会, 2016/06/17.

岩田孝仁, 静岡新聞 (朝刊) 地域中 P 25, 災害発生時の訓練実施 清水港対策協議会総会
本年度の方針を承認, 2016/06/23.

岩田孝仁,日刊建設工業新聞P 1 2, 防災を考える C e M I からの提言 地震対策は「減災」から「防災」へ,2016/07/21.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P 1, 沈黙の駿河湾東海地震説 40 年(33)私の立場から 緊急インタビュー(3) 大震法 運用レベルの課題山積み,2016/07/23.

岩田孝仁,読売新聞(朝刊)神戸 P 3 1, 国防災対策 課題提案へ 広域連合 有識者会議初会合,2017/07/28.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P 2 4, 「防災対策に余力を」浜北区で自主防研修会 岩田教授(静大)が講演,2016/08/07.

岩田孝仁,中日新聞(朝刊) P 1, 東海地震説 40 年 予知信仰の崩壊 特異性「防災先進県」育む ノウハウの継承に陰り,2016/08/25.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊)地域中 P 1 8, 4 日清水区で防災セミナー 東海大海洋学部など,2016/09/01.

岩田孝仁,中日新聞(朝刊),この人 大地震に備え静岡県庁で防災一筋,2016/09/05.

岩田孝仁,静岡新聞(夕刊) 1 面, 沈黙の東海地震説 40 年 大震法見直し議論開始 都内で作業部会 南海トラフも視野に,2016/09/09.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) 県内総合 P22, 「減災から防災へ」 21 世紀倶楽部 岩田静岡大教授が講演,2016/09/24.

岩田孝仁,日本経済新聞(朝刊) P 4, フォーカス国際ビジネス 静岡県の防災用品 台湾開拓民間が知恵「備え」の大切さ 普及・啓蒙,2016/10/24.

岩田孝仁,静岡新聞(夕刊) P 1, 沈黙の駿河湾 東海地震説 40 年 「大震法」パネルで解説 静大防災総合センターが通年企画 学生、県民に紹介,2016/11/18.

岩田孝仁,産経新聞(朝刊) 静岡 P 2 1, 備える 有識者インタビュー(上)「被害ゼロ」目指す防災の原点へ,2016/12/28.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P 1 9, 沈黙の駿河湾 大震法見直し議論詳報=本県の防災 大きな節目,2017/01/01.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P 2 2, チームバディ しずおか防災人 自主防の熱意再び高めて,2017/01/18.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) 社会 P 3 0, 沈黙の駿河湾 東海地震説 40 年 地震予測の最新知見紹介,2017/01/20.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) 社会 P 2 7, 防災関連用品の台湾市場開拓研究 県普及促進協,2017/01/21.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) 社会 P 2 8, 沈黙の駿河湾東海地震説 40 年 大震法見直し作業部会 住民避難の判定誰が 不確実予測活用見解に差,2017/02/01.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) 社会 P 3 0, 沈黙の駿河湾東海地震説 40 年 大震法見直し作業部会委員ら 不確実な予測どう生かす 県立大で討論「社会のルール必要」,2017/02/02.

岩田孝仁,愛媛新聞, 「減災に甘えるな」静岡大教授が講演 松山で県、市町職員ら向け研

修 ,2017/02/07.

岩田孝仁,市民タイムス, 防災「被害ゼロ目指すべき」 松本 静岡大・岩田教授が講演 ,2017/02/08.

岩田孝仁,信濃毎日新聞,大地震への備え 具体的に設定を 松本で静岡大教授講演 ,2017/02/09.

岩田孝仁,毎日新聞,東海地震「ひずみ計」データ即時公開・・・気象庁検討,2017/02/19.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊)1面,沈黙の駿河湾 東海地震説40年 第9章 平成の2・26事件(3)”意味合い”説明に苦慮,2017/02/25.

岩田孝仁,朝日新聞(朝刊)総合3,てんでんこ 南海トラフ(15)HUG 授業中、休み時間、昼休み、始業前にも訓練。「津波なら上へ、火災なら外へ」,2017/03/06.

岩田孝仁,朝日新聞(朝刊)総合3,てんでんこ 南海トラフ(19)40年 東海地震説から40年がたった静岡 課題は「最後の一人まで」,2017/03/10.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊)P1,静岡大防災総合センター長 岩田氏の就任内定,2017/03/22.

岩田孝仁,静岡新聞 P3,東京大学生産技術研究所「被害想定と災害対応想定」防災新時代 第12回(完) ,2017/04/07.

岩田孝仁,静岡新聞(夕刊)社会P2,ネパール大地震2年 防災力、静岡から祖国に焼津のナレスさん講座や訓練で意識醸成,2017/04/13.

岩田孝仁,読売新聞(大阪朝刊)香川P23,熊本地震1年「最大クラス」想定できず 県「仮設」は状況次第,2017/04/15.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊)総合P2,時の人 防災総合センター長に就任,2017/04/21.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊)特集P9,沈黙の駿河湾 大震法見直し議論詳報 避難か否か「判断材料を」,2017/04/23.

岩田孝仁,産経新聞(朝刊)静岡,備える 歴史からの教訓 明応地震(下) 北条早雲の伊豆平定に”力添え” 壊滅的被害で抵抗できず 想定外への備え,2017/04/23.

岩田孝仁,読売新聞(大阪朝刊)P20,減災 安否情報の伝達 状況応じて SNS 活用 ,2017/04/30.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊)県内総合 P19,ネパールに防災拠点 県民の浄財から建設費,2017/05/02.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊)社会P31,浜岡原発 全炉停止6年 「避難先知らない」7割超 市民アンケート(上) 事故想定計画どう周知,2017/05/12.

岩田孝仁,毎日新聞(朝刊)地方版静岡 P29,ひと・しずおか 防災研究し社会に還元,2017/05/21.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊)総合P25,沈黙の駿河湾 東海地震説40年 本社首長アンケート 大震法見直し広い視点で学者はデータ供給を,2017/05/25.

岩田孝仁,中日新聞(朝刊)社会 P34,母国の防災向上に奔走 ネパール出身・焼津のナレスさん きょう2年の歩み報告,2017/05/27.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊)社会 P27,沈黙の駿河湾 東海地震説 40年 見直し作業部会 大震法の強化拡充要望 本委員ら「南海トラフ全域に」,2017/07/04.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊)社会 P29,避難所立地点検を 静岡大2教授 現地調査の教訓提示,2017/08/05.

岩田孝仁,中日新聞(朝刊)社会 P38,静岡大2教授が報告会 想定区域外で犠牲者多数,2017/08/05.

岩田孝仁,日本経済新聞(夕刊)社会 P9,九州北部豪雨 1ヶ月 犠牲者の多くは浸水想定区域外 静岡大報告,2017/08/05.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊)特集 P11,沈黙の駿河湾 大震法見直し議論詳報 「地域の意見集約 不可欠」,2017/08/22.

岩田孝仁,読売新聞(東京朝刊)静岡 P31,南海トラフ 政府部会 県、防災モデル地区に意欲 危機管理監「蓄積生かす」,2017/08/26.

岩田孝仁,読売新聞(西部朝刊)西総合 P27,アラウンド九州・山口 豪雨防災に予報士の力 気象庁、自治体へ派遣・避難情報に助言,2017/08/29.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊)地域中 P21,生徒が被災地語る 清水東高 岩手の現状発表,2017/09/01.

岩田孝仁,産経新聞(朝刊)オピニオン P7,「大震法」廃止か存続か 「警戒宣言の仕組みは必要」×「国民は地震学に頼らない方がいい」,2017/09/10.

岩田孝仁,朝日新聞(朝刊)静岡 P25,大震法「予知前提」40年ぶりに見直し 県内35市町 本社調べ 方向転換に「懸念はない」強化地域対策拡大を,2017/09/13.

岩田孝仁,中日新聞(朝刊)社会 P30,南海トラフ 被災時交通 県は主導を 岩田・静大防災総合センター長に聞く,2017/09/27.

岩田孝仁,読売新聞(東京朝刊)解説 P13,解説スペシャル 南海トラフ「予知」見直し 避難計画作り課題多く 対象・期間どう決める 地震連動予測つかず,2017/09/27.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P25,災害対策テーマにシンポ 沼津で県弁護士会など,2017/09.30.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊)社会 P27,沈黙の駿河湾 東海地震説 40年 南海トラフ臨時情報 不確実な予測 防災対応は 県、モデル地区議論へ活用関心高まる 模擬シナリオ分野超え連携,2017/10/27.

岩田孝仁,中日新聞(朝刊)社会 P25,「命を守る 報道も目的同じ」 南海トラフ備え 行政OB、記者討論,2017/10/30.

岩田孝仁,徳島新聞,巨大地震報道の役割討論 徳島新聞記者らシンポジウム,2017/10/30.

岩田孝仁,朝日新聞(朝刊)高知 P29,災害報道 あり方探る 県外被災地へ派遣/TV各局 情報共有も 関学大研セミナー 記者ら討論,2016/11/09.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊)社会 P28,沈黙の駿河湾東海地震説 40年 南海トラフ地震 中部経済界防災議論へ あすモデル地区検討会,2017/11/14.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P1,沈黙の駿河湾 東海地震説 40年 南海トラフ 防災対応具
体化着手 中部経済界 モデル地区 百貨店や鉄道など月内ヒアリング,2017/11/16.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) 特集 P11,沈黙の駿河湾 大震法見直し議論詳報 作業部会が報
告書「東海」予知から南海トラフ監視へ,2017/11/28.

岩田孝仁,朝日新聞(朝刊) 静岡 P31,原発避難計画 公表時期で大きな差 31キロ圏内自治
体アンケート 避難先との調整・実効性など「机上の想定」でも課題山積,2017/12/03.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) 社会 P29,阪神大震災 23年 避難所運営薄れる主体性 行政に
頼る人増、ボランティア危機感「住民の考える力不可欠」,2018/01/16.

岩田孝仁,朝日新聞(朝刊) 総合 P3,てんでんこ 奥尻から(16)災害研究,2018/01/16.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P20,阪神大震災の教訓忘れず 磐田で防災研修 岩田静大セン
ター長講演,2018/01/18.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P1,予測と防災 南海トラフ巨大地震 県民と模索 南海トラフ
対応 3大学企画「情報共有橋渡しに」来月 静岡でワークショップ,2018/01/18.

岩田孝仁,時事通信 web,火山と観光、どう共存=啓発、シェルター、調査拡充一有識者に聞
く・草津白根山噴火,2018/01/26.

岩田孝仁,毎日新聞 web,内閣府 進まぬ火山避難計画 策定自治体、該当の3分の
1,2018/01/25.

岩田孝仁,中日新聞(朝刊) 総合 P3,南海トラフ地震対策見直し 県内「耐震化」なお課題
未知の活断層も/建物補強必要,2018/02/02.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P1,南海トラフ対応議論 防災情報事前に生かす鍵は 静岡でワ
ークショップ,2018/02/03.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) 特集 P11,予測と防災 南海トラフ巨大地震 県内3大学連携 ワ
ークショップ詳報 防災情報 どう生かす,2018/02/17.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) 社会 P34,「単独判断難しい」南海トラフ防災 企業ヒアリング
名古屋で中部検討会,2018/02/22.

岩田孝仁,読売新聞(朝刊) 地域 P33,南海トラフ県民意識調査 臨時情報時「避難」33%「予
知」でなくても一定数存在,2018/03/12.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) 地域中 P23,想像力養い 被害妨げ I LOVE しずおか協 葵
区で防災・減災講座,2018/03/17.

岩田孝仁,中日新聞(朝刊) 社会 P30,救命艇やシェルター開発進む 津波浮いて逃げよ 専
門家「まずは高台。最終手段に」,2018/03/24.

岩田孝仁,静岡新聞(夕刊) P1,予測と防災 南海トラフ巨大地震 南海トラフ 国も検討会
事前対応、来月初会合,2018/03/27.

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) 社会 P32,予測と防災 南海トラフ巨大地震 南海トラフ事前対
応素案 着地点の難しさ浮き彫り 県専門部会,2018/03/30.

岩田孝仁,静岡新聞,「時評」熊本地震被災地で思う_「事前復興」に国費を,2016/05/04.

岩田孝仁,静岡新聞,「時評」大震法制定から40年_意義ある見直し期待,2016/07/27.

岩田孝仁,静岡新聞,「時評」コンビニの防災機関指定_被災者の迅速支援を,2016/09/29.

岩田孝仁,静岡新聞,「時評」被害者ゼロへ防災の原点_想像力豊かに危機回避,2017/01/11.

岩田孝仁,静岡新聞,「時評」東日本大震災を忘れるな_初心に帰り行動せよ,2017/03/23.

岩田孝仁,静岡新聞,「時評」タイムライン防災の取組み,2017/06/21.

岩田孝仁,静岡新聞,「時評」東海地震の切迫性捉えた時 社会的対応ルールを,2017/08/31.

岩田孝仁,静岡新聞,「時評」不確かな地震予測情報 まず突発対策徹底を,2017/11/06.

岩田孝仁,静岡新聞,「時評」“地震防災警戒レベル”的確避難へ導入必要,2018/02/14.

岩田孝仁,NHK静岡,たっぷり静岡 防災特集 身近な防災 家具固定の現状は,2016/04/11.

岩田孝仁,テレビ静岡,みんなのニュースしずおか 地震に備えるために・・・県内は？ 富士川河口断層帯に注意,2016/04/15.

岩田孝仁,静岡第一テレビ,NEWSevery しずおか 平成28年熊本地震 住宅の倒壊なぜ 静岡での注意点,2016/04/15.

岩田孝仁,SBS ラジオ,IPPO,2016/04/18.

岩田孝仁,NHK総合,クローズアップ現代+ “いつ自宅に戻れるのか～”連鎖”大地震・住宅倒壊の衝撃～,2016/04/19.

岩田孝仁,NHK総合,たっぷり静岡 防災特集 被災地の現状と県内の活断層は,2016/04/20.

岩田孝仁,NHK総合,たっぷり静岡 防災特集 防災拠点となる公共施設の安全性,2016/04/21.

岩田孝仁,静岡朝日テレビ,避難所の衛星管理は 熊本地震でのロウウィルス感染,2016/04/29.

岩田孝仁,NHK総合,たっぷり静岡 由比地区の津波避難の課題検証,2016/05/16.

岩田孝仁,SBS,イブアイ静岡 熊本地震から1か月 見えてきた課題,2016/05/18.

岩田孝仁,静岡朝日テレビ,とびっきり静岡 防災拠点機能奪った熊本地震 県内公共建築物の耐震性を検証,2016/06/06.

岩田孝仁,NHK総合,たっぷり静岡 東海地震対策 南海トラフ含め議論へ,2016/06/28.

岩田孝仁,SBSラジオ,IPPO 情報三枚おろし 大規模地震対策特別措置法の見直しについて,2016/07/06.

岩田孝仁,NHK総合,たっぷり静岡 防災特集 伊東市「防潮堤に頼らない避難対策」,2016/08/01.

岩田孝仁,静岡第一テレビ,ニュース every しずおか,2016/08/23.

岩田孝仁,NHK総合,たっぷり静岡,2016/08/29.

岩田孝仁,SBS テレビ,静岡発そこ知り 家族で備える巨大地震 これが生き抜く秘策だ 非常事態どうすれば・・・防災のプロが語る備え,2016/08/31.

岩田孝仁,NHK総合,ナビゲーション SP “活断層”地震と闘ういのちを守るための最新情報,2016/09/02.

岩田孝仁,静岡第一テレビ,地震防災チェック,2016/09/03.

岩田孝仁,NHK総合,たっぷり静岡 防災特集 大川小学校津波判決 県内の小学校 対策は,2016/10/31.

岩田孝仁,NHK総合,たっぷり静岡 防災特集 南海トラフ巨大地震,2016/11/07.

岩田孝仁,テレビ静岡,みんなのニュース 2016 の軌跡 相次いだ地震の教訓は,2016/12/14.

岩田孝仁,NHK総合,たっぷり静岡 防災特集 ことしの課題 (1) 防潮堤,2017/01/04.

岩田孝仁,NHK総合,たっぷり静岡 防災特集 ことしの課題 (2) 事前復興,2017/01/05.

岩田孝仁,SBSテレビ,イブアイ静岡 静岡 2017 特集 南海トラフ巨大地震への備え “予知に頼らない対策” 検討中,2017/01/11.

岩田孝仁,SBSラジオ,GOGOワイド らぶらじ 阪神大震災から22年 住宅の耐震化について,2017/01/16.

岩田孝仁,NHK総合,たっぷり静岡 防災特集”粘り強い”堤防で変わる避難,2017/01/30.

岩田孝仁,NHK 総合,たっぷり静岡 シリーズ震災6年 なぜ進まない 下水道のBCP,2017/03/07.

岩田孝仁,NHK総合,たっぷり静岡 災害史を防災にいかす,2017/03/09.

岩田孝仁,テレビ静岡,特集番組 命を守るこれからの防災,2017/03/10.

岩田孝仁,静岡第一テレビ,特集番組 本当にできる?地震予知 静岡発 X デーに備えて,2017/03/11.

岩田孝仁,NHK総合,たっぷり静岡 激しい揺れの確立69% 政府の地震動予測図についての解説 静岡関係者がネパールで防災訓練 ネパールの復興や防災訓練について,2017/04/27.

岩田孝仁,NHK総合,たっぷり静岡 防災特集『ネパールで"静岡式"訓練 その思いは』,2017/05/08.

岩田孝仁,静岡第一テレビ,ニュース every 静岡 九州豪雨…静岡での可能性,2017/07/17.

岩田孝仁,テレビ静岡,みんなのニュースしずおか 豪雨のつめ痕…被災地の現実九州豪雨視察団に密着,2017/07/18.

岩田孝仁,テレビ静岡,みんなのニュース静岡 “ノロノロ”台風5号 防災専門家が生解説!,2017/08/08.

岩田孝仁,SBSテレビ,イブアイ静岡 国の南海トラフ対策 地震予知の前提改める報告案,2017/08/25.

岩田孝仁,SBSラジオ,ラジオ防災スペシャル～新たな視点で見直そう地震への備え!～,2017/09/03.

岩田孝仁,NHK総合,たっぷり静岡,2017/10/25.

岩田孝仁,NHK総合,たっぷり静岡 静岡大・岩田教授に聞く・地震新情報は何が違う?,2017/10/31.

岩田孝仁,SBSテレビ,イブアイ静岡,2017/10/31.

岩田孝仁,NHK総合,視点・論点「南海トラフの地震にどう対応するか」,2017/11/02.

岩田孝仁,静岡第一テレビ,ニュース every 静岡,2017/11/06.

岩田孝仁,テレビ静岡,防災特集「未来を守る防災」,2018/03/09.

岩田孝仁,静岡第一テレビ,防災特集「大転換防災のかたち」,2018/03/10.

岩田孝仁,NHK 総合・静岡,たっぷり静岡 選択が問われる防潮堤,2018/03/09.

岩田孝仁,NHK 総合・静岡,たっぷり静岡 防災ボイス ブロック塀の危険を確かめよう,2018/03/15.

岩田孝仁,NHK 総合・静岡,たっぷり静岡 防災ボイス 地域の災害の歴史を知ろう,2018/03/16.

岩田孝仁,NHK 総合・静岡,たっぷり静岡 南海トラフ巨大地震 県の専門部会が初会合,2018/03/29.

岩田孝仁,文化放送,世の中 SAKIDORI 防災のキーワードは想像力から,2018/03/30.

笠原順三,フジテレビプライムニュース 地震,2018年4月9日 16:50-19:00.

笠原順三,フジテレビ めざましテレビ 地震,2017年8月4日 5:25~8:00.

笠原順三,フジテレビ メカニズムアクト 地震,2017年8月4日 4:00-4:25.

笠原順三,フジテレビ ユアタイム 地震,2017年8月2日 23:30-0:25.

笠原順三,フジテレビ直撃 Live グッデイ 鹿児島島の地震,2017年7月11日 13:45~15:50.

笠原順三,フジテレビ直撃 Live グッデイ 地震,2017年5月23日 13:5~15:50.

笠原順三,Busan TV 韓国の地震,2016年11月26日 22:00.

笠原順三,Busan TV 韓国の地震,2016年 11月25日 22:00-.

笠原順三,フジテレビ ユアタイム あなたの時間 地震,2016年11月22日 23:30-0:25.

笠原順三,フジテレビ みんなのニュース 福島県沖地震,2016年11月22日 16:50~19:00.

笠原順三,フジテレビ直撃 Live グッデイ 地震,2016年11月22日 13:45~15:50.

笠原順三,フジテレビ ノンストップ 福島県沖の地震,2016年11月22日 9:50-11:25.

笠原順三,フジテレビ 情報プレゼンターとくダネ 福島県沖地震,2016年11月22日 8:00-9:50.

笠原順三,The Financial News(韓国) 韓国の地震に関する記事 ,2016年11月7日.

笠原順三,フジテレビ めざましテレビ 地震,2016年10月24日 5:25-8:00.

笠原順三,フジテレビ FNN みんなのニュース 地震,2016年10月22日 17:30-18:00.

笠原順三,フジテレビ めざましどようび 鳥取の地震,2016年10月22日 6:00-8:30.

笠原順三,フジテレビ みんなのニュース 鳥取の地震,2016年10月21日 16:50-19:00.

笠原順三,フジテレビ Mr. サンデー 「東京に地震が来たときの避難所におきること」,2016年10月16日 22:00-23:15.

笠原順三,TV 朝鮮 韓国の地震,2016年9月28日 23:00-00:40.

笠原順三,TV 朝鮮「Why」「慶州の地震と今後,2016年9月26日 21:10-21:40.

笠原順三,フジテレビ めざましテレビ 韓国の地震,2016年 9月14日 5:25~8:00.

笠原順三,フジテレビ みんなのニュース 函館の地震,2016年6月16日 15:50-19:00.
 笠原順三,フジテレビ みんなのニュース 熊本地震,2016年4月28日 15:50-19:00.
 笠原順三,フジテレビ みんなのニュース 熊本地震,2016年4月28日 15:50-19:00.
 笠原順三,フジテレビ みんなのニュース 熊本地震,2016年4月21日 15:50-19:00.
 笠原順三,フジテレビ みんなのニュース 熊本地震,2016年4月20日 15:50-19:00.
 笠原順三,フジテレビ 情報プレゼンター とくダネ 熊本地震,2016年4月19日
 8:00-9:50.
 笠原順三,フジテレビ めざましテレビ 熊本地震,2016年4月19日 5:25-8:00.
 笠原順三,フジテレビ ユアタイム ~あなたの時間 熊本地震,2016年4月18日
 23:45-0:40.
 笠原順三,フジテレビ みんなのニュース,2016年4月18日 15:50-19:00.
 笠原順三,フジテレビ 直撃Live グッデイ 熊本地震,2016年4月18日 13:45-15:50.
 笠原順三,フジテレビ めざましテレビ 熊本地震,2016年4月18日 5:25~8:00.
 笠原順三,フジテレビ みんなのニュース 熊本地震,2016年4月17日 17:30-18:00.
 笠原順三,フジテレビ 緊急みんなのニュース 熊本大地震,2016年4月17日
 10:00-11:15.
 笠原順三,フジテレビ めざましどようび 熊本地震,2016年4月16日 6:00-8:30.
 笠原順三,フジテレビ 新週刊フジテレビ批評 熊本地震,2016年4月16日 5:00-6:00.
 笠原順三,フジテレビ DJモノフェスタ 熊本地震,2016年4月16日 4:30-4:50.
 笠原順三,フジテレビ FNNスピーク 熊本地震,2016年4月15日 11:30-11:55.
 笠原順三,フジテレビ ノンストップ!,2016年4月15日 9:50-11:25.
 笠原順三,フジテレビ とくダネ 熊本地震,2016年4月15日 8:00-9:50.
 笠原順三,フジテレビ めざましテレビ 熊本地震,2016年4月15日 5:25-8:00.
 笠原順三,フジテレビ 報道特別番組 熊本地震,2016年4月15日 1:35-4:10.
 笠原順三,フジテレビ ユアタイム ~あなたの時間~ 熊本地震,2016年4月14日
 23:45-0:40.
 笠原順三,フジテレビ めざましテレビ,2016年2月8日 5:25~8:00.
 風間聡, インスタでデータ収集, 地方創生を支えるインフラ技術, 河北新報, 2017.3.2.
 木村浩之, 静岡新聞, 産学官連携4事例報告, 2016年11月17日.
 木村浩之, 静岡新聞, 川根温泉ガス発電計画, 2017年1月17日.
 木村浩之, 静岡新聞, 化学と生物学テーマに報告, 2017年3月7日.
 木村浩之, 中日新聞, 災害時 発電設備備えを, 2017年3月26日.
 木村浩之, 朝日新聞, 島田の川根温泉 全国初の試掘権取得, 2017年4月12日.
 木村浩之, 静岡新聞, 牧之原市 今秋メタンガス調査, 2017年8月3日.
 木村浩之, 日本経済新聞, コージェネ大賞で優秀賞, 2018年2月16日.
 木村浩之, 静岡新聞, 川根温泉メタンガス発電システム コージェネ大賞優秀賞, 2018年2

月 18 日.

木村圭司, 朝日新聞近畿版夕刊, 『勝手に関西遺産』中のコメント、2017 年 1 月 25 日

北村晃寿,平成 29 年 12 月 10 日 NHK 南海トラフ級の津波の痕跡なし.

北村晃寿,平成 29 年 11 月 4 日 テレビ静岡「河津町沿岸 津波の痕跡確認されず」.

北村晃寿,平成 29 年 11 月 2 日 静岡第一テレビ 18 時 45 分～ 河津町の複合施設予定地
1000 年間津波堆積物なし.

北村晃寿,平成 28 年 8 月 2 日 SBS テレビ 18 時 10 分～ 焼津で海底地滑りの痕跡調査.

北村晃寿,平成 28 年 8 月 2 日 静岡第一テレビ 18 時 10 分～ 焼津で海底地滑りの痕跡調
査.

北村晃寿,平成 28 年 8 月 2 日 NHK 18 時 15 分 焼津で海底地滑りの痕跡調査.

北村晃寿,平成 28 年 6 月 11 日 NHK 18 時 45 分ニュース大規模災害の研究成果発表.

北村晃寿,平成 28 年 5 月 17 日 SBS 静岡 「イブアイしずおか」地中の調査でわかった県
内の津波平成 28 年 5 月 2 日 県内 4000 年レベル 2 の津波形跡なし 静岡朝日 TV.

北村晃寿,平成 28 年 5 月 2 日 焼津沿岸浸食跡 18:45～ 海底地滑りか 静岡県のニュー
ス NHK.

北村晃寿,平成 29 年 12 月 15 日 科学新聞 4p 「1771 年 八重山地震時と同規模 過去 2000
年間に津波 4 回 砂質の堆積物調査で判明」.

北村晃寿,平成 29 年 12 月 6 日 日刊工業新聞 朝刊 25p 「600 年間隔で巨大津波発生」沖縄・
先島諸島 静岡大学などが確認.

北村晃寿,平成 29 年 12 月 5 日 朝日新聞朝刊 37p 八重山津波と同規模 2000 年間に 4 回.

北村晃寿,平成 29 年 11 月 3 日中日新聞朝刊 32p 「レベル 2 の津波痕跡なし 過去 1000 年
河津で静大教授調査」.

北村晃寿,平成 29 年 11 月 3 日 静岡新聞朝刊 29p 「南海トラフ級津波跡なし河津 2 地点で
調査」.

北村晃寿,平成 29 年 6 月 15 日 静岡新聞 朝刊 p31 貴重なジオサイト糸魚川―静岡構造線新
地表断層.

北村晃寿,平成 29 年 4 月 1 日 静岡新聞 朝刊 p24 地震津波の研究 最新成果を報告 静
岡でシンポ.

北村晃寿,平成 29 年 3 月 9 日 朝日新聞 朝刊 p3 てんでんこ 南海トラフ 18 痕跡 .

北村晃寿,平成 29 年 3 月 9 日 毎日新聞 朝刊 p27 焼津の海岸 新たな海底地滑り跡 静
大堆積物調査 明応東海地震か.

北村晃寿,平成 29 年 3 月 5 日 静岡新聞 朝刊 p30 自然災害の研究成果発表 静岡で中部
地区集会.

北村晃寿,平成 28 年 11 月 18 日 静岡新聞 夕刊 p1 「大震法」パネルで解説 静大防災総
合センターが通年企画.

北村晃寿,平成 28 年 8 月 3 日 静岡新聞 朝刊 p24 津波堆積物の調査開始 焼津青峰公園

海底地滑り痕跡探る。

北村晃寿,平成 28 年 8 月 3 日 毎日新聞 朝刊 p27 津波堆積物を調査 焼津・小川港 海底地滑り痕跡探る。

北村晃寿,平成 28 年 6 月 12 日 静岡新聞 朝刊 p30 リスク評価し対策に順位を 巨大地震で研究報告。

北村晃寿,平成 28 年 6 月 12 日 中日新聞 朝刊 p10 小山静大教授ら災害対策を発表 駿河区でシンポ。

北村晃寿,平成 28 年 5 月 12 日 朝日新聞 朝刊 P29 焼津沿岸部の津波 海底地滑りと推定 静大教授,過去の被害調査。

北村晃寿,平成 28 年 5 月 10 日 中日新聞 朝刊 P30 静大教授ら県沿岸部調査 最大クラスの津波過去 4000 年間なく。

北村晃寿,平成 28 年 5 月 3 日 静岡新聞 朝刊 P17 L1 堆積物 4 層確認 L2 は痕跡出ず 焼津・浜当目地区。

北村晃寿,平成 28 年 5 月 3 日 毎日新聞 朝刊 P25 県内沿岸部 レベル 2 津波痕跡なし 過去 4000 年間 静大が調査堆積物。

北村晃寿,平成 28 年 5 月 3 日 読売新聞 朝刊 P23 レベル 2 津波痕跡なし 過去 4000 年 北村・静大教授が研究報告。

北村晃寿,平成 28 年 4 月 29 日 静岡新聞 朝刊 P26 「南海トラフ級津波なし」県内沿岸部 過去 4000 年間 静大・北村教授が調査。

北村晃寿,平成 28 年 4 月 24 日朝日新聞 朝刊 P29 過去の津波被害規模明らかに。

小山真人,伊豆新聞 ジオガイド養成講座 38 人全員に修了証書 伊豆推協,2016 年 1 月 13 日。

小山真人,伊豆新聞 「地質資産で地域振興」 静大・小山教授「ジオパーク」解説- 伊東・対島中,2016 年 1 月 22 日。

小山真人,静岡新聞 富士登山の注意点学ぶ 都内でガイダンス 旅行会社など参加,2016 年 2 月 5 日。

小山真人,毎日新聞静岡版 講演:富士山の日(23日)記念 火山が作った世界遺産 富士宮で静岡大・小山教授,2016 年 2 月 21 日。

小山真人,中日新聞静岡版 火山が作った世界遺産 静大教授 富士山、構成資産語る 富士宮,2016 年 2 月 21 日。

小山真人,静岡新聞 富士山の自然、文化討論 ジオパーク提案も 富士宮,2016 年 2 月 21 日。

小山真人,伊豆新聞 富士箱根伊豆国立公園 80 周年祝う 式典で美伊豆の活動報告,2016 年 3 月 7 日。

小山真人,毎日新聞静岡版 静岡の備え ハザードマップ更新を 小山・静岡大教授に聞く 避難計画修正も必要,2016 年 3 月 9 日。

小山真人,静岡新聞 時評：火山防災協議会の役割 国と地域つなぐ場所★,2016年3月10日.

小山真人,朝日新聞静岡版 富士山噴火 県が登山者避難マップ 夏までに周知、課題,2016年3月25日.

小山真人,西日本新聞 判断基準は「社会通念」川内差し止め認めず 火山対策「不合理」でも破局的噴火「無視できる」,2016年4月7日.

小山真人,週刊文春 5月5日・12日特大号「危ない原発」チェックリスト〈全国48基〉活断層、火山、津波…,2016年4月27日.

小山真人,中央公論 【保存版】熊本地震 糸魚川-静岡構造線、中央構造線（四国・紀伊半島）、三浦半島……地震発生確率の高い活断層はこの34だ！,2016年5月10日.

小山真人,静岡新聞 時評：登山者を守る避難マップ 読み方の周知早急に,2016年6月2日.

小山真人,伊豆新聞 日本ジオネット、伊豆でガイドフォーラム ワークショップや研修,2016年6月5日.

小山真人,産経新聞 【view写】静岡県沼津市の神池 海に囲まれた神秘の淡水,2016年6月5日.

小山真人,静岡新聞 リスク評価し対策に順位を 巨大地震で研究報告,2016年6月12日.

小山真人,中日新聞 小山静大教授ら 災害対策を発表 駿河区でシンポ,2016年6月12日.

小山真人,静岡新聞 申請書作成へ有識者議論 伊豆半島ジオパーク推進協,2016年7月5日.

小山真人,伊豆新聞 「地質の国際価値」協議 伊豆ジオ学術部会が初会合一伊豆,2016年7月5日.

小山真人,静岡新聞 危険物安全協会が50周年 取扱徹底へ決意新た 伊東,2016年7月23日.

小山真人,伊豆新聞 大きな事故なく50年 伊東危安協、記念式典で決意新た,2016年7月23日.

小山真人,静岡新聞 伊豆の未来へ課題議論 創造センター開設1周年記念,2016年8月1日.

小山真人,伊豆新聞 美伊豆「今何を」、新展開へ意見交換 1周年フォーラム,2016年8月1日.

小山真人,静岡新聞 時評：富士山でブラタモリ 案内人が感じた魅力,2016年8月11日.

小山真人,静岡新聞 富士山噴火の歴史など解説 富士宮でシンポ,2016年8月12日.

小山真人,静岡新聞 再挑戦世界ジオ（上）伊豆半島の取り組み 海底火山、活断層全面に再申請作業大詰め 伊豆生んだ要素強調へ,2016年10月7日.

小山真人,静岡新聞西部版 浜松修学舎高校で高大連携講座,2016年10月22日.

小山真人,伊豆新聞 熱海市津波避難計画策定へ 「最悪の状況」へソフト対策 「世界貢献も大事」 ジオ国際会議、斉藤市長が報告,2016年10月26日.

小山真人,中日新聞 世界ジオ認定へ申請書 伊豆半島推進協が提出 2度目の挑戦,2016年11月2日.

小山真人,静岡新聞 時評:熊本地震の教訓 留意すべき続発地震,2016年11月3日.

小山真人,静岡新聞 富士山噴火で図上訓練 静岡県と関係市町など,2016年12月8日.

小山真人,中日新聞 避難や交通規制 図上訓練 富士山噴火備え県職員ら,2016年12月9日.

小山真人,伊豆新聞 3月に初避難訓練 岡地区対象噴火警報想定 伊豆東部火山群,2016年12月22日.

小山真人,伊豆新聞 初のジオ上級検定 3級合格者対象に伊豆半島推進協,2016年12月27日.

小山真人,静岡新聞 時評:御嶽山噴火災害 気象庁の対応 検証を,2017年2月1日.

小山真人,伊豆新聞 「連携しジオパーク発信」 伊豆推進協が研究発表会-伊豆,2017年3月12日.

小山真人,伊豆新聞 東部火山群噴火想定、初の避難訓練-22日に伊東,2017年3月17日.

小山真人,伊豆新聞 「噴火可能性」で避難訓練 東部火山群防災協が初-伊東,2017年3月23日.

小山真人,伊豆新聞 伊豆ジオ検定 梅田さん(伊東)1級合格,2017年4月7日.

小山真人,静岡新聞 時評:伊豆東部火山群防災対策 課題あるも整備進む,2017年4月26日.

小山真人,伊豆新聞 説明手順や設備確認 ジオ世界認定調査、賀茂地区で現地リハ ,2017年7月8日.

小山真人,静岡新聞 時評:1987年富士山頂地震の謎 考慮すべき想定外事例,2017年7月12日.

小山真人,静岡新聞 ユネスコ派遣員、世界認定の審査開始 伊豆半島ジオパーク,2017年7月25日.

小山真人,静岡新聞 伊豆ジオ現地審査「手応え」推進協議会、説明5カ所,2017年7月26日.

小山真人,中日新聞 伊豆半島の特徴アピール ジオパーク現地審査始まる,2017年7月26日.

小山真人,朝日新聞静岡版 世界ジオパーク認定、伊豆半島の現地審査始まる,2017年7月26日.

小山真人,毎日新聞静岡版 伊豆半島ジオパーク 世界ジオパーク目指しユネスコ審査員が検証,2017年7月26日.

小山真人,読売新聞静岡版 伊豆半島 ジオ審査始まる,2017年7月26日.

小山真人,伊豆新聞 世界認定へ現地審査開始 3日間で17カ所-伊豆半島ジオ,2017年7月26日.

小山真人,静岡新聞 審査員「良い感想持った」伊豆ジオ、現地 17 カ所調査終了,2017 年 7 月 28 日.

小山真人,毎日新聞静岡版 伊豆半島ジオパーク「非常に良い感想」世界ジオパーク、現地 審査終了,2017 年 7 月 28 日.

小山真人,伊豆新聞 伊豆ジオ 審査員「素晴らしい感想」最終日は伊東、函南,2017 年 7 月 28 日.

小山真人,静岡新聞 沈黙の駿河湾 東海地震説 40 年 番外編インタビュー (5) 小山真人・静岡大教授 情報の”通訳者”が必須,2017 年 8 月 9 日.

小山真人,伊豆ジオパーク「世界級」再挑戦 2 年前は見送り、ユネスコ評議会が来月審査 進行形の活動強調、イルカ漁は「無関係」,2017 年 8 月 27 日.

小山真人,伊豆新聞 21 人ガイド目指す 伊豆市で養成講座開講,2017 年 9 月 13 日.

小山真人,静岡新聞 ジオガイドの知識学ぶ 養成講座が開講 座学や野外学習,2017 年 9 月 13 日.

小山真人,静岡新聞 富士山火口予測難しく 「噴火警戒レベル 1.5」避難課題,2017 年 9 月 26 日.

小山真人,静岡新聞 時評：地殻ひずみ計データの公開 解説システム整備を,2017 年 9 月 28 日.

小山真人,静岡新聞 プログラミングで思考力を養成 西伊豆・賀茂小 5、6 年生,2017 年 10 月 4 日.

小山真人,伊豆新聞 ロボット使い防災考察 賀茂小、教材実証講座始まる-西伊豆,2017 年 10 月 4 日.

小山真人,伊豆新聞 災害想定しロボット制御 賀茂小、成果発表-西伊豆,2017 年 11 月 1 日.

小山真人,共同通信配信記事 (中国新聞) サイエンス 火山学者 小山真人さん (上)「日本沈没」博士に憧れ,2017 年 11 月 12 日.

小山真人,共同通信配信記事 (中国新聞) サイエンス 火山学者 小山真人さん (中) 噴火調査で防災に関心,2017 年 11 月 19 日.

小山真人,共同通信配信記事 (中国新聞) サイエンス 火山学者 小山真人さん (下) 伊豆のジオパーク実現,2017 年 11 月 26 日.

小山真人,伊豆新聞 伊豆ジオ検定 沼崎さん 1 級合格-伊東自然歴史案内人会員,2017 年 12 月 18 日.

小山真人,静岡新聞 時評：伊豆大島全島避難から 31 年 未だ読めぬ次の噴火,2017 年 12 月 22 日.

小山真人,NHK BS プレミアム 英雄たちの選択「富士山大噴火 現場指揮官・復興への葛藤」,2016 年 3 月 3 日.

小山真人,NHK 総合 ローカルニュース ジオパークミュージアム内覧会,2016 年 3 月 5 日.

小山真人,静岡あさひテレビ とびっきり!しずおか 富士山噴火したら・・・県が6つの避難ルート設定,2016年3月16日.

小山真人,南日本放送 火山学者に聞く 火山観測・防災の現状と課題,2016年5月16日.

小山真人,"テレビ静岡 みんなのニュースしずおか なるほど!防災情報 登山者の命を守るために 富士山噴火に備える""避難マップ"",2016年5月24日.

小山真人,静岡第一テレビ ニュースエブリィ静岡 【watch】富士登山中に噴火に遭遇したら…対策は?,2016年7月12日.

小山真人,NHK総合 たっぷり静岡 富士山宝永火口付近で大落石,2016年9月7日.

小山真人,NHK総合 全国ニュース 富士山で遊歩道に達するほどの大きな落石,2016年9月7日.

小山真人,"テレビ静岡 みんなのニュースしずおか 世界ジオパーク国際会議 世界認定へ 伊豆半島の""回答""は?",2016年9月29日.

小山真人,NHK総合 たっぷり静岡 富士山噴火で各機関が連携確認,2016年12月8日.

小山真人,BS 日テレ 解明!片岡愛之助の歴史捜査 富士山大噴火 被災地を救った英雄を追え!,2017年2月16日.

小山真人,NHK総合 たっぷり静岡 火山活動で避難指示想定初の初訓練,2017年3月22日.

小山真人,テレビ静岡 みんなのニュースしずおか なるほど!防災情報 市街地で噴火も…備えは?,2017年4月18日.

小山真人,NHK総合 たっぷり静岡 防災特集 富士山の外国人登山者 課題は,2017年7月24日.

小山真人,SBS テレビ イブアイしずおか 世界へ再挑戦 伊豆ジオパーク 現地審査始まる,2017年7月25日.

小山真人,静岡朝日テレビ とびっきり!しずおか 世界ジオパーク認定へ ”再挑戦”伊豆半島現地審査始まる,2017年7月25日.

小山真人,テレビ静岡 みんなのニュースしずおか 世界認定再挑戦 伊豆半島ジオパーク,2017年7月25日.

小山真人,静岡朝日テレビ とびっきり!しずおか 伊豆半島ジオパーク ユネスコ現地審査最終日,2017年7月27日.

小山真人,テレビ静岡 みんなのニュースしずおか 手応えは?3日間の審査終了 世界へ!伊豆半島ジオパーク,2017年7月27日.

小山真人,静岡朝日テレビ とびっきり!しずおか 世界ジオパークへ 伊豆半島の再挑戦,2017年7月31日.

小山真人,NHK総合 歴史秘話ヒストリア 江戸 百万人が見た!富士山大噴火,2017年9月8日.

小山真人,NHK総合 たっぷり静岡 伊豆市でジオパーク公開講座,2017年9月12日.

小山真人,SBS テレビ イブアイしずおか 伊豆半島ジオパーク 最終審査へ 機運盛り上

げようと公開講座,2017年9月12日.

小山真人,SBS テレビ イブアイしずおか 火山災害に備える!富士山噴火の爪跡発見,2017年10月25日.

三井 雄太, 静岡新聞, 富士山噴火 大地震との関係 物理学的に解析, 2016/11/3.

三井 雄太, 静岡新聞, 三井助教に奨励賞 日本地震学会で記念講演, 2016/10/6.

楠城一嘉, 南海トラフ対応 県民と模索 3 大学企画「情報共有橋渡しに」来月静岡でワークショップ, 静岡新聞, 2018年1月18日.

楠城一嘉, Team Buddy しずおか防災人研究者と住民つなぐ役割を, 静岡新聞, 2018年1月26日.

楠城一嘉, 鉄崎幹人の WASABI, 『防災プロジェクト Team Buddy』 (SBS ラジオ), 2018年1月16日.

楠城一嘉, 防災情報 事前に生かす鍵は 静岡でワークショップ 南海トラフ対応議論, 静岡新聞, 2018年2月3日.

楠城一嘉, 命守る行動助ける情報を, 静岡新聞, 2018年2月3日.

楠城一嘉, 地震予測の現状認識を 南海トラフ対応 静岡でワークショップ, 毎日新聞, 2018年2月3日.

楠城一嘉, “防災情報を生かす” ワークショップ「南海トラフ」で異常が観測されたら, イブアイしずおか NEWS, SBS テレビ, 2018年2月2日.

楠城一嘉, 県内 3 大学連携ワークショップ 防災情報どう生かす, 静岡新聞, 2018年2月17日.

楠城一嘉, 静岡朝日テレビ, とびっきり静岡, パネルゼミ 2018年1月30日.

楠城一嘉, 静岡朝日テレビ, とびっきり静岡, パネルゼミ, 2018年3月6日.

楠城一嘉, 静岡朝日テレビ, とびっきり静岡, パネルゼミ, 2018年4月24日.

楠城一嘉, イブアイ静岡, SBS テレビ, 南海トラフ地震の研究について, 2018年3月21日.

楠城一嘉, 南海トラフ監視に新手法 県立大と静岡大発表 地震活動を統計処理 プレート境界の力推定, 静岡新聞, 2018年3月17日.

楠城一嘉, 中日新聞, 中央構造線まで地震誘発なら「南海トラフ要注意」, 2016年4月23日.

楠城一嘉, 熊本地震から半年、地震予知研究で講演, みんなのニュース, テレビ静岡, 2016年10月15日.

楠城一嘉, 静岡新聞, 来月、県立大でワークショップ地震予測の最新知見紹介, 沈黙の駿河湾東海地震 40年, 2017年1月20日.

楠城一嘉, 神奈川新聞, 予知はどこへ読めぬ巨大地震(3)人命守る「予測」とは, カナロコ, 2017年1月25日.

楠城一嘉, 静岡朝日テレビ, とびっきりしずおか, 「南海トラフ巨大地震予測するために」, 2017年2月1日.

楠城一嘉, 神奈川新聞, 予知はどこへ読めぬ巨大地震 行動指針欠かせず, 神奈川新聞カナ
ロコ, 平成 29 年 2 月 2 日.

楠城一嘉, 中日新聞, 南海トラフ地震予知 県立大で意見交換 不確実情報も役立つ, 平成
29 年 2 月 2 日.

楠城一嘉, SBS テレビ, 南海トラフ巨大地震「予測」するには, イブアイしずおか防災最前
線, 平成 29 年 2 月 1 日.

楠城一嘉, 静岡新聞, 不確実な予測どう生かす 県立大で討論「社会のルール必要」, 平成
29 年 2 月 2 日.

楠城一嘉, 静岡新聞, 燃料電池技術の普及予測 県立大スーパーセミナー, 平成 29 年 3 月 12
日.

楠城一嘉, 静岡第一テレビ, news every.しずおか, 南海トラフ巨大地震予測するために何
を?, 平成 29 年 2 月 1 日

佐藤 健, 新聞・河北新報, いのちと地域を守る むすび塾第 65 回ワークショップ@仙台・
岩切 「大人の姿で子ども成長」, 2017.4.11

佐藤 健, テレビ・仙台放送, みんなのニュース「マンションの防災コミュニティ形成を」,
2017.6.12

佐藤 健, 新聞・河北新報, マンション防災「声掛けが大事」仙台で討論会, 2017.6.13

佐藤 健, 新聞・河北新報, 宮城県沖地震 39 年「防災教育進め混乱回避を」, 2017.6.13

佐藤 健, 新聞・河北新報, 「これからのマンションコミュニティを考える」, 2017.7.22

佐藤 健, 新聞・福島民友, 放射線・防災教育フォーラム「小中生が放射線教育の成果発表 モ
デル 7 校、正しい知識発信へ」, 2017.11.16

佐藤 健, 新聞・保険毎日新聞, ぼうさいこくたい：防災教育テーマにシンポジウム専門家
ら招きパネルディスカッション, 2017.12.22

佐藤 健, 新聞・河北新報, 地域防災在り方学ぶ SBL 自主研修会, 2018.1.30

佐藤 健, 新聞・河北新報, 建築専門家を派遣 震災のノウハウ生かす, 2016.4.16

佐藤 健, ラジオ・NHK ラジオジャパン, 「ニュース解説「Insight」「熊本地震 防災への
教訓は？」」, 2016.4.18

佐藤 健, 新聞・サンデー毎日, 「総力特集 熊本大地震と日本の未来」, 2016.5.8-15

佐藤 健, テレビ・仙台放送, 「防災の拠点『庁舎』耐震化は」, 2016.5.12

佐藤 健, テレビ・宮城テレビ放送, 「ニュース every「石巻市学校防災推進会議第一回会議
開催」」, 2016.5.17

佐藤 健, 新聞・読売新聞, 「地域防災連絡会 8 割設置へ 石巻 8 月、学校防災フォーラム」,
2016.5.18

佐藤 健, 新聞・河北新報, 「教員らが出席学校防災議論 石巻市教委推進会議」, 2016.5.18

佐藤 健, 新聞・石巻かほく, 「石巻市教委、第 1 回市学校防災推進会議 8 月にフォーラム
開催」, 2016.6.7

佐藤 健, 新聞・秋田さきがけ, 「運動で防災学ぼう 旭南地区の自主防災組織 10月開催
に向け研修会」, 2016.7.7

佐藤 健, 新聞・陸奥新報, 「大規模災害へ備え始動 県防災対策強化検討委 広域連携な
ど提言へ」, 2016.8.10

佐藤 健, 新聞・河北新報, 「いのちと地域を守る 防災リーダー不在続く つながり希薄
情報共有に課題」, 2016.9.5

佐藤 健, 新聞・河北新報, 「防災教育の課題 教員らフォーラムで意見交換」, 2016.11.25

佐藤 健, 新聞・読売新聞, 「学校の防災教育考える・・・仙台でフォーラム 650人」,
2016.11.25

佐藤 健, 新聞・石巻かほく, 「学校防災充実へ意見交換 3ワーキンググループが報告 石
巻」, 2016.11.25

佐藤 健, テレビ・東日本放送, 「震災の教訓を生かす 東北大が自治体向け防災研究」,
2016.12.19

佐藤 健, テレビ・ミヤギテレビ, 「3.11から学ぶ 自治体・企業・東北大が研修会」,
2016.12.19

佐藤 健, 新聞・河北新報, 「早く大きく構え準備を 仙台で「3.11からの学び塾」 自治
体など防災担当者 施設の震災対応確認」, 2016.12.21

佐藤 健, 新聞・建設新聞, 「演習などで危機管理力強化 防災関連担当者研修会 東北大、
東北整備局」, 2016.12.21

佐藤 健, 新聞・建設産業新聞, 「防災対応力のスキルアップへ 東北大・東北整備局が共
催 東日本大震災の教訓を学び直す塾開校」, 2016.12.22

佐藤 健, 新聞・大崎タイムス, 「防災・安全教育」充実へ 岩出山 子どもたちを守るシン
ポ」, 2017.1.24

菅原大助, 「知りたい! パネルSHOW」, 静岡朝日テレビ, 2017年8月.

菅原大助, 「日本海津波痕跡か」, NHK「やまがた6時」, 2017年3月22日.

武村雅之, ケーブルTV「KATCH」, その日に備える～南海トラフ大地震に対して今できる
こと, 2016年3月2日

武村雅之, 朝日放送, 二度目の激震 ～語られなかった経験則, 2016年9月4日

武村雅之, KATCH ネットワーク, 「三河地震」過去の体験を未来へつなぐ, 2016年8月
30日

武村雅之, 北海道新聞, 記録と教訓「後世に」, 2016年5月16日

武村雅之, 西日本新聞, 現在の地震知る鍵に, 2016年5月18日

武村雅之, 神奈川新聞, 減災新聞246号, 2016年5月28日

武村雅之, 新潟日報, 新聞附録の絵図発見, 2016年6月15日

武村雅之, 西日本新聞, 明治熊本地震に学ぶ, 2016年7月15日

武村雅之, 神奈川新聞, 語り継ぐ関東大震災、刻まれた思い, 2016年9月1日

武村雅之, 水道産業新聞, 名古屋が誇る防災施設を視察, 2016年9月1日
武村雅之, 中部経済新聞, 研究ベースに社会へ生かす, 2016年9月1日
武村雅之, 中部経済新聞, 名古屋大学減災連携研究センター, 2016年9月1日
武村雅之, 神奈川新聞, 語り継ぐ関東大震災、被害の記憶各地に, 2016年9月2日
武村雅之, 中日新聞, 慰霊碑に共助の心, 2016年9月5日
武村雅之, 日本経済新聞, 防災・減災の主役は地域住民, 2016年9月16日
武村雅之, 建通新聞, 基調講演, 2016年10月7日
武村雅之, 神奈川新聞, 関東大震災で専門家解析, 2016年10月10日
武村雅之, AERA, 揺れより火災が怖い, 2016年9月5日
武村雅之, 週間ポスト, 「震度6危機」の街, 2016年7月1日
武村雅之, テレビ朝日, 関東大雄震災を振り返える, 2017年9月2日
武村雅之, 神奈川新聞, 石碑語る心の復興（「復興百年誌」紹介）, 2017年9月1日
武村雅之, 朝日新聞朝刊, 「復興百年誌」, 2017年10月22日
武村雅之, 聖教新聞, 震災復興の記憶（「復興百年誌」紹介）, 2017年11月16日
武村雅之, 読売新聞朝刊, 「復興百年誌」, 2017年11月26日
武村雅之, 京都新聞, 社会支えるシステムと防災, 2018年1月12日
武村雅之, 毎日新聞朝刊, 「復興百年誌 石碑が語る関東大震災」, 2018年1月21日
牛山素行, 沈黙の駿河湾～東海地震説40年＝大地震 県民意識調査－警戒宣言「全く知らない」43% 若い世代 認知不足, 静岡新聞, 2016年4月7日
牛山素行, 時評＝自力避難困難者の支援－助ける側の安全 第一, 静岡新聞, 2016年4月13日
牛山素行, 建物倒壊被害 県内でも起こりうる 静岡大防災総合センター・牛山教授, 産経新聞, 2016年4月16日
牛山素行, 伊豆市に予報士派遣へ 大雨災害 対応支援－気象庁モデル事業, 静岡新聞, 2016年4月20日
牛山素行, 倒壊、隣家は無事なのに 古い家・弱い地盤重なる 熊本地震, 朝日新聞, 2016年5月1日
牛山素行, 専門家「耐震化は急務」 名工大 熊本地震1カ月シンポ, 中日新聞, 2016年5月15日
牛山素行, 教習生の津波犠牲訴訟 和解 自動車学校側 解決金と陳謝－仙台高裁, 静岡新聞, 2016年5月25日
牛山素行, 段階即した行動明確化 太田川・原野谷川の洪水対策－検討会, 静岡新聞, 2016年5月26日
牛山素行, 東日本大震災：宮城・教習所訴訟和解 丁寧な説明が必要 静岡大防災総合センターの牛山素行教授（災害情報学）の話, 毎日新聞, 2016年5月26日
牛山素行, （災害大国 被害に学ぶ）特別警報、差し迫る危機, 朝日新聞, 2016年5月30日

日

牛山素行,気象庁 6市に予報士派遣します 的確な避難指示に期待, 毎日新聞, 2016年5月30日

牛山素行,出水期の備え議論—静岡防災情報連絡会, 静岡新聞, 2016年6月15日

牛山素行,災害危険度認知 津波9割も… 洪水3割 出水期見据え「備えを」 静岡市沿岸部の住民—市危機管理総室 杉村主査が調査, 静岡新聞, 2016年6月17日

牛山素行,情報殺到…分析追い付かず 福山大雨 市の対応 初動迅速も規模確認遅れる, 中国新聞, 2016年6月25日

牛山素行,時評=改めて考える地震対策—耐震が一丁目一番地, 静岡新聞, 2016年6月25日

日

牛山素行,社説(2016年6月28日・火曜日)=水害対策—迅速な避難行動確実に, 静岡新聞, 2016年6月28日

牛山素行,知ってなるほど地震・防災:「津波警戒」指定4県 「地価下落を懸念」, 毎日新聞, 2016年7月17日

牛山素行,早期避難 各地で取り組み 広島土砂災害 あす2年 マニュアル作成率92%, 読売新聞, 2016年8月19日

牛山素行,記者手帳 精神力の強さに感服, 茨城新聞, 2016年8月20日

牛山素行,ふじのくに通信:歴史と地域を知る /静岡, 毎日新聞, 2016年8月22日

牛山素行,[スキャナー]トリプル台風 異例ずくめ 関東11年ぶり上陸, 読売新聞, 2016年8月24日

牛山素行,迫る台風 募る不安 きょう本県最接近 果樹農家、収穫急ぐ 漁業者は高潮に備え, 岩手日報, 2016年8月30日

牛山素行,北上高地の東側で大雨 風ぶつかり雨雲発達 台風10号 専門家指摘 流域の状況も把握を, 岩手日報, 2016年9月1日

牛山素行,危機感強める県内施設 早めの行動徹底を 高齢者避難 課題浮き彫り—台風10号被害, 静岡新聞, 2016年9月2日

牛山素行,「勾配で破壊力大きく」 静岡大の牛山教授 台風10号被害 岩泉・安家地区を調査, 岩手日報, 2016年9月3日

牛山素行,「周囲浸水後に避難」24.7% 台風10号被災者アンケート 想定外の豪雨で遅れ, 岩手日報, 2016年9月6日

牛山素行,時評=大雨時の避難行動—河川水位情報 活用を, 静岡新聞, 2016年9月8日

牛山素行,熊本地震:倒壊家屋、新耐震基準で犠牲1軒 静岡大調査, 毎日新聞, 2016年9月10日

牛山素行,(検証 台風直撃:上)空知川の氾濫、想定外 避難情報の伝達に課題 /北海道, 朝日新聞, 2016年9月13日

牛山素行,熊本地震 新耐震で倒壊死少数 一定の減災効果—静岡大牛山教授(内田圭美/

社会部), 静岡新聞, 2016年9月16日

牛山素行,不明者の氏名公表、割れる自治体判断 災害時の対応, 朝日新聞, 2016年9月27日

牛山素行,避難中、被害遭った人も 台風10号の死者・行方不明者、静岡大分析, 朝日新聞, 2016年9月28日

牛山素行,大川小に過失 賠償命令／不信募り提訴決断／遺族, 長崎新聞, 2016年10月27日

牛山素行,読み解く＝学校防災 教師の責任重視 大川小訴訟判決 「何があっても安全を」遺族、想定外への備え訴え 東日本大震災, 西日本新聞, 2016年10月27日

牛山素行,◎表層深層 「想定外」どう備える 大川小津波訴訟 遺族「何があっても安全を」, 京都新聞, 2016年10月27日

牛山素行,核心 大川小遺族訴え 想定外でも守る責任 「備えどこまで」悩む学校, 中日新聞, 2016年10月27日

牛山素行,社会全体に重い責任 避難 地域で準備を 県内学校 問われる判断力ー大川小津波訴訟判決, 静岡新聞, 2016年10月27日

牛山素行,大川小津波訴訟／識者談話, 東奥日報, 2016年10月27日

牛山素行,東日本大震災・大川小訴訟判決 「子どもが生きた証しに」 原告団長今野さん 親の役目果たす, 秋田魁新報, 2016年10月27日

牛山素行,宮城・大川小津波訴訟賠償命令 識者「管理者に厳しい判決」 本県行政関係者 「まず避難」, 岩手日報, 2016年10月27日

牛山素行,大川小84人、あの笑顔戻らないけど「子供の声届いた」, 産経新聞, 2016年10月27日

牛山素行,東日本大震災：大川小訴訟判決 識者の話, 毎日新聞, 2016年10月27日

牛山素行,福島沖地震 津波 恐怖再び＝北海道, 読売新聞, 2016年11月23日

牛山素行,東日本で津波 避難渋滞よぎる記憶 迂回路未整備課題なお 早朝の移動無事確かめ涙, 新潟日報, 2016年11月23日

牛山素行,表層深層＝生きた教訓 対応迅速 患者避難誘導、生徒安否確認 東日本大震災被災地 意識希薄化 実態もーM7.4地震, 静岡新聞, 2016年11月23日

牛山素行,福島など震度5弱 牛山教授に聞く 避難の点検が必要, 信濃毎日新聞, 2016年11月23日

牛山素行,津波 避難阻んだ渋滞, 産経新聞, 2016年11月23日

牛山素行,時評＝台風10号の岩手・北海道災害ー山地河川洪水の教訓, 静岡新聞, 2016年11月24日

牛山素行,高齢者 避難始めて 「避難準備情報」 分かりやすく名称変更へ, 読売新聞, 2016年12月13日

牛山素行,南海トラフ地震：避難所3割、津波浸水域に, 毎日新聞, 2016年12月20日

牛山素行,新成人71%「震災風化」 県内100人アンケート 内陸77.9%、沿岸は47.8% 意識の差浮き彫り, 岩手日報, 2017年1月10日

牛山素行,防災力向上へ人材育成 科学的基礎学ぶ—静大と県が講座、16日から受け付け, 静岡新聞, 2017年1月14日

牛山素行,牛山教授(静岡大)講演 自然災害振り返る 16年度情報協議会, 岩手日報, 2017年1月14日

牛山素行,御嶽山噴火遺族提訴 識者2氏に聞く 「情報公開が重要」「裁判で検証意義」, 信濃毎日新聞, 2017年1月26日

牛山素行,警戒レベル判断 検証を 遺族「気象庁見解問う」—御嶽噴火 提訴, 静岡新聞, 2017年1月26日

牛山素行,防災気象情報で議論—静岡の連絡会, 静岡新聞, 2017年2月2日

牛山素行,生活資金、体調 被災者に不安 台風10号 発生半年本紙アンケート, 岩手日報, 2017年2月28日

牛山素行,時評=避難準備・指示の名称変更—情報の意味考えたい, 静岡新聞, 2017年3月2日

牛山素行,★忘れない 東日本大震災6年 遺族アンケート★(下) 伝える 胸に刻んで 励まし 手から手へ, 岩手日報, 2017年3月11日

牛山素行,5分で逃げれば助かる 改めて学ぶ東日本大震災の教訓、生存率高める津波避難のために, AERA, 2017年3月13日

牛山素行,市町対象、県が説明会 避難勧告ガイドライン改定, 静岡新聞, 2017年3月16日

牛山素行,男鹿・ミサイル想定訓練 シナリオ通り粛々と, 秋田魁新報, 2017年3月18日

牛山素行,防災フェロー講座 11人修了—静岡で授与式, 静岡新聞, 2017年3月19日

牛山素行,防災実務者育成を 静大などがシンポ—静岡・葵区, 静岡新聞, 2017年3月21日

牛山素行,【科学】熊本地震から1年 死者の4人に1人は避難後の帰宅で犠牲, 産経新聞, 2017年4月17日

牛山素行,■識者談話■ 釜石・鶴住居防災センター訴訟, 岩手日報, 2017年4月22日

牛山素行,野蒜小訴訟 津波犠牲 二審も賠償命令 仙台高裁 女兒帰宅、学校に過失 東日本大震災, 西日本新聞, 2017年4月28日

牛山素行,学校の責任 どこまで 巨大災害時の子ども保護 宮城・野蒜小訴訟 学校の過失認定 教育現場 手立て模索, 愛媛新聞, 2017年5月1日

牛山素行,学校の責任 どこまで/災害時の子どもの安全/悲劇防ぐ取り組み続く, 沖縄タイムス, 2017年5月3日

牛山素行,沈黙の駿河湾～東海地震説40年=予測「不確実でも必要」 活用策は多様な見解 「大震法シンポ」 パネリスト5人登壇, 静岡新聞, 2017年5月14日

牛山素行,沈黙の駿河湾～東海地震説40年＝静岡で大震法シンポ 南海トラフ地域と合意
重視 防災見直しへ内閣府, 静岡新聞, 2017年5月14日

牛山素行,時評＝ハザードマップをどう見るかー特性や限界基に活用, 静岡新聞, 2017年5
月18日

牛山素行,沈黙の駿河湾～東海地震説40年＝南海トラフ地震 予測と防災ー大震法シンポ
ジウム詳報, 静岡新聞, 2017年5月20日

牛山素行,学校の保護義務 災害時どこまで 悲劇防ぐ取り組み進むー子どもの安全, 静岡
新聞, 2017年5月28日

牛山素行,県防災・危機管理トップセミナー 災害時の万全な対応などを確認, 山形新聞,
2017年6月2日

牛山素行,大雨からいのちを守る(下) 水の強さは想像以上, 日本農業新聞, 2017年6月22
日

牛山素行,地形や地質 理解重要 陸前高田・防災組織研修 牛山教授(静岡大)が講演,
岩手日報, 2017年6月30日

牛山素行,県内も山地洪水警戒必要 昼間の無理な行動 危険ー牛山素行・静岡大防災総合
センター教授, 静岡新聞, 2017年7月7日

牛山素行,九州豪雨 予想降水量で中小河川の氾濫警告 「洪水危険度」活用に課題, 産経
新聞, 2017年7月7日

牛山素行,九州豪雨 「想定外」被害拡大 特別警報 ピーク後 気象庁「判断難しかった」,
読売新聞, 2017年7月7日

牛山素行,考える 問う 論じる／ニュース深掘り／陸前高田市役所の移転再建 大船渡支
局 坂井直人／安全性の議論 生かして／東日本大震災の津波で全壊した陸前高田市役
所の再建先がようやく決まった。整備地は震災津波浸水, 河北新報, 2017年7月10日

牛山素行,現況知り支援を 九州豪雨・福岡入りした専門家 牛山氏／現地地形、岩泉と共
通 山本氏／ボラセンを2カ所に, 岩手日報, 2017年7月11日

牛山素行,九州豪雨:命名に苦慮 建物被害、基準満たさず 気象庁, 毎日新聞, 2017年7
月15日

牛山素行,学校や高齢者施設 3分の1超 浸水・土砂警戒域 朝倉・日田, 読売新聞, 2017
年7月19日

牛山素行,(災害大国)相次ぐ豪雨、命守るには, 朝日新聞, 2017年7月24日

牛山素行,不明者名公表 基準なく 災害時、自治体判断割れる 専門家「明文化が必要」,
西日本新聞, 2017年8月1日

牛山素行,安全決壊:検証・九州北部豪雨／中 山間部集落、1600人孤立 通信手段な
く捜索難航, 毎日新聞, 2017年8月2日

牛山素行,九州北部豪雨あす1カ月 避難時利用の施設、学校 警戒区域に4割弱, 佐賀新
聞, 2017年8月4日

牛山素行,福岡・大分豪雨／4割弱 警戒域に立地／被災地の福祉施設や学校, 長崎新聞,
2017年8月4日

牛山素行,共に前へ 九州北部豪雨1ヵ月／噴き出す泥水、山中さまよひ10時間／懸命の
避難 命守る／朝倉市黒松・真竹／住民独自に危険察知／「親のように面倒みてくれた」,
宮崎日日新聞, 2017年8月5日

牛山素行,浸水想定区域外で多くの死者・不明者／静岡大が調査報告, 長崎新聞, 2017年8
月5日

牛山素行,福祉施設や学校 避難どう導く 九州豪雨きょう1ヵ月 国が計画策定求める
朝倉・日田 4割が浸水・土砂の恐れ, 中国新聞, 2017年8月5日

牛山素行,避難所立地 点検を 現地調査の教訓提示ー静岡大2教授, 静岡新聞, 2017年8
月5日

牛山素行,九州北部豪雨1ヵ月 犠牲者の多くは浸水想定区域外 静岡大報告, 日本経済新
聞, 2017年8月5日

牛山素行,静岡大2教授が報告会 想定区域外で犠牲者多数, 中日新聞, 2017年8月5日

牛山素行,県内・記録的大雨 県の初動対応検証 連絡体制の見直し必要 トップ不在時、
判断課題, 秋田魁新報, 2017年8月5日

牛山素行,九州豪雨1ヵ月 土砂崩れ300カ所超、流木17万トン 540人なお避難生
活, 産経新聞, 2017年8月5日

牛山素行,くらしナビ・ライフスタイル: 浸水可能性 確認し備える, 毎日新聞, 2017年8
月5日

牛山素行,時評=災害時の行方不明者ー「匿名化」行き過ぎでは, 静岡新聞, 2017年8月
10日

牛山素行,要配慮者利用施設 土砂災害 避難計画1割 本紙調査 法改正で義務化, 読売
新聞, 2017年8月19日

牛山素行,台風10号水害から1年 谷底平野に警戒を, 産経新聞, 2017年8月30日

牛山素行,豪雨災害 心構え新たに 台風10号1年 久慈で牛山教授(静岡大)講演, 岩
手日報, 2017年8月31日

牛山素行,老人ホームや学校 水害避難計画 まだ8% 浸水恐れ施設, 読売新聞, 2017
年9月1日

牛山素行,Jアラートどう伝達 北朝鮮弾道ミサイル発射 古いガラケー／携帯ない人／操
業中漁船 専門家 発信手段の充実訴え, 岩手日報, 2017年9月2日

牛山素行,逃げ遅れ防げ 国本腰 鬼怒川決壊2年 市民 水位に応じて避難計画 市町村
中小河川でも浸水想定, 東京新聞, 2017年9月10日

牛山素行,九州北部豪雨 中小河川にも水位計 有識者検討会で提言へ, 産経新聞, 2017年
10月24日

牛山素行,時評=完全でないハザードマップー知見基に有効活用を, 静岡新聞, 2017年10

月 25 日

牛山素行,経験基に「避難」考える 台風10号 岩泉町の研究報告会 牛山教授(静岡大)ら講演,岩手日報,2017年11月30日

牛山素行,取材メモらんだむ/浸水想定の落とし穴,河北新報,2017年12月2日

牛山素行,町民半数、避難情報を聞かず 岩泉町、昨夏の台風被害時 静岡大教授ら調査 / 岩手県,朝日新聞,2017年12月8日

牛山素行,苛烈な現場 命守るには,神奈川新聞,2017年12月14日

牛山素行,九州豪雨被災者を静岡大教授調査 洪水犠牲 ほぼ想定区域外,西日本新聞,2018年1月7日

牛山素行,九州北部豪雨:浸水想定区域外14人犠牲 山あい水流強く,毎日新聞,2018年1月11日

牛山素行,防災フェロー講座 受講募る-静岡大、29日まで,静岡新聞,2018年1月20日

牛山素行,時評=「初めてだ」と言う前に-長い視野での考察を,静岡新聞,2018年1月20日

牛山素行,防災計画分かりやすく 陸前高田市 2年ぶり改定 災害別対応記す,岩手日報,2018年1月24日

牛山素行,(Media Times)「県が氏名発表」認識にズレ 草津白根山噴火、死亡の自衛隊員,朝日新聞,2018年2月3日

牛山素行,(異議あり)風水害は減った、「脅しの防災」は危うい 災害の被害や情報を研究する牛山素行さん,朝日新聞,2018年3月3日

牛山素行,熊本地震から静岡を考える,静岡朝日テレビ とびっきり!しずおか,2016年4月18日.

牛山素行,被災地や熊本について思うことは?,K-Mix(静岡エフエム放送) おひるま協同組合,2016年5月11日

牛山素行,気象庁が廿日市市へ気象予報士を派遣,RCC 中国放送ニュース,2016年6月1日

牛山素行,鹿児島県内での大雨による人的被害についてのコメント,NHK テレビ「情報 WAVE かごしま」,2016年6月20日

牛山素行,自治体支える気象の専門家,NHK テレビ「たっぷり静岡」,2016年6月20日

牛山素行,台風9号上陸時の避難や対応について,TBS ラジオ 荻上チキ・Session-22,2016年8月22日

牛山素行,「台風10号豪雨被害拡大。被害はなぜ大きくなったのか」,TBS ラジオ「荻上チキ・Session-22」,2016年8月31日

牛山素行,台風10号災害,NHK テレビ「あさイチ」,2016年9月1日

牛山素行,風水害の防災特集,NHK テレビ(広島)「ひるまえ直送便」,2016年9月1日

牛山素行,台風 10 号災害関係, TBS NEWS23, 2016 年 9 月 1 日
牛山素行,台風 10 号災害関係, NHK ラジオニュース 19 時代, 2016 年 9 月 1 日
牛山素行,「東北襲う“新たな危機”～命・暮らしを守るために～」, NHK テレビ クロー
ズアップ東北, 2016 年 9 月 2 日
牛山素行,「豪雨と闘う～鬼怒川決壊から 1 年～」, NHK テレビ 特報首都圏, 2016 年 9
月 2 日
牛山素行,台風 10 号災害岩手県岩泉町安家現地調査, TBS テレビ「NEWS23」, 2016 年 9
月 2 日
牛山素行,高齢者グループホームの水害対策, NHK テレビ「たっぷり静岡」, 2016 年 9 月 6
日
牛山素行,台風 10 号災害関係, 東日本放送「スーパー J チャンネルみやぎ」, 2016 年 9 月 8
日
牛山素行,静岡県内の避難行動要支援者施設での豪雨災害時の対応関係, 静岡あさひテレビ
とびっきり!しずおか, 2016 年 9 月 9 日
牛山素行,「検証 連続台風の脅威～北海道が水没する日～」, 北海道文化放送, 2016 年 9
月 11 日
牛山素行,大雨災害の教訓を生かす 水害への備えと課題, SBS 静岡放送「イブアイしずお
か」, 2016 年 9 月 14 日
牛山素行,「耐震化」でぬぐえぬ不安も, SBS 静岡放送「イブアイしずおか」, 2016 年 9 月
28 日
牛山素行,「河川氾濫」にどう立ち向かうか～台風 10 号から 1 か月～, NHK テレビ ク
ローズアップ東北, 2016 年 9 月 30 日.
牛山素行,津波避難タワーからの落下事故についてのコメント, SBS 静岡放送「イブアイし
ずおか」, 2016 年 10 月 3 日.
牛山素行,豪雨災害から身を守るには, NHK テレビ「ヤマナシ Q U E S T」, 2016 年 10 月
7 日.
牛山素行,陥没事故でも注目 自治体トップのソーシャル発信, NHK テレビ ニュース,
2016 年 11 月 9 日
牛山素行,気象予報士派遣 その効果は, NHK テレビ「たっぷり静岡」, 2016 年 11 月 16
日
牛山素行,東北・関東で津波, NHK テレビ「ニュースウォッチ 9」, 2016 年 11 月 22 日
牛山素行,M7.4 の地震 4 年ぶりの津波警報も, NHK テレビ「週刊ニュース深読み」, 2016
年 11 月 26 日
牛山素行,「災害時の避難情報を考える」, NHK テレビ「視点・論点」, 2017 年 1 月 12 日
牛山素行,防災実務者の育成・支援が急務, IBC 岩手放送, 2017 年 1 月 13 日
牛山素行,気象予報士 地域防災の要に, NHK テレビ 北海道のニュース, 2017 年 3 月 28

日
牛山素行,気象予報士 地域防災の要に, NHK テレビ「おはよう日本」(全国), 2017年4月1日
牛山素行,熊本地震 知られざる“情報爆発”～追跡・SNS2600万件～, NHK テレビ「クローズアップ現代+」, 2017年4月13日
牛山素行,熊本地震から1年②, 静岡朝日テレビ「とびっきりしずおか」, 2017年4月14日
牛山素行,熊本地震1年②住民の結束で耐震化, NHK テレビ「たっぷり静岡」, 2017年4月14日
牛山素行,「熊本地震の発生から1年。被災地の今、そしてこの1年で見えてきたこととは?」, TBS ラジオ「荻上チキ・Session-22」, 2017年4月14日
牛山素行,先週の静岡県内での豪雨災害についてなど, テレビ静岡「みんなのニュース しずおか」, 2017年4月25日
牛山素行,どうなる?この夏の空模様, NHK テレビ「さらさらサラダ」(名古屋局), 2017年6月27日
牛山素行,自主防りリーダーが水害時の行動学ぶ／岩手・陸前高田市, IBC 岩手放送「ニュースエコー」, 2017年6月29日
牛山素行,西日本での大雨・大雨特別警報関係, TBS ラジオ「荻上チキ・Session-22」, 2017年7月5日
牛山素行,フジテレビ「直撃 LIVE グッディ」, 2017年7月6日
牛山素行,「九州北部豪雨災害。被害の現状と対策、今後必要な支援とは?」, TBS ラジオ「荻上チキ・Session-22」, 2017年7月6日
牛山素行,「記録的豪雨」があなたの町に そのときどうする?, NHK テレビ「週刊ニュース深読み」, 2017年7月7日
牛山素行,記録的豪雨 くらしは…., NHK テレビ「あさイチ」, 2017年7月10日
牛山素行,防災特集 九州北部の豪雨関係, NHK テレビ「たっぷり静岡」, 2017年7月10日
牛山素行,九州北部豪雨 甚大な被害の背景は, SBS 静岡放送「イブアイしずおか」, 2017年7月10日
牛山素行,生解説専門家がみる豪雨対策, テレビ静岡「みんなのニュース しずおか」, 2017年7月11日
牛山素行,氾濫した川の水量が6時間半で100倍以上に, 日本テレビ系列「ZAPI」, 2017年7月12日
牛山素行,看板穴だらけ 大粒ひょうの爪痕, フジテレビ みんなのニュース, 2017年7月19日
牛山素行,「グイッとやって1杯を反省」秋田県知事の豪雨対応, フジテレビ みんなのニ

ユース, 2017年7月24日

牛山素行,「予知を前提とした対策を見直しへ!これからの地震対策」,TBS ラジオ「荻上チキ・Session-22」,2017年8月29日

牛山素行,ナビゲーションスペシャル「身近に危機が!“異常豪雨”」,NHK テレビ(東海北陸),2017年9月1日

牛山素行,被害の一因「谷底平野」全国に,フジテレビ みんなのニュース,2017年9月5日

牛山素行,九州北部豪雨から2ヶ月 集中豪雨から命を守るには,静岡朝日テレビ「とびっきりしずおか」,2017年9月5日

牛山素行,静岡2017 記録的台風の1年,静岡朝日テレビ「とびっきりしずおか」,2017年12月22日

牛山素行,大雪災害についてのコメント,TBS ラジオ「荻上チキ・Session-22」,2018年1月22日

山崎登,NHK総合テレビ解説番組「時論公論」,東日本大震災から5年 どう進める災害時の市町村連携,2016年3月11日.

山崎登,NHK総合テレビ解説番組「時論公論」,復興を後押しする,2016年3月12日.

山崎登,NHK総合テレビ解説番組「時論公論」,直下型地震の衝撃～熊本で震度7～,2016年4月15日.

山崎登,NHK総合テレビ解説番組「時論公論」,熊本・大分で続く地震～被災者への支援を急げ～,2016年4月18日.

山崎登,NHK総合テレビ解説番組「時論公論」,熊本地震 避難生活の改善に向けて,2016年5月2日.

山崎登,NHK総合テレビ解説番組「時論公論」,新型堤防が目指す津波防災,2016年6月8日.

山崎登,NHK総合テレビ解説番組「時論公論」,台風10号と防災,2016年8月30日.

山崎登,NHK総合テレビ解説番組「時論公論」,事前防災として進める住宅の耐震化,2016年9月7日.

山崎登,NHK総合テレビ解説番組「時論公論」,福島県沖の地震で津波警報,2016年11月22日.

山崎登,NHK総合テレビ解説番組「時論公論」,糸魚川市 大規模火災の教訓,2016年12月26日.

山崎登,NHK総合テレビ解説番組「時論公論」,東日本大震災6年 何が復興を阻んでいるのか,2017年3月10日.

山崎登,NHK総合テレビ解説番組「時論公論」,タイムラインの大雨対策,2017年7月4日.

山崎登,NHK総合テレビ解説番組「時論公論」,7月の豪雨から学ぶ～九州北部豪雨1ヵ月,2017年8月4日.

山崎登,NHK教育テレビシンポジウム,命を守る防災情報,2018年3月10日.
山崎登,NHK教育テレビシンポジウム,地震津波火山災害に強い社会を目指して～全国を
網羅する陸海統合観測網の誕生～,2018年3月17日.
矢守克也: NHK ラジオ関西ホットライン, 津波からの避難訓練, 2018/3～(週1回繰り返し放送)
矢守克也: 産経新聞, 津波防災VRで命を守る アプリで避難訓練, 2018/3/11
矢守克也: 毎日放送ラジオ, ネットワーク1・17スペシャル～3・11から始まった, 2018/3/11
矢守克也: 産経新聞, 自助浸透も、耐震化置き去り, 2018/3/11
矢守克也: フジテレビ, Mr サンデー, その避難で助かるか, 2018/3/11
矢守克也: 熊本日日新聞, くまにち論壇「特異な顔知り次に備えを」, 2018/3/4
矢守克也: NHKスペシャル, 河川津波”～震災7年 知られざる脅威～, 2018/3/4
矢守克也: NHK ニュースはっと関西, 「特集: どう備える河川津波」, 2018/3/2
矢守克也: RKC 高知放送, eye+スーパーニュース, 学ぼうさい, 2018/2/28
矢守克也: FMサルース, サロン・ド・防災, 「南海トラフ地震」について, 2018/2/25
矢守克也: 京都新聞, 災害時避難促す言葉は, 2018/02/21
矢守克也: NHK ラジオワイド, 防災を伝える新しいカタチ, 2018/02/20
矢守克也: FMサルース, サロン・ド・防災, 「東日本大震災」について, 2018/2/18
矢守克也: NHKFM おうみアイ, 「防災を伝える新しいカタチ」, 2018/02/16
矢守克也: 高知新聞, 興津小が防災学習報告 京大研と津波への意識向上, 2018/2/13
矢守克也: 防災ラジオ滋賀, おうみ防災カフェ, 2018/2/12
矢守克也: FMサルース, サロン・ド・防災, 「阪神・淡路大震災」について, 2018/2/11
矢守克也: NHK ラジオ関西ホットライン, 南海トラフ地震、時間差発生に要注意, 2018/2
～(週1回繰り返し放送)
矢守克也: NHK ラジオ関西ホットライン, 南海トラフ地震、備えのポイントは?, 2018/2
～(週1回繰り返し放送)
矢守克也: NHK ラジオ関西ホットライン, 南海トラフ、巨大地震とは, 2018/2～(週1回繰
り返し放送)
矢守克也: NHK 関西ラジオワイド, ぼうさいコラム:スモールワールドと防災, 2018/2/8
矢守克也: 毎日新聞, 地域自ら防災計画を 困難な避難方法判断, 2017/2/8
矢守克也: 熊本日日新聞, くまにち論壇「『まだ』と『もう』の不思議な綾」, 2018/2/4
矢守克也: 高知新聞, 南海地震の記憶 冊子に: 四万十町・興津中生と京大防災研, 2018/2/4
矢守克也: FMサルース, サロン・ド・防災, 「熊本地震」について, 2018/2/4
矢守克也: 高知新聞, 畜光材で夜間避難迅速に, 2018/2/2
矢守克也: 産経新聞, 過去の教訓今こそ学べ, 2018/1/17
矢守克也: 京都新聞および共同通信配信(他に、高知新聞、西日本新聞、東京新聞、熊本
日日新聞などに掲載), 語り部活動、生きる力に: 阪神淡路大震災23年, 2018/1/16

矢守克也：熊本日日新聞，ゲーム通し“備災”学ぶ，2018/1/15
矢守克也：MBS ラジオ，特別番組「AMラジオ災害問題協議会～いのちのラジオ」，2018/1/14
矢守克也：朝日新聞，地域防災語り合う 伊賀や名張の 180 人，2018/1/10
矢守克也：熊本日日新聞，くまにち論壇「先例に学ぶ被災地の将来」，2018/1/7
矢守克也：毎日新聞，安全再考：地域自ら防災計画を，2017/12/28
矢守克也：産経新聞，常ニ備エヨ、どう生き延びるかを主眼に，2017/12/19
矢守克也：MBS ラジオ，ネットワーク 1.17，ひとりでできるスマホで避難訓練，2017/12/17
矢守克也：熊本日日新聞，くまにち論壇「流行語で考える災害への備え」，2017/12/03
矢守克也：NHK 関西ラジオワイド，ぼうさいコラム，南海トラフ地震に関する新情報，
2017/11/30
矢守克也：毎日新聞，シンポジウム「地区の特性に応じた計画を：北部豪雨、防災テーマ 識
者ら参加 福大／福岡」，2017/11/24
矢守克也：熊本日日新聞，くまにち論壇「訓練可能にする小さな目標」，2017/11/5
矢守克也：朝日新聞，旅行や出張中「ここでもし」、日頃から思考実験を，2017/10/30
矢守克也：高知新聞，地震犠牲ゼロへ共助を，2017/10/29
矢守克也：熊本日日新聞，くまにち論壇「『世間』むすぶ意外なつながり」，2017/10/1
矢守克也：NHK 関西ラジオワイド，ぼうさいコラム：メキシコ地震，2017/9/28
矢守克也：毎日新聞，南海トラフ新対応、思考実験が必要，2017/9/27
矢守克也：読売新聞，南海トラフ、防災対応見直し「予測困難」前兆地震で避難，2017/9/17
矢守克也：熊本日日新聞，くまにち論壇「想定外と向きあうとは」，2017/9/3
矢守克也：NHK ラジオ，防災の日ラジオ特集「大阪発お笑いサバイバル～南海トラフ巨大
地震」，2017/9/1
矢守克也：朝日新聞，大津波に備える：警鐘 海越えて，2017/8/29
矢守克也：熊本日日新聞，くまにち論壇「普段を知りまさかに備え」，2017/8/6
矢守克也：ラジオ関西「時間です！林編集長」，レギュラーコメンテーター，2017/7/18
矢守克也：MBS ラジオ，ラジオ 65 人のなかま，2017/7/16
矢守克也：NHK ジャーナル，災害情報を生かす～福岡・大分豪雨，2017/7/14
矢守克也：読売新聞，メキシコ生徒と津波避難訓練 黒潮・佐賀中，2017/7/13
矢守克也：NHK ニュース高知，メキシコの中学校の合同避難訓練，2017/7/12
矢守克也：高知新聞，佐賀中がメキシコの中学と訓練 遠地津波高知県黒潮町，2017/7/12
矢守克也：共同通信（神戸新聞、河北新報、西日本新聞など 18 紙），太平洋越え、津波の
合同避難訓練：高知とメキシコの中学校，2017/7/11
矢守克也：高知新聞，防災教育考えよう，2017/7/10
矢守克也：読売新聞，太平洋またぎ合同避難訓練，2017/7/9
矢守克也：日本経済新聞，「春秋」：巨大災害のリスク・コミュニケーション，2017/7/7
矢守克也：熊本日日新聞，くまにち論壇「災害に『も』強いまちづくり」，2017/7/2

矢守克也：高知新聞，カードで救助要請 興津小と京大防災研が津波避難訓練 高知県四万十町，2017/6/30

矢守克也：NHK 関西ラジオワイド，ぼうさいコラム：風水害に関する新しい防災情報，2017/6/29

矢守克也：福井放送ラジオ，福井放送ラジオ防災特別番組『そのとき、命を守るために』，2017/6/24

矢守克也：京都新聞，連載コラム：現代のことば「Xがない、YがXです」，2017/6/20

矢守克也：NHK 広島ラジオ，（防災ラジオキャンペーン「土砂災害から命を守る」）地域レベルで情報共有，2017年6月～8月随時

矢守克也：NHK 広島ラジオ，（防災ラジオキャンペーン「土砂災害から命を守る」）去年変更された避難情報，2017年6月～8月随時

矢守克也：熊本日日新聞，くまにち論壇『『ない』を『ある』に変える発想』，2017/6/4

矢守克也：NHK ラジオ，NHK 和歌山ラジオ防災講座（第3回）「災害時の呼びかけ」，2017/6/2

矢守克也：NHK 関西ラジオワイド，ぼうさいコラム：避難タワーも住民も日本一，2017/5/12

矢守克也：熊本日日新聞，くまにち論壇「被災地と未災地の“クロスロード”」，2017/5/7

矢守克也：産経新聞，「備蓄物資」こんな形で，2017/4/18

矢守克也：朝日新聞，22メートル避難タワー，2017/4/14

矢守克也：読売新聞，黒潮に最大級津波避難タワー，2017/4/14

矢守克也：京都新聞，連載コラム現代のことば「お花見となまはげ」，2017/4/10

矢守克也：毎日新聞，防災、小さな一歩から 地域にあった計画を，2017/4/9

矢守克也：朝日新聞，熊本地震の教訓生かそう 福大でシンポ，2017/4/9

矢守克也：熊本日日新聞，くまにち論壇「被災地が引き継ぐ精神と実践」，2017/4/2

矢守克也：NHK 関西ラジオワイド，ぼうさいコラム：お花見となまはげ，2017/3/30

矢守克也：静岡第一テレビ，本当にできる？ 地震予知～静岡発 X デーに備えて～，2017/3/11

矢守克也：NHK ラジオ，疑問スッキリ ラジオ減災カフェ～津波から命を守る～，2017/3/11

矢守克也：読売新聞，オシャレ 防災グッズ身近に，2017年3月10日

矢守克也：読売新聞，高齢者、玄関まで避難：要介助の住民 津波から守れ，2017/3/8

矢守克也：京都新聞，読書：元気なまち、防災の一歩 『天地海人』の矢守克也さん，2017/3/5

矢守克也：読売新聞，地域守る 主役は高校生，2017/3/4

矢守克也：朝日新聞，「てんでんこ」朝日新聞コラム 226：防災訓練の参加率は高い、だが、どれだけ現実味があるか，2017/3/2

矢守克也：朝日新聞，「てんでんこ」朝日新聞コラム 225：水産都市、焼津。津波の避難先に新しい選択が加わった，2017/3/1

矢守克也：RKC 高知放送，eye+スーパー，興津小学校の防災学習，2017/2/23

矢守克也：朝日新聞，「てんでんこ」朝日新聞コラム 221：逃げるどうかは生活の延長上にある、一人一人の事情を受けとめて，2017/2/23

矢守克也：朝日新聞，「てんでんこ」朝日新聞コラム 220：どうせ私は逃げないよ、避難行動聞き取り調査で断られ続けた，2017/2/22

矢守克也：京都新聞，連載コラム：現代のことば「『あの日』に生まれて」，2017/2/20

矢守克也：高知新聞，津波、逃げる意識育もう，2017/2/16

矢守克也：ラジオ関西「時間です！林編集長」，レギュラーコメンテーター，2017/2/9

矢守克也：高知新聞，防災意識、児童同居は高く，2017/1/30

矢守克也：NHK 関西ラジオワイド，ぼうさいコラム：22 回目の 1.17，2017/1/26

矢守克也：高知新聞，高知県四万十町の興津小児童らが蓄光誘導マーカーを設置，2017/1/21

矢守克也：読売新聞，命守る準備 行動に移せ，2017/1/20

矢守克也：産経新聞，地震で負傷する原因、1 位は家具の転倒 「固定」子どもら巡回説法，2017/1/17

矢守克也：産経新聞，阪神・淡路大震災 22 年『その日』へ備えてきているか，2017/1/17

矢守克也：朝日新聞，阪神・淡路大震災 22 年 未来の被害防ぐため：京大防災研教授矢守克也さん，2017/1/14

矢守克也：ラジオ関西「時間です！林編集長」，レギュラーコメンテーター，2017/1/11

矢守克也：読売新聞，地震備え手順確認，2016/12/19

矢守克也：京都新聞，連載コラム：現代のことば「今年の防災・減災」，2016/12/19

矢守克也：高知放送ラジオ，昭和の南海地震から 70 年、私たちはいかに備えるか，2016/12/18

矢守克也：読売新聞，『命守る』小さな一歩を，2016/12/16

矢守克也：読売新聞，津波教訓 海外若者と発信，2016/11/26

矢守克也：ラジオ関西「時間です！林編集長」，レギュラーコメンテーター，2016/11/24

矢守克也：NHK 関西ラジオワイド，ぼうさいコラム「世界津波の日」，2016/11/10

矢守克也：朝日新聞，『熊本地震』検索映す被災地の需要，2016/10/25

矢守克也：NHK ニュース「こうちいちばん」，熊本を教訓に巨大地震の学習会，2016/10/10

矢守克也：静岡新聞，『ご近所』災害弱者の力に，2016/10/23

Yamori,K.：“Touch and GO” NHK WORLD-NEWS 2016/10/17

矢守克也：朝日新聞 DIGITAL，熊本で割合低い「復興」検索 分布図が示す全国との違い，2016/10/17

矢守克也：朝日新聞 DIGITAL，『熊本地震』の検索数、9 月 1 日に急増 何があった？，2016/10/15

矢守克也：朝日新聞 DIGITAL，熊本地震の風化、検索数で分析 被災地と全国で違い歴然，2016/10/14

矢守克也：朝日新聞，社説：余滴，「避難学」を広げたい，2016/10/14

矢守克也：NHK ニュース「こうちいちばん」，夜の避難に備え防災マップ作り，2016/10/7
矢守克也：京都新聞，連載コラム：現代のことば「タイムライン防災」，2016/10/6
矢守克也：朝日新聞，津波避難に科学の技，2016/10/2
矢守克也：NHK 関西ラジオワイド，ぼうさいコラム：台風と防災，2016/9/29
矢守克也：NHK ニュースおはよう日本，津波避難アプリでインフラ整備，2016/9/27
矢守克也：毎日新聞，高齢者施設 どう防災，2016/9/25
矢守克也：静岡新聞，避難の課題議論 日本自然災害学会 静岡，2016/9/23
矢守克也：産経新聞，防災減災：常二備へヨ：防災研究者の経験に学ぶ，2016/9/20
矢守克也：ラジオ関西「時間です！林編集長」レギュラーコメンテーター，2016/9/15
矢守克也：NHK ニュース高知いちばん，津波避難アプリでインフラ整備，2016/9/14
矢守克也：熊本日日新聞，被災の経験 語り継いで：京都大・矢守教授 熊本大で講演，
2016/9/3
矢守克也：毎日新聞，余禄：土手の花見，2016/9/1
矢守克也：NHK ラジオ，防災の日ラジオ特集，南海トラフ巨大地震 命を守るために，
2016/9/1
矢守克也：NHK テレビ「クローズアップ現代+」，“常識”が通用しない！？～徹底検証・
台風“異変”～，2016/9/1
矢守克也：高知新聞，高知県四万十町で津波避難アプリ「逃げトレ」を用いた初の訓練，
2016/8/30
矢守克也：京都新聞，連載コラム：現代のことば「災害情報：両刃の剣」，2016/7/26
矢守克也：日本経済新聞，災害と地域：避難所の外 支援後手に，2016/7/20
矢守克也：NHK テレビ，おはよう日本，津波からの『車』避難：直面する課題，2016/7/7
矢守克也：NHK ラジオ，防災コラム：関西の地震の危険性，2016/6/30
矢守克也：読売新聞，津波避難路大丈夫？，2016/6/24
矢守克也：京都新聞，連載コラム：現代のことば「続：当事者になってみて」，2016/6/23
矢守克也：日本経済新聞，災害と地域：支援物資、早く円滑に，2016/6/23
矢守克也：熊本日日新聞，熊本地震：連鎖の衝撃：全国からの助言編⑦，危険度共有へ 伝
える工夫を，2016/6/16
矢守克也：NHK ラジオ，疑問スッキリ！ラジオ減災カフェ～災害から身を守る～，2016/6/19
矢守克也：NHK 関西ラジオワイド，防災こらむ「あらためて、備えの大切さ」，2016/5/26
矢守克也：ラジオ関西，時間です！林編集長，「逃げトレ」解説ほか，2016/5/25
矢守克也：神戸新聞，山崎断層地震へ備え 佐用で防災リーダー研修会，2016/5/17
矢守克也：毎日新聞（高知版），巨大地震アプリで津波避難訓練 京大防災研が開発，2016/5/17
矢守克也：日本テレビ News Every，ぼうさいダック，2016/5/9
矢守克也：読売新聞，福祉避難所だけではな限界：熊本の被災地で，2016/5/9
矢守克也：毎日新聞，津波や！逃げトレ，2016/5/9

矢守克也：朝日新聞（福岡）,公営住宅入居 九州が9割, 2016/5/4
矢守克也：ラジオ関西「時間です！林編集長」熊本地震最新報告, 2016/4/28
矢守克也：NHK,クローズアップ現代+, 5万人避難 命をつなげ～“連鎖”大地震 最新報告～, 2016/4/26
矢守克也：NHKスペシャル,“連鎖”大地震 緊迫の10日 いのちを守るために, 2016/4/23
矢守克也：京都新聞, 連載コラム：現代のことば,当事者になってみて, 2016/4/21
矢守克也：NHK ラジオ（マイあさラジオ）,熊本地震について, 2016/4/21
矢守克也：朝日新聞, お互い信頼あってこそ, 2016/4/3
吉田明夫, 静岡新聞, 大隅良典さんノーベル賞：研さんと偶然の大発見, 2016年11月7日.
吉田明夫, 静岡放送 SBS ラジオ「鉄崎幹人の WASABI」のインタビュー, 大震法について,
2017年4月25日及び5月2日.

5.3 公的な委員会等

千木良雅弘,京都市災害時アドバイザー アドバイザー, 2016年4月01日～2017年3月31日.
千木良雅弘,東海大学阿蘇校舎地盤調査委員会 委員,2016年5月24日～2016年8月12日.
千木良雅弘,深地層の研究施設計画検討委員会, 2016年6月01日～2017年3月31日.
藤井基貴, 静岡県教育委員会(道徳教育推進協議会)会長,2009年～.
藤井基貴, 岐阜県加茂郡白川町教育委員会(外部評価委員会)委員,2011年～.
藤井基貴, 文部科学省中央教育審議会(初等中等教育分科会)専門委員, 2011年～.
藤井基貴, 文部科学省（教職課程の目標設定に関するワーキンググループ）委員, 2016年12月～2017年11月.
藤井基貴, 日本卓球協会（スポーツ医・科学委員会）委員, 2017年～.
秦康範, 内閣府「大規模地震時の電気火災の発生抑制に関する検討会」, 委員, 2017年度
秦康範, 内閣官房情報セキュリティセンター「分野横断的演習検討会」, 委員, 2017年度
秦康範, 長野県「長野県広域受援計画基本構想検討委員会」, 委員長, 2017年度
秦康範, 長野県「御嶽山火山マイスター検討会議」, 委員, 2017年度
秦康範, 長野県防災会議委員, 2014年12月～
秦康範, 甲州市教育委員会, 中央市教育委員会, 学校防災アドバイザー, 2017年度
秦康範, 一般財団法人国土技術研究センター「河川研究会」, 委員, 2017年度
原田賢治,国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所, 駿河海岸保全検討委員会, 委員,
2018.3.30-2020.3.31
原田賢治,静岡県, 静岡県津波防災地域づくり推進連絡会, アドバイザー, 2018.3.9-2019.3.31
原田賢治,静岡県, 静岡県社会資本整備重点計画・推進会議, 委員,
原田賢治,環境省, 災害廃棄物対策推進検討会, 地域間協調ワーキンググループ, 委員,
2017.-2019.

原田賢治,伊豆市,伊豆市津波防災地域づくり推進協議会,副会長,2017/5/30-2018/3/31
原田賢治,静岡県危機管理部,静岡県地震防災センター・リニューアル検討委員会,委員,
2016/12/25-2017/3/31
原田賢治,国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所,駿河海岸保全検討委員会,委員,
2016/3/7-2018/3/31
原田賢治,静岡県,静岡県津波防災地域づくり推進連絡会,アドバイザー,2016.3.1-2017.3.31
原田賢治,伊豆市,伊豆市津波防災地域づくり推進協議会,副会長,2016/2/10-2017/3/31
林能成,日本金属プレス工業協会,安全環境委員会,委員,2013-
廣井悠,豊田市公園緑地整備課:中央公園有識者会議,委員(2017年度~現在).
廣井悠,東京都総合防災部:今後の帰宅困難者対策に関する検討会議,座長(2017年度).
廣井悠,総務省消防庁:消防団員の確保方策等に関する検討会,委員(2017年度).
廣井悠,内閣官房国土強靱化室:民間レジリエンス研究会,委員(2017年度).
廣井悠,文部科学省:地震火山外部評価,委員(2017年度).
廣井悠,総務省消防庁:外国人来訪者等が利用する施設における避難誘導のあり方等に関する検討部会,委員(2016年度~2017年度).
廣井悠,豊橋市:豊橋市地域強靱化計画検討会,委員(2016年度~現在).
廣井悠,岡崎市:地震対策アクションプラン,検討アドバイザー(2016年度~2017年度).
廣井悠,総務省消防庁:外国人来訪者や障害者等が利用する施設における災害情報の伝達及び避難誘導に関するガイドライン・情報伝達・避難誘導のメッセージ等検討WG,委員(2017年度).
廣井悠,東京消防庁:地震時の火災避難における地域リスク評価手法に関する検討委員会,委員(2017年).
廣井悠,東京消防庁:飛び火火災評価手法に関する調査研究委員会,委員(2017年).
廣井悠,東京消防庁:人的被害リスク評価に関する調査研究委員会,委員(2018年).
廣井悠,東京消防庁:防火防災訓練手法に関する調査研究委員会,委員(2016年度).
廣井悠,東京消防庁:地域別出火危険度測定委員会,委員(2016年度).
廣井悠,総務省:防災まちづくり大賞選定委員,委員(2014年度~現在).
廣井悠,東京都中央区:中央区帰宅困難者支援施設運営協議会,座長(2012年度~現在).
廣井悠,東京消防庁:火災予防審議会地震対策部会,委員(2013年度~現在).
廣井悠,東京消防庁:火災予防審議会,委員(2013年度~現在).
池田恵子,静岡県避難所運営マニュアル検討委員会委員,2017年6月-2018年3月
池田恵子,静岡市男女共同参画会議会長,2017年5月-2019年5月
池田恵子,内閣府(防災担当)防災とジェンダー懇話会委員,2017年4月-2018年3月
池田恵子,国際協力機構ジェンダー懇談会委員,2016年11月-2018年11月
池田恵子,静岡県情報公開審査会委員,2016年8月-2018年7月
池田恵子,静岡県男女用同参画審議会委員,2016年6月-2018年5月

池田恵子, 静岡市市民局女性会館指定管理者評価委員会委員, 2016年6月 - 2017年3月
池田恵子, 外務省女性・平和・安全保障に関する行動計画評価委員, 2016年5月 - 2018年3月
池田恵子, 湖西市男女共同参画審議会会長, 2016年5月 - 2017年3月
池田恵子, 静岡市男女共同参画審議会委員, 2015年6月 - 2017年5月
池田恵子, 静岡県スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会委員, 2014年4月 - 2017年3月
今泉文寿, 新たな砂防技術に関する研究会, 砂防地すべり技術センター, 2017年10月～
今泉文寿, 人工衛星画像データの土砂災害への活用検討ワーキンググループ委員, JAXA, 2017年8月～
今泉文寿, 大井川流砂系総合土砂管理計画検討委員会委員, 国土交通省, 2017年2月～
今泉文寿, 安倍川総合土砂管理計画フォローアップ作業部会委員, 国土交通省, 2014年10月～
石橋秀巳, 伊豆半島ジオパーク推進協議会学術部会委員, 2016年7月～2017年3月
石川宏之, 伊豆半島ジオパーク推進協議会学術部会委員, 2016年7月 - 2018年6月
石川宏之, 静岡市環境影響評価審査会委員, 2017年8月 - 2019年7月
石川宏之, 静岡市立登呂博物館協議会会長, 2015年8月 - 2019年7月
石川宏之, 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館運営協議会副会長, 2013年2月 - 2020年1月
岩松 暉, 公益社団法人鹿児島県地質調査業協会理事, ～現在.
岩松 暉, 特定非営利活動法人地質情報整備・活用機構顧問, ～現在.
岩松 暉, 霧島ジオパーク推進協議会顧問, ～現在.
岩松 暉, 桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会学術顧問, ～現在.
岩田孝仁, 内閣府 火山防災エキスパート, 2009～.
岩田孝仁, 内閣府「防災スペシャリスト養成研修」企画検討会 委員, 2013～.
岩田孝仁, 内閣府 防災研修コーディネーター, 2016～.
岩田孝仁, 科学技術振興機構 SIP2014 戦略的イノベーション創造プログラム「レジリエントな防災・減災機能の強化」プログラム会議委員, 2014～.
岩田孝仁, ひょうご震災記念 21世紀研究機構 人と防災未来センター事業評価委員, 2014～.
岩田孝仁, 静岡市 津波防災地域づくり協議会 委員長, 2015/04～2017/03.
岩田孝仁, 科学技術振興機構 RISTEX 安全安心領域プロジェクト事後評価会 委員, 2015～2018/03.
岩田孝仁, 東京都 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市セキュリティ検討専門アドバイザー (災害対策), 2016/01～02.
岩田孝仁, 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議評価専門調査会「日本海溝海底地震津波観測網の整備及び緊急津波速報 (仮称) に係るシステム開発」評価検討会 委員, 2016.

岩田孝仁,国土交通省 防災に関する市町村支援方策に関する懇談会 委員,2016.
岩田孝仁,伊豆半島ジオパーク推進協議会学術部会 委員,2016/06～.
岩田孝仁,関西広域連合 我が国の防災・減災体制の在り方に関する懇話会 委員,2016.
岩田孝仁,内閣府 政府業務継続に関する評価等有識者会議 委員,2016/07～.
岩田孝仁,内閣府 中央防災会議「防災対策実行会議」南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループ 委員,2016/09～2017/10.
岩田孝仁,文部科学省 「次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト」総合協議会 委員,2016/09～2017/03.
岩田孝仁,浜松市 浜松市防災情報伝達手段整備事業選定委員会 委員長,2016/09～.
岩田孝仁,静岡県 静岡県地震防災センター・リニューアル検討委員会 副委員長,2016/12～2017/03.
岩田孝仁,気象庁 地域における気象防災業務のあり方検討会 委員,2017/04～2018/03.
岩田孝仁,名古屋大学減災連携研究センター社会連携推進会議委員,2017/04～.
岩田孝仁,内閣官房 民間におけるレジリエンス向上のための環境整備に関する研究会 委員,2017/05～2018/03.
岩田孝仁,静岡県 静岡県防犯まちづくり有識者懇談会委員,2017/06～2017/12.
岩田孝仁,大阪府・大阪市 首都機能バックアップにかかる研究会 座長,2017/06～2018/06.
岩田孝仁,日本身体障害者団体連合会 災害時における障害者の困りごと調査・理解啓発促進事業企画実行委員会 委員,2017/08～2018/03.
岩田孝仁,静岡県ボランティア協会 南海トラフ巨大地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会 委員長,2017/10～.
岩田孝仁,内閣府・国土交通省 南海トラフの地震観測に基づく新たな防災対応中部検討会 委員,2017/11～.
岩田孝仁,静岡県 静岡県防災会議専門委員,2018/03～.
岩田孝仁,静岡県 静岡県防災会議専門部会 委員長,2018/03～.
岩田孝仁,内閣府 中央防災会議「防災対策実行会議」南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応検討ワーキンググループ委員,2018/04～.
狩野謙一,南伊豆町地熱資源開発影響評価委員会委員長 (2016年度)
狩野謙一,静岡県環境審議会委員 (2016-17年度)
狩野謙一,静岡県環境審議会委員・温泉部会副部長 (2016-17年度)
狩野謙一,静岡県環境審議会委員・自然公園部会委員 (2016-17年度)
狩野謙一,静岡県環境審議会委員・地下水部会委員 (2016-17年度)
狩野謙一,伊豆半島ジオパーク推進協議会・学術部会委員 (2016年度～)
笠原順三,エンジニアリング協会主催「光ファイバーを用いた新たな地盤探査技術を線状土木構造物へ展開することに関する戦略策定」共同委員長,2017年4月～2019年3月.
風間聡,最上川水系流域委員会委員長.

風間聡, 仙台市環境影響評価審査会委員長.

風間聡, 気候変動適応情報プラットフォーム構築に関するワーキンググループ主査.

風間聡, 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨被害を踏まえた大江川の再度災害防止に係る学識者懇談会委員長.

風間聡, アセアン工学系高等教育ネットワークプロジェクト・フェーズ 3 国内支援委員会委員.

風間聡, ユネスコ IHP 国内委員会委員.

木村浩之, 静岡県ふじのくにエネルギー地産地消推進事業協議会 委員, 2016 年 6 月～2017 年 3 月.

木村浩之, 静岡市水素エネルギー利活用促進協議会 委員, 2016 年 8 月～2018 年 8 月.

木村浩之, 牧之原市環境審議会 委員, 2018 年 4 月～2020 年 3 月.

木村圭司, 東京大学空間情報科学センター客員教授(拠点), 2018 年 4 月 1 日～現在に至る

近藤昭彦, 日本学術会議 連携会員 平成 29 年 10 月～

近藤昭彦, 日本学術会議 地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 IAHS 小委員会委員

近藤昭彦, 日本学術会議 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IWD 分科会 GLP 小委員会委員

近藤昭彦, 千葉県環境審議会 副会長 平成 29 年 10 月～

近藤昭彦, 千葉県環境審議会 水環境部会 委員・部会長

近藤昭彦, 千葉県環境審議会 温泉部会 委員

近藤昭彦, 千葉県印旛沼水循環健全化会議 委員

近藤昭彦, 千葉県環境影響評価委員会 委員

近藤昭彦, 千葉県地質環境対策審議会 委員 ～平成 30 年 10 月 31 日

近藤昭彦, 国土情報整備に係る中期的方針検討委員会委員 平成 29 年～

近藤昭彦, 平成 29 年度土地履歴調査企画調整委員会 委員

小杉素子, 静岡市防災都市作り計画策定懇話会 委員 2016 年 10 月～

小山真人, 伊東市史編さん委員会編集委員, 2000 年 4 月～.

小山真人, 富士山火山砂防計画検討委員会委員, 2005 年 3 月～.

小山真人, 中部圏開発整備地方協議会委員, 2009 年 10 月～.

小山真人, 伊豆半島ジオパーク推進協議会顧問, 2011 年 4 月～.

小山真人, 火山噴火予知連絡会伊豆部会委員, 2011 年 12 月～.

小山真人, 伊豆東部火山群防災協議会委員, 2012 年 3 月～.

小山真人, 静岡県防災・原子力学術会議 地震・火山対策分科会委員, 2012 年 5 月～.

小山真人, 富士山火山防災対策協議会委員, 2012 年 6 月～.

小山真人, 静岡県史編さん特別調査委員, 2014 年 2 月～.

小山真人, 伊豆半島ジオパーク推進協議会学術部会長, 2016 年 7 月～.

小山真人, 伊豆東部火山群火山噴火緊急減災対策砂防計画検討会委員(副会長), 2016 年 11

月～.

前田恭伸, 静岡県社会体育施設指定管理者評価委員会 委員, 2016年7月～現在.

前田恭伸, 平成28年度三ヶ日青年の家指定管理者候補者選定委員会 委員, 2016年4月～2016年12月.

前田恭伸, 一般社団法人 浜松公園緑地協会 評議員, 2013年4月～現在.

前田恭伸, 浜松市建築紛争調停委員会 委員, 2017年4月～現在.

増田俊明. 静岡県総合計画審議会. 委員. H26.7-H29.3

増田俊明. 静岡県防災会議. 委員. H26.12-H30.3

森下祐一, 静岡県環境影響評価審査会委員, 2017年～現在.

森下祐一, 石油天然ガス・金属鉱物資源機構湿式製錬技術開発委員会委員 2011年～現在

森下祐一, 日本学術振興会 マイクロビームアナリシス第141委員会委員 2000年～現在

森下祐一, 国土交通省中部地方整備局静岡国道事務所建設発生土処理対策会議委員 2015年～2017年

村越真, 東京都自然公園利用検討委員会委員、平成26年度

村越真, 静岡市消防学校安全検討委員会委員長、平成26年度

村越真, 静岡県いじめ問題連絡協議会委員、平成26年度～現在

村越真, 環境省自然公園等事業における事業評価便益改善に係る検討委員会、平成27年度

村越真, 環境省トレイルラン大会モニタリング手法検討会議、平成27年度

村越真, 静岡市スポーツ振興審議会(会長)、平成24年度～現在

野津憲治, 日本学生科学賞中央審査委員(読売新聞主催)

佐藤 健, 石巻市(地方公共団体)学校防災推進会議 委員長, 2016-2017

佐藤 健, 平成29年度「防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業」推進委員会 推進委員, 2016-2017

佐藤 健, 青森県防災対策強化検討委員会 委員, 2016-2017

佐藤 健, 仙台市社会福祉審議会 委員, 2016-2017

佐藤 健, 宮城県行政評価委員会部会 委員, 2017

佐藤 健, 東京大学地震研究所/京都大学防災研究所拠点間連携共同研究委員会 委員, 2017

佐藤 健, 防災教育チャレンジプラン実行委員会 委員, 2016-2017

佐藤 健, 防災教育を中心とした学校安全フォーラム実行委員会 実行委員, 2016-2017

佐藤 健, 第8回「震災対策技術展」東北 実行委員会 委員, 2017

佐藤 健, 宮城県松島自然の家再建事業平成29年度「松島自然の家再建に係る懇話会」委員, 2017

佐藤 健, 第2期仙台市教育振興検討委員会 委員, 2016

佐藤 健, 防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業 大崎市防災(安全)教育アドバイザー, 2016

佐藤 健, 第 7 回「震災対策技術展」東北 実行委員会 委員, 2016

佐藤 健, 宮城県国土強靱化地域計画 宮城県国土強靱化地域計画アドバイザー, 2017

佐藤 健, 研究開発学校 (七郷小学校) 運営指導委員会 委員長, 2013-2017

菅原大助, 土木学会原子力土木委員会津波小委員会委員, 2016 年-2017 年.

武村雅之, 首都直下地震ハザード・リスク運営委員会, 委員長, 東大地震研究所, 2012 年
-2017.3

武村雅之, 東大地震研・京大防災研拠点間連携共同研究委員会, 委員, 京大防災研,
2014.3-2017.3

武村雅之, 地震動予測地図高度化ワーキンググループ, 専門委員, 文部科学省, 2005.3 よ
り

牛山素行, 内閣府, 防災スペシャリスト養成研修企画検討会, 委員, 2013 年 10 月～

牛山素行, 内閣府, 防災研修コーディネーター, 2014 年 12 月～

牛山素行, 静岡県, 太田川・原野谷川事前防災行動計画 (タイムライン) 検討会, 委員長, 2015
年 10 月～2017 年 3 月

牛山素行, 気象庁, 地方公共団体の防災対策における気象情報利活用検討会, 委員長, 2016 年 2
月～2017 年 3 月

牛山素行, 静岡県, 津波防災地域づくり推進アドバイザー, 2016 年 2 月～2019 年 3 月

牛山素行, 陸前高田市, 陸前高田市防災会議, 委員, 2016 年 2 月～

牛山素行, 日本自然災害学会, 第 35 回日本自然災害学会学術講演会およびオープン・フォー
ラム実行委員会, 委員長, 2015 年 9 月～2016 年 9 月

牛山素行, 総務省消防庁, 防災・危機管理セルフチェックシステムにおけるチェック項目策定
に関する検討会, 座長代理, 2016 年 10 月～2017 年 3 月

牛山素行, 内閣府, 避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドラインに関する検討会, 委
員, 2016 年 10 月～2016 年 12 月

牛山素行, 静岡県, 静岡県地震防災センター・リニューアル検討委員会, 委員, 2016 年 11 月～
2017 年 3 月

牛山素行, 総務省, 大規模災害時における市町村行政機能の確保に関する検討会, 委員, 2017 年
1 月～2017 年 3 月

牛山素行, 気象庁, 「気象防災専門家育成」の実施に関する専門アドバイザー, 2017 年 9 月～
2018 年 3 月

牛山素行, 気象庁, 「地方公共団体防災担当職員向け気象防災ワークショッププログラム開発
委託」における専門アドバイザー, 2017 年 9 月～2018 年 3 月

牛山素行, 内閣府, 平成 29 年 7 月九州北部豪雨災害を踏まえた避難に関する検討会, 委
員, 2017 年 10 月～2018 年 3 月

牛山素行, 砂防フロンティア整備推進機構, 土砂災害に対する地域防災力の向上支援施策に
関する研究会, 委員, 2018 年 3 月～2019 年 3 月

渡辺俊樹, 東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会研究戦略室員, 2016年4月～2017年3月.

渡辺俊樹, 東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会予算委員長, 2017年4月～現在.

渡辺俊樹, 東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会委員, 2017年4月～現在.

渡辺俊樹, 石油天然ガス・金属鉱物資源機構技術ソリューション事業技術評価部会, 委員, 2014年4月～現在.

渡辺俊樹, 地震予知総合研究振興会東濃地震科学研究所地殻活動研究委員会, 委員, ～現在.

渡辺俊樹, 一般財団法人地球システム総合研究所, 評議員, 2017年4月～現在.

山崎登, 国土交通省「水害ハザードマップ検討会」委員, 2015年12月～2016年3月.

山崎登, 内閣府「南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループ」委員, 2017年7月～2018年9月.

山崎登, 総務省消防庁「糸魚川市大規模火災を踏まえた今後の消防のあり方に関する検討会」委員, 2017年1月～3月.

山崎登, 東京都「耐震化推進都民会議」委員, 2008年8月～現在.

山崎登, 東京消防庁「第23期火災予防審議会」委員, 2017年7月～現在.

山崎登, 東京消防庁「第14期東京都住宅防火対策推進協議会」委員, 2017年8月～現在.

矢守克也, 近畿地方整備局地球温暖化に伴う大規模水害対策検討会, 委員 (2009年～現在)

矢守克也, 近畿地方整備局淀川水系流域委員会専門家委員会, 委員 (2012年6月～現在)

矢守克也, 高知県南海地震対策推進本部アドバイザー (2012年6月～現在)

矢守克也, 大阪府防災会議専門委員 (2012年10月～現在)

矢守克也, 京都府実践的防災教育総合支援事業推進委員会委員 (2013年2月～現在)

矢守克也, 文部科学省地震調査研究推進本部専門委員 (2013年3月～現在)

矢守克也, 宮城県教育委員会宮城県防災専門教育アドバイザー (2013年6月～現在)

矢守克也, 内閣府地区防災計画アドバイザーボード座長代理 (2014年4月～現在)

矢守克也, 福井県大野市防災アドバイザー (2015年4月～現在)

矢守克也, 内閣府 SIP プログラム (レジリエントな防災・減災機能の強化) 課題①「津波被害軽減のための基盤的研究に関する運営委員会」委員 (2014年10月～現在)

矢守克也, 内閣府 SIP プログラム (レジリエントな防災・減災機能の強化) 課題⑦「地域連携による地域災害対応アプリケーション技術の研究開発」運営委員会委員 (2014年10月～現在)

矢守克也, 大阪府土砂災害対策審議会委員 (2016年6月～2018年3月)

矢守克也, 兵庫県防災会議専門委員 (2015年11月～現在)

矢守克也, 京都府防災会議専門部会 (地域防災の見直し部会) 委員 (2016年6月～2017年3月)

矢守克也, 兵庫県ひょうご安全の日推進事業計画等策定支援専門家 (2017年5月～現在)
矢守克也, 京都府防災会議専門部会 (集中豪雨対策部会) 委員 (2017年12月～現在)
吉田明夫, 文部科学省地震調査委員会, 地震活動の予測的な評価手法検討小委員会委員,
2016年6月—8月.
吉田明夫, 箱根山火山防災協議会専門委員, 2016年～現在.
吉田明夫, 東京地学協会, 研究及び国際研究集会助成対象者選考委員会委員, 2017年～現在.

5.4 学会活動

千木良雅弘, (公社) 日本地すべり学会 理事, 2014 ~ 2016.
千木良雅弘, 日本地形学連合 委員, 2015 ~ 2017.
千木良雅弘, 4th Slope Tectonics 実行委員長, 2017年10月14日～2017年10月18日.
藤井基貴, 中部教育学会・理事, 2014年～.
藤井基貴, 日本教育学会 (研究推進委員会) 委員, 2017年～.
二川雅登, 電気学会 BMS 技術委員会 幹事補佐 (2015年9月～現在)
二川雅登, 電気学会 論文委員 (2012年4月～現在)
二川雅登, 電気学会 平成29年進歩賞小委員会に属する投票有権者 (2017年1月～12月)
二川雅登, 電気学会 平成29年度E部門総合研究会論文委員会 副委員長 (2016年11月
1日 ~ 2017年9月30日)
二川雅登, 電気学会 平成30年度E部門総合研究会論文委員会 副委員長 (2018年2月1
日 ~ 2018年9月30日)
二川雅登, 電気学会 水センシングに関わる調査専門委員会 委員 (2016年7月～2019年
5月)
二川雅登, 電気学会東海支部 活動推進員 (2016年4月～2018年3月)
秦康範, 地域安全学会学術委員会, 副委員長, 2017年5月～
秦康範, 日本災害情報学会編集委員会, 幹事, 2015年10月～
秦康範, 日本災害情報学会企画委員会, 委員, 2009年10月～
秦康範, 地域安全学会, 理事, 2014年5月～
原田賢治, 土木学会海岸工学委員会, 津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員
会, WG1 主査, 2015/7-2018/6
原田賢治, 土木学会海岸工学委員会・土木計画学委員会, 減災アセスメント研究小委員会,
委員, 2015/7-2018/6
原田賢治, 土木学会地震工学委員会, 水循環施設の合理的な災害対策研究小委員会, WG5 主
査, 2015/4-2018/3
原田賢治, 土木学会地震工学委員会, 論文編集委員, 2014年度～継続中
林能成, 公益社団法人日本地震学会, 代議員, 2006-.
林能成, 公益社団法人日本地震学会, 海外渡航旅費助成金審査委員会委員, 2016-.

林能成, 歴史地震研究会, 総務幹事, 2015-.

廣井悠, 日本都市計画学会 学術委員会 委員 (2014年~2018年) .

廣井悠, 日本都市計画学会 国際委員会 委員 (2013年~現在) .

廣井悠, 日本建築学会 広域避難小委員会 幹事 (2011年~現在) .

廣井悠, 日本建築学会 文献抄録委員会第5部会 (都市計画) 委員 (2009年~現在) .

廣井悠, 日本建築学会 文献抄録委員会第6部会 (防火) 委員 (2011年~現在) .

廣井悠, 日本火災学会 学術委員会 委員 (2011年~2017年) .

廣井悠, 日本火災学会 地震火災専門委員会 幹事 (2011年~現在) .

廣井悠, 災害情報学会 学会誌編集委員会 委員 (2013年~現在) .

廣井悠, 日本火災学会 火災誌編集委員会 委員 (2013年~現在) .

廣井悠, Urban and Regional Planning Review 編集委員会 委員 (2013年~現在) .

本間基寛, 日本自然災害学会 企画委員会委員, 2015年4月1日~現在.

本間基寛, 日本自然災害学会 学術講演会部会, 2017年7月1日~現在.

本間基寛, 特定非営利活動法人防災のことば研究会 理事, 2015年4月1日~2017年3月31日.

池田恵子, 国際ジェンダー学会 理事 (研究担当), 2017年10月 - 2019年9月

池田恵子, 国際ジェンダー学会 会長, 2015年10月 - 2017年9月

生田領野, 日本地震学会広報委員, 2014年4月~

生田領野, 日本地球惑星科学連合固体地球分野プログラム委員, 2017年4月~

今泉文寿, 中部森林研究編集委員, 2017年10月~2018年3月

今泉文寿, INTERPRAEVENT2018 編集委員, 2017年, 1月~

今泉文寿, 日本地形学連合総務幹事, 2015年6月~

今泉文寿, 砂防学会総務部会幹事, 2014年7月~

今泉文寿, 砂防学会英文誌編集委員会委員, 2011年5月~

石川宏之, 日本建築学会地方都市再生手法小委員会委員, 2015年4月 - 2017年3月

石川宏之, 日本建築学会地域観光プランニング小委員会委員, 2017年4月 - 2019年3月

石川有三, (公)日本地震学会 理事会監事、2016年~2018年 (1期)

石川有三, (公)日本地震学会 広報委員会委員、

岩松 暉,九州応用地質学会顧問,~現在.

岩松 暉,一般社団法人日本応用地質学会名誉会員,~現在.

岩松 暉,公益社団法人東京地学協会伊能忠敬没後200年記念事業構想委員会委員,~現在.

岩田孝仁,日本災害復興学会 理事,2015/04~.

岩田孝仁,日本災害情報学会 理事,2015/10~.

岩田孝仁,日本災害情報学会 予算委員長,2015/10~.

風間聡, 水文・水資源学会総務委員会委員長

風間聡, 水文・水資源学会理事

風間聡, 土木学会水工学委員会幹事
風間聡, 土木学会水工学委員会水害対策小委員会委員長
風間聡, 土木学会論説委員会幹事長
木村浩之, 日本微生物生態学会, 第 16 期評議員, 2016 年 4 月～2016 年 12 月.
木村浩之, 静岡生命科学若手フォーラム, 副代表, 2016 年 4 月～2017 年 3 月.
木村浩之, 日本微生物生態学, 和文誌編集幹事, 2016 年 4 月～2018 年 3 月.
木村浩之, 静岡生命科学若手フォーラム, 代表, 2017 年 4 月～2018 年 3 月.
木村圭司, 奈良大学地理学会 会長, 2016 年 4 月 1 日～現在に至る
木村圭司, 日本地球惑星科学連合 地球人間圏科学セクション サイエンスボード・メンバー,
2017 年 4 月 1 日～現在に至る
木村圭司, 人文地理学会大会準備委員会委員, 2017 年 12 月 1 日～現在に至る
北村晃寿, 日本地球惑星科学連合環境災害対応委員会委員(2015～).
北村晃寿, 防災学術連携体 (日本古生物学会担当委員) (2015～).
近藤昭彦, 農村計画学会 評議員 (平成 26 年 4 月 12 日～平成 30 年 4 月総会)
近藤昭彦, 一般社団法人日本リモートセンシング学会 評議員 (～平成 30 年度総会まで)
近藤昭彦, 水文・水資源学会 第 15 期理事・副会長 (平成 28 年 9 月～平成 30 年度総会
まで)
近藤昭彦, 日本水文科学会 評議員
近藤昭彦, 日本地理学会 代議員
近藤昭彦, 公益社団法人日本地球惑星科学連合 代議員 (地球人間圏科学セクション)
近藤昭彦, 公益社団法人日本地球惑星科学連合 サイエンスボード (地球人間圏科学セク
ション)
小杉素子, 日本リスク研究学会誌編集委員, 2014 年 11 月～
小山真人, 日本建築学会火山噴火対策テック・フォース委員, 2015 年 4 月～2016 年 3 月.
小山真人, 日本建築学会火山災害対策特別調査委員会委員, 2016 年 4 月.
前田恭伸, 一般社団法人 環境情報科学センター 審議員, 2017 年 6 月～現在.
前田恭伸, 一般社団法人 日本リスク研究学会 会長, 2016 年 6 月～現在.
前田恭伸, 一般社団法人 経営情報学会 代議員, 2016 年 4 月～2018 年 3 月.
前田恭伸, The Society for Risk Analysis, Asia Conference 2018 主催, 2018 年 3 月 13 日,
14 日.
前田恭伸, 2017 年度第 30 回日本リスク研究学会年次大会 主催, 2017 年 10 月 27 日～29
日.
前田恭伸, 2016 年度第 29 回日本リスク研究学会年次大会 主催, 2016 年 11 月 25 日～27
日.
三井 雄太, 日本測地学会 評議員, 2017/6 - 2019/5.
三井 雄太, 日本測地学会 庶務委員, 2017/6 - 2019/5.

森下祐一, 資源地質学会 常務委員, 2017 年
森下祐一, 資源地質学会 評議員, 2016 年
森下祐一, Resource Geology 編集委員, 2015 年～現在
村越真, 日本国際地図学会, 昭和 63 年 10 月～現在 (2005- 評議員)
村越真, 日本野外教育学会, 平成 19 年 4 月～ 現在 (平成 26 年度より評議員)
村越真, 登山医学会, 平成 26 年度～ (評議員)
佐藤 健, 日本安全教育学会・常任理事, 2016-2017
佐藤 健, 日本安全教育学会研究集会石巻ミーティング 2017 実行委員会 委員長, 2017
佐藤 健, 日本建築学会東北支部災害調査連絡会 委員長, 2017
佐藤 健, 2018 年度日本建築学会大会 (東北) 大会委員会 委員, 2017
佐藤 健, 2018 年度日本建築学会大会 (東北) 実行委員会・懇親部会長, 2017
佐藤 健, 京都大学防災研究所自然災害研究協議会突発災害調査委員会 (災害リスク・社会
科学) 委員, 2017
佐藤 健, 日本地震工学会会誌編集委員会 幹事, 2017
佐藤 健, 自然災害研究協議会東北地区部会・部会長, 2016-2017
佐藤 健, 日本建築学会東北支部第 38 回東北建築賞研究奨励賞選考委員会 委員, 2017
佐藤 健, 日本地震工学会会誌編集委員会 委員, 2016
佐藤 健, 日本建築学会・第 16 期代議員, 2016-2017
佐藤 健, 日本建築学会東北支部第 37 回東北建築賞研究奨励賞選考委員会 委員, 2016
佐藤 健, IASS2016 プレシンポジウムセミナー 幹事, 2016
武村雅之, 日本地震学会代議員会委員, 2012 年度より
武村雅之, 日本地震学会強震動委員会委員, 2012 年度より
武村雅之, 日本地震学会広報委員会委員, 2012 年度より
武村雅之, 土木学会地震工学委員会委員, 2001 年度より
武村雅之, 土木学会原子力土木委員会委員, 2013.9 より
武村雅之, 日本地震工学会事業企画委員会震災予防講演会部会委員, 2013 年度より
牛山素行, 日本災害情報学会, 学会誌編集委員会, 委員長, 2013 年 10 月～
牛山素行, 日本自然災害学会, 理事, 2014 年 4 月～
渡辺俊樹, (公社) 物理探査学会, 理事, 2012 年 5 月～現在.
渡辺俊樹, (公社) 物理探査学会, 企画開発委員会, 副委員長, 2014 年 6 月～2016 年 5 月.
渡辺俊樹, (公社) 物理探査学会, 国際委員会, 委員長, 2016 年 6 月～現在.
渡辺俊樹, (公社) 物理探査学会, PS 検層技術委員会, 委員長, 2016 年 10 月～現在.
山崎登, 日本災害情報学会副会長, 2013 年 10 月～現在.
山崎登, 一般財団法人「河川情報センター」理事, 2014 年 6 月～現在.
山崎登, 日本消防検定協会評議員, 2014 年 2 月～現在.
矢守克也, 日本グループ・ダイナミックス学会, 理事 (2015 年 4 月～2017 年 3 月)

矢守克也, Asian Association of Social Psychology, Consulting Editor (2001年10月～現在)

矢守克也, 自然災害学会,理事 (2011年4月～現在),「自然災害科学」編集委員会委員 (2003年4月～現在),「Journal of Natural Disaster Science」編集委員 (2005年10月～現在),災害情報委員会委員 (2009年4月～現在),学会賞審査委員会委員 (2012年9月～現在)

矢守克也, 日本質的心理学会,理事 (2004年3月～現在)

矢守克也, 日本心理学会,代議員 (2013年4月～現在)

矢守克也, 日本災害復興学会,理事 (2011年1月～現在), 総務委員会副委員長 (2013年3月～現在)

矢守克也, 日本災害情報学会,「災害情報」編集委員 (2009年10月～現在),「廣井賞」選考委員会委員 (2009年10月～2015年9月), 理事 (2013年10月～現在)

矢守克也, International Society of Integrated Disaster Risk Management (国際総合防災学会),理事 (2011年12月～現在)

矢守克也, 地区防災計画学会,副会長 (2014年6月～現在), 広報・編集委員会委員長 (2014年10月～現在)

防災総合センター年報 第5号

2018年7月発行

著者・発行者

静岡大学防災総合センター

〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836

電話：054-238-4502

URL：<http://www.cnh.shizuoka.ac.jp/>